

TOKYO DENKI UNIVERSITY

2012

東京電機大学理工学部

平成24年度 理工学部主要行事予定

【前期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定
4月	1	2	3	4	5	6	7	・4/2 入学式 ・4/3~6 オリエンテーション ・4/7 前期授業開始
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						
5月			1	2	3	4	5	・5/10 学生大会 (午後の授業のみ休講) ・5/13 合同体育祭(予定)
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
6月						1	2	・太線上：前前期 ・太線下：前後期
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
7月	1	2	3	4	5	6	7	・7/24,25,28 特定日 ・7/2~31 学期末試験期間 ・7/31 授業置換日 (木曜日の午後の授業のみ) ・7/31 前期授業・試験終了
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
8月				1	2	3	4	・8/1~9/15 夏季休業
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
9月							1	・8/1~9/15 夏季休業 ・9/11 創立記念日
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	

【後期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定
9月	16	17	18	19	20	21	22	・9/18 後期授業開始 ・9/18 前期成績発表
	23	24	25	26	27	28	29	
	30							
10月		1	2	3	4	5	6	・10/10 授業置換日(月曜日授業)
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
11月					1	2	3	・10/31~11/6 鳩山祭に伴う休講 ・11/2,3,4 鳩山祭 ・太線上：後前期 ・太線下：後後期
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		
12月							1	・12/25~1/6 冬季休業
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
1月								・1/7 授業再開 ・1/7~1/31 学期末試験期間 ・1/18,19,20 センター試験に伴う休講 ・1/22 授業置換日(金曜日授業) ・1/31 授業置換日(土曜日授業) ・1/24,29,30 特定日 ・1/31 後期授業・試験終了
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
2月							1	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28			
3月						1	2	・3/8 卒業発表、進級発表 ・3/17 卒業式
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							

- 授業置換日(他の曜日の授業を行います)
- 特定日(授業・補講は行われません。学期末試験等を行います)
- 授業を行わない日
- ※ 長期休業期間は、集中講義・補講を実施する場合があります。
- ※ 予定のため変更の可能性があります。変更の場合は掲示でお知らせします。

UNIVERSITY CATALOGUE

学生要覧 2012

【(財) 大学基準協会による認証評価(大学評価)の受審について】

認証評価制度は、2002(平成14)年の学校教育法の改正に伴い、各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間(7年以内)ごとに文部科学大臣の認証を受けた者(認証評価機関)による評価(認証評価)を受審することとなり、2004(平成16)年に導入されました。

本学は、2009(平成21)年度に財団法人大学基準協会(認証評価機関)において、認証評価を受審しました。今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組みます。

東京電機大学理工学部

第1章 はじめに

学長より	2
理工学部長より	3
東京電機大学の沿革と理工学部・理工学研究科の構成	4
大学・大学院英文名	6
カリキュラム・授業等についての注意	7
知っておいて欲しいこと	8
気をつけて欲しいこと	14

第2章 学修活動について

理工学部で学ぶ学生諸君へ	18
彩の国大学コンソーシアム	19
ホームページ	20
授業科目	21
授業	24
履修	28
再履修	38
試験	39
成績	42
単位認定	45
進級と留年	49
卒業要件	52
学生ポータルサイト「DENDAI-UNIPA」.....	58
・学生ポータルサイト「DENDAI-UNIPA」.....	59
・DENDAI-UNIPAへのアクセス・ログイン	60
・連絡先の変更	65
・シラバスの閲覧	69
・Webによる履修登録方法	73
・クラスプロファイル	84
・FAQ	93
人間形成科目群・英語科目群・学部共通科目群	95
履修モデル	
授業科目配当表	
専門教育科目	115
理学系	115
生命理工学系	131
情報システムデザイン学系	143
電子・機械工学系	159
建築・都市環境学系	171
履修モデル	
科目配置図	
進級条件	
授業科目配当表	
資格	185

第3章 教職課程

教職課程とは	192
大学入学から免許状取得まで	193
取得できる免許状	194
履修要件	194
教職課程の履修手続	203
教育実習	205
免許状の申請・交付	207
教職課程授業科目配当表	208

第4章 学生生活について

学籍について	210
コース制とコースの選択	212
クラスについて	214
オフィス・アワー	215
学費について	216
奨学金制度	218
連絡・呼出し	222
証明書の交付	223
届け出・願い出	227
学生相談	230
健康管理	231
ハラスメント防止宣言	233
学習サポートセンター	236

第5章 各種施設の利用

総合メディアセンター	238
スポーツ施設	250

第6章 将来への道標

就職	254
進学	262
科目等履修生	263
編入学者	263
卒業後の各種証明書の申請について	264
校友会	265

第7章 大学院

大学院入学のすすめ	271
修士課程	272
理学専攻	274
情報学専攻	276
デザイン工学専攻	278
生命理工学専攻	278
・内容と特色	
・教員一覧	

第8章 その他

留学	282
保険制度	284
学生生活支援	286
課外活動	287
アルバイト	288
東京電機大学 校歌・学生歌・理工学部讃歌	290
埼玉鳩山キャンパス案内図	292
埼玉鳩山キャンパス教員室一覧	302
理工学部教員一覧	304

第9章 学則および諸規程

東京電機大学学則	312
東京電機大学理工学部規則	325
学生生活についての規程	328
部室使用に関する内規	331
試験に関する細則	333
特別奨学生規程	336
理工学部学生の車両通学に関する取扱細則	338

本学の建学の精神

「実学尊重」

1907年（明治40年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げた。

本学の教育・研究理念

「技術は人なり」

1949年（昭和24年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽 保次郎（にわ やすじろう）は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げた。

理工学部理工学科の人材養成に関する目的ならびに教育研究上の目的

1. 人材養成に関する目的

本理工学部は、人材養成の基本目標（教育理念）として、「未来型科学技術者の養成」と「人間性豊かな社会人の育成」を掲げている。

『未来型科学技術者の養成』

急速に進展する科学技術に先駆け、創造的かつ自由な発想と自発性・自律性、複眼的思考力による問題の発見・解決力、科学技術と人間・社会との調和を考える力を有する「科学技術に関わる個性と資質・活力を有する未来型科学技術者」を育成する。

『人間性豊かな社会人の育成』

社会をリードする良識ある人間性、環境と共生への倫理性、福祉への眼差し、ポータブルの実行力、対人的及び国際的コミュニケーション能力、リテラシー駆動力、健康な心身などを備えた「21世紀を生きる人間としての資性・感性を有する人間性豊かな社会人」を育成する。

2. 教育研究上の目的

時代に即した効果的な教育研究を推進するため、「理工学科」の基軸となる部門を理学系、

生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建設・都市環境学系の5つの学系とし、従来の教育研究分野の相乗的融合を図り、創造性豊かな技術者を育成する。さらに、相互の学系間の連携を図ることにより、異なった研究分野の交流を活発にしながら、幅広い専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成していくことを目標とする。

大学科制により、学問分野を横断した基礎教育科目を設置し、現代社会を支える科学技術とその根源にある理学を軸とした基礎的な知識と技術の習得を図るとともに、社会が必要とする高度専門技術者・科学者を養成するため、次の5学系(部門)を編成し、多数の専門コースで学系を構成する。

個人情報保護法施行に伴う個人情報利用について

入学時及び在学中を通じて収集した個人を識別または特定できる情報については、「個人情報保護法」（平成 17 年 4 月 1 日施行）に従い、以下に定める目的以外に利用することはありません。

なお、本学では「学校法人東京電機大学個人情報保護に関する規程」に基づき、「個人情報」保護に努めています。

- (1) 学籍管理を行うため。
- (2) 正課および正課外活動の目的で利用するため。
- (3) 学生本人、保証人に対して、本学ならびにその関連機関である東京電機大学後援会および社団法人東京電機大学校友会から、通知および連絡を行うため。
- (4) 本学より学生本人に連絡の上、了承を得た目的に利用するため。
- (5) その他本学の教育研究および学生支援に必要な業務を遂行するため。
- (6) その他法令に基づく場合。

以 上

※詳細につきましては、事務部窓口（学生厚生担当）へお問い合わせください。

第1章 はじめに

はじめに

学修活動

UNIPA

共通

RU

RB

RD

RT

RG

資格

教職課程

学生生活

施設

就職・進学

大学院

その他

学則・規程

次世代科学技術を担う皆さんへ



学長 古田 勝久

御入学おめでとうございます。大学を代表して皆様を歓迎します。

東京電機大学は、1907年に廣田精一先生と扇本眞吉先生が「技術で社会に貢献する人材を養成し、国を発展させること」を目指し神田に創立した電機学校が母体で、社会が必要とした学問である「実学」を尊重することを建学の精神とされました。東京電機大学は、この学園の使命と建学の精神を受けつぎ、さらに初代学長丹羽保次郎先生の名言である「技術は人なり」を教育・研究の理念としています。そして現在、工学部、工学部第二部、未来科学部、理工学部、情報環境学部の5学部と、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科の4研究科（大学院修士課程）および先端科学技術研究科（博士課程（後期））を擁しています。2007年には学園創立100周年を迎え、卒業生は約20万人以上にのぼり、社会から高い評価を得てきました。

さて、現代は、政治、経済、産業のすべての分野において、科学技術の知識なしには正しい決定の出来ない時代であり、知識自体が価値を持ち、価値を生み出す「知識基盤社会」と言われております。すなわち、科学技術そのものが、現代の「実学」であります。東京電機大学は、この社会を支える科学技術者の養成と、科学技術の知識を生み出す重要な役割を果たして来ました。

これから皆さんは、科学技術の基盤と専門を学び、科学技術の専門家として様々な問題発見と解決により、社会へ貢献して下さることを期待しております。将来、最新知識と技術を駆使するためには、まず数学のような基礎の勉強を重視してください。大学時代は人生で一番効率良く、新しい知識を吸収し、自分の能力に出来る時代です。科学技術者として社会で活躍するために、自分の専門に関する知識を学ぶと共に、それを応用する能力も身につけてください。専門以外の、いろいろな関連分野にも興味を持ってください。現在社会は、環境、資源、エネルギー等のように、広い分野の知識と技術を統合しなければ解決されない問題に直面しております。

ほとんどの企業が、研究、開発、生産、販売を一つの国の中で行うことがまれになり、国際的に活動する時代となり、科学技術者にも国際的なコミュニケーション能力が要求されるようになってきました。科学技術の教育も国際的になっています。専門はもちろんですが、社会では外国語の知識が必要なこともしっかり認識してください。

東京電機大学でこれから学ぶ基礎と専門によって得られる問題発見と解決能力が、皆さんと日本さらには人類の未来を創ります。将来国際的な技術者として活躍できるように、大学生活を有意義なものにしてください。

夢の実現を目指して



理工学部長 佐藤 定夫

新入生の皆さん御入学おめでとうございます。皆さんはこれからの新しい生活に多くの希望と期待を持っていると思います。我々にとっても新入生を迎えることは新しい年の始まりであり、期待と喜びの季節でもあります。

これからの学生生活が皆さんにとって有意義なものとなり、楽しく充実した日々であることをお祈りします。

大学と高校ではいろいろな所に違いがあります。最初は少し戸惑うかもしれませんが、大学生活に慣れ、活発な活動をされることを期待します。

最も大きな違いは単位制度でしょう。大学では講義を自分で選択し、それを取得することによって進級や卒業ができます。高校よりはるかに自由度が高いのですが、それを有効に活用するのは皆さんの自主性によっているのです。もちろん教員はいつでも皆さんにアドバイスしますが、最終的に判断するのは自分だということです。

そのとき、重要なことは皆さんが自分の将来をどう見るのかということです。実力を磨き、将来の夢を実現するにはどうしたら良いのかを考えることです。まだ1学年では明確にはできないかもしれませんが、まずは基礎作りが大事ですが、大学でどう学ぶかを考えてください。卒業のとき自分の持つ能力を社会にアピールできる学生になっていただきたいと思います。

本学は「実学尊重」、「技術は人なり」の精神の下に教育を行っております。実践的な技術の習得と共に、人間性豊かな社会人の養成が理工学部の教育目標です。多くの先輩が社会で活躍しており、皆さんも4年後には社会の一員となります。大学生活は、そのための準備期間でもあります。

また、大学のいろいろな専門科目ではこれまで全く知らないことも扱われます。そのとき求められていることは皆さんの理解力、思考の柔軟さ、そして新しい知識に対する積極性だと思います。そうした新しい事に対応する精神が皆さんの可能性をさらに広げることにつながります。未知な事に挑戦する気持ちは忘れないでください。

大学生活を楽しんでください。本学には、全国から学生が集まっており、留学生もたくさんいます。いろいろな人と交流を深め多くの友人を持つことができます。

部活動によって得られる経験や楽しさもまた学生生活の大きな要素です。理工学部にはたくさんのクラブがあり活躍しています。必ずしも大会で優秀な成績を収めることだけが部活動の目的ではありません。仲間と日々努力して築きあげた友情、先輩や指導者に対する礼儀、後輩の面倒を見る優しさといったことを身につける良い機会です。

部活動だけではなく、自治会、鳩山祭実行委員会やいろいろなイベント活動もあります。新入生の皆様もぜひそのような活動に参加することをおすすめします。若い頃の経験は、社会に入ってからではなかなか得られないものですし、それが皆様を成長させてくれることを確信しております。

理工学部の教員、職員のすべてが皆さんを応援しています。積極的に相談してください。いろいろな人とのコミュニケーションを大切にし、友人、先輩も良き相談相手にしてください。

皆様の活躍をお祈りし、理工学部をますます元気にして下さるようお願いいたします。

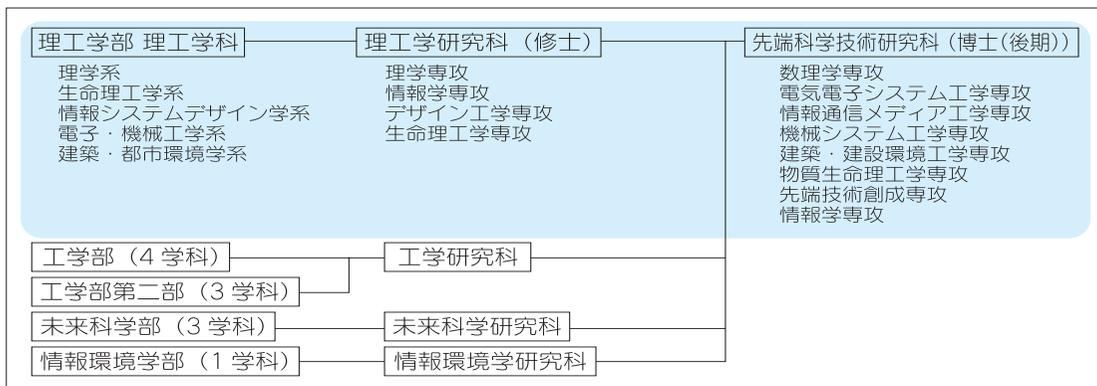
学生生活、勉学などについての意見を歓迎します。本館3階の学部長室に相談に来てください。メールでも結構です。

メールアドレス：deans@ml.dendai.ac.jp

東京電機大学の沿革と理工学部・理工学研究科の構成

はじめに		
学修活動	1907.9.11(明治40年)	・東京・神田に電機学校創立
UNIPA	1949.4(昭和24年)	・東京電機大学開設<工学部第一部電気工学科・電気通信工学科設置>
	1950.4(昭和25年)	・東京電機大学短期大学部開設<電気科第二部設置>
	1952.4(昭和27年)	・工学部第二部開設<工学部第二部電気工学科設置>
	1956.2(昭和31年)	・東京電機大学短期大学部を東京電機大学短期大学に名称変更
	1958.4(昭和33年)	・東京電機大学大学院(夜間)開設<工学研究科電気工学専攻(修士課程)設置>
共通	1960.4(昭和35年)	・工学部第一部電子工学科設置
	1961.4(昭和36年)	・工学部第一部機械工学科・応用理化学科設置
	1961.4(昭和36年)	・工学部第二部電気通信工学科設置
	1962.4(昭和37年)	・大学院工学研究科博士課程開設<電気工学専攻(博士課程)設置>
	1962.4(昭和37年)	・工学部第二部電子工学科・機械工学科設置
	1965.4(昭和40年)	・工学部第一部精密機械工学科・建築学科設置
	1975.4(昭和50年)	・工学研究科電気工学専攻(修士課程)(昼間)設置
RU	1977.4(昭和52年)	・鳩山キャンパス開設・理工学部開設<数理学科・経営工学科・建設工学科・産業機械工学科設置>
RB	1981.4(昭和56年)	・理工学研究科開設<数理学専攻(修士課程)・システム工学専攻(修士課程)・建設工学専攻(修士課程)・機械工学専攻(修士課程)設置>
RD		・総合研究所開設
	1983.4(昭和58年)	・理工学研究科博士課程開設<応用システム工学専攻(博士課程)設置>
RT	1984.4(昭和59年)	・理工学研究科数理学専攻(博士課程)設置
	1986.4(昭和61年)	・理工学部情報科学科、応用電子工学科設置
RG	1990.4(平成2年)	・千葉ニュータウンキャンパス開設
		・工学研究科情報通信工学専攻(修士課程)・電子工学専攻(修士課程)設置
		・理工学研究科情報科学専攻(修士課程)・応用電子工学専攻(修士課程)設置
資格	1991.4(平成3年)	・工学研究科機械システム工学専攻(修士課程)・物質工学専攻(修士課程)設置
	1992.4(平成4年)	・工学研究科情報通信工学専攻(博士課程)・電子工学専攻(博士課程)、建築学専攻(修士課程)設置
		・理工学研究科数理学専攻(博士課程)を数理科学専攻(博士課程)に名称変更
教職課程	1993.4(平成5年)	・工学研究科機械システム工学専攻(博士課程)、物質工学専攻(博士課程)設置
		・工学部第一部・工学部第二部電気通信工学科を情報通信工学科、工学部第一部応用理化学科を物質工学科に名称変更
	1995.4(平成7年)	・工学研究科建築学専攻(博士課程)設置
	1997.4(平成9年)	・超電導応用研究所、建設技術研究所設立
		・産官学交流センター設立
学生生活	1997.6(平成9年)	・ハイテク・リサーチ・センター設立
	1999.4(平成11年)	・理工学部数理学科を数理科学科、経営工学科を情報システム工学科、建設工学科を建設環境工学科、産業機械工学科を知能機械工学科、応用電子工学科を電子情報工学科に名称変更
		・フロンティア共同研究センター設立
施設	2000.4(平成12年)	・理工学部生命工学科、情報社会学科設置
	2001.4(平成13年)	・情報環境学部開設<情報環境工学科、情報環境デザイン学科設置>
	2001.4(平成13年)	・大学院工学研究科機械工学専攻(博士課程・修士課程)、精密システム工学専攻(博士課程・修士課程)設置
就職・進学	2002.4(平成14年)	・工学部第一部情報メディア学科設置
		・工学部第一部物質工学科を環境物質化学科、精密機械工学科を機械情報工学科に名称変更
		・理工学研究科生命工学専攻(修士課程)設置
		・理工学研究科数理科学専攻(博士課程)を数理・情報科学専攻(博士課程)、数理学専攻(修士課程)を数理科学専攻(修士課程)、システム工学専攻(修士課程)を情報システム工学専攻(修士課程)、機械工学専攻(修士課程)を知能機械工学専攻(修士課程)に名称変更
大学院	2003.4(平成15年)	・理工学研究科応用電子工学専攻(修士課程)を電子情報工学専攻(修士課程)に名称変更
その他	2004.4(平成16年)	・情報環境学研究科(修士課程)開設<情報環境工学専攻(修士課程)、情報環境デザイン学専攻(修士課程)設置>
		・工学研究科情報メディア学専攻(修士課程・博士課程)設置
		・理工学研究科情報社会学専攻(修士課程)設置
		・超電導応用研究所を先端工学研究所に名称変更
学則・規程	2005.7(平成17年)	・東京電機大学短期大学廃止
		・工学研究科機械システム工学専攻(修士課程・博士課程)廃止

- 2006.4 (平成18年)
 - ・先端科学技術研究科（博士課程（後期））開設＜数理学専攻、電気電子システム工学専攻、情報通信メディア工学専攻、機械システム工学専攻、建築・建設環境工学専攻、物質生命理工学専攻、先端技術創成専攻、情報学専攻設置＞（※工学研究科博士課程、理工学研究科博士課程を廃止）
 - ・理工学研究科建設工学専攻（修士課程）を建設環境工学専攻（修士課程）に名称変更
 - ・情報環境学部情報環境学科設置（※情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科学科学生募集停止）
- 2007.4 (平成19年)
 - ・創立 100 周年（9 月 11 日）
 - ・未来科学部開設＜建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科設置＞
 - ・工学部開設＜電気電子工学科、環境化学科、機械工学科、情報通信工学科設置＞（※工学部第一部電気工学科、電子工学科、環境物質化学科、機械工学科、機械情報工学科、情報通信工学科、情報メディア学科、建築学科の学生募集停止）
 - ・理工学部理工学学科設置＜4 学系体制：サイエンス学系、情報システムデザイン学系、創造工学系、生命理工学系＞（※理工学部数理科学科、情報科学科、情報システム工学科、建設環境工学科、知能機械工学科、電子情報工学科、生命工学科、情報社会学科の学生募集停止）
- 2008.4 (平成20年)
 - ・工学部第二部電気電子工学科設置（※工学部第二部電気工学科、電子工学科の学生募集停止）
- 2009.4 (平成21年)
 - ・未来科学研究科（修士課程）開設＜建築学専攻、情報メディア学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻設置＞
 - ・工学研究科電気電子工学専攻（修士課程）設置（※工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）、精密システム工学専攻（修士課程）、情報メディア学専攻（修士課程）、建築学専攻（修士課程）の学生募集停止）
 - ・理工学研究科理学専攻（修士課程）、情報学専攻（修士課程）、デザイン工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、電子情報工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の学生募集停止）
 - ・情報環境学研究科情報環境学専攻（修士課程）設置（※情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）の学生募集停止）
 - ・理工学部理工学科学系再編＜5 学系体制：理学系、生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建築・都市環境学系へ再編＞
- 2010.4 (平成22年)
 - ・工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）の廃止
 - ・理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の廃止
- 2010.9 (平成22年)
- 2011.3 (平成23年)
- 2011.4 (平成23年)
 - ・建設技術研究所の廃止
- 2012.4 (平成24年)
 - ・工学研究科精密システム工学専攻（修士課程）、理工学研究科電子情報工学専攻（修士課程）、情報環境学研究科情報環境デザイン学専攻（修士課程）の廃止
 - ・情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科の廃止
 - ・東京千住キャンパス開設（先端科学技術研究科（東京神田キャンパス所属）、工学研究科（修士課程）、未来科学研究科（修士課程）、工学部、工学部第二部、未来科学部が、東京神田キャンパスから東京千住キャンパスへ移転）



大学・大学院英文名

東京電機大学	Tokyo Denki University
理工学部	School of Science and Engineering
理工学科	Department of Science and Engineering
理学系	Division of Science
生命理工学系	Division of Life Science and Engineering
情報システムデザイン学系	Division of Information System Design
電子・機械工学系	Division of Electronic and Mechanical Engineering
建築・都市環境学系	Division of Architectural, Civil and Environmental Engineering
東京電機大学大学院	Graduate School of Tokyo Denki University
先端科学技術研究科	Graduate School of Advanced Science and Technology
博士課程（後期）	Doctoral Programs
数理学専攻	Mathematical Sciences
電気電子システム工学専攻	Electrical and Electronic Systems Engineering
情報通信メディア工学専攻	Information, Communication and Media Design Engineering
機械システム工学専攻	Mechanical System Engineering
建築・建設環境工学専攻	Architecture, Civil and Environmental Engineering
物質生命理工学専攻	Materials and Life Sciences
先端技術創成専攻	Advanced Multidisciplinary Engineering
情報学専攻	Informatics
理工学研究科	Graduate School of Science and Engineering
修士課程	Master's Programs
理学専攻	Science
情報学専攻	Informatics
デザイン工学専攻	Engineering and Design
生命理工学専攻	Life Science and Engineering

カリキュラム・授業等についての注意

- 1 進級条件は所属する学系及び選択する主コース及び副コースの組み合わせにより、それぞれ定められています。自分の所属する学系及び選択したコースの進級条件を必ず確認してください。
- 2 1年次に在籍している間は、学系ごとの枠組みでカリキュラムが構成されていますが、2年次以降は各自が選択する主コース及び副コースにより進級条件等が異なります。科目配当表等で必ず確認してください。
- 3 履修上限単位数は1年間に48単位となっています。これには再履修科目（1度履修したが単位を修得できなかった科目）の単位数も含まれます。進級条件および卒業要件を考慮し、計画的な履修を心掛けてください。
- 4 授業日数の不足を補うため、不足する曜日の授業を他の曜日に行う場合があります（授業置換日）。学生要覧の始めに記載されている〔理工学部主要行事予定〕、または掲示等で予め確認してください。
- 5 学期末試験は原則として授業中に行ないませんが、一部の科目は特定日として授業日以外で行ないます。学期末試験の掲示で確認してください。
- 6 授業は集中講義として土曜日や長期休業中・休講日に、日にちを指定して行う事があります。介護体験・学外研修と重複する事もありますので、予め確認しておいてください。

知っておいて欲しいこと

1. 掲示板及び DENDAI - UNIPA を定期的を確認してください

みなさんへの告示、通知、呼び出しなどは、掲示板・DENDAI - UNIPA で行われます。

授業教室の臨時変更あるいは休講の連絡などもあります。したがって、掲示板及び DENDAI - UNIPA を見ることは自己責任として自覚しておいてください。

(P 222 参照)

2. 学生証について

学生証は、みなさんの身分証明書です。常に携帯してください。特に、試験時に忘れると受験できませんので注意してください。その他にも学生証は、通学定期券の購入、各種証明書の発行、総合メディアセンターの利用（図書の貸出、プリントアウトなど）、体育施設など諸施設を利用する際に必要です。卒業するまで使用することになりますので大切に扱ってください。万一学生証を紛失したときは、直ちに近くの警察署や交番へ届けるとともに、学生厚生担当へ申し出て、すみやかに学生証再発行（有料）の手続きを取ってください。

(P 223 参照)

なお、退学、除籍の場合は学生証を直ちに返納してください。

学生証イメージ



3. 学籍番号について

学生証に記入された7桁の数字・記号を学籍番号といいます。この番号は、みなさんの卒業後も生きつづけます。

学籍番号のしくみ

12	R	U	9	9	9
入学年度 (西暦下二桁)		所属記号 (理工学部)	学系記号	個人番号	

所属学系記号

学内においては、各学系を簡単にアルファベット記号で表しています。

平成 24 年度 ('12)

理学系	R U
生命理工学系	R B
情報システムデザイン学系	R D
電子・機械工学系	R T
建築・都市環境学系	R G

4. 東武東上線のストライキおよび自然災害などによる授業の取り扱いについて

東武東上線がストライキで運休した場合の授業の取り扱いは、次のとおりです。

- (1) 午前6時のNHKニュースにおいて運休の場合は、午前中の授業は休講。
- (2) 午前9時のNHKニュースにおいて運休の場合は、午後の授業も休講（終日休講）。

なお、地震、台風などの自然災害により不測の事態が発生した場合の取り扱いは、そのつど指示します。

5. 呼び出し、連絡、照会について

家族・知人などから大学への電話等で、学生の呼び出しを依頼されることがありますが、呼び出しには応じていません。大学では、学生の居場所については明確に把握しかねますので、あらかじめ承知しておいてください。

また、電話等による学生の住所、成績などの問い合わせにも一切応じないことになっています。

6. 通学定期乗車券について

通学のために電車・バス等を利用する場合の通学定期乗車券の購入方法は、次のとおりです。

(1) JR・私鉄の場合

通学途中の主要駅で、駅備付の「通学定期乗車券購入申込書」に記入して、学生証を添えて駅窓口提出すれば購入できます。

(2) バス

バス会社によっては大学の通学証明書を必要とする場合があります。その場合には学生厚生担当で証明書を発行しますので申し込んでください。(P 224 参照)

(3) 実習用通学定期

卒業研究等により埼玉鳩山キャンパス以外の場所へ恒常的に通学する必要がある場合は実習用通学定期を申請することができます。

購入するには学生厚生担当窓口で手続きを行った上で、各鉄道会社へ申請し、発行許可を受ける必要があります。鉄道会社から発行の許可が下りるまでは1ヵ月程度かかりますので早めに手続きを行うようにしてください。

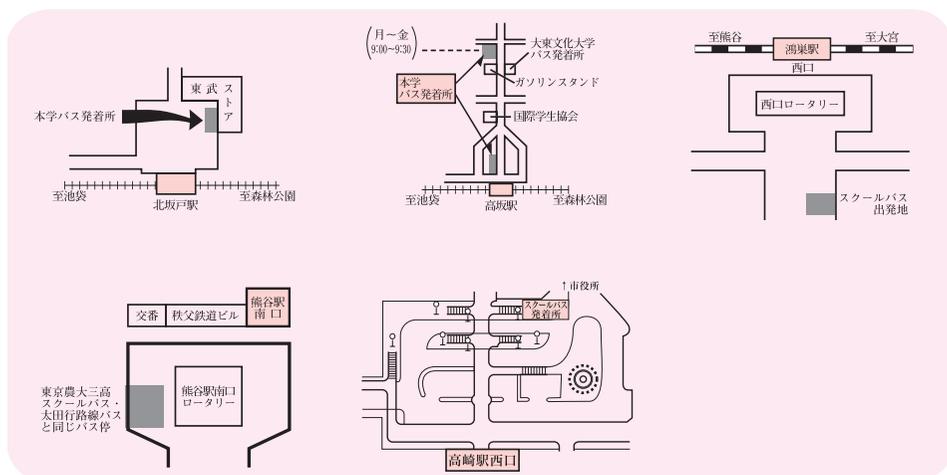
7. スクールバスについて

東武東上線高坂駅・北坂戸駅～大学間に、平日・土曜のみ授業時間にあわせてスクールバスを運行しています。運行時刻は大学本館前バス停、高坂駅・北坂戸駅の発着場所に掲示されています。なお、北坂戸駅発着のスクールバスは便数が少ないため、高坂駅発着のスクールバスを利用してください。

また、JR熊谷駅・鴻巣駅・高崎駅(有料)～大学間にもスクールバスを運行しています。(原則的に熊谷便は平日・土曜、鴻巣便・高崎便は授業期間の平日のみ)ただし便数が少ないため、運行時間には注意してください。(時刻の変更等については掲示をよく確認すること。)熊谷便・鴻巣便・※高崎便のスクールバスは、道路事情や天候により所要時間や時刻が大幅に変わる場合があるので、利用する学生はその点をよく了解の上、利用してください。

なお、高崎便の利用には乗車券が必要となります。乗車券は、片道500円、半期30,000円(募集時期：4月・9月)です。乗車券の購入については学生厚生担当窓口で手続きを行ってください。

運行時間帯：高坂駅発 8：30頃～大学発 21：30頃 日曜・祝日は運行しておりません。



スクールバスの他、高坂駅から路線バス（有料）も大学まで運行しています。路線バスはスクールバスの運行がない日曜・祝日も運行されています。

運行時間帯　：高坂駅発 6：30 頃～大学発 22：50 頃（平日）
土・日・祝日は始発が遅くなり、終発が早くなります。
詳しくは路線バスのバス停で時刻表を確認してください。

運　　賃　：片道¥200

8. 車両通学

本学では車両通学許可証の発行を受けていない者の車両による通学は一切認めていません。車両での通学を希望する場合は、年 2 回行われる「安全運転講習会」を受講し、車両通学願を学生厚生担当に提出して許可を受けてください。

なお、車両通学願には保証人と連名の車両通学届、該当車両の任意保険の写しと、免許証の写しが必要です。

(1) 許可条件

1. 公共の交通機関を利用しての通学が困難な者
2. 運転免許取得後 6 ヶ月以上経過している者
3. 道路運送車両法による 12 ヶ月定期点検整備の適用を受けられる者
4. 自動車損害賠償責任および次の自動車任意保険の適用を受けられる者

	対人賠償	対物賠償	搭乗者賠償
四　　輪	7,000 万円以上	100 万円以上	500 万円以上
自動二輪	5,000 万円以上	100 万円以上	200 万円以上

(2) 駐車許可証

車両通学を許可した者に対しては、駐車許可証を発行します。駐車許可証は、四輪車の場

合には常にダッシュボード上に提示し、自動二輪・原付の場合には常に携帯していなければなりません。

(3) 自動車・バイク・自転車は指定の置き場に

自動車・バイク・自転車などの車両は必ず学生駐車場（第一・第二・第三・体育館前）・駐輪場に駐車してください。それ以外の場所に駐車する事は社会の一員として行なってはいけません。特に来客用駐車場は来訪者にも迷惑をかけますので絶対に駐車しないでください。また、バイク・自転車は盗難防止のため錠前をつけるなど各自で防犯対策をとりましょう。

学生駐車場・駐輪場以外の場所に駐車した場合には規則によって罰せられますので注意してください。

(4) 違反者の処置

無許可で車両通学をした場合および車両通学者が道路交通法等の関係法令および学内諸規程に違反し、大学の指示に従わない場合は、学則第 50 条に則り退学を含む厳しい処置を行います。

(5) 車両通学は安全運転を心がけましょう

電車やバスなど公共交通機関を利用しての通学が困難な場合には車両通学を認めています。しかしながら、ここ数年、車両事故による残念な報告が後を断ちません。

みなさんは、学友が通学中に尊い生命を失ったり、重傷を負い長期間学業を中断せざるをえなくなったり、また、周囲の方々にも多大な迷惑をかけた例を繰り返してはなりません。できるだけ車両通学をひかえて電車やスクールバスを利用するようにしてください。

9. 無届けの「掲示」「印刷物の配布」は禁止しています

校内での連絡、呼びかけ（クラブ・サークル勧誘を含む）の掲示や印刷物の配布は、許可を得なければなりません。意見、主張などを書いたパンフレット、ビラなどを配布したい場合も同じ取扱いとなりますので、必ず事前に学生厚生担当に届けてください。

10. 良識をもって行動しましょう

- ・授業中の私語、居眠り
- ・授業中の携帯電話・PHS等の使用
- ・カンニング・レポートの丸写し
- ・遅刻、早退
- ・ゴミ、空カン、タバコの投げ捨て

これらの行動は、クラスメイトのみならず教職員に多大な迷惑をかけ、社会的マナーにも反することですので各々が自分の行動を振り返り、良識のある行動をとってください。

11. キャンパス内は禁煙です

指定の喫煙場所以外では禁煙です。灰皿の設置されていない場所や歩行中の喫煙は厳禁です。健康管理のうえでも喫煙は控えましょう。

12. 落とし物には気を付けましょう

キャンパス内では落とし物の数が多いにもかかわらず、持ち主に引き取られるのは約半数に過ぎません。これらの落とし物は、学生厚生担当で保管していますので、気が付いたときは速やかに申し出てください。また、落とし物を拾ったときにも学生厚生担当に届け出てください。自分の持ち物に記名することを習慣づけ、物を大切にすることを養ってください。

なお、落とし物の保管等は次のとおりです。

持ち主不明の物▶事務室前ロビーの陳列棚の中

持ち主が明らかな物▶掲示にて呼び出し

現金等貴重品▶学生厚生担当にて保管

気をつけて欲しいこと

1. 盗難に注意

大学キャンパスは公共性の高い施設です。部外者も比較的自由に出入りすることができ、盗難事件の発生も懸念されます。各自所持品は常に身近に携帯するよう心掛けてください。

特に校舎や体育館のロッカーに貴重品や高価な物を留め置くことは絶対に止めてください。各自で利用するロッカーには鍵式の錠前をつけるなどして、防犯対策をとるようにしてください。もし盗難にあった場合には速やかに学生厚生担当に申し出てください。特にキャッシュカードなどを紛失した場合には、カード発行元への連絡も忘れないでください。貴重品の所持には、くれぐれも注意を払ってください。

また、バイクや自転車を学内の駐輪場にとめる際には、錠前をつけるなど各自で盗難防止対策をとるようにしてください。

2. 「金融ローン」の利用は注意してください

「学生証だけで低利融資します」と言うこれらのローンは、利用手続きの簡便さが特徴です。しかし、実際には高金利の利息を支払うことになり、わずかな借金でも、利息が利息を生み、その返済で学業に支障をきたすばかりではなく、両親にまで迷惑をおよぼす結果となります。どうしてもお金が必要なときは、両親などによく相談してください。

3. 悪徳商法に注意してください

路上で「アンケートに協力して」と言って声を掛けられたことはありませんか。それがキャッチセールスで、金銭トラブルの多い商法です。また、英会話学習用教材の割賦販売、換気扇のフィルター販売などでもトラブルが多発しています。これらは、「海外留学の特典がある」などの甘い誘いや、「すばやい契約」がつきもので「解約に応じてくれない」「多額の違約金を請求された」などのトラブルが多いようです。

いずれも安易な契約がトラブルの原因ですので、契約に際しては、相手がどのような者かしっかり確認し、その内容について時間をおいて十分に検討したうえで判断してください。そして、甘い誘いにはのらず「断る勇気」を持ちましょう。

なお、解約に関しては無条件で解約できる「クーリング・オフ制度」があることも覚えておいてください。（契約書や領収書は解約の際必要になる場合があるので、必ず保管してください。）

このほか悪徳商法には次のようなものがありますので、おかしいと思ったら、まずはっきりと断ってください。

マルチ（連鎖販売取引）商法

「販売員を増やせば多額の手数料が入ります」などの触れこみでネズミ算式に販売組織を広げる商法です。ノルマ達成のため詐欺的、強迫的な勧誘に奔走せざるをえない末路となりますので、こうした商法に関与しないよう充分注意してください。

点検商法

「消防署から点検にきました」などと公的機関の職員の身分をかたり消火器などの商品を売りつける商法です。他に布団、換気扇フィルターなどの点検商法も多発しています。

アポイントメント商法

「あなたが選ばれました」という電話や手紙で勧誘され、商品を買わされる商法です。粗悪品と多額の請求書が送られてきます。

資格取得（士）^{さむらい}商法

講座を受けるだけで「〇〇資格が取れます。」という手紙で勧誘されて、多額の受講料を払わせる商法です。

クーリング・オフについて

クーリング・オフとは違約金を払わずに無条件解約のできる制度のことです。

クーリング・オフの期間は、訪問販売…… 8日間	特定継続的役務……8日間
電話勧誘…… 8日間	いわゆるエステティックサロン
マルチ商法……20日間	いわゆる語学教室
	いわゆる家庭教師
	いわゆる学習塾

通知の方法は、口頭ではなく文書を内容証明郵便または簡易書留郵便で送付してください。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

第2章

学修活動について

理工学部で学ぶ学生諸君へ

理工学部のカリキュラムは、科学技術の基礎を系統立てて学べるように構成されています。

優れた科学技術者となるためには、幅の広い人間性が必要となります。優れた科学技術者もひとりの人間として優れていなければなりません。そのためには、人文・社会科学の科目や、これからの国際社会を担う人材となるための語学にも、時間をとって勉強することが必要となります。したがって、“幅広く、より専門的に”を心がけて学習することが重要となります。

本学部では今までの教育・研究の実績をもとに、さらには、今後の科学技術の動向、社会からの要望を考慮し、以下のようなカリキュラムになっています。

ガイダンス・教員のオフィスアワー・学習サポートセンター等（P236 参照）を積極的に利用して各自で目標をさだめて履修計画をたててください。

1. 卒業単位数を 124 単位としています。
2. 多くの科目が選択科目であり、必修科目を少なくしてあります。
3. 開講科目の科目名称においては、時代と授業内容にあった科目名称となっています。
4. 単位数の計算方法が、学習の負担に応じたものとなっています。
5. 人間形成科目・英語科目・学部共通科目・学系共通科目・コース専門科目に関係なく、自由に履修できる単位を 20 単位設けてあります。
6. 学部共通科目群では理工学部において体系的、段階的な勉学を可能にする最も基礎となる入門的知識と技法、さらに基礎知識修得のため、基礎教育科目を特に充実させています。
7. 高精細映像システムを幅広く活用した授業を開講しています。

このように、皆さんの履修に関する自由度を大幅に認める一方で、皆さんが履修計画をたてやすいように、「履修モデル」を作成し公表しています。

本章では、主に学修に関する事項を掲載しています。履修に関する注意事項や進級・卒業の条件、科目配当表（科目名・単位数・配当学年・配当期・担当者・履修条件等）が掲載されています。これらは、「履修モデル」や「授業時間割」とともに履修計画をたてる際には、非常に重要ですので、熟読してから計画を作成してください。

もっと詳しい授業計画（シラバス）を知りたい場合は、学生ポータルサイト「DENDAI -

UNIPA」にあるシラバスで知ることができます。

また、教員免許を取得するための教職課程については、第3章で説明してあります。

さらに理工学部には、より高度な学習を学部に引き続き行えるように、大学院理工学研究科が併設されており、修士課程さらには先端科学技術研究科博士課程（後期）に進むことができます。

近年の社会では、理工系の科学者・技術者に大学院修了程度の知識を求める傾向にあるため、進学者が年々増加しています。より高度な科学技術の知識修得を目指すことを期待しています。

彩の国大学コンソーシアム

本学は平成13年10月15日に埼玉県の下記私立大学（18大学）において「彩の国大学コンソーシアム」という協定を結びました。この中では単位互換・公開講座を平成14年度より実施しており、今後は大学同士協力しあい教育活動・研究活動・学生交流等を行っていく予定です。詳細については掲示でお知らせしますので掲示板を確認してください。

協定大学

跡見学園女子大学・埼玉医科大学・埼玉工業大学・十文字学園女子大学・城西大学・
尚美学園大学・女子栄養大学・駿河台大学・西武文理大学・大東文化大学・東京家政大学・
東京国際大学・東邦音楽大学・東洋大学・文京学院大学・明海大学・立正大学・
東京電機大学

ホームページ：<http://www.saicon.jp/>

ホームページ

理工学部のホームページ内にある在学生のページでは、履修・授業関係、学生生活関係、図書・情報サービス等に関する連絡事項等を掲載しております。

但し、各種の連絡事項は、学内の掲示板での確認も必ず行ってください。

アドレス：<http://www.cse.dendai.ac.jp/>（東京電機大学理工学部）

<http://www.cse.dendai.ac.jp/students/>（理工学部在学生のページ）

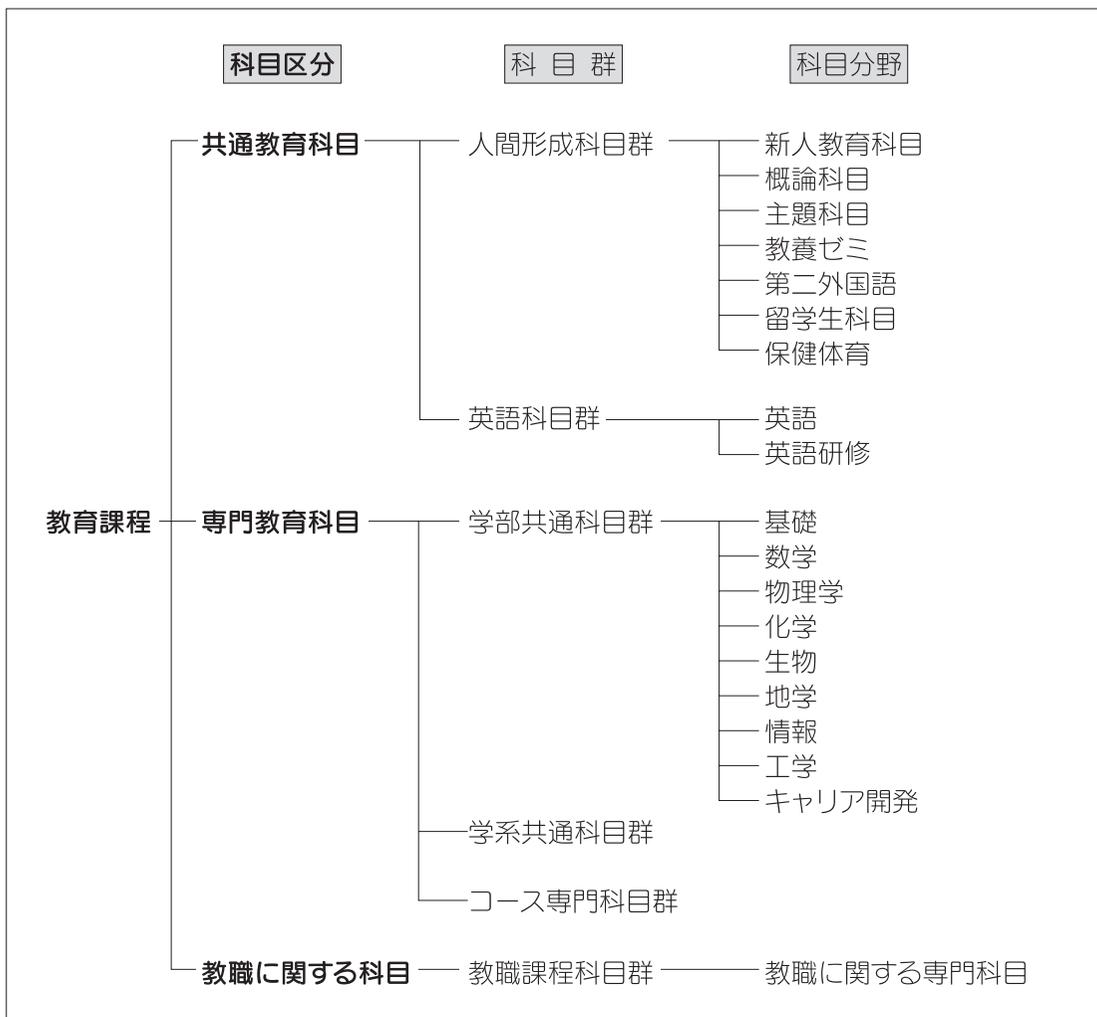
The screenshot shows the homepage for current students at the School of Science and Engineering, Tokyo Denki University. The header includes the TDU logo and navigation links for various user groups. The main content area features a large banner with the text '在学生の方へ' (For Current Students) and a photo of three students. Below the banner, there is a sidebar with a menu of links for current students, including '履修関係' (Course-related), '授業関係' (Class-related), '教育支援' (Educational support), '就職支援' (Career support), '国際交流' (International exchange), '学籍関係' (Academic status), 'キャンパスライフ' (Campus life), 'お食事' (Food), and 'バス時刻表・カレンダー' (Bus schedule/Calendar). The main content area includes an 'お知らせ' (Notice) section, a section for '理工学部長へのご質問/ご要望(学内者限定)' (Questions/Requests to the Dean of the School of Science and Engineering (Limited to In-Campus Members)), and sections for '履修関係' (Course-related) and 'キャンパスライフ' (Campus life) with sub-links like '履修申告' (Course declaration), '証明書発行' (Certificate issuance), and '進路進学' (Career/Admission).

※デザインや項目は変更される可能性がありますのでご了承ください。

授 業 科 目

1. 教育課程（カリキュラム）

理工学部では教育課程（カリキュラム）を次のように構成しています。



(1) 人間形成科目群

人間形成科目群は、社会の一員としての基礎的な教養を身につけ、人間および社会に対する広い視野と柔軟な思考力を養うために開講されています。将来社会に出て各方面で活躍するためには、専門分野についての知識のほかに、正しい人生観・社会観を培っておくことが必要となります。

(2) 英語科目群

英語科目群は TOEFL・TOEIC での高得点及び英検等の資格を取得することに力をいれています。また、集中講義として、アメリカのアイオワ大学、コロラド大学、オーストラリアのシドニー大学等での海外英語研修も開催されています。

(3) 学部共通科目群

学部共通科目群は、理工学部で勉学を開始する際に必要な入門的な知識と基礎知識を修得することを目的としています。基礎科目や数学、物理学、化学、生物、地学、情報、工学、キャリア開発の科目が開講されています。

(4) 学系共通科目群・コース専門科目群

学系共通科目群・コース専門科目群は、専門の職業人となるために、専門知識を身につけ、その原理と応用を把握することを目的としています。各学系に配当された専門の授業科目は、学系・コースの個性に応じ、上記の目的をもとに設けられています。

(5) 教職課程科目群

教職課程科目群では、将来高校または中学校の教育職員になるための教職課程が設けられています。

2. 単位数

授業科目の1単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。各授業科目の単位は、授業形態・授業時間外に必要な学修を考慮し、以下の基準により計算します。

- ① 講義および演習については、15時間の授業をもって1単位とします。
- ② 実験・実習・製図および実技については、30時間の授業をもって1単位としています。
- ③ 卒業研究については、前期・後期を併せ6単位（前期3単位・後期3単位）と定めています。

なお、1単位は45時間の学修を標準としていますので、授業以外の時間での学修（予習・復習・課題等）が必要となります。

3. 必修科目・選択科目・自由科目（必選区分）

授業科目は、必修科目と選択科目および自由科目に分かれます。

必修科目	単位修得が義務づけられている科目です。卒業するためには必ず単位の修得をしなければなりません。
選択科目	各人の意思により選択履修する科目です。ただし、選択科目の中でも、進級・卒業条件に関わる科目もあるので、各学系の「進級条件」や「卒業条件」および「履修モデル」に従って履修する必要があります。
自由科目	単位修得しても、進級・卒業に必要な単位数には算入されない科目です。

4. 配当学年

授業科目には配当される学年が定められています。履修できる科目は原則として所属する学年と下級年次に配当された授業科目だけです。

5. 配当期

授業科目の開講される期間（配当期）により、以下のように分けられます。

通年科目	1年間30週にわたって開講される科目です。
前期科目	前学期半年間15週にわたって開講される科目です。
後期科目	後学期半年間15週にわたって開講される科目です。
四半期（前前期、前後期、後前期、後後期）科目	1/4年間7.5週にわたって開講される科目です。 学期の開始と終了日は主要行事予定で確認してください。
集中講義科目	開講曜日・時限が定期ではなく、特別な期間に集中して開講される科目です。

授 業

1. 学年と学期

授業は一定の期間継続して行われますが、その期間に、学年と学期があります。

学年 4月1日から翌年3月31日

学年は、次の2学期に分けられます。

前学期・・・4月1日から9月15日まで

後学期・・・9月16日から3月31日まで

(ただし、必要に応じこの期間を変更する事がありますので、その年の学事日程で確認してください。)

2. 授業時間

授業時間は以下のように定められています。

	1時限	休憩	2時限	休憩	3時限	休憩	4時限	休憩	5時限	休憩	夜1限
時間	9:30 ~ 11:00	10 分	11:10 ~ 12:40	50 分	13:30 ~ 15:00	10 分	15:10 ~ 16:40	10 分	16:50 ~ 18:20	10 分	18:30 ~ 20:00

※他キャンパスとの遠隔講義等においては、上記とは異なる時間帯で講義を行うことがあります。

※夜1限は補講時限として実施する場合があります。(学部の通常授業は原則実施しません。)

3. 授業時間割

授業は、週単位で決められた**授業時間割**に従って行われます。

(1) 種類

授業時間割表には「共通教育・教職科目時間割」「学部共通科目時間割」「学系配当科目時間割」の3種類があります。

冊子体(紙)とホームページ上からダウンロード可能な excel 形式ファイルの2通りで配布します。

- 「**共通教育・教職科目時間割表**」(全学系共通)

人間形成科目群・英語科目群・教職課程科目群の科目が記載されています。

- 「**学部共通科目時間割表**」(全学系共通)

学部共通科目群の科目が記載されています。

・「学系配当科目時間割表」

学系共通科目群およびコース専門科目群の科目が記載されています。

(2) カリキュラム年度

カリキュラム年度とは、入学した年度に配当されるカリキュラムのことです。

2012年度に1年次に入学した学生のカリキュラムは、2012年度カリキュラムとなります。(卒業するまで同じカリキュラム年度になります。万一留年してもカリキュラム年度は変わりません)

時間割表では略して「'12」と記載し、該当する学生の履修可能である科目を表しています。

(3) 内容と注意

- ① 3種類の時間割表をあわせて、その年度に履修できる全ての科目を網羅することになります。
- ② 授業時間割表には、科目名・カリキュラム年度・担当教員名・教室番号が曜日・時限・配当期ごとに記載されています。
- ③ 科目名に学年・学系の記載がある科目については、その対象学生の履修が優先されますが、対象外の学生も人数に余裕がある場合は履修することができる場合があります。
- ④ 集中講義科目については時間割表の備考欄に記載してあります。
- ⑤ カリキュラム年度は入学した年度です。カリキュラム年度により履修できる科目は異なります。

4. 休 講

以下の場合、休講となります。

- (1) 学校行事を行う場合。(主要行事予定表・掲示により連絡します)
- (2) 授業科目担当教員にやむを得ない理由が生じた場合。(掲示および大学のHP・携帯用情報端末により連絡します)
- (3) 休講の掲示がなく、授業開始時間から30分を経過しても授業科目担当教員がやむを得ない理由で講義を開始できない場合。(自然休講と呼びます)
ただし、特別な指示により、それ以上経過しても授業を行う場合があります。
- (4) 東武東上線の事故等の場合。(P9参照)
- (5) 地震、台風、大雪などの自然災害により不測の事態が発生した場合。(そのつど指示します。)

5. 補 講

授業回数が不足した場合など必要に応じて、補講を行うことがあります。補講の有無は授業科目担当教員によって指示され、原則として**月～金曜日夜1限**に行うことになっています。

ただし、月～金曜日 5 時限、土曜日に、授業担当教員が通常授業および、大学・学部行事に支障がないと判断した場合に限り補講を実施する場合があります。日程は、授業中または掲示および大学の HP・携帯用情報端末により伝達します。

6. 授業の欠席

病気・ケガ等のやむを得ない理由で授業を欠席する場合は、教務担当窓口で欠席届の用紙を受けとり、必要事項を記入の上、診断書等欠席を証明出来る物を添えて提出してください。ただし、公欠制度はありません。届出に対して大学（科目担当教員等）が判断を行いません。

	欠席日数（連続した欠席日数）	
	6 日以内	7 日以上
保証人記入欄の記入	不要	必要
提出先	各科目担当教員	教務担当窓口

7. 提出物期限の厳守

履修登録・レポート・製図等の提出物には、必ず期限が定められています。期限を守らないと成績評価を受けられないこととなりますので、期限・提出場所は厳守するように注意してください。

本館 1 階事務室内にある教務担当レポート BOX は、提出期限になったら撤去します。撤去後の扱いは行なっていません。

8. 授業評価アンケートについて

目的：授業評価アンケートは、授業の充実度・専門性の向上など、より優れた授業の実現のために実施します。

種類：授業評価アンケートには大別すると 2 つの種類があります。一つは、理工学部の共通フォーマットにて行なわれるもの。また、もう一つは学系および共通教育群など独自のフォーマットにて行なわれるもの。どちらの場合においても、科目担当教員の指示により行ってください。

注意：授業評価アンケートは授業内容の向上につながるため、率直な意見を記載してください。ただし、一時的な感情やいい加減な考えではなく、授業での様子をできるだけ正しく伝えるようにしてください。

なお、授業評価アンケートの処理には OCR（光学読取装置）を使用しますので、読み取りエラーなどを減らすため、丁寧な記載をお願いします。

集計結果の閲覧：授業評価アンケートの集計結果については、Web（キャンパス内のみ）、事務室窓口等で閲覧出来ます。

9. その他授業について

(1) 授業等のガイダンス

授業科目のガイダンスは、授業開始前あるいは開始時に行われますので、必ず出席してください。特に、実験・演習・実技等については、グループ分け等の説明がある場合が多いので、出席しないと履修に支障が出る場合があります。

(2) テストによるクラス分け

「英語」「数学」「物理」「化学」の科目では、プレースメントテストによりクラス分けを行います。

(3) e-Campus 科目

東京電機大学の4学部（理工学部・工学部・情報環境学部・未来科学部）では、平成18年度より遠隔授業を行なっています。遠隔授業で行なう科目は別途掲示で確認してください（開講しない場合もあります）。

- * 1 他学部履修の扱いになる科目もあります。
- * 2 授業時間は、別途掲示で確認ください。なお、他キャンパスにて履修者がいない場合、授業時間の変更になる場合があります。詳細は、掲示でお知らせいたします。
- * 3 その他変更等のお知らせは適宜掲示で行います。

履 修

1. 履修計画

1年間にどの授業科目をどのように履修するか計画（履修計画）は、以下の点を十分に考慮して立ててください。

- ① 各学系・共通教育群のページにある「履修モデル」を参考にして、履修科目の見通しを立ててください。
- ② 授業科目配当表と学期始めに配布する授業時間割表を参考にし、シラバスを読んで、授業科目の内容をつかむようにしてください。
- ③ 必修科目の履修登録を忘れないようにしてください。
- ④ 各学系で定められている、進級条件・卒業要件をクリアできるように十分に考慮し、余裕をもって履修してください。
- ⑤ 履修上限単位数（48単位／年）を超えないように注意してください。
- ⑥ 同時限に開講する科目を重複して履修することはできないので注意してください。
- ⑦ 履修できる科目は、各自のカリキュラム年度の科目のうち、所属する学年または、原則として下級年次に配当された授業科目だけです。（上級年次配当科目を履修する場合はP31を参照してください。）
- ⑧ 所属する学系以外（他大学、他学部、短期大学、大学以外の教育施設）の科目も一定の条件内で履修できます。また、場合によって修得単位は、入学前の既修得単位等と合わせて60単位まで卒業要件に含めることができます。

2. 履修登録

(1) 履修登録の意味

各自がどの授業に出席し、科目を修得しようとしているのかをあらかじめ届け出る手続きを履修登録といいます。

授業科目を履修するには、履修計画に従い必ず履修登録をしなければなりません。

履修登録していない科目は、授業に出席することも、学期末試験を受験することもできません。

(2) 履修登録の期間

履修登録は、その年度に開講される全ての科目について、前期開始後、1週間程度経過した時点（おおむね4月中旬）で1年間分（通年・前期・後期・前前期・前後期・後前期・後後期・集中講義科目）の登録を行い、各自で履修科目を確認の後、履修登録の修正期間が設けられています。（修正期間は後期にも設けられています）

また、一部の前後期科目（1／4期）に限り、別途履修修正期間が設けられています。日程、方法の詳細は、掲示によりお知らせします。

履修登録の内容と時期

	履修登録	確認期間 ①	履修修正 手続	確認期間 ②		後期科目 修正	後期科目 確認	
学系配当科目	4月上旬 PCにて入力(通年分)	4月中旬 ～下旬	4月下旬 PCにて入力	5月中旬	前期 成績 発表	9月下旬 PCにて入力	10月上旬	後期 成績 発表
重複履修特定科目	4月下旬 願用紙提出	5月中旬	—	—		—	—	
他学部科目	4月下旬 願用紙提出	5月中旬	—	—		9月下旬 願用紙提出	10月上旬	
他大学科目 (4工大学・山村短大・東洋・彩の国コンソーシアム)	4月上旬 願用紙提出	4月中旬 ～下旬	—	—		9月下旬 願用紙提出	10月上旬	
科目担当教員が履修制限する科目	4月上旬 PCにて入力	4月中旬 ～下旬	4月下旬 PCにて入力	5月中旬		9月下旬 PCにて入力	10月上旬	
前後期科目の一部（学部共通基礎科目）	6月中旬	6月下旬	—	—		—	—	
大学院科目（理工学研究科 進学内定者のみ）	—	—	—	—		9月下旬 願用紙提出	10月上旬	

※履修登録期間等の詳細については掲示を確認してください。

(3) 履修登録の方法

履修登録は、履修期間内に各自でパソコンのWebからUNIPAで入力します（一部Web以外での申請科目もあります）。

パソコンは学内設置のパソコン、教務担当窓口に置いてあるパソコン、その他の場所でもインターネット接続可能なパソコンから行う事ができます。

履修登録期間中であれば何回でも修正することができます（学内に設置してあるパソコンは使用できる時間が決まっています）。履修登録を行う際には、あらかじめ自分の

履修したい科目を決定してからパソコンに向かい、すみやかに作業を終了するようにしてください。

また、パソコンの操作ミスを含む入力ミスや、勘違い等による履修登録漏れがあった場合でも、履修登録期間及び履修登録修正期間以外では一切認められませんので、履修登録の確認期間には各自で責任を持って確認しなくてはなりません。

なお、科目によっては**科目担当教員が履修制限する科目**があります。これらの科目は、学期始めの掲示・授業等で科目担当教員が最終的に決定した者のみが履修の資格を与えられるものです。

履修登録結果は、後日、Web から UNIPA で公開します。各自で必ず確認し、修正（追加及び取消等）の必要があるときは所定期間内に手続きをとってください。

詳細は適宜掲示で確認するようにしてください。

3. 履修上限について

1年間に履修することができる単位数(履修上限単位数)は48単位と定められています。従って進級条件および卒業要件に注意しながら、しっかりと4年間の履修計画を立てることが必要となります。

なお、以下に該当する場合もしくは以下の科目については**履修上限 48 単位**の制限を受けません。

(1) 履修上限の制限を受けない場合

①成績優秀者に対して、学系の判断による場合（1・4年次生は除く）

②進級・卒業に影響する場合

③その他の特別な場合で、学部長の判断により認める場合

なお、①②については、以下の基準を適用する。

※ **①成績優秀者に対して、学系の判断による場合**

対象学生：全履修登録科目（自由科目は除く）の85%以上がS又はA評価であり、かつGPAが3.4以上の学生（1・4年次生は除く）。

追加履修を認める単位数：教育的配慮の上、学系長の判断とする。

※ **②進級・卒業に影響する場合**

対象学生：48単位を履修し全てを修得したとしても進級・卒業条件を充足しない学生。

追加履修を認める単位数：進級・卒業条件に対し48単位を履修してもなお不足する単位数までとする。ただし、前期において上限を超えての履修を認め

た学生が、前期末の成績において再び全ての科目を修得したとしても進級・卒業条件を充足しない場合は、後期初めにおいて再度進級・卒業条件に対し不足する単位数までについて認めることができる。

(2) 履修上限の制限を受けない科目

- ①自由科目
- ②海外英語研修・学外体育研修
- ③「インターンシップ」「海外事情」

4. 重複履修の禁止

(1) 同一曜日・時限における重複履修の禁止

原則として同一配当期・曜日・時限の科目を重複して履修することはできません。

(2) 同一科目の重複履修の禁止

同一科目が複数開講されていても、一科目のみしか履修することはできません。

5. 上級年次科目の履修について

上級年次に配当されている科目は通常履修できないことになっていますが、下記の場合については履修が可能となります。

上級年次科目の評価は、修得年次から、成績証明書等へ表記されます。

【上級年次科目の履修】

- 1) 成績優秀者において、上級年次配当の科目を履修する場合は、学生の所属する学系の承認の他、定められた手続きを行い、学部長の決済を得る。
- 2) 各学系の別途定める基準を満たしていること。

全修得科目の85%以上がSまたはA評価であり、(自由科目は除く)かつ、GPAが3.4以上の学生。

6. 他学系・他コース科目の履修

自分が所属していない学系の学系共通科目（副コースを他学系から選択した場合の副コース学系共通科目を除く）、および選択していないコースのコース専門科目を履修することを他学系・他コース科目履修とといいます。

他学系・他コース科目履修は、①選択した主・副コースの学系が同じ場合と、②主・副コースの学系が違う場合で、対象となる科目の範囲が異なります。

他学系・他コース科目履修の科目範囲

①主・副コースが同じ学系の場合

- ・他学系の科目
- ・所属学系配当科目のうち、選択していないコースのコース専門科目

②主・副コースが違う学系の場合

- ・主・副コース以外の学系の科目
- ・所属学系配当科目のうち、選択していないコースのコース専門科目
- ・副コース学系の選択していないコースのコース専門科目

他学系・他コース科目履修による単位算入区分は、「自主選択科目」となります。

7. 他学部科目の履修

未来科学部・工学部・工学部第一部・工学部第二部・情報環境学部科目の履修を希望する学生は、本人の所属する学系長、または専任教員の承認を得た上で、授業担当教員の承認を得れば履修することが出来ます。

8. 他大学科目の履修

(1) 東京理工系4大学による学術と教育の交流に関する協定に基づく単位互換について

東京電機大学・工学院大学・芝浦工業大学・東京都市大学の4大学間において、単位互換の協定を締結しています。これにより希望者は特別科目等履修生として、上記の本学を除く他の3大学の科目を履修することが出来ます。

(2) 東洋大学との単位互換について

本学部は東洋大学と単位互換の協定を締結しています。これにより希望者は特別科目等履修生として、東洋大学の科目を履修することが出来ます。

(3) 彩の国大学コンソーシアムについて

本学部では、埼玉県に所在する下記 18 大学と「彩の国大学コンソーシアム」という協定を結んでおり、その中で以下の 9 大学と単位互換協定を行っています。

跡見学園女子大学、十文字学園女子大学、城西大学、尚美学園大学、駿河台大学、西武文理大学、大東文化大学、東京家政大学、文京学院大学

(4) 山村学園短期大学との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い

本学部では山村学園短期大学との間に単位互換協定を結んでいます。本協定により、希望者は特別科目等履修生として、山村学園短期大学の科目を履修することができます。

9. 他学部・他大学科目の履修手続

他学部・他大学科目履修を希望する学生は、所属する学系長または専任教員の承認を得た上で、授業担当教員の承認を得ることが必要です。

これらの履修を行う際に許可をもらう人、および履修費については、以下の表を確認してください。

	許可をもらう人	履 修 費
東京理工系 4 大学	所属する学系長	無 料
東洋大学	所属する学系長	無 料
彩の国大学 コンソーシアム	所属する学系長	1 大学 2,000 円
山村学園短期大学	所属する学系長	1 単位 500 円
他学部科目	所属する学系長または専任教員、科目担当教員	無 料

また、履修するにあたっては以下の点に注意してください。

- ① 理工学部配当表の科目と内容が重複する科目は認められません。(既に修得した科目や履修中の科目と内容の重複する科目は認められません)
- ② 自分の所属する学年または原則として下級年次配当の科目でなければなりません。
- ③ 他の履修科目と時限が重複しないように気をつけてください。特に他大学、他学部の科目を履修する場合は、移動時間を含め、本学部の授業と重複しないように注意してください。(試験の日程が重なった場合も特に便宜はありません)

他大学・他学部・他学系で修得した単位について

編入学・転入学をのぞき、他大学・他学部・他学系等において修得した単位については、卒業所要単位として算入できる単位数は入学前の既修得単位等と合せて60単位を超えることは出来ない。

10. その他履修について

(1) 履修人数の制限

履修登録はUNIPA等で受け付けますが、科目によっては履修登録を受け付けた結果1つの時限に履修者が集中し、その履修人数が教室等の関係で一定人数を超えた場合に限り、履修人数の制限をかける場合があります。

履修人数は抽選または科目担当教員の判断により制限をかけ、それらの結果によっては、希望する科目を履修できない場合があります。

履修登録に関する詳細や履修登録期間・具体的な履修登録方法等は掲示により知らせますので、見落とすことの無いように注意してください。

(2) 科目名の最後についている I・II、A・Bについて

I・IIというのは、Iを履修してからIIを学ぶことを原則としている科目です。

A・Bというのは、Aを履修してからBを学ぶほうが望ましいという科目です。

いずれも半期制の科目ではありますが、通年科目のつもりで履修計画を立ててください。

(3) 卒業研究の履修登録について

卒業研究は自分の所属する学系(主コース)で履修登録をしてください(必修科目です)。

(4) 体育 I・II・III・IV・V・VI

この科目は、授業時間割表の表記と履修登録システムの表記が異なります。

授業時間割表の表記は「体育(種目名)」として記載され、UNIPAの履修登録システムの表記は「体育I～VI」となっています。

履修登録の際には自分の履修したい教員名で選択し、体育IからVIの順番になるように履修を行ってください。

(5) 履修登録をしなくても良い科目

- ・海外英語研修
- ・学外体育研修
- ・インターンシップ
- ・海外事情

これらの科目は、参加の申し込みを行った後、参加が許可されることにより履修登録した事になります。参加申込み受付については掲示します。参加できる人数には限りがありますので、参加人数によっては参加が許可されない場合もあります。

なお、実施の時期により年度内に成績がつかない場合がありますので、年度末に実施される研修については必ず事前に確認してください。

(6) インターンシップA・B・C・D・E・Fについて（学系により名称は異なります）

インターンシップは、履修及び履修登録の取り扱いが他の科目と以下の点において異なりますので注意してください。

ア インターンシップについて

インターンシップとは、一般的には、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことであり、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」としてとらえられています。（労働報酬はありません）

本学部でのインターンシップに関する科目は、全学系に開講され、講義科目の「情報と職業入門」及び実習科目の「インターンシップA～F」にて構成されています。

実習科目の「インターンシップA～F」を履修する学生は、その前提科目として「情報と職業入門」の単位を修得しなくてはなりません。

イ 履修の取り扱い

インターンシップは科目配当表の「インターンシップA～F」のうち、在籍学年に配当されている科目のみが履修可能であり、下級年次科目としての履修や再履修はできませんので、授業科目配当表を確認の上注意してください。

ウ インターンシップ科目の運用

インターンシップ科目の運用は以下のようになります。

- ・履修の希望を学系へ申し出て企業を決定します。
- ・1企業あたりの派遣学生数は企業毎に異なります。
- ・研修期間は合計2週間程度。

- ・研修形態は学系と打ち合せ、決定します。
- ・履修登録の手続きは不要です。
- ・履修上限単位数には含まれません。
- ・研修前には必ず「情報と職業入門」の単位を修得し、事前指導を受けてください。
- ・評価は学期末もしくは、翌年度となります。

エ 履修の形態

インターンシップは、全学系に配当されていますが、科目名は履修した時の在籍学年・配当期によって次の通りになります。(学系により科目名は異なります)

- | | |
|-----------------|--------------|
| 2年次前期：インターンシップA | 後期：インターンシップB |
| 3年次前期：インターンシップC | 後期：インターンシップD |
| 4年次前期：インターンシップE | 後期：インターンシップF |

(7) 海外研修における振替について

理工学部において各種海外研修に参加した学生は、以下のような科目に振替られます。海外研修の実施については掲示または、学生厚生担当に確認してください。(実施されない場合もあります)

ア 海外研修の研修校及び実施時期について

- ・フランス国立高等精密機械大学院大学（フランス）
実施時期：2月～3月（2週間）
最終実施年度：平成14年度
- ・上海交通大学（中国）・西安交通大学（中国）
実施時期：8月～9月（2週間）
最終実施年度：平成10年度

※実施時期についての詳細及び申込みについては、掲示または、学生厚生担当にお問合せください。

イ 振替科目について

人間形成科目群の「海外事情」に振替となります。
(在学期間中にこの振替えができるのは1回のみとなります)

ウ 履修について

海外研修の参加申込をすることにより履修となります。
また、この履修は履修上限には含まれません。

(8) 重複履修特定科目について

特定科目とは、**再履修者**に対しその科目担当教員が、授業時間外に指導すること等を条件に、重複履修を許可する科目のことをいいます。該当科目とその対象者がいる場合は掲示します。なお、重複履修が認められるのは特定科目が再履修科目となる場合のみです。

(9) 単位修得している科目は再履修することはできません。

(10) 同一の科目名の科目は、学部・学科・学系で配当の所属が異なっても、1科目のみしか、履修および単位修得することはできません。

再履修

1. 再履修

履修した授業科目の単位が修得できなかったときに、再度その科目を履修からやり直すことを、**再履修**といいます。(単位修得済みの科目を再履修することはできません)

2. 再履修上の注意

- (1) 必修科目の単位を修得できなかったときは、必ず再履修しなければなりません。
- (2) 選択科目の単位を修得できなかったときに、再履修するかしないかは、各自の意思にまかせられますが、その際、履修基準、進級条件、履修モデルに充分注意してください。
- (3) 再履修科目名等科目配当条件に変更があった場合は、年度始めのガイダンスや掲示を参考にして、単位未修得科目に対応する授業科目を確認した上で、誤りのないように再履修してください。
- (4) 再履修科目の担当教員が前年度と変更になった場合は、再履修年度の担当教員のもとで再履修しなければなりません。
- (5) 授業時間割は前年と同時限に配置されるとは限りません。
- (6) 再履修科目の履修登録・受講・試験等については、新規での履修の場合と同様です。

試 験

授業科目の単位認定の方法として、試験が行われます。試験には、学期末試験・中間試験・追試験等があります。いずれの試験も受験する際には必ず学生証を携帯してください。

なお、試験は筆記のほかに、科目によってはレポート提出・口頭試問などの方法により行われることもあります。

1. 学期末試験

学期末試験は、原則として授業時間中に行われ、一部の科目については学期末の学部が定める期間（特定日）に行われます。（科目によっては、小テスト、レポートなどの内容により採点する為、行わない場合もあります。）

(1) 学期末試験の受験資格

学期末試験受験のためには、以下の条件を備えていることが必要となります。

- ① 履修登録をした授業科目であること。
- ② その学期までの学費を納入していること。
- ③ 休学期間中ではないこと。

(2) 学期末試験受験上の注意

学期末試験の受験に際しては、以下のような注意が必要です。授業中に実施する場合や学部の指定する期間に実施する場合にかかわらず熟読し、よく理解しておいてください。

ア 試験時間割等の確認

試験日・試験時間割・試験教室・座席表など試験に関する掲示は、試験開始日のおおむね1週間前に掲示されます。試験教室が通常の授業の教室と変更となる場合等がありますので、よく確認してください。

イ 試験教室・座席の指定

試験教室・座席は、学籍番号により以下の3種類の指定があります。学生ポータルサイトで確認してください。

- ・授業着席（隣席との間を空けずに着席します）
- ・試験着席（原則として隣席との間を1席分空けて着席します。）
- ・教員にて指示（科目担当教員により事前に掲示等での指示、また当日口頭での指示等があります）

ウ 遅刻・退出について

遅刻－試験開始後 30 分を経過すると入室は認められません。

退出－試験開始後 40 分を経過しないと退出は許可されません。（ただし、終了 10 分前まで）

なお、事情により、上記に抛らない場合がありますので、試験監督者の指示に従ってください。

エ 学生証について

学生証は常に携帯し、試験（学期末試験・中間試験・追試験等）のときには常に机の上に出しておかなければなりません。また監督者からの要求があったときには、必ず提示しなければなりません。

学生証を持参していない学生は、いかなる理由があっても受験できません。

注）学生証を忘れた者は、証明書自動発行機で仮受験票を発行してください。ただし仮受験票発行には 1,000 円の手数料がかかります。当日 6 時限分の仮受験票が紙で出力されますので、該当の時限分を切り取って使用してください。なお、仮受験票は当日のみ有効ですので、受験しない時限分の仮受験票は各自で処分してください。

オ 試験場での心得

試験期間中は試験監督者が一切の権限を持ちます。試験監督者の指示に従わない者や、態度不良の者は退室を命ぜられることがあります。

また、PHS・携帯電話等の持ち込み（時計としての使用も不可）は禁止しています。

カ 棄権

試験を棄権する場合でも、答案用紙に必ず、学年・学系・学籍番号・氏名を記入し提出しなければなりません。

キ 不正行為

カンニングなど不正行為をした者は、退室を命じられたうえ、原則として**その学期末試験の全部の試験が無効**となります。

2. 追試験

(1) 追試験の受験資格

以下に示す真にやむを得ない理由により学期末試験を受験できなかった場合、追試験を受験することができます。

- ① 病気で受験できなかった場合
- ② 親族の死亡などで受験できなかった場合
- ③ 交通機関の運休・遅延などで受験できなかった場合
- ④ 火災・台風災害などに罹災した場合
- ⑤ 上記と同程度と認められる本人の責任でないやむを得ない理由がある場合

※追試験の実施方法は科目担当教員の判断によります。

(2) 手続き

追試験を希望する学生は、追試験願に医師の診断書等の**欠席理由を証明する書面等**を添えて、当該科目の試験終了時から試験期間終了後2日後までに、教務担当へ提出してください。追試験は、追試験願受付期限終了後の2日後から実施されます。

(追試験手数料は、1科目につき500円です。)

3. 中間試験等

学期末試験以外の通常の授業中行う小試験や学期の途中で行われる中間試験は、授業科目担当教員が実施日・方法などを決定し、授業中または掲示により伝達します。

成 績

1. 単位と成績評価

試験の結果は科目担当教員が採点し、1点きざみの**評点**が与えられます。60点以上の評点が与えられたとき、その授業科目は合格とされ、その授業科目について定められた単位数が与えられます。これを**単位修得**といいます。

単位修得した授業科目は、たとえ評価が不本意なものであっても再履修はできません。

評点に対し、**S・A・B・C・D**等の評価が与えられ、本人が確認する成績通知書にはこの評価と評点が記載されます。なお**成績証明書には、評価のみ記載となっております、D・一の評価の科目は記載されません**。

成績 (評点・評価)

評点と評価の関係は、次の通りです。

評 点	成 績 評 価		判 定
	成績通知書	成績証明書	
90～100点	S	S	合 格 (単位修得)
80～89点	A	A	
70～79点	B	B	
60～69点	C	C	
認定された科目	R	R	
0～59点	D	記載されません	不 合 格
放 棄	—		

— 放 棄 (履修した授業科目を受験しなかったとき等)

* 履修中 (履修した授業科目にまだ評点が入らないとき)

注(1) 単位認定の時期は、その授業科目の履修が終わる配当期の終了時点（前期末・後期末）です。これは再履修の場合も同じで、これ以外の時期に単位認定が行なわれることはありません。

注(2) 配当期が変更された科目を再履修した場合の単位の認定の時期は、原則として現に受講している科目の配当期末とします。

2. 成績の通知

成績の通知は指定日（掲示により通知）に行います。通知方法は、掲示でお知らせします。

成績通知の時期は次の通りです。

(1)前期・前前期・前後期・前期集中科目……………後期授業開始後

(2)後期・後前期・後後期・後期集中・通年・通年集中科目

……………3月初旬の卒業・進級判定発表日

成績の通知後、学期の途中で担当教員から採点の訂正がおこなわれた場合でも、原則としてその都度の訂正および発表は行いません。

3. GPA（Grade Point Average）について

本学部では、成績の総合評価の指標として GPA を採用しています。

GPA とは、科目を履修して最終的に与えられた S・A・B・C・D の評価（Grade）に 4～0 のポイント（Point）を配当しそれに単位数を掛け、修得したポイントの合計と単位数をもとに算出する平均値（Average）です。

そのポイントと計算式は以下のように、GPA の最高値は“4”となり、最高値に近いほど評価が高くなります。

【ポイント】

評点 (100点法)	成績評価	GP (グレードポイント)	合 否
90～100	S	4	合 格
80～89	A	3	
70～79	B	2	
60～69	C	1	
0～59	D	0	不 合 格
放 棄	—	0	

【計算式】

$$\text{GPA} = \frac{(\text{各科目の単位数} \times \text{その科目で得たGP (グレードポイント)}) \text{の合計}}{\text{履修登録した科目の単位数の合計}}$$

- ※ GPA の値は、小数点第 4 位を四捨五入して、小数点第 3 位まで表示します。
- ※ 分母の「履修登録した科目の単位数の合計」には、履修中の科目は含まれません。
- ※ 卒業要件とならない科目（教職に関する科目・自由科目）は含まれません。
- ※ 対象科目は履修し評価を受けた科目となるので、資格等で認定された単位（R 評価）は含まれません。

【用 途】

- ※ 成績証明書等に記載します。
- ※ 学部内における判定等（3 年次在学における卒業・履修上限を超えての履修・その他）に使用します。

単 位 認 定

1. 入学前に修得した単位の認定

(1) 編入学（転入学・再入学・転学系・転学部含む）の場合

編入学前に、大学・短期大学・高等専門学校で専攻科で修得した成績を、本学で修得したものとして認定の対象科目とすることができ（高等専門学校での科目は、原則として4・5年次の科目に限ります。）、単位は進級・卒業条件へ算入することができます。

編入学の単位認定方法は“**科目対応認定**”で行います。修得している科目を本学部もしくは所属学系に対応する科目に振り替える方法です。卒業要件、進級条件は正規入学の学生と同じになります。

2・3年次への編入学の単位認定は必要に応じて“**包括単位認定**”を行うことがあります。認定単位数合計は原則として2年次編入学者に対しては36単位以上、3年次編入学者に対しては68単位以上となっています。

なお、単位認定を行うことにより、進級・卒業条件が他の学生とは異なる場合がありますので注意してください。

詳しくは、教務担当窓口にて確認してください。

(2) 新入学者の場合

入学前に、大学、短期大学で修得した科目・単位のうち、本学部の科目・単위에相当するものを、教育上有益と認めた場合には本学で修得したものとして認定します。

この場合の単位認定については入学後他学系、他学部、他大学等で修得した単位を合わせて最高60単位までです。

認定希望者は、教務担当窓口にある「単位認定申請書」に、入学前の最終成績証明書及び講義要目（シラバス）を添付して、4月上旬をめぐに教務担当へ提出してください。

2. 本学部の指定する資格による認定

次頁に記載されている資格取得者に対して本学の科目を認定することができます。資格による科目の認定を希望する者は、教務担当へ申し出てください。

なお、この認定の注意事項は以下のとおりです。

- ①資格による認定の際は、該当科目を履修登録する必要はありません。
- ②該当科目を履修中の場合は履修を取り消すこととなります。
- ③既に単位修得済みの科目については認定することが出来ません。
- ④履修上限単位数には加算されません。
- ⑤該当科目が現学年より上級年次の配当であっても、成績表には表記され、進級条件にも加算することができます。
- ⑥単位認定は、一つの資格に対して共通科目と専門科目の両方が対応している場合は、希望によりどちらか一方を認定します。
- ⑦専門科目の対応については、所属学系の科目のみとし、他の学系の科目は認定しません。
- ⑧成績評価は「R」となり、GPAには反映されません。
- ⑨申請してから成績表に表記されるまでの日程については下記を参考にしてください。

- 1月～6月に申請の場合は**前期**成績表に表記

- 7月～12月に申請の場合は**後期**成績表に表記

※資格による単位認定により所要単位数が充足され進級・卒業が可能となる場合もあるので、申請時期に余裕をもって行ってください。

資格と認定科目

学系・群	資格名称	科目名	学年	単位数
共通教育	実用英語技能検定（2級）または TOEIC 510点以上	英語ⅠA	1	1
		英語ⅡA	1	1
		英語ⅠB	1	1
		英語ⅡB	1	1
	実用英語技能検定（準1級）または TOEIC 730点以上	英語ⅠA	1	1
		英語ⅡA	1	1
		英語ⅠB	1	1
		英語ⅡB	1	1
		英語ⅢA	2	1
	実用英語技能検定（1級）または TOEIC 850点以上	英語ⅣA	2	1
		英語ⅠA	1	1
		英語ⅡA	1	1
		英語ⅠB	1	1
		英語ⅡB	1	1
		英語ⅢA	2	1
		英語ⅣA	2	1
		英語ⅢB	2	1
	ドイツ語技能検定（4級）	ドイツ語入門Ⅰ	全	1
		ドイツ語入門Ⅱ	全	1
	ドイツ語技能検定（3級）	ドイツ語入門Ⅰ	全	1
		ドイツ語入門Ⅱ	全	1
		基礎ドイツ語Ⅰ	全	1
		基礎ドイツ語Ⅱ	全	1
		初級ドイツ語Ⅰ	全	1
		初級ドイツ語Ⅱ	全	1
	実用フランス語技能検定（4級）	フランス語入門Ⅰ	全	1
		フランス語入門Ⅱ	全	1
	実用フランス語技能検定（3級）	フランス語入門Ⅰ	全	1
		フランス語入門Ⅱ	全	1
		基礎フランス語Ⅰ	全	1
		基礎フランス語Ⅱ	全	1
		初級フランス語Ⅰ	全	1
初級フランス語Ⅱ		全	1	
ITパスポート (旧名：初級システムアドミニストレータ)	情報処理A	1	2	
基本情報技術者 (旧名：第2種情報処理技術者)	情報処理A	1	2	
	情報処理B	1	2	
応用情報技術者 (旧名：ソフトウェア開発技術者) (旧名：第1種情報処理技術者)	情報処理A	1	2	
	情報処理B	1	2	

学系・群	資格名称	科目名	学年	単位数
理学系	基本情報技術者 (旧名：第2種情報処理技術者)	数理プログラミング	1	2
	応用情報技術者 (旧名：ソフトウェア開発技術者)	数理プログラミング	1	2
	(旧名：第1種情報処理技術者)	数理情報学演習Ⅲ	3	2
生命理工学系	—	—	—	—
情報システムデザイン学系	応用情報技術者 (旧名：ソフトウェア開発技術者)	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	1	3
	(旧名：第1種情報処理技術者)	コンピュータプログラミングⅡ・同演習	2	3
	基本情報技術者 (旧名：第2種情報処理技術者)	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	1	3
	C Gエンジニア検定 エキスパート (旧2級)	コンピュータグラフィックスⅠ	2	2
		コンピュータグラフィックスⅡ	2	2
	C Gエンジニア検定 ベーシック (旧3級)	コンピュータグラフィックスⅠ	2	2
	カラーコーディネーター検定2級 色彩検定2級	色彩論 色彩論	2 2	2 2
電子・機械工学系	電気主任技術者(第1・2・3種)	電気回路Ⅱ・同演習	1	3
	基本情報技術者 (旧名：第2種情報処理技術者)	コンピュータ工学Ⅰ	2	2
	応用情報技術者 (旧名：ソフトウェア開発技術者)	コンピュータ工学Ⅰ	2	2
	(旧名：第1種情報処理技術者)	コンピュータ工学Ⅱ	2	2
建築・都市環境学系	C A D利用技術者試験1級	建築都市デザイン演習Ⅰ	1	3
	測量士	測量学・演習	2	3
		測量実習	2	2
	測量士補	測量実習	2	2
	基本情報技術者 (旧名：第2種情報処理技術者)	プログラミング演習	2	2

進級と留年

1. 進級

(1) 進級制度

理工系の大学では、学問の性質上、基礎から応用へと積み重ねて勉学していくことが不可欠です。

そこで、本学部では、学問の基礎から応用へと順序立てて学修できるように、それに適した授業科目を各学年に担当し、その学年ごとに履修を指定しています。

したがって、下級学年次に不合格科目が多い状態で上級学年次に進むと、基礎学力が不足しているにもかかわらず上級学年次担当の専門的授業科目を履修しなければならないことになり、教育的に好ましくない状況をもたらします。

このような事態を避けるため、本学部においては、低学年次担当授業科目の単位修得状況を考慮し、上級学年次へ**進級**するための条件を定め、この条件を充たさないときは、もとの学年次に**留年**するという**進級制度**をとっています。

(2) 進級条件

上級学年次に進級するための条件を**進級条件**といいます。

理工学部においては、以下の学年に進級条件を設けています。

1年次から2年次：30単位以上修得のこと

2年次から3年次：なし

3年次から4年次：下記の条件および合計で104単位以上修得のこと

※ 進級条件の単位数には自由科目の単位は含まれません。

科目区分		単位数 (括弧内は卒業条件)	
人間形成科目		12 (16)	
英語科目		6 (8)	
学部共通科目		12 (14)	
主コースと副コースが同一の学系	学系共通科目	28 (36)	
	主コース専門科目	14 (22) ※	
	副コース専門科目	6 (8)	
主コースの学系と副コースの学系が異なる場合	学系共通科目	主コース	22 (26)
		副コース	10 (14)
	コース専門	主コース	14 (22) ※
		副コース	2 (4)

※は、卒業研究を含む

進級条件は、学系、学年ごとに異なるので、各学系のページを熟読してください。

(3) 履修単位算入区分の取扱いについて（主コースから副コースへの読替え）

複数の学系に開講される「学系共通科目」もしくは複数のコースに開講される「コース専門科目」については、履修登録時に主・副コースを学生が選択することができます。

しかし、進級条件や卒業要件を充足しない場合、学生からの申請に基づき、教育上有益と認められれば、算入区分の読替えを行う場合があります。（年度末に掲示等で確認してください）

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| a) 主コースと副コースが同一学系の場合 | 専門科目を主コースから副コースへ |
| b) 主コースと副コースの学系が異なる場合 | 専門科目を主コースから副コースへ |
| c) 主コースと副コースの学系が異なる場合 | 学系共通科目を主コースから副コースへ |

(4) 2・3年次への編入学者の進級条件

2・3年次への編入学者については入学時に修得している成績の単位認定をおこないますので、各学系に表示してある条件とは異なります。編入学者は教務担当窓口で確認してください。

2. 留年

留年した場合の注意点

留年したときには、次のような点に注意してください。

- ① 留年した場合であっても、入学した年度のカリキュラムが適用されます。また、進級・卒業判定基準も、入学した年度の基準が適用されます。(留年による変更はありません)
- ② 学生要覧は現在使用しているものを卒業まで使用します。
- ③ この1年間に、留年の原因となった単位未修得科目を重点的に履修し、進級・卒業条件を満たすよう努力してください。その他の時間には、進級条件以外の科目も履修することができます。
- ④ 同一学年に通算して4年の在学をこえてなお進級・卒業できないときは、**除籍**となります。

(注) 留年(休学による留年も含む)した場合の学費は、当該学年の正規学年次生の学費を納めなければならないので注意すること。

卒業要件

1. 卒業するための必要要件は、次のとおりです。

- (1) 卒業するために必要な単位数（卒業所要単位数）を修得していること。
- (2) 自己の所属する学系に配当されている必修科目の単位を全て修得していること。
- (3) 各学年次に1年、合計4年以上（8年以内、但し休学時は異なる）在学していること。
- (4) 卒業までに必要な学費およびその他の費用の全額を納入していること。
- (5) 卒業判定時に休学していないこと。

※卒業所要単位数には自由科目の単位は含まれません。

●理工学部においては、次により124単位以上を履修し、修得しなければならない。

区 分		単 位 数
共通教育科目	人間形成科目群	16単位
	英語科目群	8単位
専門教育科目	学部共通科目群	14単位
	学系共通科目群	66単位 ※
	コース専門科目群	
自主選択科目		20単位
合 計		124単位

※学系共通科目群及びコース専門科目群における「66単位」の内訳は以下のとおり。

主コース・副コース履修形態	コース	学系共通科目群	コース科目群		合計
			コース専門	卒業研究Ⅰ・Ⅱ	
同じ学系で主・副をとる場合	主コース	36単位	16単位	6単位	66単位
	副コース		8単位		
異なった学系で主・副をとる場合	主コース	26単位	16単位	6単位	66単位
	副コース	14単位	4単位		

- ☆ 必修科目の単位の全部を履修し、修得しなければならない。
- ☆ 自主選択科目については、任意に選択し（自由科目を除く）、修得した科目とする。

2. 卒業するための最低修得単位数

(1) 共通教育科目

ア 人間形成科目群

人間形成科目（新人教育科目・概論科目・主題科目・教養ゼミ・第二外国語・保健体育）の中から最低 16 単位以上修得しなければなりません。

なお、留学生については「留学生科目」を履修し単位修得すれば、人間形成科目群の単位として算入することができます。

イ 英語科目群

英語科目から最低 8 単位以上修得しなければなりません。

(2) 専門教育科目

ア 学部共通科目群

学部共通科目群（基礎・数学・物理学・化学・生物・地学・情報・工学・キャリア開発）から最低 14 単位以上修得しなければなりません。

イ 学系共通科目群・コース専門科目群

所属する学系および選択する主・副コースに関連した「学系共通科目」および「コース専門科目」から必修科目の単位数を含めて、最低 66 単位以上修得しなければなりません。なお前頁の表にも記載されているとおり、66 単位の内訳は、主・副コースの履修形態により異なりますので、注意してください。

ウ 自主選択科目

卒業するまでに最低 20 単位以上を修得しなければなりません。「自主選択単位」を修得するには、特別な授業科目を履修するのではなく、前述の(1)ア～(2)イのそれぞれの最低修得単位を超えた単位数が自動的にこの自主選択単位となります。したがって「自主選択単位」として履修できるのは、必修科目と自由科目を除く全ての選択科目です。

卒業するための最低修得単位数を簡単に式にすると次のようになります。

人間形成科目群	英語科目群	学部共通科目群	学系共通科目群 コース専門科目群					
16 単位	+	8 単位	+	14 単位	+	66 単位	=	104 単位

卒業所要単位数		自主選択単位		
124 単位	-	104 単位	=	20 単位

履修計画をたてる際には、各学系・群から示されている「履修モデル」と進級基準を念頭

におき、それぞれの科目群に定められた最低修得単位数のみならず、自主選択単位数も余裕をもって修得できるよう十分注意してください。

3. 3年以上の在学での卒業について（3年卒業、3.5年卒業）

本学の学生として3年以上在学した者で、本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認められる場合は、以下の条件により4年間をかけなくても卒業することができます。

条件は以下のようになります。

(1) 3年以上の在学での卒業における基準

- ① 所属学系の指導する早期卒業についての履修計画に従っていること。
- ② 在学期間が3年以上の学生であること。
- ③ 3年次以上までに卒業要件の全てを満たしていること（卒業研究は除く）。
- ④ 3年次から4年次への進級条件を充足していること。
- ⑤ 原則として全履修登録科目の85%以上（小数点第1位を切り捨て）がSまたはA評価であり、（自由科目は除く）かつ、GPAが3.4以上であること。
- ⑥ 学系長および学部長の了解が得られていること。
- ⑦ 卒業時に大学院進学、公務員等の進路が確定していること。
- ⑧ 3年次以上の在学での卒業までに必要な学費が全て納入されていること。

※3年次編入学者の早期卒業は認めない。

(2) 3年以上の在学での卒業における運用

3年次以上の在学での卒業を望む学生に対し、所属学系の判断により以下の①～④のうちいずれかを適用し実施する。

- ① 修業年限を3年とする。（卒業研究の修得はなし。）
- ② 修業年限を3年とする。（3年次後期に特別卒業研究を履修する。）
- ③ 修業年限を3.5年とする。4年次前期に卒業研究Ⅰを履修し、4年次前期を終えた時点で学期末卒業となる。
- ④ 修業年限を3.5年とする。3年次後期に卒業研究Ⅰを、4年次前期に卒業研究Ⅱを履修し、4年次前期を終えた時点で学期末卒業となる。

※詳細については掲示にて確認してください。

4. 卒業の時期

卒業の時期は学年末で、卒業式は毎年3月の下旬に举行されます。

3.5年での卒業の場合は9月15日付での卒業となり、卒業式については別途連絡いたします。

5. 学位の授与

理工学部を卒業した者には、次の学位が授与されます。

理	学	系	学士（理学）……Bachelor of Science									
生	命	理	工	学	系	学士（工学）……Bachelor of Engineering						
情	報	シ	ス	テ	ム	デ	ザ	イ	ン	学	系	学士（情報学）…Bachelor of Information
電	子	・	機	械	工	学	系	学士（工学）……Bachelor of Engineering				
建	築	・	都	市	環	境	学	系	学士（工学）……Bachelor of Engineering			

学位は卒業式の時に授与される学位記により証明されます。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

東京電機大学 理工学部

学生ポータルサイト
「DENDAI – UNIPA」

操作マニュアル

(「連絡先の変更」「シラバス閲覧」「履修登録」
「授業資料のアップ・ダウンロード」等)

2012年3月版

東京電機大学 理工学部事務部

学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」

目次

■	学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」	
	1. 学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」について	59
	2. 「DENDAI – UNIPA」閲覧可能パソコンについて	59
■	DENDAI – UNIPA へのアクセス・ログイン	
	1. DENDAI – UNIPA へのアクセス・ログイン方法	60
	2. DENDAI – UNIPA の画面構成	62
	3. 注意事項	63
■	連絡先の変更	
	1. 連絡先の変更申請	65
	2. 申請の承認・否認	67
	3. 「DENDAI – UNIPA」への反映	68
■	シラバスの閲覧	
	1. オンラインシラバスについて	69
	2. シラバスの閲覧方法	70
	3. 他画面からのシラバス参照	72
■	Webによる履修登録方法	
	0. 全体の流れ	73
	1. DENDAI – UNIPA へのログイン	74
	2. 履修希望科目の選択	75
	3. エラーチェック	77
	4. 履修登録の確定	79
	5. 進級・卒業見込判定	80
	6. 履修登録科目の確認方法	81
	7. その他 注意事項	82
■	クラスプロファイル	
	1. クラスプロファイルについて	84
	2. 授業資料のダウンロード方法	86
	3. 授業課題の提出方法	87
	4. シラバス参照	89
	5. WEB ノート	90
■	F A Q	93

学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」

1. 学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」について

学生ポータルサイト DENDAI – UNIPA は、履修登録・時間割確認・シラバス閲覧・掲示確認・成績照会・課題提出など、様々な機能を使用することができるシステムです。

本学で学生生活を送る上で必ず使用することになります。

また、個別の学生呼び出しなども「DENDAI – UNIPA」上で行いますので、常に確認するよう心がけてください。

2. 「DENDAI – UNIPA」閲覧可能パソコンについて

「DENDAI – UNIPA」は、インターネットに接続可能なパソコンであれば、学内はもとより自宅や下宿などからも自由に閲覧することができます。

埼玉鳩山キャンパス内では、教育用の全てのパソコン（本館1階のパソコン教室、1号館1階の第3実習室、2号館1階メディアセンター内の第2実習室）から閲覧できる他、学内に設置されている情報端末及び研究室において閲覧することができます。

動作環境について

「DENDAI – UNIPA」を使用するには、Internet Explorer7以降、Firefox3.6以降のWWWブラウザが必要となります。

※画面のデザイン等は今後変更等になる場合があります。

DENDAI – UNIPA へのアクセス・ログイン

1. DENDAI – UNIPA へのアクセス・ログイン方法

- 1 学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」へアクセスします。

<https://portal.sa.dendai.ac.jp>

- 2 ログイン画面が開きます。

- 3 User ID に「学籍番号」を入力、PassWord に「パスワード」を入力し、**ログイン**をクリックします。(図 1)

- ※ 学籍番号は半角英数字（英字部分は小文字）で入力してください。(例 12ru999)
- ※ 「パスワード」はパソコン実習室でログインする時と同一のものとなります。総合メディアセンターで管理していますので、「パスワード」について不明な点は総合メディアセンターで確認してください。
- ※ 「パスワード」は定期的に変更が義務づけられています。変更しないままにしておくは履修登録などの重要な手続きが行えませんので十分に注意してください。



図 1 ログイン画面

4 入力した学籍番号やパスワードに誤りがある場合は、エラーメッセージが表示されま
す。(図2)

正しく入力しているにもかかわらず、エラーメッセージが出る場合は教務担当に申し
出てください。



図2 ログインエラー表示

2. DENDAI – UNIPA の画面構成

① メニュー

各種機能のメニューです。

② トップページ切り替えタブ

トップページの画面を切り替えることができます。

ポータル お知らせ・スケジュール・授業情報などが表示される画面です。

クラスプロフィール 授業ごとに様々な機能を使用することができます。(P84 参照)

マイステップ 自分自身の学習記録を記録することができます。(教職カルテなど)

③ お知らせ

掲示情報やお知らせ、学生呼び出し等が表示されます。

④ スケジュール・授業情報

大学側があらかじめ登録した学内のイベント・授業情報等のスケジュールが確認できます。

また、**スケジュール** ボタンから自分の予定を登録することもできます。

⑤ お気に入り

大学側があらかじめ設定したリンクのほか、**編集** ボタンから自分のお気に入りの Web サイトの登録ができます。



図 3 トップページ (ポータル画面)

3. 注意事項

(1) セッションタイムアウト

ログインしてから 30 分操作がないと、セッションタイムアウトにより接続が切断され、再度ログインが必要になります。履修登録の際は特にご注意ください。

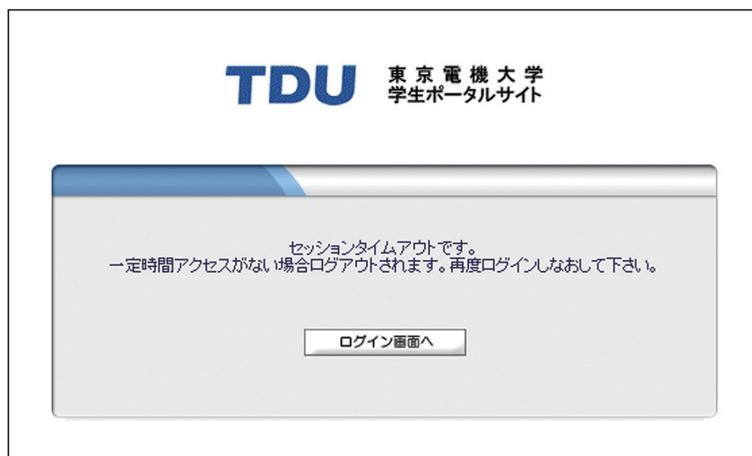


図 4 セッションタイムアウト

(2) システムメンテナンスによる停止

毎日深夜 3 : 00 から 5 : 30 に、システムメンテナンスを行います。
この時間帯は「DENDAI - UNIPA」を使用することはできません。

(3) 前の画面に戻る

前の画面に戻る場合、必ず「DENDAI - UNIPA」の画面内の **戻る** ボタンを使用してください。

画面内に **戻る** ボタンがない場合は、画面上部の **ホーム** タブや、各種メニュータブから元の機能に遷移してください。

ブラウザの「戻る」機能では、ブラウザによっては「Web ページの有効期限が切れています」などが表示される場合があります。

(4) ポップアップブロック

DENDAI – UNIPA では、ポップアップ画面として表示される画面がいくつかあります。操作方法どおりに操作しても次の画面が表示されない場合、ブラウザのポップアップブロック機能が働いている可能性が考えられます。

そのような場合、画面上部に「ポップアップはブロックされました。」などのメッセージを含んだ情報バーが表示されますので、バーをクリックし、「このサイトのポップアップを常に許可」という選択肢をクリックしてください。（メッセージはお使いのブラウザにより異なります。）

連絡先の変更

「DENDAI – UNIPA」上で連絡先の変更を申請することができます。携帯電話番号等の連絡先が変更になった場合は必ず申請をおこなってください。

1. 連絡先の変更申請

1 「学籍情報変更申請」画面の選択

画面上部のメニューから **個人情報** ⇒ **学籍情報変更申請** を選択してください。



2 「学籍情報変更申請」画面が開きます。

学籍情報変更申請

連絡先変更

項目名	現在の登録内容	申請内容
電話番号1		
電話番号2	049-XXX-XXXX	
FAX番号		
携帯電話番号	090-XXXX-XXXX	
携帯メールアドレス		
変更理由		

確定

大学に届け出ている連絡先が表示されます。



※ 「DENDAI – UNIPA」上で変更できる学籍情報は「電話番号」「FAX 番号」「携帯電話番号」「携帯メールアドレス」です。

※ 新入生の場合、連絡先の情報が「DENDAI – UNIPA」上に表示されるのは4月下旬～5月上旬頃になります。

3 変更内容と変更理由を入力し、**確定** をクリックしてください。

申請が完了すると「申請中」の表示が出ます。

学籍情報変更申請

連絡先変更

項目名	現在の登録内容	申請内容
電話番号1	049-XXX-XXXX	
電話番号2		
FAX番号		
携帯電話番号	090-XXXX-XXXX	090-1111-1111
携帯メールアドレス		
変更理由	携帯電話を買い替えたため	

確定

申請してもよろしいですか?

OK キャンセル

申請を登録しました。

OK

「申請中」の表示が出ます。

学籍情報変更申請

連絡先変更 (申請中 (申請日: 2012/02/15(水)))

項目名	現在の登録内容	申請内容
電話番号1	049-XXX-XXXX	
電話番号2		
FAX番号		
携帯電話番号	090-XXXX-XXXX	090-1111-1111
携帯メールアドレス		

【変更理由】: 携帯電話を買い替えたため

取消

以上で変更申請は完了です。



※「確定」をクリックする前に、入力ミスがないかを確認してください。

※変更理由は簡潔に記入してください。申請内容や変更理由によっては申請を受け付けられない（否認する）場合もあります。

※入力内容を間違ったまま確定してしまった場合は、すぐに「取消」を押し、申請し直してください。

2. 申請の承認・否認

連絡先変更の申請に対し、大学から承認・否認がなされます。承認の場合は連絡先の変更が行われ、否認の場合は連絡先の変更は行われません。なお、申請の承認・否認については申請から1週間程度かかる場合があります。

(1) 承認

申請中の表示が「承認済」に変わります。

学籍情報変更申請

連絡先変更 承認済 (承認日:2012/02/15(水))

項目名	現在の登録内容	申請内容
電話番号1	049-XXX-XXXX	
電話番号2		
FAX番号		
携帯電話番号	090-XXXX-XXXX	090-1111-1111
携帯メールアドレス		

【変更理由】: 携帯電話を買い替えたため

「承認済」の表示
が出ます。

(2) 否認

申請中の表示が「否認済」に変わります。

学籍情報変更申請

連絡先変更 否認済 (否認日:2012/02/15(水))

項目名	現在の登録内容	申請内容
電話番号1	049-XXX-XXXX	
電話番号2		
FAX番号		
携帯電話番号	090-XXXX-XXXX	090-1111-1111
携帯メールアドレス		
変更理由	携帯電話を買い替えたため	

「否認済」の表示
が出ます。



- ※承認後は申請の取消が出来なくなります。申請する際には入力ミスに気をつけてください。万が一、誤った内容で承認されてしまった場合は、申請内容が反映された時点で再度申請してください。
- ※否認の場合はすぐに申請し直すことが出来ます。不備の部分を訂正し、申請し直してください。
- ※「承認」「否認」がなされた際には、「DENDAI – UNIPA」上に大学から掲示でも連絡を行います。

3. 「DENDAI – UNIPA」 への反映

承認が行われると「DENDAI – UNIPA」へ申請内容が反映されます。なお、反映には申請承認から1～2週間程度かかります。

■ 学籍情報変更申請

■ 連絡先変更

項目名	現在の登録内容	申請内容
電話番号1	049-XXX-XXXX	
電話番号2		
FAX番号		
携帯電話番号	090-1111-1111	
携帯メールアドレス		
変更理由		

[確定]



※反映後は変更申請が可能となります。
※申請内容は「学籍情報照会」画面に反映されます。

シラバスの閲覧

1. オンラインシラバスについて

1. オンラインシラバスについて

オンラインシラバスとは、担当教員が作成する授業計画（シラバス）をインターネットを介して閲覧することができるシステムです。

シラバスには、科目名、配当学年、単位数、目的概要、テーマ・内容、評価方法、教科書名、質問への対応（オフィスアワー）等が掲載されています。しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成すると共に、常時確認することにより確実に情報を取得してください。

2. シラバスの閲覧方法

- 1 学生ポータルサイト「DENDAI - UNIPA」へアクセス、ログインします。
<https://portal.sa.dendai.ac.jp>
- 2 画面上部のメニューから **授業** ⇒ **シラバス照会** をクリックしてください。



- 3 シラバス検索画面が開きます。
科目名称／教員氏名／曜日時限／キーワード（シラバスの全文検索ができます）の一部または全部を入力し、**検索** をクリックしてください。



※シラバス検索画面の【学科組織】欄にはログインしている学生の所属が自動的に選択されます。

理工学部の学生が他学部や大学院のシラバスを検索したい場合などは、【学科組織】欄を変更してから検索してください。

シラバス検索	
管理部署	全て対象
開講	2012年度 全て対象
科目授業種別	全て対象
科目名称	<input type="text"/> (部分一致:カナ、英語含む)
教員氏名	<input type="text"/> (部分一致:カナ、英語含む)
学科組織	全て対象
開講キャンパス	全て対象
曜日時限	全て対象 全て対象 <input type="checkbox"/> 集中講義など
キーワード	<input type="text"/> (部分一致)
<input type="button" value="クリア"/> <input type="button" value="検索"/>	

3. 他画面からのシラバス参照

オンラインシラバスは、「履修登録画面」「学生時間割画面」「クラスプロファイル」からも参照することができます。科目名をクリックすると、シラバス画面が開きます。

履修登録中／履修登録後に自分の履修予定／履修済の授業内容を確認したい場合は、上記画面から閲覧すると便利です。

Web による履修登録方法

0. 全体の流れ

履修登録は、原則として学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」上で行うこととなります。履修登録は下記のような手順で行います。

1 DENDAI – UNIPA へのログイン

2 履修希望科目の選択

3 エラーチェック

4 履修登録の確定

5 進級見込判定・卒業見込判定

6 履修登録科目の確認方法

7 その他 注意事項

1. DENDAI – UNIPA へのログイン

学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」へアクセス、ログインします。

<https://portal.sa.dendai.ac.jp>



※ DENDAI – UNIPA は、ログイン後 30 分間操作がないとタイムアウトになり、再度ログインが必要になります。
確定前の履修登録情報が消えてしまう可能性がありますので、あらかじめ紙に履修計画を書くなどしてから履修登録を行ってください。

2. 履修希望科目の選択

1 「履修登録」画面の選択

画面上部のメニューから **履修登録** をクリックします。(図1)



図1 メニュー

2 開講期および授業時限の選択

①開講期（前期・後期）を選択し、②編集したい授業時限のコマの中の選択ボタンをクリックします。(図2)

※集中講義は画面左下の **集中講義** にある **選択** ボタンから履修できます。

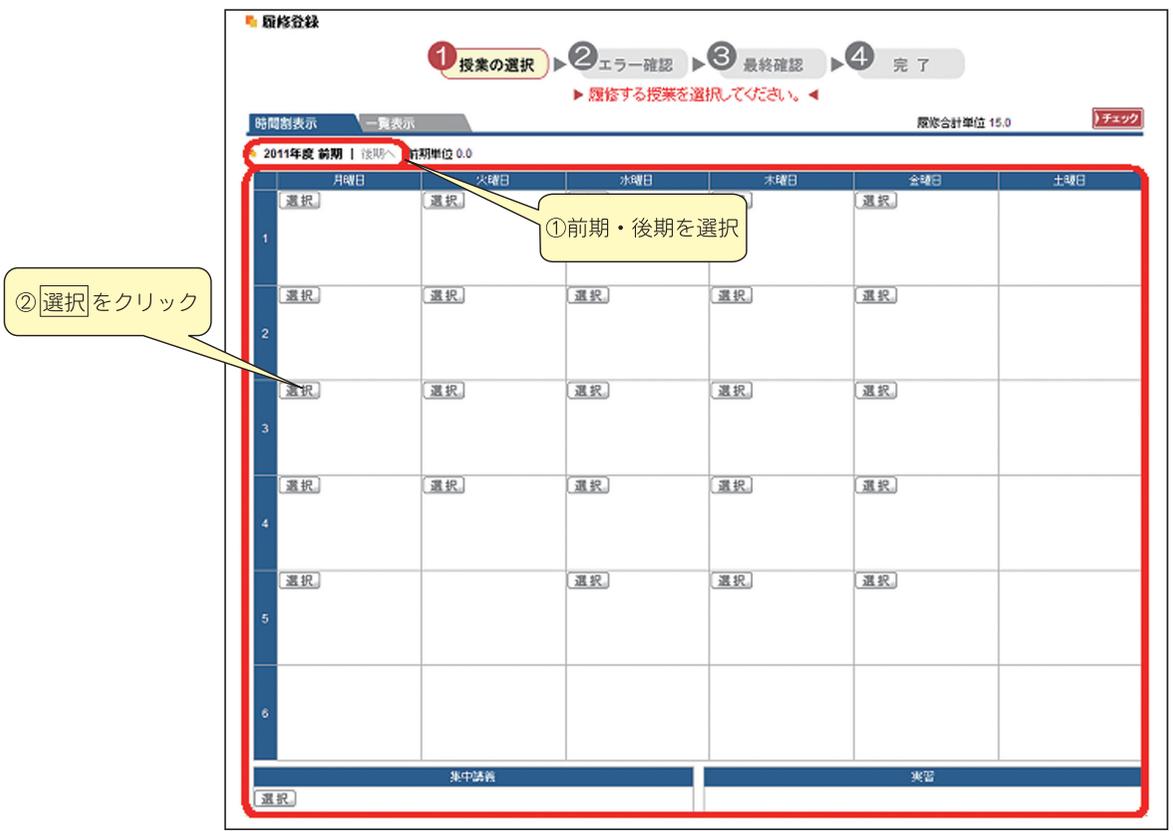


図2 履修登録画面

3 履修可能科目から科目を選択

「授業の追加」画面に履修可能科目が表示されますので、履修したい科目にチェックを入れて **確定** をクリックします。(図3)



- ※同じ科目名が複数ある場合は、教員氏名をよく確認してから選択してください。
- ※「授業の追加」画面では、科目名をクリックすることによってシラバスを確認することも可能です。
- ※「授業の追加」画面が開かない場合、ブラウザのポップアップブロックを解除してください。(P64 参照)

授業の追加 閉じる

2011年度 前期 月1

授業コード	科目名	単位
<input type="checkbox"/> 2110021wy1	社会学A【若松 征男】	2.0
<input type="checkbox"/> 2120012hm1	一般物理学実験【細田 真紀子】 (複数)	2.0
<input type="checkbox"/> 2120015rm1	一般化学実験【類家 正稔】 (複数)	2.0
<input type="checkbox"/> 21330d3im1	日本語表現力(RD)【石塚 正英】	2.0
<input type="checkbox"/> 21340b0at1	電子・機械工学概論(RT)【浅岡 照夫】	2.0

確定

図3 授業の追加画面

4 選択した科目の確認および取消方法

「授業の追加」画面で追加した科目が、履修登録画面に表示されているか確認します。(図4)
科目を取り消す場合は **削除** をクリックします。

履修登録

1 授業の選択 → 2 エラー確認 → 3 最終確認 → 4 完了

▶ 履修する授業を選択してください。◀

時間割表示 履修合計単位 17.0 チェック

2011年度 前期 | 注釈へ | 前期単位 2.0

授業コード	水曜日	水曜日	水曜日	金曜日	土曜日
1 2110021wy1 社会学A 【若松 征男】	選択	選択	選択	選択	
2	選択	選択	選択	選択	
3	選択	選択	選択	選択	
4	選択	選択	選択	選択	
5	選択	選択	選択	選択	
6					

[選択] [削除] [戻る]

図4 履修した科目の確認

3. エラーチェック

- 履修希望科目を全て選択したら、**「チェック」** ボタンをクリックします。
何らかの条件で履修することができない科目が選択された場合、履修時間割の曜日時間コマがピンク色に表示されます。(図 5)
- エラーメッセージが出た場合は、画面上部の**「登録内容にエラーがあります」**のメッセージをクリックし、「エラー内容の確認」画面でエラー内容を確認の上、修正をしてください。(図 6)
- エラーがなくなるまでチェックを繰り返します。
※エラー内容について不明な点がある場合は、教務担当に申し出てください。
- エラーが全てなくなると最終確認に進みます。

■ 履修登録

1 授業の選択 → 2 エラー確認 → 3 最終確認 → 4 完了

登録内容にエラーがあります。<こちらより内容を確認できます。>

時間割表示 一覧表示 履修合計単位 52.0 **チェック**

1年間に履修することができる単位数は48単位までとなります。

2011年度 前期 | 後期へ 前期単位 32.0

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
<input type="button" value="選択"/> <input type="button" value="削除"/> <input type="checkbox"/> 2110021wy1 社会学A 【若松 征男】	<input type="checkbox"/> 2110073nt1 体育V【湯川 孝志】	<input type="checkbox"/> 2120004jy1 化学基礎 【山田 祐理】	<input type="checkbox"/> 2120010im1 物理学A 【井上 真】	<input type="checkbox"/> 2110045kj1 アジア文化研究【河野 次郎】	
<input type="checkbox"/> 2120012hm1 一般物理学実験【細田 真妃子】					
<input type="checkbox"/> 2120012hm1 一般物理学実験【細田 真妃子】	<input type="checkbox"/> 2110098mj1 基礎フランス語 I【ミルティル・ジャーク】	<input type="checkbox"/> 2120017oh1 環境科学【岡本 博司】	<input type="checkbox"/> 2150005kj1 道徳教育論【河野 次郎】	<input type="checkbox"/> 2110094nh1 日本語リテラシー-B【中島 浩哉】	
<input type="checkbox"/> 2110098ky1 教育学概論【工藤 豊】					
<input type="checkbox"/> 21340b3ha1 電気回路 I・演習(RT)【本間 章彦】	<input type="checkbox"/> 2110074nt1 体育VI【野田 達也】	<input type="checkbox"/> 2132002ks1 生命科学入門(RB)【川井 悟】	<input type="checkbox"/> 2110023wy1 科学技術史A【若松 征男】	<input type="checkbox"/> 2110017ky1 政治学A【工藤 豊】	

図 5 チェック後の画面 (エラーあり)



※エラーがでている場合は、登録が未完了です。必ずエラーは修正してください。
 ※エラーの修正を試みてもエラーが消えない場合には放置せずに教務窓口まで申し出てください。

主なエラーメッセージ

【同名科目を複数履修している場合】

⇒ 「既に履修中もしくは修得済みです。」

⇒ 「複数回修得不可の科目を複数回履修しています。」

【同じ曜日時限に複数科目を選択している場合】

⇒ 「授業の開始・終了時刻が重複しています。」

【履修上限単位数を越えて履修登録をした場合】

⇒ 「1年間に履修することができる単位数は48単位までとなります。」

■ エラー内容の確認 閉じる					
■ 基本、条件エラー					
授業コード	開講学期	開講曜日	科目名	単位	メッセージ
2110021wy1	2011年度 前期	月1	◎社会学A【若松 征男】	2.0	授業の開始・終了時刻が重複しています。
2110096ky1	2011年度 前期	月2	◎教育学概論【工藤 豊】	2.0	授業の開始・終了時刻が重複しています。
2120012hm1	2011年度 前期	月1 月2	◎一般物理学実験	2.0	授業の開始・終了時刻が重複しています。
2120017km1	2011年度 後期	火3	◎環境科学【勝本 正文】	2.0	複数回修得不可の科目を複数回履修しています。
2120017oh1	2011年度 前期	水2	◎環境科学【岡本 博司】	2.0	複数回修得不可の科目を複数回履修しています。
■ 制限エラー					
メッセージ					
1年間に履修することができる単位数は48単位までとなります。					

図6 「エラー内容の確認」画面

4. 履修登録の確定

エラーチェックの結果、エラーがなければ **チェック** ボタンが **確定** ボタンに変わり、画面上部には「エラーはありません。」のメッセージが表示されます。(図7)

履修登録画面に表示されている科目に間違いがないかどうか再度確認し、修正したい場合は **授業の選択へ戻る** ボタンを、修正が必要ない場合は **確定** ボタンをクリックします。

履修を一度確定した後も、履修登録期間内であれば履修内容の変更は可能です。

The screenshot shows the '履修登録' (Course Registration) screen. At the top, a progress bar indicates four steps: 1. 授業の選択 (Course Selection), 2. エラー確認 (Error Check), 3. 最終確認 (Final Confirmation), and 4. 完了 (Completed). Step 3 is highlighted in red. Below the progress bar, a message reads 'エラーはありません。' (No errors). The screen also features a '授業の選択へ戻る' (Return to Course Selection) button, a '時間割表示' (Class Schedule) tab, a '一覧表示' (List View) button, and a '履修合計単位 49.0' (Total Credits: 49.0) indicator. A '確定' (Confirm) button is visible in the top right. The main content area shows a table for the 2011 academic year, first semester, with 32.0 credits. The table lists courses for each day of the week.

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	2110021wy1 社会学A 【若松 征男】	2110073NT1 体育V【講】 川 孝志	2120004yy1 化学基礎 【山田 祐理】	2120010im1 物理学A 【井上 真】	2110045kj1 アジア文化 研究【河野 次郎】	
2		2110098mj1 基礎フランス語I【ミルティル・ジャック】		2150005kj1 道徳教育論 【河野 次郎】	2110094nh1 日本語リテラシーB【中島 浩貴】	

図7 チェック後の画面（エラーなし）



※「確定」をクリックする前に、登録もれがないかを確認してください。

5. 進級見込判定・卒業見込判定

1年～3年次生は〔進級見込判定〕、4年次生は〔卒業見込判定〕を行うことができます。

- 1 画面上部のメニューから **成績関連** → **卒業見込判定** または **進級見込判定** を選択してください。(図8)

The screenshot shows the TDU student portal interface. At the top, there is a navigation bar with '成績関連' (Academic Related) selected, leading to '卒業見込判定' (Graduation Assessment) and '進級見込判定' (Progression Assessment). A calendar widget shows the date as December 2nd, 2011. The main content area displays '重要な連絡' (Important Notice) with a message about email notifications.

図8 進級・卒業見込判定選択

- 2 判定結果が表示されます。(図9)
 単位数や科目数の不足が表示された場合は、不足を補うよう履修計画を立ててください。

■ 進級見込判定

進級条件を満たしていません。

コード	要素No	要件不足詳細	不足数
R0001	1	教職科目・自由科目を除き、104単位以上修得のこと	20.0単位
R01n1	1	RT学系共通科目から28単位以上修得のこと	2.0単位
R01n3	1	知能機械コース専門科目から14単位以上修得のこと	4.0単位
R01n4	1	知能機械コース専門科目の指定科目を4科目全て修得のこと	1科目
R01n5	1	電子システムコース専門科目から6単位以上修得のこと	2.0単位

図9 進級見込判定結果



※進級・卒業見込判定は何度でも行うことができます。履修登録内容を変更するたびに進級・卒業見込判定画面を確認してください。

※ここでの進級・卒業見込判定は、履修登録した科目の単位がすべて修得できたとみなした上で、行われています。

6. 履修登録科目の確認方法

履修登録を確定すると、「履修登録が完了しました。」のメッセージとボタンが出現します。(図 10)

時間割表の印刷

履修内容の確認のために、必ず「時間割表の印刷」ボタンでプリントアウト（A 4）を行い、各自保管してください。

履修登録

授業の選択 → エラー確認 → 最終確認 → 完了

▶ 履修登録が完了しました。 ◀

時間割表の印刷

授業の選択へ戻る

時間割表示 一覧表示 履修合計単位 49.0

2011年度 前期 | 後期へ 前期単位 32.0

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	2110021wy1 社会学A 【若松 征男】	2110073NT1 体育V 【湯川 孝志】	2120004yy1 化学基礎 【山田 祐理】	2120010im1 物理学A 【井上 真】	2110045kj1 アジア文化 研究【河野 次郎】	
2		2110098mj1 基礎フ ランス語 I 【ミル ティル・ジャク		2150005kj1 道徳教育論 【河野 次郎】	2110094nh1 日本語リ テラシーB【中島 浩貴】	

図 10 履修完了画面



※履修登録が確定したら時間割の印刷を行い、履修する科目全てについて、科目名・曜日時限・担当教員名等に誤りがないかを確認してください。履修登録していない科目は、採点の対象とならないため単位を修得することはできません。

7. その他 注意事項（同名科目に関する注意）

複数の学系やコースにまたがって開講されている科目は、同じ曜日時限のコマに同じ科目名が複数表示されます。科目名の後ろに（RU）（u1）などの記号がついていますので、自分の取りたい学系・コースの科目を選択してください。

学系共通科目はアルファベット大文字の学系記号（（RU）など）、コース専門科目は基本的にアルファベット小文字 + 数字のコースコード（（u1）など）で表示されます。

コースコードと実際のコース名の対応につきましては、各学系の配当表のページをご覧ください。

（例 1）

生命理工学系（RB）の学生が「生物学」を生命理工学系共通科目として履修したい場合（図 11）「生物学（RB）」を選択してください。

同名科目の「生物学（RU）」を選択すると理学系（RU）共通科目扱いになります。

<input type="checkbox"/>	2120018st3	情報処理A【栗山 昭】	2.0
<input type="checkbox"/>	2131039ka1	生物学(RU)【栗山 昭】	2.0
<input type="checkbox"/>	2131043kh1	数理情報学入門(RU)【狩野 弘之】	2.0
<input type="checkbox"/>	2132013ka1	生物学(RB)【栗山 昭】	2.0
<input type="checkbox"/>	2133093yh1	ISD実習E(RD)【矢口 博之】	1.0
<input type="checkbox"/>	2134002ha1	電子工学概論(RT)【本間 章彦】 複回	2.0
<input type="checkbox"/>	2134024at1	夢工房II (RT)【浅岡 照夫】 複回	1.0
<input type="checkbox"/>	2134028kk1	マシンデザインI (RT)【小平 和仙】 複回	1.0
<input type="checkbox"/>	2135028ch1	測量実習(RG)【近津 博文】 複回	2.0
<input type="checkbox"/>	2141149ys1	代数学II (u1)【山形 周二】	2.0
<input type="checkbox"/>	2141387oh1	物理化学実験(u3)【小川 英生】 複回	4.0
<input type="checkbox"/>	2142162mn1	食品工学(b1)【村勢 則郎】	2.0
<input type="checkbox"/>	2142262mn1	食品工学(b2)【村勢 則郎】	2.0
<input type="checkbox"/>	2144136ky1	形状創成学・演習(t1)【櫻村 幸辰】 複回	3.0
<input type="checkbox"/>	2145226mk1	道路工学(g2)【松井 邦人】	2.0

確定

図 11 同名科目の例（生物学）



- ※ 複回 複数の時限に開講される科目を表します。（例：1・2 時限連続開講）
- ※ 複期 通年科目を表します。

(例 2)

主コースが理学系化学コース (U3)・副コースが理学系物理学コース (U2) の学生が「統計力学Ⅱ」を副コースの物理学コース専門科目として履修したい場合 (図 12)

「統計力学Ⅱ (u2)」を選択してください。

同名科目の「統計力学Ⅱ (u3)」を選択すると主コースの化学コース専門科目扱いになります。

授業の追加 閉じる			
2011年度 前期 月1			
授業コード	科目名	単位	
<input type="checkbox"/> 2110021wy1	社会学A【若松 征男】	2.0	
<input type="checkbox"/> 2110081ea1	英語ⅢA【遠藤 晶子】	1.0	
<input type="checkbox"/> 2110081fs1	英語ⅢA【福島 祥一郎】	1.0	
<input type="checkbox"/> 2110081hh1	英語ⅢA【花元 宏城】	1.0	
<input type="checkbox"/> 2110081hk1	英語ⅢA【波多野 一真】	1.0	
<input type="checkbox"/> 2110081od1	英語ⅢA【小山内 大】	1.0	
<input type="checkbox"/> 2120012hm1	一般物理学実験【細田 真妃子】 <small>複回</small>	2.0	
<input type="checkbox"/> 2120015rm1	一般化学実験【類家 正穂】 <small>複回</small>	2.0	
<input type="checkbox"/> 2131007aj1	解析学Ⅲ(RU)【荒牧 淳一】	2.0	
<input type="checkbox"/> 2132001ks1	生命理工学概論(RB)【川井 悟】	2.0	
<input type="checkbox"/> 2134001at1	ものづくりのいろは(RT)【浅岡 照夫】	2.0	
<input type="checkbox"/> 2135013mh1	網構造学(RG)【見村 博明】	2.0	
<input type="checkbox"/> 2141266ot1	統計力学Ⅱ (u2)【小田垣 孝】	2.0	
<input type="checkbox"/> 2141379ot1	統計力学Ⅱ (u3)【小田垣 孝】	2.0	
<input type="checkbox"/> 2150009mt1	数学科教育法C【増島 高敬】	2.0	

図 12 同名科目の例 (統計力学Ⅱ)

クラスプロファイル

1. クラスプロファイルについて

クラスプロファイルでは、履修している授業について、授業資料のダウンロードや課題の提出などを「DENDAI - UNIPA」上で行うことができます。

教員からの指示等に応じて、クラスプロファイルの各機能を使用してください。



※履修登録を行っていない授業科目については、クラスプロファイル機能を使用することができませんのでご注意ください。

※クラスプロファイルの各機能は順次公開予定です。

(1) 画面構成

① 曜日リスト

曜日をクリックすると時限ごとに履修している授業名が表示されます。

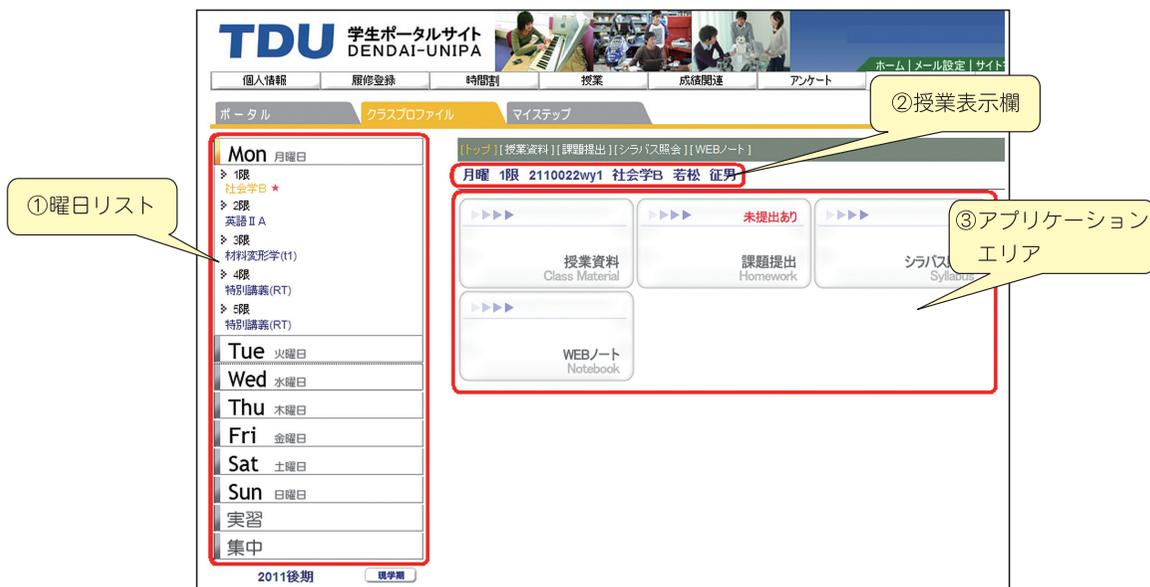
[課題管理] に新着情報がある場合は授業名の右に ★ が表示されます。

② 授業表示欄

曜日リストで選択した授業の情報が表示されます。

③ アプリケーションエリア

②の授業表示欄に表示されている授業に対し、使用可能な機能の一覧です。



(2) クラスプロフィールの基本操作

1 「DENDAI - UNIPA」にログインし、トップページから **クラスプロフィール** をクリックします。

2 画面左の①曜日リストから曜日を選択すると、その曜日に履修している授業科目が表示されます。

科目名をクリックすると、②授業表示欄に表示されます。

3 画面中央の③アプリケーションエリアから、使用したい機能のボタンをクリックします。

2. 授業資料のダウンロード方法

教員が「DENDAI – UNIPA」上にアップロードした授業資料をダウンロードすることができます。(履修登録した学生のみ)

- 1 曜日リストから授業を選択し、アプリケーションエリアから **授業資料** をクリックすると、選択した授業の資料が一覧で表示されます。

The screenshot shows the TDU student portal interface. At the top, there are navigation tabs: 個人情報, 履修登録, 時間割, 授業, and 成績関連. Below these are sub-tabs: ポータル, クラスプロフィール, and マイステップ. The main content area shows a weekly schedule starting with Monday (Mon 月曜日). Under Monday, there are several class entries. The first entry is circled in red: 1限 社会学B. A red arrow points from this entry to a larger view of the class materials. In this larger view, the title '月曜 1限 2110022wy1 社会学B 若松 征男' is circled in red. Below the title, there is a button labeled '授業資料 Class Material'. A red arrow points from this button to a detailed view of the materials. This detailed view shows a table of materials with columns for '授業資料グループ', '授業実施日', '並べ順', '授業実施日順', '降順', 'タイトル', 'コメント', and '資料'. The table lists two materials: '授業資料<12/12>' and '統計資料<12/5>'. A red arrow points from the '統計資料<12/5>' entry to a download icon (a downward arrow) next to the filename '統計資料.xls'.

- 2 授業資料一覧画面でタイトルをクリックすると、下に詳細情報が表示されます。ファイル名の右の  をクリックすると資料をダウンロードできます。

This screenshot shows the detailed view of a class material. At the top, there are navigation links: [トップ], [授業資料], [課題提出], [シラバス照会], [WEBノート]. Below these is the class title: 月曜 1限 2110022wy1 社会学B 若松 征男. There are two dropdown menus: '授業資料グループ' set to '全て対象' and '並べ順' set to '授業実施日順 降順'. A '検索' button is to the right. Below these is a table with columns: '授業資料グループ', '授業実施日', 'タイトル', 'コメント', and '資料'. The table lists two materials: '授業資料<12/12>' and '統計資料<12/5>'. Below the table, there is a yellow box containing the following text: '作成者 若松 征男', '12/5(月)の授業で使用する資料です。', '事前に目を通しておいください。'. At the bottom of this box, there is a download icon (a downward arrow) next to the filename '統計資料.xls'.

3. 授業課題の提出方法

教員から出された課題を「DENDAI - UNIPA」上で確認・提出することができます。

- 1 アプリケーションエリアの **課題提出** をクリックすると、選択した授業に課題があれば、課題の一覧が表示されます。

課題グループ **全て対象**

未提出の課題のみ表示する 提出期間内の課題のみ表示する 並び順 **提出終了日順** 検索

課題グループ	課 題	提出期間
社会学B	レポート(11/28授業分)	2011/11/28(月) 00:00～2011/12/12(月) 17:00
社会学B	レポート(11/21授業分)	2011/11/21(月) 00:00～2011/12/05(月) 17:00

- 2 課題一覧画面で課題名をクリックすると、次画面に教員の登録した課題の詳細内容が表示されます。教員が添付ファイルを登録した場合は、この画面に表示されます。

課題詳細欄 戻る

課題 レポート(11/28授業分) (作成者: 若松 征男)

提出期間: 2011/11/28(月) 00:00 ~ 2011/12/12(月) 17:00

課題内容: 11/28(月)の授業の感想を800字以上記入の上、DENDAI-UNIPA内に提出してください。

添付ファイルはありません

提出欄

コメント

※URLをハイパーリンクとして登録する場合は、{}内に記述してください

提出するファイルを指定し、[追加]ボタンを押下してください。(最大5ファイルまで可)

添付 参照... 追加

戻る 提出

教員からの添付ファイルがあれば、こちらに表示されます。

3 「提出」欄では「コメント」もしくは「添付ファイル」で課題の提出を行います。
添付ファイルで提出する場合は、**参照** をクリックします。

4 添付するファイルの選択をした後、必ず **追加** をクリックします。**追加** を
クリックすると、下に添付したファイル名が表示されます。



※教員が設定した提出可能ファイル数によっては、ファイルを複数添付することも可能です。(1ファイルにつき約10MBがアップロードできる上限です。)
なお、拡張子のないファイルや、exe形式のファイルは添付できません。

※URLをハイパーリンクとして登録する場合は、{}内に記述してください

提出するファイルを指定し、追加ボタンを押下してください。(最大5ファイルまで可)

添付 **参照...** **追加** **ファイル添付前**

戻る **提出**

提出するファイルを指定し、追加ボタンを押下してください。(最大5ファイルまで可)

添付 **参照...** **追加** **ファイル添付後**

添付ファイル	KByte	削除
社会学B 授業感想(11月28日分).doc	20KB	削除

戻る **提出**

5 最後に右下の **提出** をクリックします。

6 課題の提出後は、課題一覧画面に提出日時が表示されます。

[トップ][授業資料][課題の提出][シラバス照会][WEBノート]

月曜 1限 2110022wy1 社会学B 若松 征男

課題グループ

未提出の課題のみ表示する 提出期間内の課題のみ表示する 並び順 **検索**

課題グループ	課題	提出期間
	社会学B レポート(11/28授業分)	2011/11/28(月) 00:00~2011/12/12(月) 17:00
	1回目 提出 2011/12/02(金) 13:26	
	社会学B レポート(11/21授業分)	2011/11/21(月) 00:00~2011/12/05(月) 17:00

7 課題によっては、提出後、提出期限内であれば修正することができます。
その場合は、上記の提出日時をクリックし、課題の修正を行い、再度 **提出** を
クリックしてください。

4. シラバス参照

履修登録している授業のシラバス内容を見ることができます。

アプリケーションエリアから **シラバス照会** を選択すると、履修登録している授業科目のシラバス内容を見ることができます。

The screenshot shows the TDU student portal interface. At the top, there's a navigation bar with '個人情報', '履修登録', '時間割', '授業', '成績関連', and 'アンケート'. Below this, a 'クラスプロフィール' section displays a weekly schedule. A red arrow points from the '木曜 1限 2135010IM1 材料力学 I (RG) 井浦 雅司' entry to a 'シラバス照会 Syllabus' button. A second red arrow points from this button to a detailed syllabus page for the same course. The detailed page includes a table with course details and a '目的概要' section with descriptive text and '到達目標' (Learning Objectives).

授業コード		2135010IM1	
科目名	材料力学 I (RG)		
英文名	Strength of Materials I		
配当学年	2	単位数	2.0
開講年度・学期	2011年度 春学期	曜日・時限	木曜 1限
担当教員名	井浦 雅司		
副担当教員名			

目的概要

皆さんは、台風で送電鉄塔が倒れた事故を覚えていますか。想像以上の強風が吹いたのが原因ですが、それではどれ位の強風に耐えることができるのか、想像したことはありませんか。構造物の崩壊は、それを構成する材料が、その内部に発生する力を支えきれないことにより起こります。構造物には、自分自身の重さに加えて、風や地震など外部から色々な力が作用します。これらの力によりその内部に内力(断面力)が発生し、構造物は変形するのです。本講義では、構造物に関して外力・内力・変形の関係について説明します。皆さんは、実際の構造物を安全かつ経済的に造る上で必要な基礎理論を学習することになります。

到達目標

1. 節点法を用いてトラスの断面力を計算できること。
2. 切断法を用いてトラスの断面力を計算できること。

5. WEB ノート

履修している授業のノートを Web 上に記入・管理することができます。授業に関連するファイルの添付も可能です。授業内容の整理に役立てることができます。

- 1 アプリケーションエリアから **WEB ノート** を選択しクリックします。

The screenshot shows the TDU student portal interface. At the top, there is a navigation bar with tabs for '個人情報', '履修登録', '時間割', '授業', '成績関連', and 'アンケート'. Below this, there are sub-tabs for 'ポータル', 'クラスプロフィール', and 'マイステップ'. The main content area displays a weekly schedule on the left and a class profile on the right. The class profile for '月曜 1限 2110022wy1 社会学B 若松 征男' is shown. Below the class name, there are three buttons: '授業資料 Class Material', '課題提出 Homework', and 'シラバス照会 Syllabus'. The 'WEBノート Notebook' button is highlighted with a red box.

- 2 新規登録の場合は **新規** をクリックします。

The screenshot shows the TDU student portal interface for a specific class. At the top, there is a navigation bar with tabs for 'トップ', '授業資料', '課題提出', 'シラバス照会', and 'WEBノート'. Below this, the class name '月曜 1限 2110022wy1 社会学B 若松 征男' is displayed. A message box with a lightbulb icon says '該当するデータがありません。' (No data found). At the bottom right, there are two buttons: '検索' (Search) and '新規' (New), with the '新規' button highlighted in a red box.

- 3 WEB ノート編集画面が開きますので、必要に応じて内容を入力してください。
 入力が終了したら、**更新** をクリックします。
 文章の記入のほか、ファイルの添付や文献情報の登録ができます。

[トップ][授業資料][課題提出][シラバス開会][WEBノート]

月曜 1限 2110022wy1 社会学B 若松 征男

戻る

日付 2011/12/02

ノートタイトル 11/20授業ノート 更新

メディア・リテラシーについて
 「メディア」media:直訳すると「媒体」の意
 「リテラシー」literacy:直訳すると「読字」の意
 「メディア・リテラシー」media literacy:メディアの情報の真偽を自分で判断し、活用する能力?

※URLをハイパーリンクとして登録する場合は、(内)に記述してください

コメント

添付ファイル 統計資料.xls 参照 追加
 ※最大5つまで添付可能

文献情報
 大学生のための社会学入門 追加
 文献名
 編者名
 出版社
 刊行年
 著書場所
 引用ページ ページ～ ページ
 内容

更新 前回の保存状態に戻る

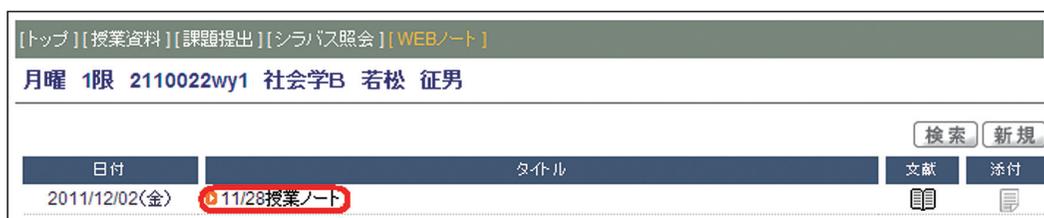
【添付ファイル】欄
参照でファイルを指定し、**追加**を押すとファイル名が表示されます。

【文献情報】欄
 文献名などを入力し、**追加**を押すと文献名が表示されます。

4 登録済のWEB ノートを確認・修正したい場合は、ノートのタイトルをクリックするとWEB ノート参照画面が開きます。

WEB ノート参照画面の **編集** をクリックすると、WEB ノート編集画面が開き、再度編集をすることができます。

削除 をクリックすることで、WEB ノートの削除を行うこともできます。
添付ファイル欄の  を押すと、添付したファイルのダウンロードができます。
文献名をクリックすると、登録した文献情報の参照ができます。



[トップ][授業資料][課題提出][シラバス照会][WEBノート]

月曜 1限 2110022wy1 社会学B 若松 征男

検索 新規

日付	タイトル	文献	添付
2011/12/02(金)	11/28授業ノート		



[トップ][授業資料][課題提出][シラバス照会][WEBノート]

月曜 1限 2110022wy1 社会学B 若松 征男

戻る

✎ 日付 2011/12/02(金)

✎ ノートタイトル 11/28授業ノート **編集**

メディア・リテラシーについて

「メディア」media:直訳すると「媒体」の意
「リテラシー」literacy:直訳すると「識字」の意
「メディア・リテラシー」media literacy:メディアの情報の真偽を自分で判断し、活用する能力?

✎ コメント

添付ファイル 統計資料.xls 

文献情報

文献名 **大学生のための社会学入門**

編集

削除 **印刷**

FAQ

履修登録でよくある質問と回答

- Q パスワードがわからない（忘れた）。
A 総合メディアセンターにお問合せください。再発行となる場合もありますので、履修登録前にパスワードの確認を事前に行ってください。
- Q ログインできない。
A 学籍番号を半角小文字で入力していない、もしくはパスワードが間違っている可能性があります。再度、入力してみてください。
- Q 携帯電話等から履修登録できますか？
A できません。パソコンで履修登録してください。
- Q 履修登録できない科目がある。
A その科目は、すでに単位修得している、時間割上重複している、カリキュラム年度が異なる等、さまざまな理由が考えられます。教務窓口に申し出てください。
- Q 何度修正してもエラーメッセージが消えない。
A そのまま放置せずに、教務窓口に申し出てください。
- Q 午前3時～午前5時30分の間は履修登録期間であっても履修登録ができないのですか？
A システムメンテナンスを行っていますので、履修登録はできません。
- Q 再履修はどのように履修登録するのか？
A 新規履修と同様に履修登録を行ってください。
- Q 履修登録したはずなのに、確認画面に載っていないのはなぜか？
A 履修登録の「最終確認」で「確定」をクリックしていない可能性があります。「確定」をクリックし、正常終了しないと、選択内容はクリアされる場合があります。
- Q 履修登録後に登録間違いに気がついた
A 一度履修確定した後も、履修登録（履修登録修正）期間内であれば、履修内容の変更は可能です。期間終了後は変更が不可能となりますのでご注意ください。
- Q Web履修登録中（ログイン中）に履修登録受付終了時間となったが、履修登録は可能なのか？
A ログイン中であっても、履修登録受付終了時間を過ぎると、履修登録は不可能となります。時間の余裕をもって履修登録をしてください。
- Q 担当教員が履修登録を許可しているのに、履修登録できない科目がある。
A 教務窓口に申し出てください。

履修登録用 下書き

※ あらかじめ履修計画を立ててから履修登録を行ってください。

※ 「DENDAI – UNIPA」 はログイン後 30 分でタイムアウトとなります。

【前期】（通年科目も含む）

時限	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3						
4						
5						

集中講義

【後期】（通年科目も含む）

時限	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3						
4						
5						

集中講義

共通教育科目

人間形成科目群
英語科目群

専門教育科目

学部共通科目群

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

人間形成科目群履修モデル

1. 人間形成科目群とは

大学設置基準では、「教育課程の編成に当たっては、大学は、学部などの専攻にかかわる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮しなければならない」と定められています（第19条第2項）。

この課題に応えるのが、人間形成科目群です。大学で学ぶ以上は、単に有能な「職業人」となるにとどまらず、高い見識を持った「教養人」になることが期待されているのです。

本学の初代学長の丹羽保次郎博士が遺した「技術は人なり」という格言も、そうした期待を表わした言葉であると言えます。技術は、単に職に就いたり収入を得るためのものではなく、技術という文化の習得そのものを通じて「人間性が磨かれる」ということの重大さに注意を向けた理念なのです。

では、「人間性を磨く」「教養を磨く」「学のある人間になる」にはどうすればいいのでしょうか。人類文化の歴史に敬意を払いながら、自らの頭で一步でも考えを前に進める、ということであると思います。長い人生を楽しく過ごし、そのあなた一人の人生を同時に人類にとっても有意義なものにするには、自ら思考し学び続けることが肝心であり、そうした習慣を是非この大学時代に形成することです。

人間形成科目群では、人類が面白いと考え、大事だと思って、開拓・発展させてきた様々な学問分野を、皆さんの興味や関心の広がり・深まりに応じて学べるよう、どの学年でも自由に履修できるよう配慮しています。大学に入りたてのフレッシュな意欲によって一年次に履修することも、また大学生活の中で青春の苦悩を抱えながら、あるいは社会への船出に心を震わせながら上級学年次で履修することもできます。卒業するためには、人間形成科目群から16単位以上修得することが必要ですが、必ずこの科目を採らなければならないといった必修科目はありませんから、自由に履修計画を立ててください。

なお科目名にA・Bが付されているものについては、各々が半期ごとの独立した科目として開講されています。したがって、A・Bの両方を履修することもできますし、片方だけを履修したり、Bを履修した後にAを履修することも可能です。

2. 各分野の案内

(1) 新人教育

大学での学問は、高校までの勉強とは違って、自主的・自立的で批判的な思考が求められます。高校までの「垢」を落として、さっぱりした気持ちで大学生活になじめるように、1年前期にのみ開かれるいくつかの講座があります。

「フレッシュマンゼミ A」 少人数グループの授業で、学系の先生方と身近に接することができます。大学の生活や学問の方法・勉強の仕方など、新入生同士の活発な議論を通じて学んでいくことができます（前前期7回）。

「フレッシュマンゼミ B」 高校までと違い、大学の講義ではレポートやディスカッションが大事になります。そのコツを伝授する講義の他、やがて来る就職活動や卒業後の職業意識を高めるためのレッスンもあります（前後期8回）。

「日本語リテラシー A」 文章を実際書きながら、論理的な思考や発想の広げ方などについて特訓します。皆さんが書いた文章に毎週、赤ペンで添削指導が入ります（前前期7回、前後期7回、後前期7回、後後期7回のいずれかを履修できます）。

「日本語リテラシー B」 就職活動に必要なエントリーシートや志望理由書の書き方について懇切丁寧に添削指導します（前前期7回、前後期7回、後前期7回、後後期7回のいずれかを履修できます）。

(2) 概論科目

概論科目は、今日までに確立されてきた学問分野について、その概要の全体をざっと見渡すことができるような講義を行ないます。

いわゆる文系の学問分野にも、「人文科学」と「社会科学」の違いがあります。

「人文科学」系の科目としては、哲学A・B、倫理学A・B、歴史学A・B、心理学A・B、文学A・Bが用意されています。

「社会科学」系の科目としては、法学A・B、政治学A・B、経済学A・B、社会学A・B、科学技術史A・Bが開講されています。

また、特に教員免許を取得する人たちのために、日本国憲法、教職入門、教育心理学概論、教育学概論B・C、教職総合演習が用意されています（これらの科目は、教員免許を取得しない人でも受講でき、共通教育科目の履修単位として計算されます）。

(3) 主題科目

主題科目は、それぞれに専門分野を持った教師たちが、自らの専攻分野の中でも特に注目すべき話題（トピック）について集中的に論じたり、あるいは専攻分野の形式に必ずしもこだわることなく、学生の問題関心や現在の時代状況が抱える問題に対して進んで応えようとする内容を講義しながら、学問の奥行きを実感できるように工夫されています。

講義の内容は、随時、新しくなりますので、シラバスを参照してください。

(4) 教養ゼミ

「セミナー」とはドイツ語で「苗床」を意味します。まだ形にならない問題意識の「種子」を育てて、ある程度、形をもった知識へと変換していく学問の現場です。少人数で、発表や討論を行いながら進めていきます。

(5) 第二外国語

英語は8単位必修ですが（英語のページを参照）、それ以外に、ドイツ語・フランス語・中国語のクラスが用意されています。いずれも、「入門Ⅰ・Ⅱ」で初等文法を、「基礎Ⅰ・Ⅱ」で簡単な会話と読解を、「初級Ⅰ・Ⅱ」で少し難しい読み物を読むように設計されています。

英語が上達するためにも、英語だけでなく、もうひとつの言語を学習することは効果的です。また、特に将来大学院への進学を考えている学生は、積極的に履修しておくことが望ましいと思います。ネイティブ・スピーカーが担当する授業もあります。意欲的に、継続的に取り組むことを勧めます。

（*なお「留学生のための日本語」は、日本語を母語としない外国籍留学生のための科目です。他の学生は履修できません）

(6) 留学生科目（留学生のみ履修可）

別項「留学生のための共通教育科目」（P.105）参照のこと。

(7) 保健体育

よき社会人・職業人であるためには、そして人生を楽しくはつらつと過ごすには、健康であることがより望ましいことだと言えましょう。

心身の健康を保ち、充実した人生を過ごすには、継続的にスポーツに親しむ習慣、「生涯スポーツ」の習慣を身につけることが必要です。身体を動かすことに喜びを感じることができるということも、努力して獲得すべき大切な教養のひとつであり、教養人であれば引きこもったりすることはありません。

本学部のカリキュラムでは、体育の授業は必修ではありませんが、教員免許を取得するためには、次に述べる体育Ⅰ～Ⅵのうち、いずれか2つの単位を必ず修得しなければなりません。

体育科目では、サッカー、ソフトボール、バレーボール、テニス・ゴルフなどの種目が用意されています。1年生から4年生までの間に、自分の実施したい種目を選択し、履修することができます。種目にかかわらず、体育Ⅰ～Ⅵまでの6コマの履修が可能です。また夏休みや冬休みを利用して、学外で宿泊形式で行なわれる学外体育研修A・Bという集中授業もあります。この学外体育研修も、いくつかの種目が開講されていて、4年間の間に自分の希望する種目を選択し履修することができ、最初に履修したものが学外体育研修A、次に履修したものがBとして認定されます。

英語科目群履修モデル

1. 英語の科目はどのように構成されているのでしょうか。

理工学部の英語教育の目標は、読む、書く、話す、聴くという英語の4技能を習得し、これを使い専門知識を学び、また学んだ成果を発信できるようにすることです。その目標を達成するためには、これまで中学校から高等学校まで学んだ英語にほころびがあるかどうかを確認し、あればそれを補って大学で求められている英語の力を習得しなくてはなりません。

そこで理工学部の英語は、能力別クラスを導入しています。これにより大学入学までの各人さまざまな英語の学習歴を見極め、それを踏まえて各人の英語の実力にもっとも効果があるクラスで英語の力を養っていくこととなります。また1年次、2年次、さらに3年次以降、各学期の終わりに英語を履修した全ての学生諸君は、「英語の実力テスト（統一テスト）」を受けることが義務付けられています。これにより各人の英語学習の成果や補強すべき点を確認するとともに、次年度の英語科目を履修する場合のクラス指定がされるという、きめ細かな英語の力をつけるための処方箋が示されます。

「専門知識の獲得と研究成果の発信」に必要な英語力のうち「読む、書く」については、「英語Ⅰ、英語Ⅲ」の科目で練成します。世界から専門知識を獲得し分析するには、世界の共通語である英語の読む力が何より重要です。例えば各専門分野の論文は、世界に向けて書かれているので英語で書かれていることが一般的です。また研究成果の多くは世界に向けて発信するので、英語が最も即効性があります。卒業後では、日常業務の中で英語の電子メールを読んだり書いたりとは当たり前のことですし、インターネットでの情報収集と発信にも英語の読む、書くという技能は欠かせません。

実は英語の骨組みとなる文法は、中学、高等学校など大学入学前に学んだことが全てです。大学で新たに学ぶ文法の項目は本来ないのです。しかし現実にはいろいろ不十分なままに入学されることも多いのが現状です。そこで、大学で学ぶために必要な英語の語彙や文法が獲得されているかどうかを確認し、不十分な場合にはまずそれを養います。もちろんすでに習得がされている場合には、より高度なレベルに英語の読む、書くという力を養成して、英語で研究成果を発信ができるような英語の書く力を習得することをめざします。

一方、「話す、聴く」という英語の技能は、「英語Ⅱ、Ⅳ」の科目で練成します。英語によるコミュニケーション能力がますます重視される現代社会に対応するため、こうした能力が各人の英語の力に合わせて習得できるよう「話す、聴く」の技能を各人の英語の力に合わせ

て、基本的なことからより実践的なことまで練成できるよう、英語を母語とするネイティブ・スピーカーと日本人教員により練成がはかれるようになっています。

また3年次以降には、「英語Ⅴ」が設けられています。担当する教員の専門性を活かしながら、「各種の英検や、TOEIC、TOEFL」など英語の資格獲得をめざす学生諸君を対象とした演習クラスや、研究発表に欠かせない英語による「プレゼンテーション」を主とする演習クラス、さらに英語で書かれた論文や文章を理工学を志す学生諸君が興味を持つトピックを取り上げて読解することを主とする演習クラスの開設が予定されています。但し、「英語Ⅴ」は年度により開講される演習の内容に変更があります。

こうした理工学部の英語の目標を達成するため、卒業までに必要な英語の単位は、「英語ⅠA・B、英語ⅡA・B、英語ⅢA・B、英語ⅣA・B」の8単位です。これは東京電機大学3キャンパスのなかでもっとも多い英語の修得単位数です。学生諸君は基本的に1年次の前期と後期を通じて「英語ⅠA・Bと英語ⅡA・B」を、そして2年次の前期と後期を通じて「英語ⅢA・Bと英語ⅣA・B」を修得することをめざします。つまり学生諸君は、2年次終了までに、前期と後期に、1週間に英語科目を2つずつ学ぶことになります。英語は半期で1単位です。例えば前期に英語ⅠAと英語ⅡAに修得できれば2単位となります。なお英語ⅠA・B、英語ⅡA・B、英語ⅢA・B、英語ⅣA・Bは、学年学系指定科目です。

なお、それぞれの英語科目には「再履修」のためのクラスを開講します。これは英語科目を履修したものの、残念ながら単位修得の条件に英語の力が及ばなかったり、またそれを満たさなかった場合、再度勉強をして必要な英語の力を養成していくためのものです。これにより大学で必要とされている英語の力が習得されない限り、単位は得られないものの、意欲を持っている学生諸君には、いつでも学習すべき環境が整っていることがわかりだと思えます。厳しいことではありますが、実学志向の本学ならではのあり方です。

ところで2年次までに卒業単位8単位を修得したら、英語は勉強できないのでしょうか。それは違います。3年次以降英語の力をより高度に養成していくために、「英語Ⅴ」が設けられているわけです。卒業時まで学生諸君は英語の力を継続して練成していくことが可能です。英語ⅤA・Bは、全学系共通科目です。

なお、東京電機大学では卒業単位として認定されるアイオワ大学、コロラド大学、シドニー大学における短期の海外研修制度が整っています。

はじめに
学修活動
UNIPPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

2. 科目についている I、II、III、IV、V、そして A、B は何を意味していますか。

I、II、III、IV、Vは英語の学習内容を表しています。I、IIIは「読む、書く」という英語の技能を養成する科目です。II、IVは「話す、聴く」という英語の技能を養成し、Vは英検やTOEICといった英語の資格試験対策や英語でのプレゼンテーションなど、英語I、II、III、IVの学習を踏まえて、より高度なさまざまな学生諸君の目的に即した英語技能の養成をはかる科目を意味します。Aは前期、Bは後期を表しています。英語科目は半期ごとに科目が設定されていますが、通年のつもりで履修計画をたてましょう。

3. 英語 I A・B（1年次）と英語 III A・B（2年次）のクラス編成について

1年次の英語 I A・Bと2年次の英語 III A・Bのクラス編成は、各学系を習熟度別クラスに分けて授業をします。英語 I のクラスは年度始めのプレースメントテストによって決定します。また英語 III のクラスは、英語 I の統一テストを含む成績評価にもとづいて決定します。

4. 英語 II A・B（1年次）と英語 IV A・B（2年次）のクラス編成について

1年次の英語 II A・Bと2年次の英語 IV A・Bのクラス編成は、各学系を習熟度別クラスに分けて授業をします。英語 II のクラスは、英語 I とともに年度始めのプレースメントテストによって決定します。また英語 IV のクラスは、英語 II の統一テストを含む成績評価にもとづいて決定します。

5. 英語 V（3年次以降）について

3年次以降履修ができます。担当教員の専門性を活かし、英検やTOEICといった英語の各種資格試験の演習や、プレゼンテーション演習、その他を習熟度に応じて授業を行います。

6. 英語各科目のクラス分けについて

プレースメントテストや前年度統一テストを含む成績評価にもとづいた指定クラスの第1回目の授業に出席し、担当の教員から許可を得てください。

クラス分けが行われる科目：

1年次　：　英語 I A・B、英語 II A・B

2年次　：　英語 III A・B、英語 IV A・B

3年次　：　英語 V A・B

7. 大学4年間に英語をどう勉強すると良いですか。

新1年次生のみなさんの大学入学までの経路は、中学、高等学校（普通高校や工業高校、その他の実業高校等）や、大学検定試験を経てなどさまざまです。しかし、大学や実社会はこうした入学までの経路にかかわらず、よりの確に言えばそのようなことはお構いなく、ある一定以上の英語の力を求めています。こうした現実を直視して、英語の4技能とそれを支える語彙と文法を習得しなければ社会が求めている人材とは成り得ません。

1年次から2年次までは、1週間に2度の英語の授業があるわけですから、予習と復習を十分な時間をかけて行う習慣をつけましょう。テキストのわからない単語や語句は、（電子式も含む）辞書などを使って調べてから授業に出席しましょう。また、英語担当の教員に遠慮なく学習方法などオフィスアワーや授業の合間などを利用して相談しましょう。

履修モデル

1年次の英語ⅠA・Bと英語ⅡA・Bのクラス編成は、各学系を習熟度別クラスに分けて授業をします。英語Ⅰ及びⅡのクラスは年度始めのプレースメントテストによって決定します。

2年次の英語ⅢA・BとⅣA・Bのクラス編成は、各学系を習熟度別にクラスを分けて授業をします。英語ⅢとⅣのクラスは、前年度の統一テストの結果にもとづいて決定します。英語Ⅴは3年次以降履修ができます。担当教員の専門性を活かし、英検やTOEICといった英語の各種資格試験の演習や、プレゼンテーション演習、その他を習熟度に応じて授業を行います。

1年次

前期 英語 ⅠA・ⅡA

後期 英語 ⅠB・ⅡB

2年次

前期 英語 ⅢA・ⅣA

後期 英語 ⅢB・ⅣB

3年次

前期 英語 ⅤA

後期 英語 ⅤB

※英語科目は全学年の全クラスで履修制限を行う

※英語科目は全クラス排他条件・前提条件は設定しない

クラス分けが行われる科目

英語は1年・2年・3年次の全科目についてクラス分けを行います

1年次 : 英語ⅠA・B、英語ⅡA・B

2年次 : 英語ⅢA・B、英語ⅣA・B

3年次 : 英語ⅤA・B

留学生のための共通教育科目

本学で学ぶ留学生の皆さんのために、新たに「留学生のための共通教育科目」を2011年度から開設します。

日本語科目：日本語で聞き、話し、読み、書けるようになることは、留学生の皆さんにとって、必須です。皆さんの日本語能力向上のために、日本語科目を8科目用意してあります。そのうち、6科目が日本語中級、2科目が日本語上級です。単位は、英語と同様、各科目1単位です。なお、この単位は、人間形成科目群の単位として扱われます。

中級は終えたと考える諸君でも、単位取得のためだけでなく、日本語中級科目に挑戦することをすすめます。日本語上級科目は2年生前期と後期に、それぞれひとつずつ用意しました。この2つの科目を取って、日本語能力を向上させることは、皆さんの留学生活にとって、欠かせません。

日本事情科目：留学生活をする上で、専門の学習とは別に、日本の社会、地理、文化、歴史などを理解することは必要です。皆さんに日本について学んでいただくために、1年生後期から3年生前期まで、各学期ひとつずつ、4つの科目を用意してあります。

皆さんも、人間形成科目群から16単位を履修しなければなりません。この日本事情科目は、この科目群の中に入れており、4科目を履修すれば、8単位になります。

1年次

前期：日本語中級A I、B I、C I

後期：日本語中級A II、B II、C II、日本事情 I

2年次

前期：日本語上級 I、日本事情 II

後期：日本語上級 II、日本事情 III

3年次

前期：日本事情 IV

☆ 留学生のための共通教育科目を履修出来るのは、留学生に限られます。

2012年度 カリキュラム 人間形成・英語
人間形成科目・英語科目 授業科目配当表

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	単位数	前期		後期		備考	教職コード	
						前前期	前后期	後前期	後後期			
共通教育科目	新人教育科目		東京電機大学で学ぶ	選択	1	1	1	1				
			フレッシュマンゼミA	選択	1	1	1					
			フレッシュマンゼミB	選択	1	1		1				
			日本語リテラシーA	選択	1	全	1/4期	1コマ			(小論文)	
			日本語リテラシーB	選択	1	全	1/4期	1コマ			(就職対策)	
		概論科目	哲学A	選択	2	全	1	1				
			哲学B	選択	2	全			1	1		
			倫理学A	選択	2	全	1	1				
			倫理学B	選択	2	全			1	1		
			心理学A	選択	2	全	1	1				
			心理学B	選択	2	全			1	1		
			歴史学A	選択	2	全	1	1				
			歴史学B	選択	2	全			1	1		
			文学A	選択	2	全	1	1				
			文学B	選択	2	全			1	1		
			法学A	選択	2	全	1	1				
			法学B	選択	2	全			1	1		
			政治学A	選択	2	全	1	1				
			政治学B	選択	2	全			1	1		
			経済学A	選択	2	全	1	1				
			経済学B	選択	2	全			1	1		
			社会学A	選択	2	全	1	1				
			社会学B	選択	2	全			1	1		
			科学技術史A	選択	2	全	1	1				
			科学技術史B	選択	2	全			1	1		
			日本国憲法	選択	2	全			1	1		00100
			教職入門	選択	2	全	1	1				10100
			教育心理学	選択	2	2	1	1				10200
			教育学概論	選択	2	全	1	1				10200
			教育社会学	選択	2	全			1	1		10200
			教職総合演習	選択	2	全	半期	1コマ		※1		10700
			主題科目	技術経営学 (MOT)	選択	2	全			1	1	
		技術者倫理		選択	2	全	半期	1コマ		※1		60100
		仕事と職業		選択	2	2	1	1				
		日本経済の現在		選択	2	全			1	1		
		世界経済の現在		選択	2	全	1	1				
		現代社会と法		選択	2	全	1	1				
		社会福祉論		選択	2	全			1	1		
		日本の文化と倫理		選択	2	全			1	1		
		現代青年の心理と論理		選択	2	全	1	1				
		社会の成り立ち		選択	2	全			1	1		
		ことばと社会		選択	2	全	1	1				
		ヒトの発達心理学		選択	2	全			1	1		
		欧米文化研究		選択	2	全	半期	1コマ		※1		
		アジア文化研究		選択	2	全	半期	1コマ		※1		
		海外事情		選択	2	全	半期	1コマ				
		教養ゼミ	教養ゼミA	選択	2	全	1	1				
	教養ゼミB		選択	2	全			1	1			

2012年度 カリキュラム 人間形成・英語

人間形成科目・英語科目 授業科目配当表

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード	
							前前期	前后期	後前期	後後期			
共通教育科目	人間形成科目	第二外国語	ドイツ語入門Ⅰ	選択	1	全	1	1				00300	
			ドイツ語入門Ⅱ	選択	1	全			1	1		00300	
			基礎ドイツ語Ⅰ	選択	1	全	1	1				00300	
			基礎ドイツ語Ⅱ	選択	1	全			1	1		00300	
			初級ドイツ語Ⅰ	選択	1	全	1	1				00300	
			初級ドイツ語Ⅱ	選択	1	全			1	1		00300	
			フランス語入門Ⅰ	選択	1	全	1	1				00300	
			フランス語入門Ⅱ	選択	1	全			1	1		00300	
			基礎フランス語Ⅰ	選択	1	全	1	1				00300	
			基礎フランス語Ⅱ	選択	1	全			1	1		00300	
			初級フランス語Ⅰ	選択	1	全	1	1				00300	
			初級フランス語Ⅱ	選択	1	全			1	1		00300	
			中国語入門Ⅰ	選択	1	全	1	1				00300	
			中国語入門Ⅱ	選択	1	全			1	1		00300	
			基礎中国語Ⅰ	選択	1	全	1	1				00300	
			基礎中国語Ⅱ	選択	1	全			1	1		00300	
		初級中国語Ⅰ	選択	1	全	1	1				00300		
		初級中国語Ⅱ	選択	1	全			1	1		00300		
		留学生科目	留学生のための日本語中級AⅠ	選択	1	1	1	1			(文法・語彙)	※2	
			留学生のための日本語中級AⅡ	選択	1	1			1	1	(文法・語彙)	※2	
	留学生のための日本語中級BⅠ		選択	1	1	1	1			(聴解・口頭表現)	※2		
	留学生のための日本語中級BⅡ		選択	1	1			1	1	(聴解・口頭表現)	※2		
	留学生のための日本語中級CⅠ		選択	1	1	1	1			(読解)	※2		
	留学生のための日本語中級CⅡ		選択	1	1			1	1	(読解)	※2		
	留学生のための日本語上級Ⅰ		選択	1	2	1	1			(文章表現)	※2		
	留学生のための日本語上級Ⅱ		選択	1	2			1	1	(文章表現)	※2		
	留学生のための日本事情Ⅰ		選択	2	1			1	1		※2		
	留学生のための日本事情Ⅱ		選択	2	2	1	1				※2		
	留学生のための日本事情Ⅲ	選択	2	2			1	1		※2			
	留学生のための日本事情Ⅳ	選択	2	3	1	1				※2			
	保健体育	体育Ⅰ	選択	1	全			半期1コマ				00200	
		体育Ⅱ	選択	1	全			半期1コマ				00200	
		体育Ⅲ	選択	1	全			半期1コマ				00200	
		体育Ⅳ	選択	1	全			半期1コマ				00200	
		体育Ⅴ	選択	1	全			半期1コマ				00200	
		体育Ⅵ	選択	1	全			半期1コマ				00200	
		学外体育研修A	選択	1	全			半期1コマ		集中講義			
		学外体育研修B	選択	1	全			半期1コマ		集中講義			
	英語科目	英語	英語ⅠA	必修	①	1	1	1				00300	
			英語ⅠB	必修	①	1			1	1		00300	
			英語ⅡA	必修	①	1	1	1				00300	
			英語ⅡB	必修	①	1			1	1		00300	
			英語ⅢA	必修	①	2	1	1				00300	
			英語ⅢB	必修	①	2			1	1		00300	
英語ⅣA			必修	①	2	1	1				00300		
英語ⅣB			必修	①	2			1	1		00300		
英語ⅤA			選択	1	3	1	1				00300		
英語ⅤB			選択	1	3			1	1		00300		
英語研修		海外英語研修A	選択	2	全			半期2コマ		集中講義			
		海外英語研修B	選択	2	全			半期2コマ		集中講義			
		海外英語研修C	選択	2	全			半期2コマ		集中講義			
		海外英語研修D	選択	1	全			半期1コマ		集中講義			

※1 ただし、前期・後期開講 ※2 留学生のみ履修が可能
 ※ 教職コードは、「教職課程」参照。 ※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

学部共通科目群履修モデル

近年の科学技術の進歩・発展の早さはめざましく、大学で現在最先端といわれる科学技術を学んで卒業しても、その中の多くは諸君が卒業後、実社会で活躍する頃すぐに一時代前のものになってしまいます。未来に対して創造性・発展性のある科学技術は、確固たる学問体系に裏付けられたものしか成り得ません。理工学部では、どの学系・専門コースで専門を体系的に学ぶ際にも必要となる基礎知識・学力を身につけるため、共通教育科目を充実しています。諸君が必要とする学問体系としての基礎知識は一、二年次のうちにこの共通教育から習得しておく必要があります。理工学は自然を理解し応用していく学問分野であるため自然を理解する事が必要不可欠です。理工学部の共通教育における大きな柱は数学、物理学と化学です。「数学」では数の法則を理解し、科学的な考え方と技術を記述する世界共通の言語とも言える数式による表現を学びます。「物理学」では物質の運動と存在の基本法則を学び、「化学」では物質がどのようにできているか、物質の性質と変化の本質を学びます。さらに生物や地球環境への理解も必要です。また、情報や工学の基礎も身につけておく必要があります。いずれも、これからの技術の発展に欠くことのできない基礎となる学問です。

学部共通科目の構成と履修の順序

学部共通科目群の科目構成は基礎、数学、物理学、化学、生物、地学、情報および工学の八分野から成ります。基礎分野には他の共通科目や専門科目を学ぶために必要な数学・物理学・化学の基礎科目と物理学と化学にはさらに基礎演習科目が用意されています。これら基礎科目は基礎学力が不足する学生は必ず履修する必要があります。共通教育の基幹分野としての数学・物理学・化学にはいくつかの科目が用意されており、そのほとんどを履修する必要があります。また、生物学分野と地学分野にそれぞれ一科目ずつ、情報分野と工学分野には二科目ずつ用意されていますので必要に応じて履修すると良いでしょう。

数学・物理学・化学の基礎科目、共通科目は、基礎科目→共通科目の順に履修すると理解しやすいでしょう。科目がA科目とB科目に分かれている場合はA科目を履修してからB科目を学びます。具体的にどの科目をどの順序で履修するかは、履修モデルと各科目系統別説明を参考に、学系・コースの進級条件を考慮して学生自らの判断で決めなくてはなりません。

科目分野別の履修について

基礎科目：

確実に基礎を身につけるため、4月初めに行われるプレースメントテストの数学・物理学・化学に不合格の場合は、それぞれ「**数学基礎**」・「**物理学基礎**」・「**化学基礎**」を履修する必要があります。また、「物理学基礎」と「化学基礎」の履修者には学力に応じてさらに「**物理学基礎演習**」・「**化学基礎演習**」を履修する事が求められます。これらの基礎科目・基礎演習科目は学力別クラス編成を取り、どのクラスを履修するかはプレースメントテストの結果によって指示されます。物理と化学の基礎演習科目は基礎科目の授業の演習として行われるので演習科目のみ履修することはできません。

「数学基礎」は、高校では十分に数学を学んで来なかった人、例えば、「数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」はやったけれども、「数学A・B・C」の中にはやっていないものがあるという人のために、大学での学習への橋渡しを行う科目です。数学の実力にあまり自信が持てない人も履修すると良いでしょう。「数学基礎」は前々期（前期の前半）に週2回の授業があり、それ以外の基礎科目・基礎演習科目は前期に週1回の授業を行います。前々期の成績が不合格となった場合は前後期（前期の後半）に再履修しなくてはなりません。数学のプレースメントテストに合格するか、「数学基礎」に合格しないと、「基礎微積分学A・B」を履修することはできません。

「物理学基礎」では物理の基本原則である力学の初歩をゼロから学びます。「化学基礎」では原子・分子の基本的な構造、物質と溶液濃度、化学結合、物質の状態や化学平衡などの化学の基本を学びます。「物理学基礎」と「化学基礎」ではできるだけ多くの演習問題を解く事で基礎学力を身につけます。また、「物理学基礎演習」および「化学基礎演習」は特に物理および化学の初級者に演習問題の解法を身につけてもらうための科目です。物理学または化学のプレースメントテストに不合格であった場合でも基礎演習科目の履修が求められていない場合は「物理学基礎」または「化学基礎」を同時に学ぶことで「物理学A」または「化学A」を前期に履修することができます。しかし、基礎演習科目の履修を指示された場合は、前期に基礎科目と基礎演習科目を履修して、基礎を理解してから後期に「物理学A」と「物理学B」または「化学A」と「化学B」をそれぞれ同時に履修すると良いでしょう。

数学：

数学は数の基本法則を追求する学問です。自然現象や化学技術を客観的に表現する際にも数式で表現されるので、理工学全分野に必須の学問です。数学関連科目の「基礎線形代数学A・

B)、「基礎微積分学A・B」の四科目は理工学部でこれから学んで行くいろいろな分野の基礎として、最も基本的な知識を習得するためのものです。そのためにも、これらの科目はできるだけ一年次のうちに全科目を履修しておいて、その後の各学系・コースでの、より専門的な科目を学習するときに支障とならないようにすることが大切です。

物理学：

物理学は読んで字のごとく、物事（自然現象）の理（ことわり）を探求する学問です。「自然現象が何故どのように起きているのか、それをどう理解していくのか」という、理工系の学問全体に共通する考え方の基礎を学びます。また専門分野への直接的なあるいは間接的な基礎ともなっています。

ある程度、物理の基礎が身に付いている学生は「**物理学A**」を履修します。「物理学A」では物理学の考え方や現象をどう理解しどう説明するのかを、物体の運動の解析を通じて学んでいきます。その後、「**物理学B**」で更なる自然の理解へと進んでいきます。それと平行して「**一般物理学実験**」があります。理論で予想されたものが実験結果と一致するかを実体験してください。前期の「**物理学A**」の授業は、「物理学基礎」同様、4月最初に実施されるプレースメントテストの結果に基づき、各人がどのクラスを受講すればよいのかが指定されます。後期の「**物理学B**」は物理学のもうひとつの柱である電磁気を中心に学びます。詳しくはオンラインシラバスで内容を確認してください。

化学：

化学では物質とは何か、物質はどのように変化し物質集合体にはどのような性質があるかを学びます。現在の科学技術は物質抜きでは成り立ちません。従って、直接化学物質を扱わない専門コースの学生にとっても、理工系である以上化学は重要な基礎科目です。

基礎がある程度、身に付いた学生は「**化学A**」または「**化学B**」を履修します。「化学A」は「化学基礎」で基礎を補いながら履修することができます。「**化学A**」と「**化学B**」はどちらを先に履修しても良く、同時に履修してもかまいません。「**化学A**」では量子化学によって解き明かされた原子と分子の成り立ちと化学結合を理解します。「**化学B**」では物質の状態を物質エネルギーの学問体系である化学熱力学の観点から理解し、反応速度や有機高分子・金属・セラミックなどの化学材料についても概観します。

化学は現象の発見や実験を通して発展してきた学問です。化学現象の本当の姿を理解し化

学の面白さを体験するためには是非「**一般化学実験**」を履修することを勧めます。基本的な実験器具の扱い方から本格的な化学分析まで自ら行い実験技術を習得します。また、「**一般化学実験**」では学問としての化学ばかりではなく、実験の準備から後かたづけと報告書の作成に至るまで、科学技術者に必要な全ての要素を練習し身につけることも学習目標となっています。

その他の自然科学分野の科目：

以下の科目は自分の状況にあったものを履修すると良いでしょう。

「**生物学**」は専門分野で関係する諸君には必要となる科目ですが、自然科学の素養を付きたい人にも見逃せません。高校で生物を履修しなかった学生のことも考え、生物学の初歩から学びます。授業時間のはじめの10分くらいで、キャンパス周辺の植物を取り上げ、その構造や分類学上の位置などについて説明することも考えています。

「**環境科学**」も専門分野で関係する諸君には必要となる科目ですが、自然科学の素養を付きたい人にも見逃せません。現代の技術は環境を配慮しないと生き残ることはできません。この科目では、現在の地球環境問題の科学技術的側面を見渡し、技術者として身につけるべき環境保全・修復の基礎を勉強します。また、地球上での人類の位置づけについて、グローバルな視点と地球史的な視点から考えていきます。

情報：

情報技術は未来社会を担う人材に不可欠な素養で、特に理工系学生にとってはこれを高いレベルで理解し実践する能力が要求されます。「**情報処理 A**」ではアプリケーションプログラムを用いた情報処理とネットワーク利用の技能を習得し、情報に入門します。「**情報処理 B**」ではさらに高度な内容を学び、計算機プログラミングに関する基礎的な知識を理解し、専門課程における諸分野での応用や、より高度な情報学の修得に繋がります。情報に関する学生の理解度には大きな差があるため、自分にあった科目を履修すると良いでしょう。

工学：

工学分野の共通科目には「**立体図学**」と「**工学基礎**」があります。「**立体図学**」では立体を紙面に表す方法を学びます。正投影法、軸測投影法、透視投影法による基本的な立体の表現を習得します。また、副投影法などを用いて、ねじれの位置にある2直線や2平面の交線、

立体の相貫線を求めることで、空間認識力を養います。「工学基礎」では電気、機械、建設土木の基礎として簡単な電気回路、機械設計と設計図の見方、土木・建築構造物の概要を学びます。

キャリア開発

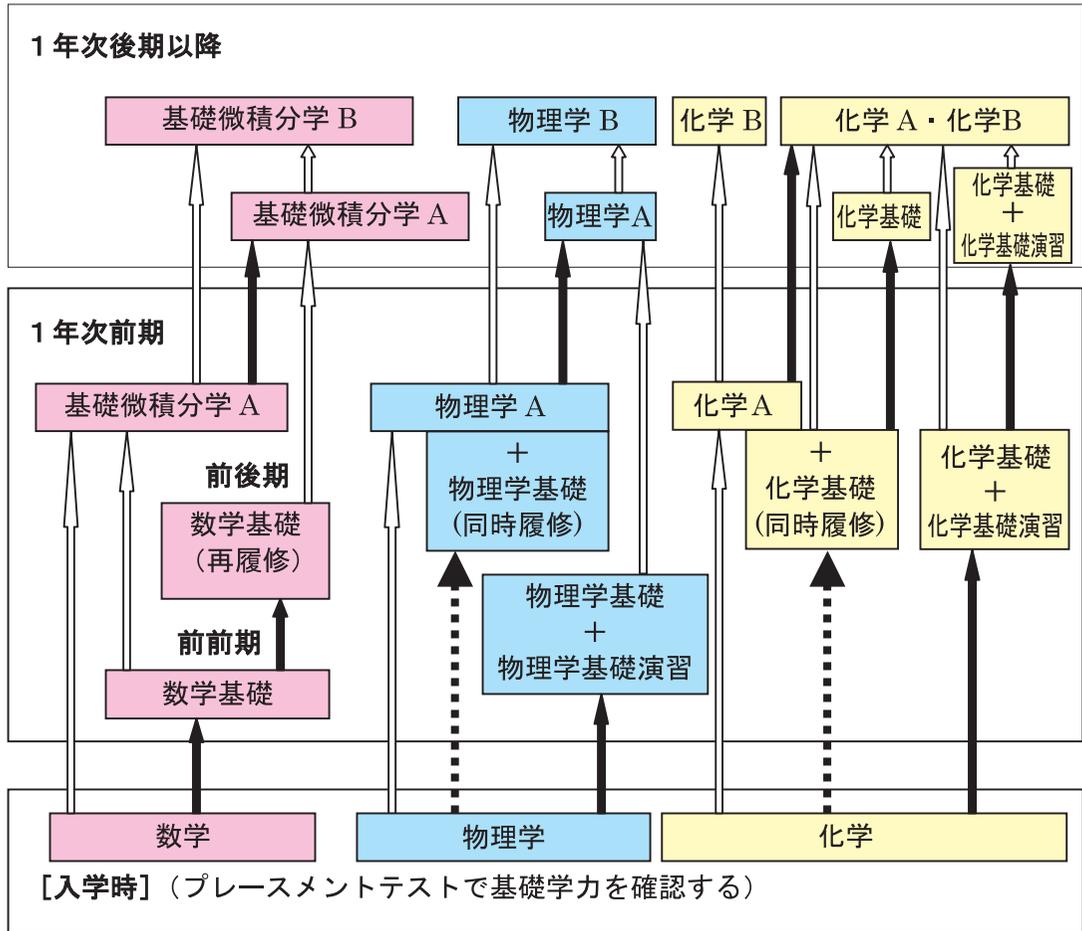
1年次生の人間形成科目「フレッシュマンゼミA・B」に引き続き、キャリア開発でも「学生が自らの個性・能力を把握しつつ、将来の進路を自らの責任で選択できる力」を育成します。

「キャリアワークショップ」は、複数の学系の学生からなるグループで問題解決型の演習を行うことで、異なる専門分野のメンバーが協力し合って問題が解決できることを知り、社会で協働する能力を育成します。

また、「TDUプロジェクト科目」は、基本的に産学連携でプロジェクトを立ち上げ、そのプロジェクト遂行を通して問題解決能力の向上および任務遂行の責任感を養成します。

共通科目群の科目配置図

[履修の順序に注意が必要な科目]



[進み方] ↑ : 合格, ▲ : 条件付合格, ↑ : 不合格,

[その他の共通科目]

配当期	数学・物理学・化学分野	その他の自然科学・情報・工学分野
1年次前期	基礎線形代数学 A 一般物理学実験* 一般化学実験*	生物科学*・環境科学* 情報処理 A** 立体図学・工学基礎
1年次後期	基礎線形代数学 B 一般物理学実験* 一般化学実験*	生物科学*・環境科学* 情報処理 B**

* 前期と後期のどちらで履修しても良い科目

** 学生の技量に応じて選択する科目

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

2012年度 カリキュラム
学部共通科目 授業科目配当表

学部共通

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	単位数	学年		前期		後期		備考	教職コード	
						前	後	前	後	前	後			
														前期
専門教育科目	学部共通科目	基礎	数学基礎	選択	1	1		※1						
			物理学基礎	選択	1	1	半期1コマ			※3				
			物理学基礎演習	選択	1	1	半期1コマ			※3				
			化学基礎	選択	1	1	半期1コマ			※3				
			化学基礎演習	選択	1	1	半期1コマ			※3				
		数学	基礎微積分学A	選択	2	1			※2					20300
			基礎微積分学B	選択	2	1					1	1		20300
			基礎線形代数学A	選択	2	1	1	1						20100
			基礎線形代数学B	選択	2	1					1	1		20100
		物理学	物理学A	選択	2	1	半期1コマ				※3			30100
			物理学B	選択	2	1					1	1		30100
			一般物理学実験	選択	2	1	半期2コマ				※3			30200
		化学	化学A	選択	2	1	半期1コマ				※3			30300
			化学B	選択	2	1					1	1		30300
			一般化学実験	選択	2	1	半期2コマ				※3			30400
		生物	生物科学	選択	2	1					1	1		30500
		地学	環境科学	選択	2	1	半期1コマ				※3			30700
		情報	情報処理A	選択	2	1	1	1						00400
			情報処理B	選択	2	1	半期1コマ				※3			70100
		工学	立体図学	選択	2	1	1	1						
工学基礎	選択		2	1	1	1								
キャリア開発	キャリアワークショップ	選択	2	2					1	1				
	TDUプロジェクト科目A	選択	2	3	1	1								
	TDUプロジェクト科目B	選択	2	3					1	1				

- ※1 1/4期2コマ（ただし、前前期・前後期開講）
 ※2 1/4期2コマまたは半期1コマ
 ※3 ただし、前期・後期開講
 ※ 教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

理学系

(Division of Science)

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

理学系履修モデル

学系の学習・教育目標

「理学は自然現象や数理の法則を探求し、それを体系的に記述し、理解する学問です。」理学は工学や農学など様々な分野において基礎であると同時に、それ自身が多くの研究対象をもつ分野です。近代の自然科学は自然を観察し、その仕組みを解析し、理論的モデルを用いて表現し、そして体系化することによって発展してきました。数学・物理学・化学は理学の代表的な学問分野です。また、数理情報学は代数学や解析学などの数学をベースとする数理的なアプローチによって情報の本質を理解し考える学問です。

理工学では、さまざまな未知の問題に興味を持ち挑戦していく姿勢が求められます。そのために、基本的な理論を習得し、それが問題解決のためにどのように使えるかを学びます。問題を本質的に捉えて解決できる創造性豊かで高度な専門性をもった人材を世に送り出すことを学習・教育の目標としています。

学系のカリキュラムの概要

理学系では他の学系とも連携を進め、基礎を大切にしながらも幅広い応用力も身につけられる教育システムを構築しています。いくつかの専門コースに共通に必要な基礎科目は学系共通科目として配置しています。学系共通科目は、数学、物理学、化学、その他の自然科学および数理情報学の基礎科目から成り、それぞれ科目はその分野と関連する専門コースの専門科目の学習につながる内容となるよう配慮されています。特に数学分野の学系共通科目は各コースの専門科目の前提科目となっている場合が多いため、履修計画を立てる際に注意が必要です。

コースの専門科目は二次から三次にかけて、基礎から段階的に応用、発展的内容になるよう配置されています。また、演習、実験が多いのも理学系の特徴です。専門の応用力を確実にするため演習、実験科目はできるだけ配当年次に履修する必要があります。配当年次に単位修得できなかった場合、上級年次での再履修が困難になる場合があるので注意が必要です。一部の専門科目は理学系内および他学系にある複数のコースに同一科目名で配置されていますが、同じ科目であるため一度しか履修することはできません。主専攻コースの科目として履修してください。

<各コースの概要>

数学コース：

数学コースでは代数学、幾何学、解析学等の基礎から現代数学までの分野を学んで習得することならびにそれを通じて自由な発想を持った柔軟な論理的思考力を身につけた人材を養成することを目標としております。この目標に沿って、学部共通科目・理学系共通科目・数学コース専門科目を連携して高校数学に接続したもののから現代数学に至るまでの数学を体系的に学ぶことができるようにカリキュラムが用意されております。

- ・ 数学の学習には講義だけでなく自分で問題を解く演習が大切なため本コースのカリキュラムでは将来どの方向に進むとしても共通に必要な1、2年次の科目でとくに基本となる科目には演習科目が用意されています。演習科目も併せて履修することが望ましいです。
- ・ 各自の興味を持ったテーマを選択してその理解をさらに深めることができるように、本コースでは少人数で行われる数学輪講Ⅰ、数学輪講Ⅱがあり、さらに理学卒業研究Ⅰ、理学卒業研究Ⅱが用意されています。

物理学コース：

物理学は、力学・電磁気学・量子力学・統計力学を中心とし、様々な分野が互に関連した学問です。特に近年は分野の細分化と統合が同時に起き、ある分野で発達した方法などが他分野に応用されることも珍しくありません。その意味で、物理学コースでは他の、数学はもとより化学・情報など、普通の物理学科では学びにくい幅広い分野の科目を履修することができるようになってきました。物理だけにとどまらず多くの他のコースや他学系の分野も学び、多彩な能力と興味を身につけることが必要です。それぞれの科目を履修するためには予め履修しておく方が望ましい科目があります。科目履修に当たってはそれぞれの科目の履修要件をシラバス等で確認しておくことが必要です。

本コースでは、サイエンス実験、課題探求、論文考究、特論などの小人数教育を通して、物性物理学を中心に新しい課題に取り組み、解決する能力を涵養します。

化学コース：

科学技術の急速な進歩によって、多くの分野で物質に関する認識・知識が重要となってきています。とくに、環境分野、エネルギー分野、バイオテクノロジー分野、ナノテクノロジー分野、電子工学分野など、現代の重要技術分野のほとんどにおいて、化学が重要基盤の一つになっています。化学コースでは、このような多くの分野に対応するため、化学の基礎中の基礎をみっちり勉強します。そのため、2年生、3年生、4年生と学年が上がるにしたがって、

内容は連続性を持って高度化します。

化学には、無機化学、有機化学、生物化学、高分子化学および物理化学があります。化学コースでは、物質の構造・性質・反応を系統的に扱う物理化学を中心に勉強し、それ以外の分野の化学と関係することによって、最終的には化学の大系を学んでいきます。講義のあいまには、「サイエンス実験Ⅱ」（2年後期）、「物理化学実験」（3年前期）を行って感覚的に物質に親しみます。4年生では、先生の指導のもとに興味を持った研究テーマで自発的に研究を行い、それまでに学んだ化学の知識を応用します。

数理情報学コース：

数理情報学コースは、数学とコンピュータを基礎に情報について学び研究するコースです。カリキュラムでは、演習科目を数多く準備し、情報の基礎から応用まで段階的に学習できるよう構成しています。まず1年次と2年次では、学部共通科目や理学系共通科目、演習や実習科目によって数学やコンピュータ、情報の基礎をしっかりと学ぶことが重要と考えています。特に学系共通科目の数理情報学入門（1年前期）はコースの教員全員による数理情報学についての解説がありぜひ履修することを期待します。コースに配属された2年次からは、徐々に数理情報学の専門に進み、3年次での専門科目（人工知能、ロボット科学、画像解析、システム理論など）を経て4年次で卒業研究を行います。この間、少人数制での数理情報学輪講Ⅰ、Ⅱや、情報分野の課題を題材とするコンピュータ実習科目である数理情報学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲもあり実践的な学習が継続できます。なお、3年次から4年次への進級の際には本コース固有の進級条件があり注意が必要です。また中学高校の「数学」や高校の「情報」の教員免許を取得することもできます。

一年次の履修計画の立て方・学習の進め方

一年次はできるだけ学部共通の数学、物理学、化学、情報の専門基礎科目、英語科目および教養科目を中心に履修し、専門科目を学ぶ上での基礎を確かなものにします。また、理学系では他学系以上に自然科学の基礎が重要となるので、学系共通科目としても数学、物理学、化学分野の科目が配置され、特に数学分野には多くの科目があります。一年次配当の理学系共通科目の数学分野の科目のうち、「数学演習Ⅰ、Ⅱ」は二年次以降の理学系の科目を学ぶ際に基礎として必要な数学的概念や論理的言い回しを学ぶ科目です。

さらに、二年次から学ぶ専門分野により基礎として重視される科目が異なりますので、希望する主専攻コースに応じて下記を考慮する必要があります。

数学コース：

数学コースを希望する学生には、対応する講義科目だけでなく、2単位演習科目「数学演習Ⅰ」、「数学演習Ⅱ」の履修も強く勧めます。（これらの2科目は本コースの3年次から4年次の進級条件で必ず単位を修得する必要がある科目となっています。）

さらに「数理のふしぎ」も数学の面白さを実感させてくれる科目として履修を勧めます。

物理学コース：

物理は特に基礎から理論と実験を積み上げていく学問です。例えば力学を理解しないで量子力学を理解することは困難です。また多くの面で数学を利用します。従ってまず、数学（**基礎微積分学A・B、基礎線形代数学A・Bと数学演習Ⅰ、Ⅱ**）を身につける必要があります。物理コース志望を志望する学生は、**物理学A・B**及び**力学**を履修します。理論だけでなく**一般物理学実験**も大切です。

また、この時期に英語はもちろんのこと、人文・社会系の科目である人間形成科目群を履修しておくことが重要です。

化学コース：

化学コースを選択しようと考えている学生は、プレースメントテストの可否にかかわらず、「**化学基礎**」、「**物理学基礎**」、「**数学基礎**」を履修し、高校までに学んだ基礎をきっちり身につけておくことをすすめます。2年次以降で行う専門的な実験に先立ち、実験の基礎を身につけるために、共通科目の「**一般化学実験**」と「**一般物理学実験**」は必ず履修してください。また、大学における化学と物理の基礎を身につけるために、共通科目の「**化学A・B**」、「**物理学A・B**」、「**環境科学**」および学系共通科目の「**基礎有機化学**」、「**生命の化学**」を履修することを特にすすめます。

数理情報学コース：

1年次では数学や情報、コンピュータの基礎の学習に努めてください。数学では学部共通科目の**基礎微積分学A・B、基礎線形代数学A・B**の4科目すべてを履修してください。また並行して開講されている演習科目（理学系共通科目の**数学演習Ⅰ、Ⅱ**など）も履修することを勧めます。情報やコンピュータ関係では、まずは**数理情報学入門**（1年前期）は必ず履修し数理情報分野の概要を学び、また**数理プログラミング**（1年後期）も履修してください。学部共通科目の**情報処理B**も、履修することを勧めます。プログラミングを含む実習科目は2年次以降にも継続して開講されます。

主専攻コースの選択と履修について（2～4年次）

一年次に理学系の共通科目を学ぶことで、各専門分野がどのような性格・内容の学問分野であるかが入学段階と比べて良く理解されたでしょう。専門コースの選択は卒業後の歩み方に大きな影響を与えますので、入学段階でのコース希望にとらわれず各コースの内容を理解した上で、自分にあったコースを主専攻コースとして選ぶ必要があります。二年次以上では主専攻コースとして選んだコースに応じて、履修計画の立て方・学習の進め方に以下の注意が必要です。

数学コース：

数学コースを主コースとする学生は講義科目を履修するだけでなく対応する演習科目が開講されている場合は演習科目も併せて履修するようにしてください。理学系共通科目数学分野に分類されている演習科目については対応する講義科目と同時履修の必要があるものに注意してください。（ただし、すでに講義科目の単位を修得済みである場合は別です。）

- 理学系共通科目に分類されている2年次の数学分野の科目も、将来数学のどの分野に進むにも基本となる内容ですからそれらを履修してください。2年次は本コースで基本となる科目を学習する大切な学年です。実際、本コースのカリキュラムとしては重要な内容のため3年次から4年次への進級条件に2年次科目の多くの科目が含まれております。
- 3年次には、興味や将来の進路などを考えて履修科目を選択していくことになります。本コースの数学輪講Ⅰ、Ⅱの単位修得は進級のために必要です。
- 本コースを主コースとした場合、3年次から4年次への進級には理工学部で共通の進級条件の他に本コース独自の進級条件もみたくする必要があります。詳しくは進級条件表（理学系）の数学コースの欄を見てください。

物理学コース：

電磁気学・量子力学ⅠとⅡ・統計力学ⅠとⅡおよびサイエンス実験Ⅰがどの物理分野を学ぶ上でも必須項目となります。また、物理学演習Ⅰ～Ⅳおよび課題探求は学んだことを身につけるための授業なので、これも必須科目です。

物理学を理解するためには学習の順序があります。物理学の基礎としてはじめに力学と電磁気学を学びます。また、サイエンス実験Ⅰおよび計測と分析も早めに履修すると良いでしょう。これらの科目を履修するには一般物理学実験を履修しておく必要があります。次に熱力学と量子力学ⅠとⅡを履修します。熱力学と量子力学の基礎が理解できたら統計力学ⅠとⅡ、量子力学Ⅲおよび物性論Ⅰ、Ⅱに進みます。

物理学の講義科目を学びながら**物理学演習 I ~IV**を履修し各年次で学んだ物理学の演習に取り組み、さらに**論文考究**、**課題探求**や**特論**で物理学を確かなものとしします。課題探求と特論は物理学コースの卒業研究を受ける学生は必ず履修してください。

また、サイエンス実験Ⅱ・数理プログラミング・解析学Ⅰ、Ⅱとその演習・線形代数学Ⅰ、Ⅱ・代数入門・代数学Ⅰ・確率論・複素解析学Ⅰ、Ⅱ・幾何学Ⅰ・化学熱力学・離散数学、常微分方程式の履修も推奨されます。これらの科目は必ずしも履修年次にこだわらなくともよいでしょう。

化学コース：

化学コースを主コースとする学生は、2年次において「学系共通科目」と「コース専門科目」の両方から、学問分野を考慮しバランスよく科目を履修してください。例えば、**化学反応学**、**有機化学Ⅰ**、**無機化学Ⅰ**など化学の大きな部門をなす分野名のついた科目は低学年次において学習しておく必要があります。また、**熱力学**、**統計力学Ⅰ**、**量子力学Ⅰ**など物理分野を履修し学習しておくことは高学年次にそれらを基盤とする化学の科目を履修する際に大きなアドバンテージとなります。また、**生物学**などの科目を履修することも視野を広げるためには重要なことです。3年次においては高度に専門化された科目が多くなり、それらの多くは「コース専門科目」として準備されています。**電気化学**など初めて学習する分野もありますが、**化学熱力学**や**統計力学Ⅱ**など、2年次に配当される科目の内容をふまえて講義を進めるような科目が多くあります。更に、2年次、3年次では講義で学習した内容などを実際に実験で確かめてみる意味で**サイエンス実験Ⅱ**と**物理化学実験**を履修します。実験で確認することによって理論がより鮮明に理解できるでしょう。**化学セミナー**ではいくつかの各論を学び、化学の知識を確かなものとしします。4年次においては**理学卒業研究Ⅰ**、**Ⅱ**を履修し、各人が個別のテーマで研究を行います。また、**化学輪講**では卒業研究の内容をまとめて報告する方法を学んだり、研究テーマに関連する文献の輪講などを行なったりします。これらは化学コースで学習したことの総仕上げの意味がありますので、非常に重要な科目です。

数理情報学コース：

2年次からは、徐々に数理情報学の専門的な科目に移っていきます。本コースに所属して順調に進級し卒業できるよう、以下の点に注意しながら今後の履修計画を立てて勉学に取り組んでください。

①進級・卒業条件：主コース、副コースの条件も含め、学部共通の条件をよく確認してください。なお、数理情報学コースでは3年次から4年次への進級条件として、1年次の学部

共通科目の基礎微積分学A、Bと基礎線形代数学A、Bの4科目のうちから3科目以上、コース専門科目の数理情報学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの3科目のうちから2科目以上、および数理情報学輪講Ⅰ、Ⅱの2科目が単位取得できていることが必要です。注意してください。

- ②取得単位数の目安：4年次では理学卒業研究Ⅰ、Ⅱ（計6単位）や進学、就職の活動が中心となります。卒業に必要な単位数は124単位ですから、3年次までは各年次40単位強を目安に単位修得するとよいでしょう。
- ③科目履修ガイド：進級・卒業に必要な単位を修得していくことはもちろんですが、人間形成科目や英語科目、主コース、副コースの科目もバランスよく履修するように計画することを勧めます。理学系共通科目の中でも離散数学、応用線形代数学を始めとする数理情報分野の科目はできるだけ履修してください。コース専門科目では、数理情報学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのすべて、またその他の科目もできる限り多く履修し修得するよう心がけてください。
- ④教員免許：中学高校の「数学」、高校の「情報」の教員免許が取得できます。教員免許の項を参照してください。

副専攻コースの選択と履修について（2～4年次）

どの副専攻コースを選択するかは、主専攻コースとして選んだ専門分野と合わせてどのようなスペシャリストを目指すのか、またはどの分野の進学やどのような業種の就職を目指すのかを考えて決定する必要があります。主コースと副コースとの組み合わせと進学、就職分野がわからない場合は各コースの教員に相談すると良いでしょう。副専攻コースとして理学系の各コースを選んだ場合、履修計画の立て方・学習の進め方に以下の注意が必要です。

数学コース：

他のコースを主コースとしたが数学も学んでみたいという場合や主コースのために数学による基礎付けをしておきたいなど数学コースを副コースとして希望する目的にはいろいろな場合が考えられます。いずれにしろ本コースを副コースとする場合、数学全体を学ぶだけの科目数を履修する余裕がもてないことも考えられますので、各自の趣味、将来の希望、主コースとの関連、科目間のつながり等を考慮して有効に履修科目を選択する必要があります。

- ・数学コースの専門科目の中には準備が想定されている科目もあります。本コースを副コースとする学生も学系共通科目から対象となる科目を履修しておくことが望ましいです。詳しくは各科目のシラバスをご覧ください。また、数学コースのホームページに「数学を副コースとする学生のための専門科目ガイド」がありますので、それを参考にしてください。

物理学コース：

力学・電磁気学・量子力学ⅠとⅡ・統計力学ⅠとⅡが何を学ぶにしても必須項目です。それぞれの科目の前提となる科目については、主コースの欄と同じですので参照してください。専門科目は、**化学熱力学・量子力学Ⅲ**等の履修を勧めます。**特論ⅠとⅡ**および**課題探求**は、**物理学コースの学生**を対象とする科目です。

化学コース：

化学コースを副コースとして選んだ学生は、興味の対象が何であるかで履修すべき科目が異なります。例えば、「材料」に興味があるのか、それとも「化学反応」に興味があるのかは大きな違いです。前者の場合は「材料化学」を履修すべきでしょうし、後者の場合は「化学反応学」を履修するのがよいでしょう。また、材料であっても、それが「無機」材料であるのか「有機」材料であるのか、はたまた「高分子」に分類される材料であるのかで、「有機化学」や「高分子科学」の履修が適している場合もあります。何に興味があるのか、勉強したいのは何なのかをよく考慮した上で履修科目を選択してください。また、コース専門科目に準備されている科目で「有機化学Ⅱ」や「無機化学Ⅱ」などのように「Ⅱ」がつく科目は理学系の学系共通科目にそれらに対応する「Ⅰ」の科目がありますので、まずそちらを履修することを勧めます。

数理情報学コース：

数理情報学コースは、数学とコンピュータを基礎に情報について学び研究するコースです。カリキュラムでは、低学年次で数学やコンピュータ、情報の基礎を学び、その後、情報の基礎から応用まで段階的に学習できるよう構成しています。従って、数理情報学コースを副コースとして選び、コース専門科目を履修する際には、できるだけその前提となる基礎科目を履修しておいてください。また、科目の一部には履修制限する場合がありますので注意してください。

その他注意事項

理学系の教職科目に指定されている科目履修で数学、理科または情報の教員免許を取得することができます。所属するコースにかかわらず各免許状の科目要件を満たせば複数の免許状を取得することも可能です。学系共通科目、コース専門科目には教職科目に指定されている科目が多数あるため、教員免許取得を目指す学生は教職課程の章を良く読んで目指す免許状に応じて履修計画を立てる必要があります。例えば、数学の教員免許の「教科に関する科目」

としてコンピュータに区分された科目があり、理学系の学生に対しては「数理プログラミング」が必修となっています。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

理学系の科目配置図

は じ め に	学 修 活 動	U N I P A	共 通	R U	R B	R D	R T	R G	資 格	教 職 課 程	学 生 生 活	施 設	就 職 ・ 進 学	大 学 院	そ の 他	学 則 ・ 規 程	理学卒業研究Ⅰ・Ⅱ (必要に応じて) 理学インターンシップE・F			
																	4年	【数学コース専門科目】 偏微分方程式学 関数解析学Ⅳ 代数学Ⅲ 幾何学Ⅲ 数学と社会	【物理学コース専門科目】 物性論Ⅱ 特論Ⅰ・Ⅱ	【化学コース専門科目】 化学輪講
共 通	R U	R B	R D	R T	R G	資 格	教 職 課 程	学 生 生 活	施 設	就 職 ・ 進 学	大 学 院	そ の 他	学 則 ・ 規 程	【数学コース専門科目】 代数学Ⅱ・Ⅲ 位相空間Ⅱ 複素解析学Ⅱ 幾何学Ⅱ 統計学 数学輪講Ⅰ・Ⅱ				【物理学コース専門科目】 化学熱力学 統計力学Ⅱ 量子力学Ⅲ 物性論Ⅰ 物理学演習Ⅲ・Ⅳ 論文講究Ⅰ・Ⅱ	【化学コース専門科目】 化学熱力学 統計力学Ⅱ 無機化学Ⅱ 高分子科学 電気化学 有機合成化学 工業化学 物理化学実験 化学セミナー	【数理情報学コース専門科目】 人工知能 データ科学 ロボット科学 画像解析 学習理論 システム理論 制御理論 数理情報学演習Ⅲ 数理情報学輪講Ⅰ・Ⅱ
														【理学系共通科目】 (数学・物理学・化学・地学分野) 解析学Ⅲ・解析学Ⅳ・解析学Ⅲ演習 量子力学Ⅱ・機器分析・分子分光学 生態地球科学・地学実験 (その他) 理学特別卒業研究、理学インターンシップC、D						
共 通	R U	R B	R D	R T	R G	資 格	教 職 課 程	学 生 生 活	施 設	就 職 ・ 進 学	大 学 院	そ の 他	学 則 ・ 規 程	【数学コース専門科目】 数 学 史 代 数 入 門 学系共通科目の数学分野科目を履修すること				【物理学コース専門科目】 課 題 探 求 物 理 学 演 習 Ⅱ	【化学コース専門科目】 有 機 化 学 Ⅱ 界 面 化 学 化 学 工 学 課 題 探 求	【数理情報学コース専門科目】 最 適 化 法 数 理 情 報 学 演 習 Ⅰ・Ⅱ
														【理学系共通科目】 (数学分野) 解析学Ⅰ、Ⅱ・解析学Ⅰ、Ⅱ演習 線形代数学Ⅰ、Ⅱ 代数学Ⅰ・代数学Ⅰ演習 位相空間Ⅰ・位相空間Ⅰ演習 常微分方程式・常微分方程式演習 複素解析学Ⅰ・幾何学Ⅰ 確率論 (その他) 理学インターンシップA、B				【物理学・化学・生物学分野】 計測と分析・熱力学 統計力学Ⅰ・量子力学Ⅰ サイエンス実験Ⅰ、Ⅱ・電磁気学 物理学演習Ⅰ・有機化学Ⅰ 無機化学Ⅰ・材料化学 化学反応学・生物学	【数理情報学分野】 離散数学 応用線形代数学 情報論 信号理論 画像処理	
共 通	R U	R B	R D	R T	R G	資 格	教 職 課 程	学 生 生 活	施 設	就 職 ・ 進 学	大 学 院	そ の 他	学 則 ・ 規 程	【理学系共通科目】 (数学分野) 数学演習Ⅰ、Ⅱ 数理のふしぎ				(物理学・化学分野) 力学・基礎有機化学・生命の化学	(数理情報学分野) 数理プログラミング・数理情報学入門	
														【学部共通科目(基礎科目)】 (基礎): 数学基礎・物理学基礎・化学基礎・物理学基礎演習・化学基礎演習 (数学): 基礎微積分学A・B、基礎線形代数学A・B (物理学): 物理学A・B・一般物理学実験 (化学): 化学A・B・一般化学実験 (その他): 環境科学・生物科学・情報処理A・B・立体図学・工学基礎						

共通教育
科目

人間形成
科目

英語科目

理学系 進級条件表

(2012年度カリキュラム)

RU

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと

2年次→3年次

進級条件を設けない

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1. 下記の単位を修得のこと

科目区分		単位数	(卒業条件)
人間形成科目		12	(16)
英語科目		6	(8)
学部共通科目		12	(14)
副コースを理学系から選んだ場合	学系共通科目		28 (36)
	コース専門科目	主コース	14 (22)※
		副コース	6 (8)
副コースを他学系から選んだ場合	学系共通科目	主コース	22 (26)
		副コース	10 (14)
	コース専門科目	主コース	14 (22)※
		副コース	2 (4)

※は、卒業研究を含む

2. 理学系の各コースを主専攻コースで選んだ場合、下記科目を履修し単位を修得していること。

数学コース [学系共通科目]	物理学コース [学系共通科目]	化学コース [学系共通科目]	数理情報学コース [学部共通科目]
次の3科目を全て修得のこと	次の1科目を修得のこと	次の1科目を修得のこと	次の4科目中3科目以上を修得のこと
数学演習 I 数学演習 II 数理のふしぎ	サイエンス実験 I	サイエンス実験 II [コース専門科目]	基礎微積分学A 基礎微積分学B 基礎線形代数学A 基礎線形代数学B
次の15科目中下記科目数を修得のこと。(ただし演習科目のみの履修は認めない) 副コースも理学系の場合は10科目以上、副コースが他学系の場合は8科目以上		次の2科目を全て修得のこと 物理化学実験 化学セミナー	[コース専門科目] 次の3科目中2科目以上を修得のこと 数理情報学演習 I 数理情報学演習 II 数理情報学演習 III
解析学 I 解析学 I 演習 解析学 II 解析学 II 演習 解析学 III 解析学 III 演習 解析学 IV 線形代数学 I 線形代数学 II 代数学 I 代数学 I 演習 位相空間 I 位相空間 I 演習 常微分方程式 常微分方程式演習			次の2科目を全て修得のこと 数理情報学論講 I 数理情報学論講 II
[コース専門科目] 次の2科目から1科目以上を修得のこと 代数入門 数学史			
次の2科目を全て修得のこと 数学論講 I 数学論講 II			

3. 理学系の各コースを副専攻コースで選んだ場合はどのコースも進級の条件となる科目はありません。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

2012年度 カリキュラム 理学系 授業科目配当表

RU

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年				備考	教職コード
							前期	後期	前期	後期		
専門教育科目	学系共通科目	数学	数学演習Ⅰ	選択		2	1	1	1			
		数学	数学演習Ⅱ	選択		2	1			1	1	
		数学	数理のふしぎ	選択		2	1			1	1	
		数学	解析学Ⅰ	選択		2	2	1	1			20300
		数学	解析学Ⅰ演習	選択		2	2	1	1			20300
		数学	解析学Ⅱ	選択		2	2			1	1	20300
		数学	解析学Ⅱ演習	選択		2	2			1	1	20300
		数学	解析学Ⅲ	選択		2	3	1	1			20300
		数学	解析学Ⅲ演習	選択		2	3	1	1			20300
		数学	解析学Ⅳ	選択		2	3			1	1	20300
		数学	線形代数Ⅰ	選択		2	2	1	1			20100
		数学	線形代数Ⅱ	選択		2	2			1	1	20100
		数学	代数学Ⅰ	選択		2	2			1	1	20100
		数学	代数学Ⅰ演習	選択		1	2			1	1	20100
		数学	位相空間Ⅰ	選択		2	2			1	1	20200
		数学	位相空間Ⅰ演習	選択		1	2			1	1	20200
		数学	常微分方程式	選択		2	2	1	1			20300
		数学	常微分方程式演習	選択		1	2	1	1			20300
		数学	複素解析学Ⅰ	選択		2	2			1	1	20300
		数学	幾何学Ⅰ	選択		2	2	1	1			20200
		数学	確率論	選択		2	2	1	1			20400
		物理化学	計測と分析	選択		2	2	1	1			
		物理化学	熱力学	選択		2	2	1	1			30100
		物理化学	統計学Ⅰ	選択		2	2			1	1	30100
		物理化学	量子力学Ⅰ	選択		2	2			1	1	30100
		物理化学	量子力学Ⅱ	選択		2	3	1	1			30100
		物理学実験	サイエンス実験Ⅰ	選択		2	2	2	2			30200
		化学実験	サイエンス実験Ⅱ	選択		2	2			2	2	30400
		物理学	力学	選択		2	1			1	1	30100
		物理学	電磁気学	選択		2	2	1	1			30100
		物理学	物理学演習Ⅰ	選択		2	2	1	1			
		化学	生命の化学	選択		2	1			1	1	30300
		化学	基礎有機化学	選択		2	1			1	1	
		化学	有機化学Ⅰ	選択		2	2	1	1			30300
		化学	無機化学Ⅰ	選択		2	2			1	1	30300
		化学	材料化学	選択		2	2			1	1	30300
		化学	化学反応学	選択		2	2			1	1	30300
		化学	機器分析	選択		2	3			1	1	
		化学	分子分光学	選択		2	3	1	1			30300
		生物学	生物学	選択		2	2	1	1			30500
		地学	生態地球科学	選択		2	3	1	1			30700
		地学	地学実験	選択		2	3			半期1コマ	集中講義	30800
数理情報学	数理プログラミング	選択		2	1			1	1	20500		
数理情報学	数理情報学入門	選択		2	1	1	1			60100		
数理情報学	離散数学	選択		2	2	1	1			20500		
数理情報学	応用線形代数	選択		2	2	1	1			20100		
数理情報学	情報論	選択		2	2			1	1	60400		
数理情報学	信号理論	選択		2	2			1	1			
数理情報学	画像処理	選択		2	2			1	1	60500		

コースコードは、U1:数学コース・U2:物理学コース・U3:化学コース・U4:数理情報学コース
 教職コードは、「教職課程」参照。

2012年度 カリキュラム 理学系 授業科目配当表

RU

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学 年		前 期		後 期		備 考	教職コード
							前	後	前	後	前	後		
専門教育科目	数学コース専門科目	数学	数学史	選択	U1	2	2				1	1		
		数学	代数入門	選択	U1	2	2	1	1					20100
		数学	代数学Ⅱ	選択	U1	2	3	1	1					20100
		数学	代数学Ⅲ	選択	U1	2	3			1	1			20100
		数学	位相空間Ⅱ	選択	U1	2	3					1	1	20200
		数学	幾何学Ⅱ	選択	U1	2	3	1	1					20200
		数学	関数解析学	選択	U1	2	4					1	1	20300
		数学	統計学	選択	U1	2	3					1	1	20400
		輪講	数学輪講Ⅰ	選択	U1	2	3	1	1					
		輪講	数学輪講Ⅱ	選択	U1	2	3					1	1	
		数学	偏微分方程式	選択	U1	2	4					1	1	20300
		数学	複素解析学Ⅱ	選択	U1	2	3					1	1	20300
		数学	代数学Ⅳ	選択	U1	2	4					1	1	20100
		数学	幾何学Ⅲ	選択	U1	2	4	1	1					20200
	数学	数学と社会	選択	U1	2	4	1	1						
	物理学コース専門科目	物理学	課題探求	選択	U2	2	2				1	1		※1
		物理学	化学熱力学	選択	U2	2	3	1	1					※1 30300
		物理学	統計力学Ⅱ	選択	U2	2	3	1	1					※1 30100
		物理学	量子力学Ⅲ	選択	U2	2	3				1	1		30100
		物理学	物性論Ⅰ	選択	U2	2	3				1	1		
		物理学	物性論Ⅱ	選択	U2	2	4	1	1					
		物理学	物理学演習Ⅱ	選択	U2	2	2					1	1	
		物理学	物理学演習Ⅲ	選択	U2	2	3	1	1					
		物理学	物理学演習Ⅳ	選択	U2	2	3					1	1	
		輪講	論文講究Ⅰ	選択	U2	2	3	1	1					
		輪講	論文講究Ⅱ	選択	U2	2	3					1	1	
		輪講	特論Ⅰ	選択	U2	2	4	1	1					
		輪講	特論Ⅱ	選択	U2	2	4					1	1	
		化学コース専門科目	化学	課題探求	選択	U3	2	2				1	1	
	化学		化学熱力学	選択	U3	2	3	1	1					※1 30300
	化学		統計力学Ⅱ	選択	U3	2	3	1	1					※1 30100
	化学		有機化学Ⅱ	選択	U3	2	2				1	1		30300
	化学		界面化学	選択	U3	2	2				1	1		30300
	化学		無機化学Ⅱ	選択	U3	2	3	1	1					30300
	化学		高分子科学	選択	U3	2	3				1	1		30300
	化学		電気化学	選択	U3	2	3	1	1					30300
	化学		化学工学	選択	U3	2	2					1	1	
	化学		工業化学	選択	U3	2	3					1	1	
	化学		有機合成化学	選択	U3	2	3	1	1					
	実験		物理化学実験	選択	U3	4	3	4	4					30400
	輪講		化学セミナー	選択	U3	2	3					1	1	
	輪講		化学輪講	選択	U3	2	4	1	1					
	数理情報学コース専門科目	数理情報学	人工知能	選択	U4	2	3	1	1					60500
		数理情報学	データ科学	選択	U4	2	3				1	1		60300
		数理情報学	最適化法	選択	U4	2	2				1	1		
数理情報学		ロボット科学	選択	U4	2	3				1	1			
数理情報学		画像解析	選択	U4	2	3	1	1					20500	
数理情報学		学習理論	選択	U4	2	3					1	1		
数理情報学		システム理論	選択	U4	2	3	1	1						
数理情報学		制御理論	選択	U4	2	3					1	1		
数理情報学		数理情報学演習Ⅰ	選択	U4	2	2	1	1					60200	
数理情報学		数理情報学演習Ⅱ	選択	U4	2	2					1	1	60300	
数理情報学		数理情報学演習Ⅲ	選択	U4	2	3	1	1					60500	
輪講		数理情報学輪講Ⅰ	選択	U4	2	3	1	1						
輪講		数理情報学輪講Ⅱ	選択	U4	2	3					1	1		

コースコードは、U1:数学コース・U2:物理学コース・U3:化学コース・U4:数理情報学コース
 教職コードは、「教職課程」参照。

はじめに
 学修活動
 U N I P A
 共通
 R U
 R B
 R D
 R T
 R G
 資 格
 教職課程
 学生生活
 施 設
 就職・進学
 大 学 院
 そ の 他
 学 則 ・ 規 程

2012年度 カリキュラム 理学系 授業科目配当表

RU

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年		前期		後期		備考	教職コード
							前	後	前	後	前	後		
							前	後	前	後	前	後		
専門教育科目	コース専門科目	職業	理学インターンシップA	選択		2	2	1	1					
		職業	理学インターンシップB	選択		2	2			1	1			
		職業	理学インターンシップC	選択		2	3	1	1					
		職業	理学インターンシップD	選択		2	3			1	1			
		職業	理学インターンシップE	選択		2	4	1	1					
		職業	理学インターンシップF	選択		2	4			1	1			
		職業	情報と職業	選択		2	2			1	1			60600
		職業	情報と職業入門	選択		1	全	1						60600
		職業	情報と倫理	自由		2	2			1	1			60100
		卒業研究	理学特別卒業研究	選択		3	3			3	3	3年以上の在学での卒業対象者のみ適用		
		卒業研究	理学卒業研究 I	必修		③	4	3	3					
		卒業研究	理学卒業研究 II	必修		③	4				3	3		

※1の科目を履修した場合は、同一科目名のおコース科目を履修することはできません。

※ 単位数が〇で囲まれている科目は必修科目。

コースコードは、U1:数学コース・U2:物理学コース・U3:化学コース・U4:数理情報学コース
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

生命理工学系

(Division of Life Science and Engineering)

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

生命理工学系履修モデル

1. 学系の学習・教育目標

21世紀の人類が避けて通ることのできない問題に環境問題や食糧・医療問題などがあります。これらの諸問題を解決していくと同時に安全で快適な生活を維持するためには、まず生命や生体の持つ高度な機能の本質を理解することが重要になります。そして、生命の機能を学びこれを利用しながら、真に人類のためとなる社会やシステムを築いていく必要があります。このためには、今までの基礎工学や医学、理学分野を学ぶだけではなく工学と理学・理学分野を融合した新しい発想に基づくアプローチが求められるようになります。生命理工学系では、理学や工学といったこれまでの枠組みを超えて新たな教育研究分野を構築し、教授することで、これからの人間社会の変化に対応できる柔軟な応用力を身につけた人材を育成する事を目標としています。

また、本学系は理工学部の中で他の学系とも連携を取りながら生命工学に基礎をおいた教育・研究を行うことにより、生命分野における適切な基礎知識と倫理観を有し、創造力にあふれる工学技術者および高度な専門技術者を育成します。

2. カリキュラムの概要

本学系は、生命・生物工学、環境学などに基礎を置いたいくつかの分野から構成されています。カリキュラムは、大学院進学も視野に入れ、各コースとも基礎から応用まで無理なく身につけることができる編成を組んでいます。

生命理工学系では、学生の自主性を重んじ自らが履修計画を立て、卒業に向けしっかりと学習していく姿勢が求められます。講義で学んだ事を実験や演習を通じて確実に自分のものにするように努力するとともに判らなかった部分をそのままにしないで予習・復習もしっかりと行ってください。

カリキュラムは生命・生物工学に関連性を持たせながら工学の基礎分野の習得を行えるように編成しており、同時に幅広い知識を得ることができるよう工夫していますので自分にあった履修計画を立てるようにしてください。

2. 1. コースの概要

本学系の教育分野を次の2コースに分けて編成しています。

各コースの概要は後述します。

(1)「生命科学コース」

細胞内で起こっている生命現象を分子レベルで理解したり、生命と調和した物質を創製するために必要となる知識や分析技術を教育します。

(2)「生物環境コース」

様々な環境変化や刺激に対する生物の応答機構を解明するとともに、生物資源の生産と保存さらに食品への利用につなげるための教育を行っていきます。

2. 2. 授業科目

生命理工学系の授業科目は大きく分けて次のように分類されます。

1) 専門科目・・・学部共通科目群、学系共通科目群、コース専門科目群

2) 人間形成科目群

3) 英語科目群

生命理工学系の卒業条件は、専門科目を 66 単位以上、人間形成科目を 16 単位以上、英語科目を 8 単位以上、学部共通科目を 14 単位以上修得し合計 124 単位以上修得しなければなりません。

各学年における進級条件は表を参照してください。

3. 各コースの概要

3. 1. 生命科学コース

生命科学コースでは、さまざまな生命現象を分子のレベルで理解することを目標としています。DNA やタンパク質の構造・機能を理解し、これらの相互作用にもとづく高次の生命現象について学習します。このため本コースは、生化学や有機化学などの基礎的な科目からはじまり、細胞生物学、遺伝子工学、薬理学、再生医化学などの専門性の高い科目にいたる幅広いカリキュラムから構成されています。また、生命と調和した物質を創製するために必要となる知識や分析技術も身につけます。このカリキュラムのもと、バイオテクノロジー、食品、医薬品、再生医療、生体有用成分に関連する領域での最先端の教育・研究を行います。

カリキュラム：1 年生では生命科学入門や細胞の科学など生化学の基礎となる科目の履修を勧めます。2 年生では有機化学などの基礎的科目の他に、生体組織学や免疫学など細胞や生体レベルで生命現象を解説する科目を中心に、また 3 年生では細胞生物学や再生医化学など専門性の高い科目を学びます。

3. 2. 生物環境コース

生物環境コースでは、環境や食糧など人類の生存と発展に関わる分野を扱います。環境からのさまざまな刺激に対する生物の応答メカニズムを理解するとともに、環境要因を明らかにすることで、植物・微生物を利用した環境保全や生物資源の保全につなげるための学習をします。このため、植物生理学、細胞工学、微生物学、応用微生物学などの植物・微生物関連科目、気象・土壌環境学、植物環境学などの環境関連科目、および食品化学、食品工学、食品加工学などの食品関連科目などからカリキュラムが構成されています。このカリキュラムのもと、生物環境に関連する領域でのバイオテクノロジーの技法を駆使できる力を身につけます。

カリキュラム：1年生では環境生命工学や生命の化学など環境や生化学の基礎となる科目の履修を勧めます。2年生では植物生理学、植物環境学や微生物学など植物や微生物に関連する科目を中心に、また3年生では応用微生物学、生態地球科学、細胞工学、食品工学など応用分野の科目を中心に学習することを勧めます。

4. 1年次における学習の進め方

大学入試を終え、新しい生活に向けて期待に胸ふくらませていることと思います。大学に入って最初の年は大学生活の中でも重要な年になります。1年生の時は焦らずに基礎の勉強をしっかりと行っておくことが求められます。1年生の基礎科目がしっかりと身に付いていないと2年生以降の専門科目の学習が理解できずに習得できなくなってしまい、結局高学年でその影響が大きく生じてきます。このため1年生時における勉学への取り組みには十分注意をしてください。スタートが肝心です。

また、1年生から2年生へは進級条件をクリアしなくてはなりません。生命理工学系では1年次における単位数が30単位に達していないと2年生の進級を許可していません。

1年次には人間形成科目、英語科目、学部共通科目、学系共通科目の中から履修をしていきます。これらの科目群は3年生から4年生の進級条件や卒業条件に深く関わっています。表の進級条件を見て計画を立て1年次にとるべき単位数を各自決めてください。

英語はこれからの国際社会において必要不可欠な科目です。積極的に取り組んでください。また、大学を卒業した学生には高い専門的な学力ばかりでなく、社会で通用する一般教養の知識も求められます。哲学や経済学、心理学など理工学系の学生でも身につけておくべき科目が人間形成科目群です。シラバスや4月当初のガイダンスに参加して自分の興味のある分野を積極的に履修してください。

専門科目には学部共通科目と学系共通科目があります。まず、学部共通科目で数学、物理、化学の基礎を学んでいきます。高校で学んだことの復習と同時に大学で学ぶことの根幹をなす科目です。一方、2年次にコースを選択する際に必要となる学系共通科目があります。学系共通科目は生命理工学系で学んでいくための基礎科目になります。生命科学入門、ゼミ科目はどのコースを選ぶかにかかわらず履修するようにしてください。上記以外の学系共通科目も幅広く履修しておくことを勧めます。1年生の学系共通科目履修は、2年次に進むコース選択の際の参考になると思います。各コースには定員が設けられていますので1年生の間は希望のコースに進むために各自努力を怠らないようにしてください。

5. 2年生～4年生（主コース学生と副コース学生の履修計画と学習の進め方）

（主コース・副コース共に生命理工学系の学生）

2年生以上になるとコース専門科目がよいよ始まります。2年生、3年生では主に学系共通科目とコース専門科目を履修していくこととなります。学系共通科目は、生命理工学系に所属するのであればどのコースに所属するにしても必要となる科目群です。特に実験は重要な科目ですので必ず履修するようにしてください。学系共通科目、コース専門科目ともに3年生から4年生への進級条件があります。表で確認して不足の無いように計画を立てて履修してください。

また、英語科目や人間形成科目の履修も進級条件を考え不足の無いようにすることが重要です。進級条件は、進級に必要な最低条件です。ぎりぎりの単位数で進級や卒業しようとするともまずうまくいきません。条件に書かれている数字は最低条件と理解して、条件は余裕を持ってクリアできるだけの単位数を履修するようにしてください。

4年生になりますと、いよいよ学部時代の仕上げになります。4年生に進級するときには進級条件である104単位でなく卒業単位の124単位もクリアできるようにすることを勧めます。4年生では卒業研究で忙しくなるからです。この卒業研究では1年間かけて各自が独自の研究テーマに取り組みます。4年生までに授業や実験で身につけた知識と技術を総動員して取り組んでください。卒業研究では、高い技術力と研究能力、プレゼンテーション能力を養います。また、大学院へ進学する際の準備段階にもなります。社会人あるいは大学院生なるために必要な知識と技術などを研究を行いながらしっかり身につけるようにしてください。

（主コースのみを生命理工学系とした学生）

人間形成科目、英語科目、学部共通科目に関しては、進級条件を考慮し不足の無いよう余

裕を持って履修してください。3年生から4年生への進級条件では学系共通科目およびコース専門科目に進級条件があり、実験も履修することになっています。条件をよく確認し履修を行ってください。また副コースに関しても他学系にて条件が決められている場合があります。他学系の副コースの履修条件をよく確認し不足の無いようにしてください。

(副コースのみを生命理工学系とした学生)

進級条件は、主コースを選択している学系によりますので主コースのある学系の進級条件を確認して不足の無いように履修を行ってください。副コースでとらなくてはいけない科目数は卒業条件に記載されています。卒業までに必要な学系共通科目および副コースの科目の単位を修得するようにしてください。学系共通科目では、1年生に配当されている生命科学入門を履修し生命理工学系の全体像をつかんでください。また所属する副コースの基礎となる科目は、学系共通科目群から履修しておくことを勧めます。

6. 大学院進学を考えている学生

大学院に進学するということは、研究開発ができるということだけでなく、将来企業や社会のリーダーとなって活躍できる道に進むということを意味します。このために、研究開発ができる能力だけでなく、人格的にも優れたものを持つ必要があります。大学院では学部生時代に学んだ事をさらに深く追求すると同時にそれをきっかけとして幅広い知識を吸収するように心がけてください。このために、国内や国際的な学会へも参加し広く社会を知ることなどが要求されます。

知識を吸収し工学者としても人間としても成長するためには自分の意志をしっかりと持ち、勇気を持って新しい道を切り開かなくてはなりません。1年次にすでに大学院進学を目指している学生もいることと思いますが、4年生になって進学を決める学生もいると思います。進学希望を持った時点からしっかりと自分の将来を見つめ計画を立ててください。大学院に進学する際にこの科目は履修しておかなくてはいけないというものはありません。すでに述べたように、幅広い知識が必要になりますので自分のペースに合わせバランスよく科目を履修するようにしてください。

また修士課程の上には博士課程も準備されています。さらに研究能力を深めて行こうという意志のある学生は博士課程への進学も視野に入れ、真に社会のリーダーとなれるように努力してください。

生命理工学系の履修配置図

		〔生命科学コース〕	〔生物環境コース〕			
4年	生命理工卒業研究Ⅰ・Ⅱ					
3年	〔コース専門科目〕	〔前期〕 生 物 情 報 科 学 有 機 合 成 化 学 遺 伝 子 工 学 生 命 理 工 学 生 命 科 学 実 験 細 胞 工 学 食 品 工 学 生 体 材 料 学	〔前期〕 遺 伝 子 工 学 生 命 理 工 学 食 品 加 工 環 境 計 画 生 物 環 境 実 験 細 胞 工 学 食 品 工 学			
	〔学系共通科目〕	〔前期〕 生態地球科学、生体高分子科学、地学実験、生命分析化学 〔後期〕 機器分析、電気化学、環境適応学				
	〔コース専門科目〕	〔前期〕 免 疫 学	〔前期〕 植 物 環 境 学			
2年	〔コース専門科目〕	〔後期〕 生 体 組 織 学 生 命 理 工 学 ゼ ミⅢ	〔後期〕 気 圏・地 圏 の 環 境 水 圏 の 環 境 生 命 理 工 学 ゼ ミⅢ			
	〔学系共通科目〕	〔前期〕 生命物理化学、生物学、有機化学Ⅰ、遺伝学、食品製造学概論、生物統計学、生化学、生命理工学実験Ⅰ 〔後期〕 生命理工学実践論、環境分析学、分子生物学、無機化学Ⅰ、食品化学、有機化学Ⅱ、植物生理学、生命理工学実験Ⅱ、微生物学				
1年	〔学系共通科目〕	〔前期〕 生命科学入門、生命理工学ゼミⅠ 〔後期〕 生命の化学、環境生命工学、細胞の科学、生命理工学ゼミⅡ、基礎有機化学				
	〔学部共通科目（基礎科目）〕	数学基礎・物理学基礎・化学基礎・物理学基礎演習・化学基礎演習、 基礎微積分学A・B、基礎線形代数学A・B、物理学A・B、一般物理学実験、化学A・B、 一般化学実験、環境科学、情報処理A・B、立体図学、工学基礎、生物科学				

共通教育科目
人間形成科目
英語科目

生命理工学系 進級条件表

(2012年度カリキュラム)

RB

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと

2年次→3年次

進級条件を設けない

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1. 下記の単位を修得のこと

科目区分		単位数	(卒業条件)
人間形成科目		12	(16)
英語科目		6	(8)
学部共通科目		12	(14)
副コースを 生命理工学系か ら選んだ場合	学系共通科目		28 (36)
	コース専門科目	主コース	14 (22)※
		副コース	6 (8)
副コースを 他学系から選ん だ場合	学系共通科目	主コース	22 (26)
		副コース	10 (14)
	コース専門科目	主コース	14 (22)※
		副コース	2 (4)

※は、卒業研究を含む

2. 上の条件に加えて、以下に定める科目・単位を修得のこと

	以下の条件を満たし、3年次までに配当されている専門科目(学部共通科目群・学系共通科目群・コース科目群)から78単位以上を修得のこと
学系共通科目群 および コース科目群	1. 副コースを生命理工学系とした場合
	以下の条件を満たし、学系共通科目群およびコース科目群より、56単位以上修得のこと
	①「生命理工学実験Ⅰ・Ⅱ」および所属する主コースの実験科目を全て修得すること
	②「生命理工学ゼミⅠ～Ⅳ」および「生命理工学キャリア開発ゼミ」を全て修得すること
	2. 副コースを生命理工学系以外の学系から選択した場合
	以下の条件を満たすこと。
	①「生命理工学実験Ⅰ・Ⅱ」および所属する主コースの実験科目を全て修得すること
	②「生命理工学ゼミⅠ～Ⅳ」および「生命理工学キャリア開発ゼミ」を全て修得すること

※副コースのみ、生命理工学系のコースを選択した場合の進級基準は、主コースの学系・コースに従う

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

2012年度 カリキュラム 生命理工学系 授業科目配当表

RB

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
								前前期	前後期	後前期	後後期		
学系共通科目	生命理工学系共通科目	基礎	生命科学入門	選択		2	1	1					
		基礎	生命の化学	選択		2	1			1	1		30300
		基礎	細胞の科学	選択		2	1			1	1		30500
		基礎	環境生命工学	選択		2	1			1	1		30500
		基礎	基礎有機化学	選択		2	1			1	1		
		生物	生物学	選択		2	2	1	1				30500
		生物	遺伝学	選択		2	2	1	1				30500
		生物	微生物学	選択		2	2			1	1		30500
		生物	生物統計学	選択		2	2	1	1				
		化学	有機化学 I	選択		2	2	1	1				30300
		化学	生物物理化学	選択		2	2	1	1				30300
		化学	食品製造学概論	選択		2	2	1	1				
		生物	分子生物学	選択		2	2			1	1		30500
		生物	植物生理学	選択		2	2			1	1		30500
		生命	生化学	選択		2	2	1	1				30300
		生命	食品化学	選択		2	2			1	1		
		化学	有機化学 II	選択		2	2			1	1		30300
		化学	無機化学 I	選択		2	2			1	1		30300
		化学	環境分析学	選択		2	2			1	1		
		職業	生命理工学実践論	選択		2	2			1	1		
		生物	生態地球科学	選択		2	3	1	1				30700
		化学	生命分析化学	選択		2	3	1	1				30300
		化学	生体高分子科学	選択		2	3	1	1				30300
		化学	環境適応学	選択		2	3			1	1		
		化学	機器分析	選択		2	3			1	1		70100
		化学	電気化学	選択		2	3			1	1		30300
		ゼミ	生命理工学ゼミ I	選択		2	1	1	1				
		ゼミ	生命理工学ゼミ II	選択		2	1			1	1		
		実験	生命理工学実験 I	選択		2	2	2	2				30600
		実験	生命理工学実験 II	選択		2	2			2	2		30600
		地学	地学実験	選択		2	3			半期1コマ			30800
		コース専門(生命科学)	生命科学	生物	免疫学	選択	B1	2	2	1	1		
生物	生体組織学			選択	B1	2	2			1	1	30500	
生命	生物情報科学			選択	B1	2	3	1	1				
生命	遺伝子工学			選択	B1・B2	2	3	1	1			30500	
生命	生体材料学			選択	B1	2	3	1	1				
化学	有機合成化学			選択	B1	2	3	1	1				
生物	細胞生物学			選択	B1・B2	2	3			1	1		
生命	薬理学			選択	B1	2	3			1	1	30500	
生命	再生医化学			選択	B1	2	3			1	1	30300	
化学	高分子化学			選択	B1	2	3			1	1		
実験	生命科学実験 I			選択	B1	2	3	2	2			30600	
実験	生命科学実験 II			選択	B1	2	3			2	2	30600	
コース専門(生物環境)	生物環境	生物	植物環境学	選択	B2	2	2	1	1				
		環境	水圏の環境	選択	B2	2	2			1	1	70100	
		環境	気圏・地圏の環境	選択	B2	2	2			1	1	70100	
		生物	細胞工学	選択	B1・B2	2	3	1	1			30500	
		化学	食品工学	選択	B1・B2	2	3	1	1				
		化学	食品加工学	選択	B2	2	3	1	1				
		化学	環境計測	選択	B2	2	3	1	1				
		生物	応用微生物学	選択	B2	2	3			1	1	30500	
		化学	生物反応学	選択	B2	2	3			1	1	30500	
		環境	生物圏の環境	選択	B2	2	3			1	1	70100	
		実験	生物環境実験 I	選択	B2	2	3	2	2			30600	
		実験	生物環境実験 II	選択	B2	2	3			2	2	30600	

※ コースコードは、B1:生命科学コース・B2:生物環境コース。 ※ 教職コードは、「教職課程」参照。

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	前期		後期		備考	教職コード	
							前前期	前后期	後前期	後后期			
専門教育科目	コース専門科目	職業	情報と職業入門	選択		1	全	1				60600	
		職業	情報と職業	選択		2	全			1	1		60600
		職業	情報と倫理	自由		2	2			1	1		60100
		職業	職業指導	自由		4	4	1	1	1	1		70200
		ゼミ	生命理工学ゼミⅢ	選択	B1・B2	2	2			1	1		
		ゼミ	生命理工学ゼミⅣ	選択	B1・B2	2	3	1	1				
		ゼミ	生命理工学キャリア開発ゼミ	選択	B1・B2	2	3			1	1		
		職業	生命理工インターンシップA	選択		2	2	1	1				
		職業	生命理工インターンシップB	選択		2	2			1	1		
		職業	生命理工インターンシップC	選択		2	3	1	1				
		職業	生命理工インターンシップD	選択		2	3			1	1		
		職業	生命理工インターンシップE	選択		2	4	1	1				
		職業	生命理工インターンシップF	選択		2	4			1	1		
		卒研	生命理工特別卒業研究	選択		3	3			3	3	3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
		卒研	生命理工卒業研究Ⅰ	必修		③	4	3	3				
卒研	生命理工卒業研究Ⅱ	必修		③	4			3	3				

※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

※ コースコードは、B1:生命科学コース・B2:生物環境コース。

※ 教職コードは、「教職課程」参照。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

専門教育科目

情報システムデザイン学系

(Division of Information System Design)

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

情報システムデザイン学系履修モデル

学系の学習・教育目標

朝起きてから寝るまで、そして寝ている間さえ、私たちの暮らしを支える情報技術は休むことなく動き続けています。しかし情報技術は便利で快適な反面、新たな格差や社会問題、犯罪を引き起こす要因ともなってきました。科学技術だけでは、人間や社会に関する知識だけでは、解決できない複雑な問題を抱えた社会、それが私たちの暮らしている情報社会なのです。

そこで東京電機大学では創立100周年となる2007年に、情報科学科、情報システム工学科、電子情報工学科、情報社会学科の4学科から情報に関わる領域を選択・融合し、「情報学」を多面的、総合的に学べる文理複合系教育組織として「コンピュータソフトウェアコース」「ネットワークシステムコース」「アミューズメントデザインコース」「社会コミュニケーションコース」の4つのコースから成る「情報システムデザイン学系」を発足させました。さらに2009年からは「コンピュータサイエンスコース」も加わり教育研究の幅がより広がりました。

「情報学」とは、情報に関する広範な研究領域を総合的に扱う学問です。情報学は対象とする領域が広く、情報、ネットワーク、コンピュータ、現代社会、表現創造などさまざまな異なった分野から構成されています。本学系では主・副コース選択制カリキュラムとマルチメディア教育環境を有効に活用し、君たちが本当に学びたいことを見つけ出し、それに必要な専門知識と実践力を身に付け情報学の専門家として活躍できるようになることを目標に、理学系、工学系、情報系、人文社会系、芸術系の専門家を擁するバラエティ豊かな教授陣が一致協力し教育を進めていきます。

学系のカリキュラムの概要

本学系では、学系共通カリキュラムとして、「情報数学」「コミュニケーション」「情報技術」「表現学」「プログラミング」の基礎について講義、ゼミ、実習など、さまざまな授業形態で立体的、総合的に学んでいきます。これらの5項目は、情報学を学ぶ学生においてはどれも重要なもので、すべてのコースの学生が共通に学ぶべき事項となっています。例えば人文社会系の色彩が強い社会コミュニケーションコースにおいては、統計的データを定量的に扱う必要から情報数学の知識は必要となりますし、プログラミングに対する知識がなければ、社

会で役立つソフトウェアの仕組みを想像することすらできないでしょう。理工系的色彩の強い、コンピュータサイエンスコース、コンピュータソフトウェアコース、ネットワークシステムコースにおいては、表現力、コミュニケーション力がなければ、使いやすく大規模なソフトウェアやネットワークシステムの開発はおぼつかないですし、社会で役立つソフトウェアを設計する場合には社会に対する知識は必ず役に立つはずで

客観的には、2年生修了時に「基本情報技術者」試験に合格できる程度の知識を身に付けることを目標に勉強していくと良いでしょう。

各コースの概要

●コンピュータソフトウェアコース（D1）

プログラミング、グラフィックス、人工知能の各分野から専門技術を修得し、コンピュータソフトウェアの設計・開発に関する総合的な実習を通じて、コンピュータソフトウェアの高度化・知能化に挑戦します。本コースでは、ビジネスからアミューズメント産業まで、あらゆる分野に現れるソフトウェアの開発に必要な技術を習得することができます。1年次から3年次までに、C言語やJ A V A、ゲームプログラミング、人工知能プログラミング、コンピュータグラフィックスなど、プログラミングに関する幅広い講義、演習が用意されており、プログラミングの様々な技法を実践的に学ぶことができます。

●ネットワークシステムコース（D2）

情報ネットワークを構成する機器やその動作原理、様々な通信方式や情報サービスなど、情報ネットワークを構築・利用するために必要な知識を垂直的・網羅的に学ぶことを目標としています。これらの学修を通じて、次世代の情報ネットワーク基盤を支え発展させることの出来る高度な技術者の育成を目指します。さらに、他のコースと合わせて学修することにより、情報ネットワークを様々な分野に適用することの出来る、広い見識を得ることもできます。

●アミューズメントデザインコース（D3）

新しい情報社会の潮流のなかで、「遊び」や「人を楽しませること」に関わるテクノロジー、芸術、文化について学び、感動力・発想力をあわせ持つ表現創造型情報技術者の養成を目指します。現在から未来、さらにその先に向けた情報デザインには、「どうやって」作るのかという技術習得を超え「何を、何のために」作るのかという、作るモノの存在と、その価値観をも、ゼロから創り出す提案力が求められます。美術、映像、CG、電子出版、音楽制作等の分野を、それぞれ「技術」「文化」「表現」「コミュニケーション」等の視点から多角的

に捉えることを重視、人間の感性と情報技術の高度なコミュニケーションメディアであるアミューズメントを総合的に科学することで、番組制作者やCG・ウェブデザイナー、ゲームクリエイター等、コンテンツの中身そのものをトータルデザインし、社会に向けて情報発信することを目標とします。

●社会コミュニケーションコース (D4)

情報伝達という観点から、コミュニケーションの多様な機能について心理学的、文化論的な理解を深めます。コミュニケーションという語の原義は、「意志、感情、思考の伝達」と理解されています。本コースではさらに、社会とコミュニケーションを扱うにあたり、コミュニケーションの原義である「共有」をキーワードにその本質・現代的意義に迫っていきます。また、私たちが生活する場はすべて人工物に囲まれています。裸の自然など私たちの身の周りには存在しません。私たちは自然をなんらかの方法によって心地よい方向に加工してきたのです。すなわち、現代社会を特徴づけるものは自然科学や技術のめざましい発展に支えられたメタ・ライフスタイルなのです。本コースでは、IT（情報技術）を基盤とする社会を前提とし、人間の内面（心）、外面（身体）を含めた社会環境、ライフスタイルに関する諸問題、文化交流、コミュニケーション一般に関する問題の発見・解決のため、文理複合的な観点から教育研究を行います。

●コンピュータサイエンスコース (D5)

コンピュータはパソコンやインターネットに使われるだけでなく、あらゆる機械や社会システムに組み込まれ、現代のさまざまな文化の基盤となっています。コンピュータサイエンスコースでは、このような観点からコンピュータを理論と実際の両面から極めることを目標に、ソフトウェア技術の枠を超えて情報科学の理論と基礎から応用技術までを学びます。理論と技術を体得できるようにコンピュータサイエンスコースは本学の伝統である実学精神にもとづいた実験・演習に重点を置いています。このような教育を通してソフトウェア開発、システム開発、システム・エンジニアなどの広い情報通信分野で国際的に活躍できる技術者・研究開発者を育成します。

一年次の履修計画の立て方・学習の進め方

1年生から2年生に進級するのに必要な単位数は30ですが卒業に必要な単位数は124となっていますので、最低でも40単位、できれば、45単位を目標に履修してください。

「情報学」で取り扱う学問領域には、理学、工学はもちろん、人文科学や社会科学、芸術なども含まれます。従って学系の専門科目はもちろんですが、共通教育科目もできる限り履

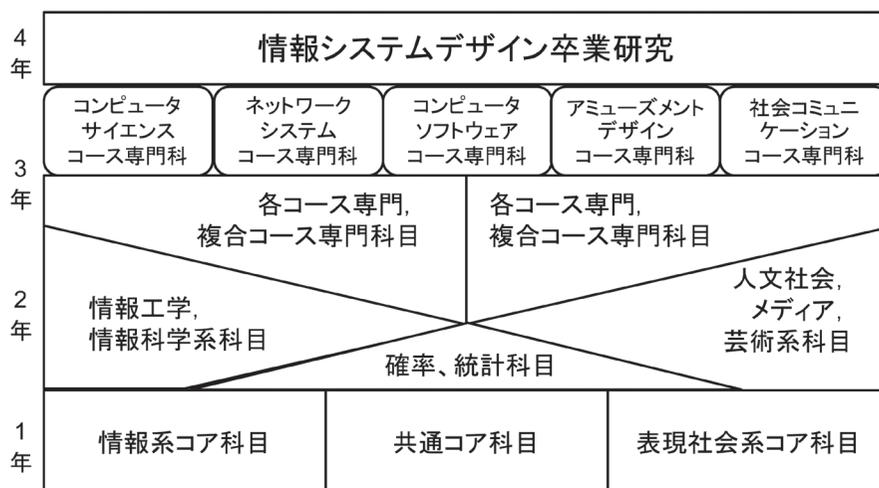
はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

習する必要があります。英語や自然科学（数学、物理、化学）の基礎科目、人間形成科目についてはできるだけ1年次に履習するようにしましょう。

1年終了時には、主コース、副コースの選択を行います。1年次に履習できる学系専門科目はまだ少ししかありませんが、自分が第一希望とするコースに関係する科目はもちろん、他コースに関連のある科目についても積極的に履習し、情報学の全体像を捉えるとともに、基礎学力を充実させることを目指してください。

情報システムデザイン学系で学ぶカリキュラムの構成

情報システムデザイン学系では、情報学に関する広範な領域を体系的に学んでいけるように、各コースにつながる基礎的分野を、「情報系コア科目」「表現社会系コア科目」「共通コア科目」に分け学習していきます。さらに学年進行とともに複合コース専門科目、コース専門科目を学び、各自の専門性を高めていけるようなカリキュラム構成となっています。



情報システムデザイン学系のカリキュラム構成概念図

コア科目

情報系コア科目、表現社会系コア科目、共通コア科目で構成されています。主として、1、2年次に配当される科目です。共通コア科目には、情報社会学入門、情報数学、デザイン学、コンピュータ基礎Ⅰ・Ⅱ、基礎確率論、コンピュータプログラミングⅠ・同演習などが含まれます。共通コア科目の総合的な演習を行う科目が情報学基礎実習です。これらは希望するコースに関係なく全員が身につけなければならない基礎的な内容を含む科目となっています。

情報系コア科目は、主としてコンピュータソフトウェアコース、ネットワークシステムコース、コンピュータサイエンスコースの学生はすべて履修してもらい、アミューズメントデザ

インコース、社会コミュニケーションコースの学生は科目の一部を履修してもらいます。情報系コア科目には、電気基礎、論理回路、情報ネットワーク概論、アルゴリズムとデータ構造、情報符号理論、コンピュータプログラミングⅡ・同演習などが含まれます。情報系コア科目の総合的な演習を行う科目が情報システム実験Ⅰ・Ⅱです。

表現・社会系コア科目は、主としてアミューズメントデザインコース、社会コミュニケーションコースの学生すべてに履修してもらい、コンピュータソフトウェアコース、ネットワークシステムコース、コンピュータサイエンスコースの学生は科目の一部を履修してもらいます。表現・社会系コア科目には、造形デザイン実習、言語と表現、美術・芸術学、現代マスコミ論、色彩論、社会心理学などが含まれます。表現・社会系コア科目の総合的な演習を行う科目が情報社会学実習Ⅰ・Ⅱです。

2、3年次からは、複数のコースが共同で設置している複合コース専門科目、各自が主コース、副コースとして選んだコースのコース専門科目を学びます。コース専門科目の総合的な演習を行う科目として各コースの名称がついた実習（または実験）科目があります。

キャリア科目

キャリア科目は、共通教育や専門分野とは別に将来社会人として活躍していくために必要な知識や心構えを身につけることを目的とする科目です。進級条件としては、情報システムデザイン概論と日本語表現力だけが指定されていますが、他のキャリア科目についてもできるだけ履修し、自分を高める努力を積み重ねてください。

(2～4年次生向け) 主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

●コンピュータソフトウェアコース

本コースでは、以下の6つの分野に取り組みます。

【数理】グラフィックス処理、プログラミング、人工知能のための数理を学ぶ。

【人工知能】人間と同じ感覚でつきあえるような究極のソフトウェアづくりを目指す。

【プログラミング】C言語、C++言語、J A V A言語を習得し、ネットワークプログラミングとゲームプログラミングに取り組む。

【CG・音響】グラフィックスとサウンドのコンピュータ処理技術を実践的に学ぶ。

【ソフトウェア開発】ソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク、情報と経営の各方面を幅広く学び、視野の広いITエンジニアを目指す。

【総合】人工知能、CG、ゲーム、画像処理、図形処理を題材に、大規模なソフトウェアの開発を行う。

はじめに
学修活動
U N I P A
共通
R U
R B
R D
R T
R G
資 格
教 職 課 程
学 生 生 活
施 設
就 職 ・ 進 学
大 学 院 そ の 他
学 則 ・ 規 程

これらの分野を総合的に学習することにより、ソフトウェア開発者としての実践的な技術と幅広い教養を身に付けることができます。

本コースでは、履修モデル図に履修を推奨する科目を分野名もつけて提示しますので、履修科目選択の際の目安としてください。また、副コースを選択することにより、自分にとって大切な分野をより重点的に学習することができます。

●ネットワークシステムコース

1年次から2年次にかけては、学部共通科目と学系共通科目を中心に学ぶことになります。ここでしっかりと基礎的な知識を身につけることが、コース専門科目を学ぶ上で重要になります。特にネットワークシステムコースの専門科目を学ぶ際には、学系共通科目の内容だけでなく、微分積分学、線形代数学、電磁気や波動などの物理学といった、学部共通科目で得られる知識も必要とされることが少なくありません。上級年次になって困らないように、こうした科目は1年次のうちにしっかりと理解しておきましょう。

進級条件では、指定した科目群から一定の科目数を履修するよう付帯条件が付けられています。ここで指定した科目は、いずれもネットワークシステムの概要を理解する上で重要なものですから、所定の科目数をクリアするだけでなく、全科目を履修するよう心がけてください。

●アミューズメントデザインコース

私たちの生活を取り巻く多くの「モノ」は例外なく人によって「デザイン」されたものです。人の役に立ち、人を楽しませる「モノ」をデザインするということは、仕組みを支える技術と、その技術を形にするアート感覚とをバランス良く身に付けることで初めて可能となります。1年次から2年次にかけては学部共通科目と学系共通科目を学ぶことで、「モノ」の仕組みの基本的な知識と表現の技法を習得します。2年次以降、コース専門科目では「仕組み」に関する知識と技術に加え、様々な文化的な側面についても学びます。

本コースでは、感性工学、メディア学、芸術表現学、映像情報美、現代音楽の専門家がそれぞれの専門分野の核となる科目を開講していますので、感性工学、出版メディア論、遊戯文化論、映像制作論、音響空間デザイン論の中から少なくとも2科目、可能であればすべての科目を履修することで幅広い視野を身に付けることが望めます。また、工学から表現学に至る幅広い分野に関する実習を通して多眼的、実践的な問題解決力を身に付けることを望みます。

●社会コミュニケーションコース

本コースでは、大別して、以下の研究が行われています。

1. 認知心理学および社会心理学の研究を倫理実証主義に立脚して行っています。認知心理学では記憶、知識、思考、情報処理に関するもの、社会心理学ではコミュニケーション、社会調査、対人関係に関するものを扱います。
2. 「Non-Verbal Communication」、つまりは身体を使ったジェスチャー、視線を用いたコミュニケーションについて研究しています。
3. 教師と学生、医師と患者、技術者とユーザとの間にある隔たりを、メディアという名の橋でつなくコミュニケーションの研究をしています。具体的には、CG、動画、音声などのメディアとインターネット技術を利用した、効果的な教育や訓練を行うための、ゲームや教材の研究開発を行っています。
4. 演劇的身体論に関する研究、化粧と身体—表現媒体としての仮面と化粧という括りの研究、そしてアート・デザインの発想による都市空間に関する研究を行っています。
5. インターネット・マガジンの編集を目的とするゼミを設置しています。そうして情報社会における編集工学のエディターをめざすのです。

なお、社会コミュニケーションコースにおいて研究を進める主要な方向として以下の3つがあります。

1. 認知・社会（社会調査論A・B、性格心理学、社会心理学）
2. メディア・文化（文化表象論、環境健康論A・B、メディア×カルチャー）
3. 言語・コミュニケーション（非言語コミュニケーション論、教育システムデザイン論、人間計測法）

●コンピュータサイエンス（コンピュータサイエンス）コース

コンピュータサイエンスコースでは、まずコンピュータ基礎Ⅰ、Ⅱを履修してコンピュータの原理を学び、コンピュータプログラミングⅠ・同演習を履修してC言語を勉強することが重要です。C言語はJavaなどの他の言語、またプログラミングやアルゴリズムとデータ構造の基礎にもなっています。さらに数学、物理、英語に関する学部共通科目もコンピュータサイエンスコースの大事な基礎科目です。

2年次のコンピュータプログラミングⅡ・同演習を履修してC言語をマスターすることが重要です。学系共通科目のアルゴリズムとデータ構造Ⅰ、Ⅱを履修して高度なCプログラミングと基本的なアルゴリズムを、また、コンピュータサイエンス演習Ⅰを履修してJavaのプログラミングについて演習を通して学習することが大事です。さらにコンピュータサイエ

ンス演習Ⅱではデータベースとネットワークのプログラミングを学習します。コンピュータサイエンス実験もコンピュータサイエンスコースで情報技術の基礎と実際に体得するための重要な必修科目です。その他いくつかのコース専門科目についてはコースの教員と相談して履修科目を選択します。

(2～4年次生向け) 副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

●コンピュータソフトウェアコース

本コースでは、数理、人工知能、プログラミング、CG・音響、ソフトウェア開発、総合の6つの分野に分類して履修を推奨する科目を提示していますので、科目選択の際の目安としてください。本コースを副コースとして選択する場合、どの科目を履修しても進級条件を満たすことは可能です。

●ネットワークシステムコース

情報システムデザイン学系の学生が本コースを副コースとする場合、進級条件に付帯する科目は主コースとして履修する場合と同じになります。これらの科目の中には、数学や物理学の知識を必要とするものも含まれていますので、できるだけ1年次のときに対応する学部共通科目を履修するよう心がけてください。異なる学系の学生が本コースを副コースとする場合は、こうした付帯条件は無く、単位数のみで副コースの進級条件を満足できます。主コースの履修内容と関連性の高い科目を履修し、将来のキャリアアップに生かすよう努めてください。

●アミューズメントデザインコース

本コースは、感性工学、メディア情報学、芸術表現学、映像情報美、現代音楽、デザイン学の専門家がそれぞれの専門分野の核となる科目を開講しています。どの科目を履修しても進級条件を満たすこと自体は可能となりますが、出来るだけ感性工学、出版メディア論、遊戯文化論、映像制作論、音響空間デザイン論を含め、各自の主コースとの関連のある科目を中心に履修することを推奨します。

●社会コミュニケーションコース

本コースでは、大別して以下の研究が行われています。

1. 認知心理学および社会心理学。
2. 「Non-Verbal Communication」、つまり身体を使ったジェスチャー、視線を用いたコミュニケーション。
3. 教師と学生、医師と患者、技術者とユーザとの間にある隔たりを、メディアという名の

橋でつなくコミュニケーション。

4. 演劇的身体論、化粧と身体、アート・デザインの発想による都市空間。
5. 感性文化論、インターネット・マガジンの編集を主とするエディター育成。

なお、社会コミュニケーションコースにおいて研究を進める主要な方向として以下の5つがあります。1. 認知・社会心理学、2. 空間身体学、3. 言語・コミュニケーション、4. 感性文化学、5. メディアコミュニケーション。

●コンピュータサイエンス（コンピュータサイエンス）コース

コンピュータサイエンスコースは情報技術者、システム開発のエキスパートの育成を目指しています。このため、1、2年次でコンピュータやC言語などの基礎を学び、その後で、コンピュータサイエンス演習などの科目で基礎から応用を段階的に学習するようになっていきます。このため、このコースを副コースとして選ぶときには、できるだけ前提となる基礎科目を履修しておく必要があります。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

情報システムデザイン学系科目配置図

	コンピュータサイエンスコース専門科目	コンピュータソフトウェアコース専門科目	ネットワークシステムコース専門科目	アミューズメントデザインコース専門科目	社会コミュニケーションコース	キャリア科目	学部共通	
4年	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ・Ⅱ					情報システムデザインインターンシップE・F 情報と職業入門		
	社会調査実習Ⅰ・Ⅱ	社会調査実習Ⅰ・Ⅱ	社会調査実習Ⅰ・Ⅱ	社会調査実習Ⅰ・Ⅱ	社会調査実習Ⅰ・Ⅱ	情報と職業		
3年	情報学ゼミ アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	情報学ゼミ アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	情報学ゼミ アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	情報学ゼミ 感性とデザイン	情報学ゼミ 感性とデザイン	情報産業論 地域貢献論		
	コンパイラ	コンパイラ	計算量と暗号	空間音響 デザイン論	非言語コミュニケーション論	情報システムデザインインターンシップC・D 情報と職業入門		
	計算量と暗号	画像工学	多変量解析	遊戯文化論	多変量解析 教育システムデザイン論	情報と職業		
	ソフトウェア工学	空間情報処理	確率ネットワーク	映像制作論				
	数理最適化入門	数理最適化入門	数理最適化入門	アミューズメント産業論	人間計測法			
	知識と推論	数理とデザイン	ワイヤレスネットワーク	数理とデザイン	メディア×カルチャー			
	論理プログラミング	論理プログラミング	画像工学	インタラクティブデザイン論	文化表象論			
	コンピュータサイエンス実験 ゲームプログラミングB	ソフトウェア工学 ゲームプログラミングB	ソフトウェア工学	アミューズメントデバイス論 ゲームプログラミングB	遊戯文化論 社会調査論B			
	人工知能プログラミング	ネットワークプログラミング	ネットワークプログラミング					
	コンピュータサイエンス演習Ⅰ	オブジェクト指向プログラミング	オブジェクト指向プログラミング					
	コンピュータサイエンス演習Ⅱ	コンピュータソフトウェア実習	ネットワークシステム実習	アミューズメントデザイン実習	社会コミュニケーション実習			
	学系共通							
	オペレーティングシステム	コンピュータ設計学	データベース	経営情報論	イメージ創造学			
2年	フーリエ解析	コンピュータグラフィックスⅠ	動的システム	コンピュータグラフィックスⅠ	環境健康論A	キャリア開発論		
	組み込みシステム	コンピュータグラフィックスⅡ	フーリエ解析	コンピュータグラフィックスⅡ	環境健康論B	基本情報処理技術		
	ゲームプログラミングA	ゲームプログラミングA	情報伝送工学	ゲームプログラミングA	性格心理学	情報システムデザインインターンシップA・B 情報と職業入門		
			組み込みシステム	音楽構造論	社会調査論A	情報と職業		
	情報システム実験Ⅰ	情報システム実験Ⅰ	情報システム実験Ⅰ	感性工学	出版メディア論			
	情報システム実験Ⅱ	情報システム実験Ⅱ	情報システム実験Ⅱ	情報社会学実習Ⅰ	情報社会学実習Ⅰ			
				情報社会学実習Ⅱ	情報社会学実習Ⅱ			
	学系共通							
	数値解析学	統計学Ⅰ	情報ネットワーク概論	音楽文化論	現代マスコミ論			
	情報・符号理論	統計学Ⅱ	電気基礎	空間演出 デザイン論	社会心理学			
	コミュニケーション科学		論理回路	美術・芸術学	言語と表現			
	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ		色彩論	形式言語とオートマトン				
	コンピュータプログラミングⅡ・同演習							
1年	学系共通						情報システムデザイン概論 日本語表現力	
	情報社会学入門	情報数学	情報学基礎実習	デザイン学	基礎確率論	情報と職業入門		
	コンピュータ基礎Ⅰ	コンピュータ基礎Ⅱ	造形デザイン実習	コンピュータプログラミングⅠ・同演習		情報と職業		

共通教育科目
人間形成科目
英語科目

情報システムデザイン学系 進級条件表

(2012年度カリキュラム)

RD

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと

2年次→3年次

進級条件を設けない

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1. 下記の単位を修得のこと

科目区分		単位数	(卒業条件)
人間形成科目		12	(16)
英語科目		6	(8)
学部共通科目		12	(14)
副コースを 情報システムデザイン学系から 選んだ場合	学系共通科目		28 (36)
	コース専門科目	主コース	14 (22)※
		副コース	6 (8)
副コースを 他学系から選んだ場合	学系共通科目	主コース	22 (26)
		副コース	10 (14)
	コース専門科目	主コース	14 (22)※
		副コース	2 (4)

※は、卒業研究を含む

2. 情報システムデザイン学系の各コースを主専攻コースで選んだ場合、下記科目を履修し単位を修得していること。

コンピュータサイエンスコース	コンピュータソフトウェア	ネットワークシステム	アミューズメントデザイン	社会コミュニケーション
情報システムデザイン概論 日本語表現力 情報社会学入門 コンピュータプログラミングⅠ・同演習 情報学基礎実習 情報学ゼミ	情報システムデザイン概論 日本語表現力 情報社会学入門 コンピュータプログラミングⅠ・同演習 情報学基礎実習 情報学ゼミ	情報システムデザイン概論 日本語表現力 情報社会学入門 コンピュータプログラミングⅠ・同演習 情報学基礎実習 情報学ゼミ	情報システムデザイン概論 日本語表現力 情報社会学入門 コンピュータプログラミングⅠ・同演習 情報学基礎実習 情報学ゼミ	情報システムデザイン概論 日本語表現力 情報社会学入門 コンピュータプログラミングⅠ・同演習 情報学基礎実習 情報学ゼミ
情報システム実験Ⅰ 情報システム実験Ⅱ コンピュータサイエンス実験 コンピュータプログラミングⅡ・同演習	情報システム実験Ⅰ 情報システム実験Ⅱ コンピュータソフトウェア実習	情報システム実験Ⅰ 情報システム実験Ⅱ ネットワークシステム実習	情報社会学実習Ⅰ 情報社会学実習Ⅱ アミューズメントデザイン実習	情報社会学実習Ⅰ 情報社会学実習Ⅱ 社会コミュニケーション実習
次の6科目のうち4科目以上を修得のこと	次の6科目のうち4科目以上を修得のこと	次の6科目のうち4科目以上を修得のこと	次の6科目のうち4科目以上を修得のこと	次の6科目のうち4科目以上を修得のこと
情報数学 コンピュータ基礎Ⅰ コンピュータ基礎Ⅱ 基礎確率論 デザイン学 統計学Ⅰ	情報数学 コンピュータ基礎Ⅰ コンピュータ基礎Ⅱ 基礎確率論 デザイン学 統計学Ⅰ	情報数学 コンピュータ基礎Ⅰ コンピュータ基礎Ⅱ 基礎確率論 デザイン学 統計学Ⅰ	情報数学 コンピュータ基礎Ⅰ コンピュータ基礎Ⅱ 基礎確率論 デザイン学 統計学Ⅰ	情報数学 コンピュータ基礎Ⅰ コンピュータ基礎Ⅱ 基礎確率論 デザイン学 統計学Ⅰ
次の6科目のうち3科目以上を修得のこと	次の7科目のうち3科目以上を修得のこと	次の7科目のうち3科目以上を修得のこと	次の9科目のうち4科目以上を修得のこと	次の9科目のうち4科目以上を修得のこと
電気基礎 論理回路 情報ネットワーク概論 データベース アルゴリズムとデータ構造Ⅰ 情報・符号理論	電気基礎 論理回路 情報ネットワーク概論 データベース アルゴリズムとデータ構造Ⅰ 情報・符号理論 コンピュータプログラミングⅡ・同演習	電気基礎 論理回路 情報ネットワーク概論 データベース アルゴリズムとデータ構造Ⅰ 情報・符号理論 コンピュータプログラミングⅡ・同演習	造形デザイン実習 言語と表現 美術芸術学 現代マスコミ論 空間演出デザイン論 色彩論 社会心理学 コミュニケーション科学 イメージ創造学	造形デザイン実習 言語と表現 美術芸術学 現代マスコミ論 空間演出デザイン論 色彩論 社会心理学 コミュニケーション科学 イメージ創造学
次の7科目中4科目以上を修得のこと	次の9科目中4科目以上を修得のこと	次の5科目中3科目以上を修得のこと	次の9科目中3科目以上を修得のこと	次の5科目中2科目以上を修得のこと
数理最適化入門 組み込みシステム 知識と推論 アルゴリズムとデータ構造Ⅱ ソフトウェア工学 コンピュータサイエンス演習Ⅰ コンピュータサイエンス演習Ⅱ	数理最適化入門 ソフトウェア工学 アルゴリズムとデータ構造Ⅱ ゲームプログラミングA ゲームプログラミングB 人工知能プログラミング ネットワークプログラミング オブジェクト指向プログラミング 論理プログラミング	動的システム フーリエ解析 情報伝送工学 ワイヤレスネットワーク ネットワークプログラミング	感性工学 映像制作論 音楽構造論 遊戯文化論 インタラクティブデザイン論 ゲームプログラミングA ゲームプログラミングB コンピュータグラフィックスⅠ コンピュータグラフィックスⅡ	メディア×カルチャー 文化表象論 非言語コミュニケーション論 性格心理学 教育システムデザイン論

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

2012年度 カリキュラム 情報システムデザイン学系 授業科目配当表 RD

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	前期		後期		備考	教職コード	
							前前期	前後期	後前期	後後期			
専門教育科目	学系共通科目	アート&デザイン	造形デザイン実習	選択		2	1	1				60500	
	学系共通科目		デザイン学	選択		2	1			1	1		
	学系共通科目		音楽文化論	選択		2	2	1	1				
	学系共通科目		空間演出デザイン論	選択		2	2	1	1				
	学系共通科目		美術・芸術学	選択		2	2	1	1				
	学系共通科目		色彩論	選択		2	2				1	1	
	コース専門科目		音楽構造論	選択	D3	2	2				1	1	
	コース専門科目		映像制作論	選択	D3	2	3	1	1				
	学系共通科目		イメージ創造学	選択		2	3				1	1	
	コース専門科目		感性とデザイン	選択	D3・D4	2	3				1	1	
	コース専門科目	空間音響デザイン論	選択	D3	2	3				1	1		
	学系共通科目	キャリアデザイン	情報システムデザイン概論	必修		②	1	1	1				60100
	学系共通科目		日本語表現力	必修		②	1	1	1				
	学系共通科目		キャリア開発論	選択		1	2	1*		1			前期は再履修または担当教員が特別に認めた者のみ履修可
	学系共通科目		基本情報処理技術	選択		2	2	1	1				60200
	コース専門科目		情報システムデザインインターンシップA	選択		2	2	1	1				
	コース専門科目		情報システムデザインインターンシップB	選択		2	2				1	1	
	学系共通科目		情報産業論	選択		2	3	1	1				
	学系共通科目		地域貢献論	選択		2	3	1	1				
	コース専門科目		情報システムデザインインターンシップC	選択		2	3	1	1				
	コース専門科目		情報システムデザインインターンシップD	選択		2	3				1	1	
	コース専門科目	情報システムデザインインターンシップE	選択		2	4	1	1					
	コース専門科目	情報システムデザインインターンシップF	選択		2	4				1	1		
	コース専門科目	情報と職業入門	選択		1	全	1					60600	
	コース専門科目	情報と職業	選択		2	全				1	1	60600	
	学系共通科目	コミュニケーション・心理	コミュニケーション科学	選択		2	2	1	1				
	コース専門科目		環境健康論A	選択	D4	2	2	1	1				
	学系共通科目		社会心理学	選択		2	2	1	1				
	学系共通科目		言語と表現	選択		2	2				1	1	
	コース専門科目		環境健康論B	選択	D4	2	2				1	1	
	コース専門科目		性格心理学	選択	D4	2	2				1	1	
	コース専門科目		非言語コミュニケーション論	選択	D4	2	3				1	1	
	コース専門科目		人間計測法	選択	D4	2	3	1	1				
	学系共通科目	情報科学	情報数学	選択		2	1				1	1	20500
	学系共通科目		基礎確率論	選択		2	1				1	1	20400
	学系共通科目		数値解析学	選択		2	2	1	1				60200
	学系共通科目		統計学Ⅰ	選択		2	2	1	1				20400
	学系共通科目		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	選択		2	2				1	1	20500
	学系共通科目		情報・符号理論	選択		2	2				1	1	20100
	学系共通科目		統計学Ⅱ	選択		2	2				1	1	20400
コース専門科目	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ		選択	D1・D2・D5	2	3	1	1				60300	
学系共通科目	形式言語とオートマトン		選択		2	2	1	1					
コース専門科目	計算量と暗号		選択	D2・D5	2	3	1	1					
コース専門科目	多変量解析		選択	D2・D4	2	3	1	1				20400	
コース専門科目	コンパイラ		選択	D1・D5	2	3				1	1		
コース専門科目	確率ネットワーク		選択	D2	2	3				1	1	20400	
コース専門科目	数理最適化入門		選択	D1・D2・D5	2	3				1	1	60300	
コース専門科目	知識と推論	選択	D5	2	3				1	1	60500		

コースコードは、D1:コンピュータソフトウェアコース・D2:ネットワークシステムコース・D3:アミューズメントデザインコース・D4:社会コミュニケーションコース・D5:コンピュータサイエンスコース
 教職コードは、「教職課程」参照。

2012年度 カリキュラム 情報システムデザイン学系 授業科目配当表 RD

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	前期		後期		備考	教職コード		
							前前期	前后期	後前期	後後期				
専門教育科目	学系共通科目	情報システム	コンピュータ基礎Ⅰ	選択		2	1	1				20500		
	学系共通科目		コンピュータ基礎Ⅱ	選択		2	1			1	1		20500	
	学系共通科目		電気基礎	選択		2	2	1	1					
	コース専門科目		動的システム	選択	D2	2	2	1	1				20300	
	コース専門科目		フーリエ解析	選択	D2・D5	2	2				1	1		
	コース専門科目		情報伝送工学	選択	D2	2	2				1	1		60400
	コース専門科目		組み込みシステム	選択	D2・D5	2	2				1	1		60500
	学系共通科目		論理回路	選択		2	2				1	1		
	学系共通科目		オペレーティングシステム	選択		2	3	1	1					60300
	学系共通科目		コンピュータ設計学	選択		2	3	1	1					60200
	学系共通科目		データベース	選択		2	3	1	1					60300
	コース専門科目		画像工学	選択	D1・D2	2	3	1	1					60500
	コース専門科目		空間情報処理	選択	D1	2	3				1	1		
	コース専門科目		ソフトウェア工学	選択	D1・D2・D5	2	3				1	1		60300
	学系共通科目		情報社会	情報社会学入門	必修		②	1	1	1				60100
	学系共通科目	現代マスコミ論		選択		2	2	1	1					
	コース専門科目	感性工学		選択	D3	2	2				1	1		
	コース専門科目	社会調査論A		選択	D4	2	2				1	1		
	コース専門科目	メディア×カルチャー		選択	D4	2	3	1	1					
	学系共通科目	経営情報論		選択		2	3	1	1					
	コース専門科目	文化表象論		選択	D4	2	3	1	1					
	コース専門科目	遊戯文化論		選択	D3・D4	2	3	1	1					
	コース専門科目	教育システムデザイン論		選択	D4	2	3				1	1		
	コース専門科目	社会調査論B		選択	D4	2	3				1	1		
	コース専門科目	社会調査実習Ⅰ	選択		1	4	1	1						
	コース専門科目	社会調査実習Ⅱ	選択		1	4				1	1			
	コース専門科目	情報メディア	コンピュータグラフィックスⅠ	選択	D1・D3	2	2	1	1				20500	
	コース専門科目		コンピュータグラフィックスⅡ	選択	D1・D3	2	2				1	1		60500
	コース専門科目		出版メディア論	選択	D4	2	2				1	1		
	学系共通科目		情報ネットワーク概論	選択		2	2				1	1		60400
	コース専門科目		アミューズメント産業論	選択	D3	2	3	1	1					
	コース専門科目		インタラクティブデザイン論	選択	D3	2	3	1	1					60500
	コース専門科目		ワイヤレスネットワーク	選択	D2	2	3	1	1					60400
	コース専門科目		数理とデザイン	選択	D1・D3	2	3				1	1		20200
	コース専門科目	アミューズメントデバイス論	選択	D3	2	3				1	1			
	学系共通科目	総合情報	情報学基礎実習	必修		②	1			2	2			
	コース専門科目		情報学ゼミ	必修		②	3				1	1		
	コース専門科目		情報システムデザイン卒業研究Ⅰ	必修		③	4	3	3					
	コース専門科目		情報システムデザイン卒業研究Ⅱ	必修		③	4				3	3		
	コース専門科目		情報システム実験Ⅰ	選択	D1・D2・D5	1	2	1	1					
	コース専門科目		情報社会学実習Ⅰ	選択	D3・D4	1	2	1	1					
	コース専門科目		コンピュータサイエンス実験	選択	D5	1	3				1	1		60200
	コース専門科目		情報システム実験Ⅱ	選択	D1・D2・D5	1	2				1	1		
	コース専門科目		情報社会学実習Ⅱ	選択	D3・D4	1	2				1	1		
	コース専門科目		コンピュータサイエンス演習Ⅰ	選択	D5	2	3	1	1					60500
コース専門科目	アミューズメントデザイン実習		選択	D3	1	3	1	1						
コース専門科目	コンピュータソフトウェア実習		選択	D1	1	3	1	1						
コース専門科目	ネットワークシステム実習		選択	D2	1	3	1	1						
コース専門科目	社会コミュニケーション実習		選択	D4	1	3	1	1						
コース専門科目	情報システムデザイン特別卒業研究		選択		3	3				3	3	3年以上在学での卒業対象者のみ適用		
コース専門科目	コンピュータサイエンス演習Ⅱ		選択	D5	2	3				1	1		60400	

コースコードは、D1:コンピュータソフトウェアコース・D2:ネットワークシステムコース・D3:アミューズメントデザインコース・D4:社会コミュニケーションコース・D5:コンピュータサイエンスコース
 教職コードは、「教職課程」参照。

はじめに
 学修活動
 U
 N
 I
 P
 A
 共通
 R
 U
 R
 B
 RD
 R
 T
 R
 G
 資格
 教職課程
 学生生活
 施設
 就職・進学
 大学院
 その他
 学則・規程

2012年度 カリキュラム 情報システムデザイン学系 授業科目配当表 RD

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード	
								前前期	前后期	後前期	後後期			
専門教育科目	学系共通科目	プログラミング	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	必修		③	1	2*	2*	2	2	前期は再履修者のみ履修可	60200	
	学系共通科目		コンピュータプログラミングⅡ・同演習	選択			3	2	2	2			60300	
	コース専門科目		ゲームプログラミングA	選択	D1・D3・D5		2	2			1	1		
	コース専門科目		ゲームプログラミングB	選択	D1・D3・D5		2	3	1	1				
	コース専門科目		論理プログラミング	選択	D1・D5		2	3	1	1				60500
	コース専門科目		人工知能プログラミング	選択	D1・D5		2	3	1	1				
	コース専門科目		ネットワークプログラミング	選択	D1・D2		2	3				1	1	60400
	コース専門科目		オブジェクト指向プログラミング	選択	D1・D2		2	3				1	1	60300

※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

コースコードは、D1:コンピュータソフトウェアコース・D2:ネットワークシステムコース・D3:アミューズメントデザインコース・D4:社会コミュニケーションコース・D5:コンピュータサイエンスコース
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

電子・機械工学系

(Division of Electronic and Mechanical Engineering)

電子・機械工学系履修モデル

1. 電子・機械工学の必要性

みなさんは「工学とは、何か？」ということを考えてことがありますか？欧米諸国では、「工学とは人類に対する奉仕」と理解されています。奉仕とは、誰かのために役立つという意味が含まれています。災害救助をサポートする工学的技術などはわかりやすい事例です。無医村で活躍する医療用ロボット、高齢者をサポートする福祉用ロボットなどは、工学技術により人類へ奉仕するという考えを有しているからこそ開発できるものなのです。講義で学ぶ専門知識とともに、工学技術者として兼ね備えるべき人間性が備わって卒業することが望まれます。将来、社会で活躍する工学技術者にとって求められる「必要な資質」とは何かということを常に念頭におきながら、学生生活を送ってください。

2. 学系の学習・教育目標

現代社会において、私たちの周りには多くの電子・機械システムが存在し、その依存度は増加し続けています。今後も、ますます多くの電子・機械システムが登場し、その依存度は増加していくでしょう。将来の社会においては、人間と機械の相互関係を理解し、うまく共存していくことが求められます。従来電子・機械システムでは、人間がその操作方法や技能を習熟し、上達することが要求されてきました。今後は、人間の特性を理解し、その特性に合わせた電子・機械システムを構築することで、システムが人間の技能や習熟度に適応することが望まれます。このような、電子・機械主導型のシステムから、人間主導型のシステムへの転換は、我々の社会生活の全てに関わる大きな技術革新として位置づけられるでしょう。そこで「電子・機械工学系」では、電子工学と機械工学の基礎をしっかりと学ぶとともに、人間の特性を理解するための学問についても学びます。人間の特性を理解し、人間とうまく共存することのできる、自動車、運送機械、工作機械、ロボット、電子機器、医療機器、福祉機器、先端材料などのものづくりを通して21世紀の人間社会に貢献できる、豊かな人間性と電子・機械工学の知識と技術を有する技術者の育成を目的にしています。

3. 学系カリキュラムの概要

本学系は、電子工学、機械工学、そしてシステム工学や情報工学などといった、ものづくりに直結した分野で構成されています。カリキュラムはこれら基礎分野の習得を行えるよう編成しており、さらには「技術者」に求められる応用力を養えるよう、大学院進学を視野に

入れ、自動車産業から医療機器産業などの電気・電子・機械系の業界の幅広い分野の工学技術を学べるよう工夫しています。

授業科目は専門科目（学部共通科目群、学系共通科目群、コース専門科目群）、人間形成科目群、英語科目群の3つに大別されます。学生は、1年次に配当されている専門科目を履修することにより、コースを選択する前に各コースで学ぶ専門的な内容を把握することができます。進級・卒業条件は選択した主・副コースによって異なりますので、詳細は表を参照してください。

電子・機械工学系では学生の自主性を重んじ、自らが履修計画を立て、卒業に向けしっかりと学習していく姿勢が求められます。講義で学んだ事を実験や演習を通じて確実に自分のものとするように努力するとともに、わからなかった部分をそのままにしないで予習・復習もしっかりとしてください。

なお、本学埼玉鳩山キャンパスには、大学院理工学研究科が設置されており、毎年多くの先輩が大学院に進学しています。大学院では、学部と異なり、社会で即戦力として活躍できる技術者を育成しています。ぜひ大学院への進学も視野に入れて勉学に努めてください。

4. 各コースの概要

(1) 電子システムコース

電子システムコースは、「人間の生活・生命を支える工学技術」を学ぶコースです。生体の機能を代替する人工臓器、生活を支援する福祉機器、手術ロボットをはじめとする様々な医療機器、再生医療を支える細胞工学や生体材料工学、生体理解のための生体信号計測や情報処理技術などは、電子・機械工学をベースとした様々な先端工学技術が集まったシステムです。本コースでは、ベースとなる電子・機械工学とともに、対象となる人間の生理学、医学的知識について学ぶことで、人間の特性を理解し、それに適応した医療福祉機器、診断支援機器などのシステムを作り上げることのできる能力の獲得を目標としています。

(2) 機械システムコース

機械システムコースは「賢い機械」について学ぶコースです。「賢い機械」とは、機械自身が状況を判断でき、必要な機能を確実に提供できるような機械です。このコースでは「賢い機械」を作るために機械設計と「賢さ」を生み出すための機構や制御を学び、さらに機能材料や知的加工法の基本を学びます。また、実際に機械が動作したときの発

熱や振動などの状態をコンピュータでシミュレーションすることのできるコースを準備しています。このコースに進んだ君たちは「賢い機械」に対する目標が生まれます。

5. 1年次の履修計画の立て方・学習の進め方

学習の進め方は高校時代と違い、まず、「将来何になりたいのか」、「どのようなエンジニアになりたいか」、「何を作りたいのか」を考えることが大学生活を有意義に送る上で必要です。なお、2年次生への進級条件は、「1年次に配当されている科目から**30単位以上**取得すること」です。この条件を満たせばよいと考えずに、**できるだけ多くの単位**を取得するよう努めてください。

1年次に配当されている「電子・機械工学概論」では、各コースがどのような特徴を持っているかを分かりやすく説明します。卒業後、どのような職につき、大学の講義が社会でどのように役立つかを知ることができます。「電子・機械工学製作実習」では、ものづくりの実習を通して、今後4年間学んでいく専門科目の位置づけや重要性を学ぶことができます。これら2つの科目は、主コース・副コースを選択する際に非常に重要な科目になります。

「電気回路Ⅰ・演習」、「電気回路Ⅱ・演習」、「電磁気学Ⅰ・演習」、「生理学」、「剛体力学Ⅰ・演習」は、いずれも各専門分野の基礎を扱う科目です。科目配置図やオンラインシラバスを良く見てしっかりと4年間の履修計画を立て、必要な科目はきちんと履修するようにしてください。

6. 主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

(1) 学系共通科目の履修（2コース共通）

本学系の目標である「新しい物作り」に携わる技術者育成は2年次から本格的に開始し、多くの専門科目が配当されています。学系内における各専門科目と2つのコースとの関連は、科目配置図を参照してください。専門科目の中で、どのコースの学生にとっても、電子・機械工学を志すのに違和感なく学べる科目は学系共通科目として位置づけられています。コース専門科目とのつながりと進級・卒業に必要な単位数を良く考えて、どの科目を履修するかを決めてください。

(2) 電子システムコースを主コースとした学生の履修計画

a) 2～3年次

2年次になると、主コース・副コースを決定します。学系で開講される科目は全て、**学系共通科目**か**コース専門科目**に分類されています。授業科目配当表にある**科目群**の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれこのコースに属する科目であることを示す**コースコード**がふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画をたててください。3年次から4年次への進級条件として、1年次から3年次に配当されている科目から**104単位以上**を取得している必要があることとなっています。

また、その104単位の中には、**最低でも**、人間形成科目（12単位）・英語科目（6単位）・学部共通科目（12単位）で**合計30単位**、学系共通科目の中から**28単位**、コース専門科目の中からコースコード**T1**（T1:電子システムコース）のついた科目**14単位**と副コースとして選んだコースコードをもつ科目**6単位**が含まれていなければなりません。履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、余裕のある計画を立てるようにしてください。これらの単位数はあくまでも進級のための最低ラインを示したものであり、実際には低学年のうちになるべく多くの単位を取得するように心がけてください。

電子システムコースでは、2年次で「**電子工学基礎実験Ⅰ**」「**電子工学基礎実験Ⅱ**」、3年次で「**電子情報実験Ⅰ**」「**電子情報実験Ⅱ**」の単位は必ず取得してください。コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある電子工学の分野を中心に、数理・情報技術、生体医工学などの分野の科目、「**電子システムゼミⅠ**」「**電子システムゼミⅡ**」「**電子システムゼミⅢ**」「**電子システムゼミⅣ**」を履修することを薦めます。

b) 4年次

4年次生では、4年次に開講されている応用科目の履修を行うとともに、それまでに学んだ知識を活かし卒業研究に取り組みます。研究室に配属し、それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。卒業研究では、過去に学んだ知識を活かすだけでなく、未解決の問題に対してどう取り組むか（調査や解決方法の考案）といった研究開発者としての姿勢・素養を身につけます。また、進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、**卒業に必要な単位を、ある程度余裕を持って**、取得するようにしてください。

(3) 機械システムコースを主コースとした学生の履修計画

a) 2～3年次

2年次になると、主コース・副コースを決定します。学系で開講される科目は全て、**学系共通科目**か**コース専門科目**に分類されています。授業科目配当表にある**科目群**の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれこのコースに属する科目であることを示す**コースコード**がふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画をたててください。3年次から4年次への進級条件として、1年次から3年次に配当されている科目から**104単位以上**を取得している必要があることとなっています。

また、その104単位の中には、**最低でも**、人間形成科目（12単位）・英語科目（6単位）・学部共通科目（12単位）で**合計30単位**、学系共通科目の中から**28単位**、コース専門科目の中からコースコード**T2**（T2:機械システムコース）のついた科目**14単位**と副コースとして選んだコースコードをもつ科目**6単位**が含まれていなければなりません。履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、余裕のある計画を立てるようにしてください。これらの単位数はあくまでも進級のための最低ラインを示したものであり、実際には低学年のうちになるべく多くの単位を取得するように心がけてください。

機械システムコースでは、2年次で「**機械工学基礎実験Ⅰ**」「**機械工学基礎実験Ⅱ**」「**機械設計製図Ⅰ**」「**機械設計製図Ⅱ**」、3年次で「**機械工学基礎実験Ⅲ**」「**機械工学基礎実験Ⅳ**」「**機械設計製図Ⅲ**」「**機械設計製図Ⅳ**」「**機械工学システムゼミⅠ**」の単位は必ず取得してください。コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある機械工学の分野を中心に、機械・電子制御、数理・情報技術などの分野の科目を履修することを薦めます。特に**2年次の「機械工学概論」、4年次の「特別講義」「機械工学システムゼミⅡ」**は皆さんの卒業研究や就職力に関係した内容を扱っている科目であるため、履修することを強く薦めます。

b) 4年次

順調であれば4年次生は卒業研究および4年次に開講されている応用科目の履修を行います。進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、**卒業に必要な単位を、ある程度余裕を持って**、取得するようにしてください。このコースを主コースとして選択した4年次生は研究室に配属されます。それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。

7. 副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方（2コース共通）

進級条件は、主コースとした学系により異なります。主コースの学系の進級条件をよく確認して不足のないように余裕をもって単位を取得してください。

8. その他の注意事項

(1) 大学院進学について

学部では学べなかったより専門性の高い知識や技術を修得するために毎年多くの学生が大学院に進学しています。大学院に進学するには、大学院入学試験を受けて合格することが必要ですが、成績の優秀な学生には、推薦入学の受験資格を認めています。進学を希望する学生は、早い段階から、受講する科目に十分時間をかけて学ぶように心がけてください。なお大学院を修了して社会に出ると、企業から即戦力として活躍することが期待され、学部卒業の者よりもより専門性の高い職種、部門に就職することができます。また、大学院在籍中に、海外の大学院へ留学し異文化を学び、その中で活躍する能力を身につけることができます。

電子工学や機械工学分野の大学院は、高級技術者として企業からの要求も強く、開発を中心とした技術者や研究者の育成、専門的電子技術や機械技術を教える高校教諭、高等専門学校や大学等の教育に従事する教育研究者を目指す登竜門でもあります。大学院在籍中に奨学金を得て、フランスの精密機械大学院大学（E N S M M）等の海外の研究機関に留学し、研究と文化の違いを学ぶ大学院生もいます。

(2) 就職について

これまで卒業した東京電機大学の先輩の努力により、毎年多数の求人の案内が届きます。多くの学生は学校推薦で就職しますが、最近では自由応募で就職する学生もいます。いずれの場合も、大学名のみで採用に至ることはありません。近年の就職活動をみると、最も重視されていることは、コミュニケーション能力や、教養の広さ・深さです。これらは、日常生活における習慣や取り組みによって蓄積されるものです。是非、高いモチベーションを持って学生生活を送ってください。

なお、電子機器や機械などの技術開発に携わる職種の就職においては、本人の技術に対する取り組み方、卒業研究の進め方とその内容、大学での学業に対する取り組み方などの自己主張と熱意を重視する場合がありますので、将来何をやりたいか目標を持って勉強に励んでください。

電子・機械工学系の履修配置図

【 電子システムコース 】

【 機械システムコース 】

	【電子システムコース専門科目】	【機械システムコース専門科目】	
4年	【前期】 電子・機械工学卒業研究Ⅰ 生体情報工学、自動車工学 ----- 【後期】 電子・機械工学卒業研究Ⅱ	【前期】 電子・機械工学卒業研究Ⅰ 機械システムゼミⅡ、自動車工学 ----- 【後期】 電子・機械工学卒業研究Ⅱ	
3年	【電子システムコース専門科目】 【前期】 電子情報実験Ⅰ、電子システムゼミⅢ 電子デバイス工学 ----- デジタル回路、パワーエレクトロニクス 信号処理工学A、福祉機器学、システム工学 ヒューマンインターフェース、機械計測 ----- 【後期】 電子情報実験Ⅱ、電子システムゼミⅣ 通信工学、材料学、電子設計、医用電子工学 計算機工学、 信号処理工学B、エネルギー変換工学	【機械システムコース専門科目】 【前期】 機械工学基礎実験Ⅲ、機械設計製図Ⅲ 形状創成学・演習、構造・機能材料学 工業熱力学・演習 デジタル回路、パワーエレクトロニクス 信号処理工学A、福祉機器学、システム工学 ヒューマンインターフェース、機械計測 ----- 【後期】 機械工学基礎実験Ⅳ、機械設計製図Ⅳ 機械システムゼミⅠ、電子制御機械工学 材料変形学 信号処理工学B、エネルギー変換工学	
	【学系共通科目】 【前期】 応用数値解析、応用プログラミング、医学概論Ⅱ、制御工学Ⅰ・演習 ----- 【後期】 統計解析、人工臓器学、制御工学Ⅱ・演習、特別講義、工学の倫理		共通教育科目
2年	【電子システムコース専門科目】 【前期】 電子工学基礎実験Ⅰ、電子システムゼミⅠ 電子物理学Ⅰ 電気・電子計測工学、電磁気学Ⅱ・演習 ----- 【後期】 電子工学基礎実験Ⅱ、電子システムゼミⅡ 電子物理学Ⅱ、デジタル情報理論 ----- 電子情報回路B、電磁誘導工学・演習 機械要素Ⅱ、機械力学、生体工学	【機械システムコース専門科目】 【前期】 機械工学基礎実験Ⅰ、機械設計製図Ⅰ ----- 電気・電子計測工学、電磁気学Ⅱ・演習 ----- 【後期】 機械工学基礎実験Ⅱ、機械設計製図Ⅱ 材料力学Ⅱ・演習、機械工学概論、材料強度学 流体力学Ⅱ・演習 電子情報回路B、電磁誘導工学・演習 機械要素Ⅱ、機械力学	人間形成科目 英語科目 情報と職業入門 情報と職業
	【学系共通科目】 【前期】 材料力学Ⅰ・演習、剛体力学Ⅱ・演習、流体力学Ⅰ・演習、工業数学Ⅰ、コンピュータ工学Ⅰ、医学概論Ⅰ 機械要素Ⅰ、電子情報回路A ----- 【後期】 工業数学Ⅱ、コンピュータ工学Ⅱ、伝熱工学・演習、過渡現象		
1年	【学系共通科目】 【前期】 電子・機械工学概論、電気回路Ⅰ・演習 【後期】 電子・機械工学製作実習、電気回路Ⅱ・演習、電磁気学Ⅰ・演習、生理学、剛体力学Ⅰ・演習 【学部共通科目】 数学基礎・物理学基礎・科学基礎、物理学基礎演習、科学基礎演習、基礎微積分学A・B 基礎線形代数学A・B、物理学A・B、一般物理学実験、化学A・B、一般科学実験、環境科学 情報処理A・B、立体図学、工学基礎、生物科学		

その他： 電子・機械工学特別卒業研究(3年次)、電子・機械工学インターンシップA～F(2年～4年次)、職業指導(4年次)

はじめに
学修活動
UNIIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

電子・機械工学系 進級条件表

(2012年度カリキュラム)

RT

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと

2年次→3年次

進級条件を設けない

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1. 下記の単位を修得のこと

科目区分		単位数	(卒業条件)
人間形成科目		12	(16)
英語科目		6	(8)
学部共通科目		12	(14)
副コースを 電子・機械工学系 から選んだ場合	学系共通科目		28 (36)
	コース専門科目	主コース	14 (22)※
		副コース	6 (8)
副コースを 他学系から選んだ 場合	学系共通科目	主コース	22 (26)
		副コース	10 (14)
	コース専門科目	主コース	14 (22)※
		副コース	2 (4)

※は、卒業研究を含む

2. 電子・機械工学系の各コースを主専攻コースで選んだ場合、下記科目を履修し単位を修得していること。

電子システムコース	機械システムコース
[コース専門科目]	[コース専門科目]
次の9科目を全て修得のこと	次の10科目を全て修得のこと
電子・機械工学概論	電子・機械工学概論
電子工学基礎実験Ⅰ 電子工学基礎実験Ⅱ	機械工学基礎実験Ⅰ 機械工学基礎実験Ⅱ 機械工学基礎実験Ⅲ 機械工学基礎実験Ⅳ
電子情報実験Ⅰ 電子情報実験Ⅱ	
電子システムゼミⅠ 電子システムゼミⅡ 電子システムゼミⅢ 電子システムゼミⅣ	機械設計製図Ⅰ 機械設計製図Ⅱ 機械設計製図Ⅲ 機械設計製図Ⅳ 機械システムゼミⅠ

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

2012年度 カリキュラム 電子・機械工学系 授業科目配当表

RT

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード	
								前前期	前後期	後前期	後後期			
専門 教育 科目	学系共通科目	工学 基礎	電子・機械工学概論	選択		2	1	1	1				70100	
	学系共通科目		生理学	選択		2	1			1	1			
	学系共通科目		統計解析	選択		2	3				1	1		
	学系共通科目		電気回路Ⅰ・演習	選択		3	1	1.5	1.5					70100
	学系共通科目		電気回路Ⅱ・演習	選択		3	1			1.5	1.5			70100
	学系共通科目		電磁気学Ⅰ・演習	選択		3	1			1.5	1.5			70100
	コース専門科目		電磁気学Ⅱ・演習	選択	T1・T2	3	2	1.5	1.5					70100
	コース専門科目		電磁誘導工学・演習	選択	T1・T2	3	2			1.5	1.5			
	学系共通科目		材料力学Ⅰ・演習	選択		3	2	1.5	1.5					70100
	コース専門科目		材料力学Ⅱ・演習	選択	T2	3	2			1.5	1.5			70100
	学系共通科目		剛体力学Ⅰ・演習	選択		3	1				1.5	1.5		
	学系共通科目		剛体力学Ⅱ・演習	選択		3	2	1.5	1.5					70100
	学系共通科目		流体力学Ⅰ・演習	選択		3	2	1.5	1.5					70100
	学系共通科目		工業数学Ⅰ	選択		2	2	1	1					70100
	学系共通科目		工業数学Ⅱ	選択		2	2			1	1			70100
	学系共通科目	応用数値解析	選択		2	3	1	1					60200	
	学系共通科目	コンピュータ工学Ⅰ	選択		2	2	1	1					60200	
	学系共通科目	コンピュータ工学Ⅱ	選択		2	2			1	1			60500	
	学系共通科目	応用プログラミング	選択		2	3	1	1					60200	
	コース専門科目	デジタル情報理論	選択	T1	2	2			1	1			60400	
	コース専門科目	信号処理工学A	選択	T1・T2	2	3	1	1					60200	
	コース専門科目	信号処理工学B	選択	T1・T2	2	3			1	1			60200	
	コース専門科目	ヒューマンインターフェース	選択	T1・T2	2	3	1	1					70100	
	コース専門科目	計算機工学	選択	T1	2	3			1	1			60300	
	学系共通科目	医学概論Ⅰ	選択		2	2	1	1						
	学系共通科目	医学概論Ⅱ	選択		2	3	1	1						
	コース専門科目	生体工学	選択	T1	2	2			1	1			70100	
	コース専門科目	生体情報工学	選択	T1	2	4	1	1					60400	
	コース専門科目	医用電子工学	選択	T1	2	3			1	1			70100	
	コース専門科目	福祉機器学	選択	T1・T2	2	3	1	1					70100	
	学系共通科目	人工臓器学	選択		2	3			1	1				
	コース専門科目	機械工学概論	選択	T2	2	2			1	1				
コース専門科目	機械力学	選択	T1・T2	2	2			1	1					
学系共通科目	機械要素Ⅰ	選択		2	2	1	1					70100		
コース専門科目	機械要素Ⅱ	選択	T1・T2	2	2			1	1			70100		
コース専門科目	材料強度学	選択	T2	2	2			1	1			70100		
学系共通科目	伝熱工学・演習	選択		3	2			1.5	1.5					
コース専門科目	工業熱力学・演習	選択	T2	3	3	1.5	1.5					70100		
コース専門科目	形状創成学・演習	選択	T2	3	3	1.5	1.5					70100		
コース専門科目	流体力学Ⅱ・演習	選択	T2	3	2			1.5	1.5			70100		
コース専門科目	構造・機能材料学	選択	T2	2	3	1	1					70100		
コース専門科目	材料変形学	選択	T2	2	3			1	1			70100		
コース専門科目	自動車工学	選択	T1・T2	2	4	1	1					70100		
学系共通科目	過渡現象	選択		2	2			1	1			70100		
学系共通科目	制御工学Ⅰ・演習	選択		3	3	1.5	1.5					70100		
学系共通科目	制御工学Ⅱ・演習	選択		3	3			1.5	1.5			70100		
コース専門科目	システム工学	選択	T1・T2	2	3	1	1					60500		
コース専門科目	電子制御機械工学	選択	T2	2	3			1	1			70100		
コース専門科目	機械計測	選択	T1・T2	2	3	1	1					70100		
コース専門科目	パワーエレクトロニクス	選択	T1・T2	2	3	1	1					70100		
コース専門科目	エネルギー変換工学	選択	T1・T2	2	3			1	1			70100		

コースコードは、T1:電子システムコース、T2:機械システムコース。
 教職コードは、「教職課程」参照。

2012年度 カリキュラム 電子・機械工学系 授業科目配当表

RT

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学 年		前 期		後 期		備考	教職コード	
							前	後	前	後	前	後			
専門教育科目	コース専門科目	電子工学	電気・電子計測工学	選択	T1・T2	2	2	1	1					70100	
	学系共通科目		電子情報回路A	選択		2	2	1	1					60300	
	コース専門科目		電子情報回路B	選択	T1・T2	2	2			1	1			60300	
	コース専門科目		デジタル回路	選択	T1・T2	2	3	1	1					70100	
	コース専門科目		電子設計	選択	T1	2	3				1	1		70100	
	コース専門科目		電子物理学 I	選択	T1	2	2			1	1			70100	
	コース専門科目		電子物理学 II	選択	T1	2	2					1	1	70100	
	コース専門科目		電子デバイス工学	選択	T1	2	3	1	1						
	コース専門科目		材料学	選択	T1	2	3					1	1		
	コース専門科目		通信工学	選択	T1	2	3					1	1		60400
	学系共通科目		電子・機械工学製作実習	選択			2	1				2	2		70100
	コース専門科目		機械工学基礎実験 I	選択	T2	1	2	1	1						70100
	コース専門科目		機械工学基礎実験 II	選択	T2	1	2					1	1		70100
	コース専門科目		機械工学基礎実験 III	選択	T2	1	3	1	1						70100
	コース専門科目		機械工学基礎実験 IV	選択	T2	1	3					1	1		70100
	コース専門科目	機械設計製図 I	選択	T2	1	2	1	1						70100	
	コース専門科目	機械設計製図 II	選択	T2	1	2					1	1		70100	
	コース専門科目	機械設計製図 III	選択	T2	1	3	1	1						70100	
	コース専門科目	機械設計製図 IV	選択	T2	1	3					1	1		70100	
	コース専門科目	電子工学基礎実験 I	選択	T1	2	2	2	2						70100	
	コース専門科目	電子工学基礎実験 II	選択	T1	2	2					2	2		70100	
	コース専門科目	電子情報実験 I	選択	T1	2	3	2	2						60400	
	コース専門科目	電子情報実験 II	選択	T1	2	3					2	2		60500	
	コース専門科目	卒業等	電子システムゼミ I	選択	T1	2	2	1	1						
	コース専門科目		電子システムゼミ II	選択	T1	2	2					1	1		
	コース専門科目		電子システムゼミ III	選択	T1	2	3	1	1						
	コース専門科目		電子システムゼミ IV	選択	T1	2	3					1	1		
	学系共通科目	特別講義	選択			2	3					1	1		
	コース専門科目	機械システムゼミ I	選択	T2	2	3						1	1		
	コース専門科目	機械システムゼミ II	選択	T2	2	4	1	1							
	コース専門科目	電子・機械工学特別卒業研究	選択	T1・T2	3	3					3	3	3年以上の在学での卒業対象者のみ適用		
	コース専門科目	電子・機械工学卒業研究 I	必修	T1・T2	③	4	3	3							
	コース専門科目	電子・機械工学卒業研究 II	必修	T1・T2	③	4					3	3			
	コース専門科目	職業指導	自由	T1・T2	4	4	1	1	1	1				70200	
	コース専門科目	その他	電子・機械工学インターンシップ A	選択	T1・T2	2	2	1	1						
	コース専門科目		電子・機械工学インターンシップ B	選択	T1・T2	2	2					1	1		
	コース専門科目		電子・機械工学インターンシップ C	選択	T1・T2	2	3	1	1						
	コース専門科目		電子・機械工学インターンシップ D	選択	T1・T2	2	3					1	1		
	コース専門科目		電子・機械工学インターンシップ E	選択	T1・T2	2	4	1	1						
	コース専門科目		電子・機械工学インターンシップ F	選択	T1・T2	2	4					1	1		
	学系共通科目	工学の倫理	選択			2	3					1	1		
	コース専門科目	情報と職業入門	選択	T1・T2	1	全		1						60600	
	コース専門科目	情報と職業	選択	T1・T2	2	全						1	1	60600	

※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

コースコードは、T1:電子システムコース、T2:機械システムコース。
教職コードは、「教職課程」参照。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

専門教育科目

建築・都市環境学系

(Division of Architectural, Civil and Environmental Engineering)

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

建築・都市環境学系履修モデル

1. 建築・都市環境学系の学習・教育目標

建築・都市環境学系では、21世紀の循環型社会の構築に向けて人間と自然が調和する環境を多角的に考察し、ゆとりと潤いある生活環境を目指して社会基盤の創造と保全に寄与できる建設技術者の育成を目的としています。具体的には、社会が要請する構造物を計画・設計・施工・管理する技術、地域から地球規模に至る環境保全や環境予測に必要な技術、さらには高度情報化社会に対応できる情報技術を習得し、持続可能な社会の構築に貢献できる技術者の育成を行います。この目的を達成するため、本学系では以下の(A)～(G)の学習・教育目標を掲げています。

(A) 「技術は人なり」を目標とした人間形成の教育

良識ある人間性、倫理性、福祉への眼差し等の資質・感性を有し、かつ人文科学、社会科学等の基礎知識を有する心身健全な建設技術者を育成します。

(B) 相互理解を深めるコミュニケーション能力の開発

科学技術のグローバル化に伴い、異文化を理解する能力や文化的素養を有し、かつ柔軟な思考力のもと自らの考えを文章化し、意見交換を通して多様化する社会の諸問題に対応でき、将来において国際的にも活躍できる建設技術者を育成します。

(C) 基礎工学を重視した実学教育の徹底

物理学、化学、数学などの工学的基礎力の育成に重点を置き、専門科目では講義および実験、実習、演習を通して、即戦力となる建設技術者を育成します。

(D) 創造力および問題発見・解決能力の開発

豊かな創造力や柔軟な思考力を有する建設技術者の育成と、現実社会の中で直面している諸問題を認識し、その問題解決について考える能力を有し、かつ高度な社会的要請にも対応できる建設技術者を育成します。

(E) 環境と調和する循環型社会をリードする建設技術者の育成

自然の仕組みを理解し、人間と自然界が共生でき、持続可能な社会を構築する技術、また地域から地球規模にいたる環境評価・予測・保全に必要な技術を有した建設技術者を育成します。

(F) プロジェクト遂行能力の開発

与えられた制約のもとで、情報の収集・評価・利用する能力を有し、チームを組織し

て計画的に仕事を進め、問題を解決していく能力の開発ならびにその人材を育成します。

(G) 情報技術革新へ対応できる建設技術者の育成

急速に発展する高度情報化に対応できるように、情報技術に関する基礎およびアプリケーションの活用やプログラム作成能力を有した建設技術者を育成します。

2. 学系カリキュラムの概要

建築・都市環境学系のカリキュラムは、建築学、建設工学、土木工学、都市工学、環境学といった私たちの生活環境づくりに直結した学問分野で構成されています。そして、それぞれの分野に関して基礎から応用へと段階的に学習できるようにカリキュラムが編成されています。この段階的な学習を確実なものとするために、特に3年次から4年次への進級に際して、学系独自の進級条件を設定しています。この進級条件は所属する主コース・副コースの組み合わせによって異なるため、些細な勘違いなどで留年しないよう細心の注意を払って履修計画を立ててください。履修方法に関する疑問等は、学年担任をはじめとする学系教員に気軽に質問してください。

3. 各コースの概要

(1) 建築コース

建築コースは建築の専門知識や技術を学び、デザインするための感性を磨くコースです。本コースの特徴は単体の建物だけでなく、都市・環境・景観に配慮した総合的な視野を備えた建築家や建設技術者を育成する点にあります。講義では建築のデザイン、歴史、計画、構造、構法、設備等の専門知識はもちろんのこと、都市環境コースとの連携により都市・環境・土木分野の知識について幅広く学ぶことができます。また、CADの使い方、建築図面の描き方、建築設計の方法を学ぶ建築都市デザイン演習や、構造実験・材料実験といった実験科目を通して、実践的な技術力・判断力・プレゼンテーション能力を身につけることができます。

(2) 都市環境コース

都市環境コースは、ひとにやさしく、安全で快適なまちづくりの方法を学ぶコースです。まちづくりの中心には市民がおり、市民が満足しなければまちづくりとは言えません。市民が満足するためには、機能性、経済性、意匠性を同時に兼ね備えていなければなりません。都市環境コースが対象とする施設は、われわれの日常生活を支える上で必

要不可欠なものばかりです。たとえば、鉄道、駅、道路、空港などの交通施設、電気、水道などのライフライン施設、公園広場、ビオトープ、屋上緑化施設などの都市環境施設などがあります。

また本コースでは、社会基盤施設の計画から設計に至る能力を学習します。さらに地球環境問題が深刻さを増しつつある今日、建設に携わる技術者も環境を視野に入れて行動することが求められています。したがって、建設と環境との関連性に関する知識を習得して、環境に配慮した都市や地域づくりを実践できる21世紀型グローバル・エンジニアや都市環境デザイナーを育成します。

4. 1年次の履修計画の立て方・学習の進め方

1年次に配当されている科目から30単位以上修得することで、2年次に進級することができます。本学系では、学部共通科目群の「情報処理A」「一般物理学実験」「一般化学実験」の3科目6単位および進級条件表の付表Aに示す学系指定科目（4科目8単位）の単位修得を4年次への進級条件に含んでいるので、1年次にこれらの中から上記3科目を含む6科目以上を履修してください。また、人間形成科目群の「技術者倫理」も4年次への進級条件に含まれるので、3年次までに必ず履修してください。

つぎに専門科目としては、1年前期に、導入科目である「建築・都市環境学へのアプローチ」が開講されます。この講義では、各コースがどのような特徴を持っているかを分かり易く説明し、卒業後、どのような職に就き、大学の講義が社会でどのように役立つかを知ることができます。本科目は4年次に進級するため、また卒業するための学系必修科目となっているので、1年次に履修してください。

1年後期では、まず「建築都市デザイン演習Ⅰ」の1科目3単位を必ず履修してください。つぎに「建築・都市デザイン概論」「数学演習」「統計学」「静力学」の4科目8単位を履修してください。これらの講義では、建築や都市をデザインすることの面白さや大切さを学習し、あるいは2年次以降に学習する専門科目を理解するための基礎学力を培います。また、これらの4科目も卒業するための学系必修科目となっています。

5. 主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

2年次と3年次の2年間で、「3年次から4年次への進級条件」を満たすように計画的に単位履修を行ってください。「3年次から4年次への進級条件」は選択した副コースによって異なるので注意してください。詳細は進級条件表を参照してください。

(1) 「建築コース(主) + 都市環境コース(副)」もしくは「都市環境コース(主) + 建築コース(副)」とする学生の履修計画 (主: 主コース、副: 副コースを示す。以下同じ。)

(学系共通科目の履修)

- ① 2年次・3年次の「材料実験」「土質実験」「構造実験」「水理実験」の4科目4単位の中から必ず3単位以上を履修してください。
- ② 2年次の「測量学・演習」「測量実習」の2科目5単位を必ず履修してください。
- ③ 進級条件表の付表Bに示す学系必修科目(11科目26単位)の中から必ず17単位以上を3年次終了までに履修してください。
- ④ 進級条件表の付表Cに示す学系専門科目(7科目14単位)の中から必ず8単位以上を履修してください。

以上で、学系共通科目群から28単位以上を履修することになり、3年次から4年次への進級条件が満たされます。

(コース専門科目の履修)

- ① 主コース専門科目群の中から「建築都市デザイン演習Ⅰ」「建築都市デザイン演習ⅡA」「建築都市デザイン演習ⅡB」の3科目7単位を含む14単位以上を必ず履修してください。
- ② 副コース専門科目群の中から6単位以上を必ず履修してください。

以上で、3年次から4年次への進級条件が満たされます。

なお、進級条件表の学系必修科目(11科目26単位)は卒業するための必修科目となっていますので、卒業時まで必ず修得してください。

(2) 「建築コース(主) + 他学系のコース(副)」もしくは「都市環境コース(主) + 他学系のコース(副)」とする学生の履修計画

(学系共通科目の履修)

- ① 学系共通科目群の中から、進級条件表の付表Bに示す学系必修科目(11科目26単位)の中から必ず17単位以上、かつ合計で22単位以上を履修してください。
- ② 副コースの所属する学系の学系共通科目群から10単位以上を履修してください。

以上で3年次から4年次への進級条件が満たされます。なお、技術者として必要である実践的な技術力・判断力・レポート作成能力・プレゼンテーション能力を身につけるために、「材料実験」「土質実験」「構造実験」「水理実験」といった実験科目も履修することを強く推奨します。

(コース専門科目の履修)

① 主コース専門科目群の中から「建築都市デザイン演習Ⅰ」「建築都市デザイン演習ⅡA」「建築都市デザイン演習ⅡB」の3科目7単位を含む14単位以上を必ず履修してください。

② 副コース専門科目群の中から2単位以上を必ず履修してください。

以上で3年次から4年次への進級条件が満たされます。

なお、進級条件表の学系必修科目(11科目26単位)は卒業するための必修科目となっていますので、卒業時までには必ず修得してください。

6. 副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

2年次と3年次の2年間で、「3年次から4年次への進級条件」を満たすように計画的に単位履修を行ってください。「3年次から4年次への進級条件」は選択した主コースによって異なるので注意してください。詳細は進級条件表を参照してください。

(1)「他学系のコース(主) + 建築コース(副)」もしくは「他学系のコース(主) + 都市環境コース(副)」とする学生の履修計画

(学系共通科目の履修)

① 主コースについては、所属学系の進級条件表を参照してください。

② 副コースについては、学系共通科目群の中から10単位以上履修してください。

以上で3年次から4年次への進級条件が満たされます。

(コース専門科目の履修)

① 主コースについては、所属学系の進級条件表を参照してください。

② 副コースについては、コース専門科目群の中から2単位以上を履修してください。

以上で3年次から4年次への進級条件が満たされます。

7. その他の注意事項

(1) 大学院進学について

学部では学べなかったより専門性の高い知識や技術を修得するために毎年多くの学生が大学院に進学しています。大学院に進学するには、大学院入学試験を受けて合格することが必要ですが、成績の優秀な学生には、推薦入学を認めています。進学を希望する学生は、早い段階からよい成績を取るよう心がけてください。なお大学院を修了して社会に出ると、企業から即戦力として活躍することが期待され、学部卒業生よりもより

専門性の高い職種、部門に就職することができます。大学院在籍中に、海外の大学院へ留学することもできます。近年は、建設系コンサルタント、設計コンサルタントなどの極めて専門性の高い職種の企業からは、大学院卒の学生に対する募集が多くなっています。

(2) 就職について

これまで卒業した東京電機大学の先輩の努力により、毎年多数の求人の案内が届きます。最近では自由応募で就職する学生が多く見られますが、大学に寄せられた求人情報を是非活用してください。いずれの場合も、大学名のみで採用に至ることはありません。近年の就職活動をみると、最も重視されていることは、コミュニケーション能力や、教養の広さ・深さです。これらは、日常生活における習慣やちょっとした取り組みによって蓄積されるものです。また、これらの力を付けるために、1年次に「フレッシュマンゼミ」、2年次に「キャリアワークショップ」、3年次に「TDUプロジェクト」を配置しています。是非、高いモチベーションを持って学生生活を送ってください。

(3) JABEE プログラムについて

本学系は JABEE（日本技術者教育認定機構）より、国際水準の技術者教育を行う教育組織としての認定を受けています。コース選択において、建築コースと都市環境コースを主・副コース（主・副は任意）として選択した学生はこの JABEE プログラムの履修生となります。JABEE プログラムを修了し、本学を卒業すると登録により技術士補の資格を得ることができます（*）。

また、JABEE プログラム（建築コース+都市環境コース）以外の学生が、本学の転学部、転学科、転学系、転コース制度を利用して新たに JABEE プログラム（建築コース+都市環境コース）に移籍する場合は、当該学生の既取得科目と単位数を勘案し、本学系の学習・教育目標の達成可能性を検討の上、個別に JABEE プログラム受け入れの可否を決定します。詳細は、学系ホームページを参照してください。

（*）JABEE プログラムは定期的な審査により認定されるものであり、本学系は学生教育にとって有意義であるとの判断から、継続的にその認定を受ける方針を定めています。しかしながら、予期せぬ事情によりこの認定を受けられない場合、技術士補の資格を得られなくなることもありますので、この点についてはあらかじめご了承ください。

(4) 建築士プログラムについて

コースとは独立した教育課程として、建築士資格取得を目指した「建築士プログラム」が用意されています。この「建築士プログラム」を修了すると、大学卒業と同時に二級建築士と木造建築士資格の受験ができます。また、卒業後2年間の実務経験のあとに一級建築士資格の受験ができます。これらの受験資格が得られるのは「建築士プログラム」を修了した場合だけです。コースの進級条件等とは別の基準が設けられているので、注意して履修計画を立ててください。詳細は、「資格」に関するページを参照してください。

(5) 建設系資格について

建築士プログラム同様、建設系の各種資格については、コースの進級条件とは別の基準が設けられているので、注意して履修計画を立ててください。詳細は、「資格」に関するページを参照してください。

2012年度 カリキュラム 建築・都市環境学系 授業科目配当表

RG

科目区分	科目群	分野	境都建 学学市築 系環・	必 選	単 位 数	前期				後期		建 築 コ ー ス	都 市 環 境 コ ー ス	科 目 区 分	建 築 土 木 コ ー ス	備 考	教 職 コ ー ド	
						前 前 期	前 後 期	後 前 期	後 後 期	後 前 期	後 後 期							
専 門 教 育 科 目	学系共通科目	導 入	建築・都市環境学へのアプローチ	必修	②	1	1	1									70100	
	学系共通科目		建築・都市デザイン概論	必修	②	1				1	1				その他		70100	
	学系共通科目	数 理 ・ 情 報	数学演習	必修	②	1				1	1						70100	
	学系共通科目		基礎統計学	必修	②	1				1	1						70100	
	学系共通科目		微分方程式	選択	2	2	1	1									70100	
	学系共通科目		計画数理	選択	2	2	1	1									70100	
	学系共通科目		プログラミング演習	必修	②	2				1	1						70100	
	学系共通科目		数値計算法	選択	2	3	1	1									70100	
	学系共通科目		構 造	静力学	必修	②	1				1	1				構造力学		70100
	学系共通科目			応用力学A・演習	必修	③	2	2	2							構造力学		70100
	学系共通科目	応用力学B		選択	2	2				1	1				構造力学		70100	
	学系共通科目	鉄筋コンクリート工学		選択	2	2				1	1				建築一般構造		70100	
	学系共通科目	鋼構造学		選択	2	3	1	1							建築一般構造		70100	
	学系共通科目	構造実験		選択	1	3				1	1				構造力学		70100	
	学系共通科目	地 盤	地盤工学A・演習	必修	③	2	2	2							構造力学		70100	
	学系共通科目		地盤工学B	選択	2	2				1	1				構造力学		70100	
	学系共通科目		土質実験	選択	1	2				1	1				構造力学		70100	
	学系共通科目	水 理	流れの科学	選択	2	2	1	1									70100	
	学系共通科目		水理学A・演習	必修	③	2	2	2									70100	
	学系共通科目		水理学B	選択	2	2				1	1						70100	
	学系共通科目		水文学	選択	2	3	1	1									70100	
	学系共通科目		水理実験	選択	1	3				1	1						70100	
	学系共通科目	材 料	建築材料学	選択	2	2	1	1							建築材料		70100	
	学系共通科目		材料実験	選択	1	2	1	1							建築材料		70100	
	学系共通科目	施 工	建設施工法	選択	2	3	1	1							建築生産		70100	
	コース専門科目		道路工学	選択	2	3	1	1					G2				70100	
	学系共通科目	測 量	測量学・演習	必修	③	2	2	2							その他		70100	
	学系共通科目		測量実習	必修	②	2	2	2							その他		70100	
	コース専門科目		リモートセンシング	選択	2	3	1	1						G2			70100	
	コース専門科目		空間情報工学	選択	2	3				1	1			G2			70100	
	コース専門科目	設 計 製 図	建築都市デザイン演習Ⅰ	選択	3	1				3	3	G1	G2	建築設計製図		70100		
	コース専門科目		建築都市デザイン演習ⅡA	選択	2	2	2	2					G1	G2	建築設計製図		70100	
	コース専門科目		建築都市デザイン演習ⅡB	選択	2	2				2	2	G1	G2	建築設計製図		70100		
	コース専門科目		建築都市デザイン演習ⅢA	選択	2	3	2	2					G1	G2	建築設計製図		70100	
	コース専門科目		建築都市デザイン演習ⅢB	選択	2	3				2	2	G1	G2	建築設計製図		70100		
	コース専門科目	環 境	水圏の環境	選択	2	2				1	1			G2			70100	
	コース専門科目		気圏・地圏の環境	選択	2	2				1	1				G2		70100	
	学系共通科目		衛生工学	選択	2	3	1	1									70100	
	コース専門科目		環境アセスメント	選択	2	3				1	1				G2		70100	
	コース専門科目	生物圏の環境	選択	2	3				1	1				G2		70100		
コース専門科目	都 市	景観デザイン	選択	2	3	1	1						G2	建築計画		70100		
コース専門科目		防災工学	選択	2	3	1	1							G2	その他		70100	
コース専門科目		都市計画	選択	2	3	1	1							G2	建築計画		70100	
コース専門科目		交通計画	選択	2	3	1	1							G2		70100		
学系共通科目		建設マネジメント	選択	2	3				1	1					建築生産		70100	
コース専門科目		河川・海岸計画	選択	2	3				1	1				G2		70100		
コース専門科目		都市プロジェクトの評価	選択	2	3				1	1				G2	その他		70100	

コースコードは、G1:建築コース・G2:都市環境コース
教職コードは、「教職課程」参照。

2012年度 カリキュラム 建築・都市環境学系 授業科目配当表

RG

科目区分	科目群	分野	境都建 学市築 系環・	必 選	単 位 数	前期				都 市 環 境 コ ー ス	科 目 区 分	備 考	教 職 コ ー ド	
						前 前 期	前 後 期	後 前 期	後 後 期					建 築 コ ー ス
専 門 教 育 科 目	コース専門科目	建 築	建築法規	選択	1	3			1	G1	建築法規		70100	
	コース専門科目		ランドスケープデザイン	選択	2	2	1	1		G1	その他		70100	
	コース専門科目		住居論	選択	2	2			1	1	G1	建築計画		70100
	コース専門科目		建築計画学	選択	2	2			1	1	G1	建築計画		70100
	コース専門科目		建築史	選択	2	2			1	1	G1	建築計画		70100
	コース専門科目		建築設備	選択	2	3			1	1	G1	建築設備		70100
	コース専門科目		建築デザイン論	選択	2	3	1	1			G1	建築計画		70100
	コース専門科目		建築とアートワーク論	選択	2	3	1	1			G1	その他		70100
	コース専門科目		建築環境工学	選択	2	3	1	1			G1	建築環境工学		70100
	コース専門科目		耐震設計法	選択	2	3			1	1	G1	構造力学		70100
	コース専門科目		建築構法	選択	2	3			1	1	G1	建築一般構造		70100
	コース専門科目		建築構造学	選択	2	3			1	1	G1	構造力学		70100
	コース専門科目		建築・都市環境特別卒業研究	選択	3	3			3	3			3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
	コース専門科目	建築・都市環境卒業研究Ⅰ	必修	③	4	3	3							
	コース専門科目	建築・都市環境卒業研究Ⅱ	必修	③	4			3	3					
	コース専門科目	建築・都市環境インターンシップA	選択	2	2	1	1							
	コース専門科目	建築・都市環境インターンシップB	選択	2	2			1	1					
	コース専門科目	建築・都市環境インターンシップC	選択	2	3	1	1							
	コース専門科目	建築・都市環境インターンシップD	選択	2	3			1	1					
	コース専門科目	建築・都市環境インターンシップE	選択	2	4	1	1							
コース専門科目	建築・都市環境インターンシップF	選択	2	4			1	1						
コース専門科目	職業指導	自由	4	4	1	1	1	1				70200		
コース専門科目	情報と職業入門	選択	1	全								60600		
コース専門科目	情報と職業	選択	2	全			1	1				60600		

※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

コースコードは、G1:建築コース・G2:都市環境コース
教職コードは、「教職課程」参照。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

資格

資 格

1. 本学卒業後に取得できる資格・免許

(1) 卒業後資格が得られたり、試験免除等となったりする主な資格・免許を下記に記載します。

資格・免許	取得条件	取得しやすい学系	取り扱い機関
高等学校教諭1種免許状 数学	所定の単位を取得し申請した者は資格を得られる。詳しいことは学部編「教職課程」参照。	理学系 情報システムデザイン学系	各都道府県教育委員会
高等学校教諭1種免許状 工業		建築・都市環境学系 電子・機械工学系	
高等学校教諭1種免許状 理科		理学系 生命理工学系	
高等学校教諭1種免許状 情報		理学系 情報システムデザイン学系 電子・機械工学系	
中学校教諭1種免許状 数学		理学系 情報システムデザイン学系	
中学校教諭1種免許状 理科		理学系 生命理工学系	
測量士補 測量士	次ページ参照		国土交通省国土地理院
一級建築士 二級建築士 木造建築士	次ページ参照	別記の「建築士プログラム」修了者	(財)建築技術教育普及センター
2級ビオトープ計画管理士・ 2級ビオトープ施工管理士	次ページ参照		(財)日本生態系協会
社会調査士	社会調査士標準カリキュラム科目(社会調査論A・B、統計学I・II、多変量解析、社会調査実習I・IIの7科目)をすべて修得し、必要書類を提出することで資格を得られる。	情報システムデザイン学系	(社)社会調査協会
技術士補	受験資格については特に制限はない。4年制の理工系大学を卒業すれば、試験科目のうち共通科目が免除される。	全学系 ※建築・都市環境学系でJABEEプログラムを修了すると登録により技術士補の資格を得ることができる。詳細は178ページ参照	(社)日本技術士会
技術士	技術士補としての業務経験が4年以上の者、または技術士1次試験合格者で実務経験が7年を超える者は受験資格が得られる。	全学系	
EIT(EI)	原則として4年生の工学系大学を卒業した者は、FE(Fundamentals of engineering)試験の受験資格が得られる。この試験に合格するとEITまたはEIの資格が取得できる。	電子・機械工学系 生命理工学系	日本PE・FE試験協議会
PE	PE(Professional Engineer) FE(Fundamentals of engineering)試験に合格し、実務経験(エンジニアリングに関連する技術業務・計画・研究・設計・分析・試験・評価又はこれらに関する指導)が4年以上ある者は受験の資格が得られる。		

※詳細は各取扱い機関に問合せすること。

※公務員試験については260ページを参照すること。

建築士の受験資格について

一級建築士・二級建築士・木造建築士を受験するためには、一定の基準を満たして単位を修得して卒業した後、定められた年数以上の実務経験を経なければなりません。

◇一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格について

一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格を得るためには理工学部理工学科において「建築士プログラム」を修了する必要があります。「建築士プログラム」を修了した場合、定められた年数以上の実務経験の後に一級建築士・二級建築士・木造建築士試験の各受験資格が得られます。受験資格が得られるのは「建築士プログラム」を修了した場合だけです。また、資格によって必要な修得単位数と実務経験年数が異なります。注意して履修計画を立ててください。

◇建築士プログラム修了条件

下表に示す条件を満たして卒業した者は「建築士プログラム」を修了したものと認定し、卒業証明書に明記します。

必修科目	一級建築士			二級・木造建築士		
建築設計製図	7 単位以上			5 単位以上		
建築計画	7 単位以上			7 単位以上		
建築環境工学	2 単位以上					
建築設備	2 単位以上			6 単位以上		
構造力学	4 単位以上					
建築一般構造	3 単位以上					
建築材料	2 単位以上					
建築生産	2 単位以上			1 単位以上		
建築法規	1 単位以上			1 単位以上		
必修科目の 総単位数 (a)	30 単位以上			20 単位以上		
必修科目以外の 総単位数 (b)	適宜			適宜		
(a) + (b)	60 単位以上	50 単位以上	40 単位以上	40 単位以上	30 単位以上	20 単位以上
建築実務の経験	2 年	3 年	4 年	0 年	1 年	2 年

必修科目（括弧内の数字は単位数を示す）

建築設計製図：建築都市デザイン演習Ⅰ(3)、ⅡA(2)、ⅡB(2)、ⅢA(2)、ⅢB(2)

建築計画：建築計画学(2)、住居論(2)、建築デザイン論(2)、建築史(2)、都市計画(2)、
景観デザイン(2)

建築環境工学：建築環境工学(2)

建築設備：建築設備(2)

構造力学：静力学(2)、応用力学A・演習(3)、建築構造学(2)、応用力学B(2)、
構造実験(1)、耐震設計法(2)、地盤工学A・演習(3)、地盤工学B(2)、
土質実験(1)

建築一般構造：鉄筋コンクリート工学(2)、鋼構造学(2)、建築構法(2)

建築材料：建設材料学(2)、材料実験(1)

建築生産：建設施工法(2)、建設マネジメント(2)

建築法規：建築法規(1)

必修科目以外：建築・都市デザイン概論(2)、測量学・演習(3)、測量実習(2)、
ランドスケープデザイン(2)、防災工学(2)、建築とアートワーク論(2)、
都市プロジェクトの評価(2)

測量士補について

建築・都市環境学系の建築コース・都市環境コースを主コース・副コース（主・副は任意）として卒業し、かつ「測量学・演習」（3単位）、「測量実習」（2単位）の5単位を含む測量に関する科目30単位以上を修得した者は、申請により測量士補の資格が得られます。

測量士について

建築・都市環境学系の建築コース・都市環境コースを主コース・副コース（主・副は任意）として卒業し、かつ「測量学・演習」（3単位）、「測量実習」（2単位）の5単位を含む測量に関する科目30単位以上を修得した者は、測量士補の資格取得後、測量に関する1年以上の実務経験ののちに、申請により測量士の資格が得られます。

測量に関する科目（括弧内の数字は単位数を示す）

数学基礎(1)、物理学基礎(1)、物理学基礎演習(1)、基礎微積分学A(2)、基礎微積分学B(2)、
基礎線形代数学A(2)、基礎線形代数学B(2)、物理学A(2)、物理学B(2)、一般物理学実験(2)、
静力学(2)、数学演習(2)、基礎統計学(2)、数値計算法(2)、微分方程式(2)、流れの科学(2)、耐
震設計法(2)、地盤工学A・演習(3)、水理学A・演習(3)、応用力学A・演習(3)、応用力学B(2)、
測量学・演習(3)、測量実習(2)、土質実験(1)、水理実験(1)、計画数理(2)、水理学B(2)、道
路工学(2)、衛生工学(2)、建設マネジメント(2)、水文学(2)、地盤工学B(2)、防災工学(2)、都
市計画(2)、リモートセンシング(2)、空間情報工学(2)、河川・海岸計画(2)、気圏・地圏の環
境(2)、交通計画(2)

建設系資格の受験資格について

一定の基準を満たして卒業した者は、種目ごとに定められた実務経験の後に下記に示す建設系資格の「受験資格」が得られます。

●建設系資格

建設機械施工技士	(1級・2級)
土木施工管理技士	(1級・2級)
建築施工管理技士	(1級・2級)
電気工事施工管理技士	(1級・2級)
管工事施工管理技士	(1級・2級)
造園施工管理技士	(1級・2級)

●基準＜参考＞

- (1) 建築・都市環境学系の建築コース・都市環境コースを主コース・副コースとする。
- (2) 下記のA群からC群までの各群から1科目以上、B群から17単位以上、合計30単位以上修得すること。

【A群】(括弧内の数字は単位数を示す)

数学基礎(1)、物理学基礎(1)、物理学基礎演習(1)、化学基礎(1)、化学基礎演習(1)、基礎微積分学A(2)、基礎微積分学B(2)、基礎線形代数学A(2)、基礎線形代数学B(2)、物理学A(2)、物理学B(2)、一般物理学実験(2)、化学A(2)、化学B(2)、一般化学実験(2)、生物科学(2)、情報処理A(2)、情報処理B(2)、工学基礎(2)、数学演習(2)、基礎統計学(2)、微分方程式(2)、計画数理(2)、プログラミング演習(2)、数値計算法(2)、静力学(2)

【B群】(括弧内の数字は単位数を示す)

応用力学A・演習(3)、応用力学B(2)、鉄筋コンクリート工学(2)、構造実験(1)、地盤工学A・演習(3)、地盤工学B(2)、土質実験(1)、流れの科学(2)、水理学A・演習(3)、水理学B(2)、水文学(2)、水理実験(1)、建設材料学(2)、材料実験(1)、建設施工法(2)、リモートセンシング(2)、交通計画(2)

【C群】(括弧内の数字は単位数を示す)

鋼構造学(2)、衛生工学(2)、建設マネジメント(2)、道路工学(2)、水圏の環境(2)、気圏・地圏の環境(2)、環境アセスメント(2)、防災工学(2)、都市計画(2)、河川・海岸計画(2)、建築・都市環境特別卒業研究(3)、建築・都市環境卒業研究Ⅰ(3)、建築・都市環境卒業研究Ⅱ(3)

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

2級ビオトープ計画管理士・2級ビオトープ施工管理士について

下記の分野の指定科目全てを受験申込の時点で単位を修得済み、または受験年度内に単位修得の見込みがある場合は各試験科目について、択一問題の半分が免除されます。この制度は理工学科の学生に適用されます。卒業生には、卒業した日から受験申込日までの期間が5年未満の方まで適用されます。

なお、この制度を適用して試験に合格しても、指定科目の単位修得が済んでいない場合は、ビオトープ管理士として認証されませんので注意してください。

<共通>

分野	指定科目
生態学	水圏の環境
	生物圏の環境
ビオトープ論	水圏の環境
	生物圏の環境
環境関連法	河川・海岸計画
	環境アセスメント

<専門>

専門科目	指定科目
計画部門	都市計画
	景観デザイン
	生物圏の環境
施工部門	河川・海岸計画
	生物圏の環境

第3章

教職課程

教職課程とは

教職課程とは、「教育職員免許法」に基づいて中学校・高等学校の教員免許状を取得するために必要な授業科目を履修し、単位修得できるように設置された課程です。

中学校や高校の教員になるということは、社会で重要な役割を担うことになります。そのような教員を育てるということは、社会においても大事な責務である為、直接大学とは関係のない方々にもお世話になることになります。

教職課程の履修希望者は、教職関係科目を十分に理解できる能力（単位修得）は勿論のこと、教員としての適格性が必要であることはいうまでもありません。また、一般の学生以上に手続きや確認事項等で手間隙がかかります。それらが全て完了して初めて免許状を手にすることができます。

従って、当然のことながら、いい加減な気持ちで受けていると、学外者の方にご迷惑をお掛けしたり、後輩にも影響が出る場合もあります。自分の進路をよく考えながら、履修を進めていくようにしてください。

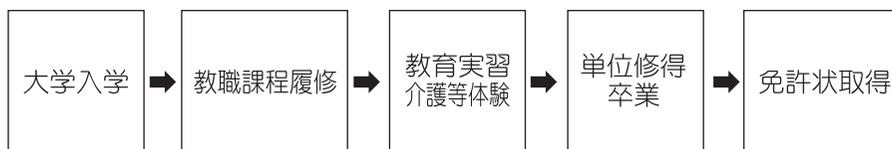
教職課程を修めようとする者は、本学部に設置された共通教育科目及び各学系で専門教育科目として定める単位の他に、必要な教職関係科目を履修し、単位を修得しなければなりません。講義概要はシラバスにおいて、把握してください。また、教育実習や介護等体験を伴う科目の履修や実習・体験等については、必要な時期に説明会や事前指導が行われますので、必ず出席するようにしてください。

なお、実習は学外で行うこととなっており、実習先が児童・生徒・高齢者といった抵抗力の弱い方々が対象となりますので、感染症に対する予防対策としてワクチン接種等が必須となります。掲示や窓口の指示に従ってください。

これらの連絡は全て掲示板にて行われます。掲示に注意し見落としがないように注意してください。

大学入学から免許状取得まで

大学入学から教員免許状取得までの手順は下図のとおりです。



年次 月	1 年		2 年		3 年		4 年	
	4月	上旬	教 職 課 程 説 明 会					
	中旬	教 職 科 目 の 履 修 申 告						
	下旬	教職課程履修費納入					教育実習関係書類配布 教育実習事前オリエンテーション	
5月								
6月							教育実習（実習校により実施期間は異なる）	
9月	下旬	教職課程履修費納入						
10月	中旬						教員免許状一括申請に関する説明会	
11月	上旬						一括申請書類提出	
1月	下旬		教育実習オリエンテーション					
2月			教育実習校受入れ可否打診					
3月	上旬		教育実習申込書提出 教育実習許可判定発表 教育実習体験に関する書類配布	進級発表 教育実習許可判定最終発表			卒業発表	
	中旬						教員免許状交付 （卒業式当日）	

※教職科目の履修申告は他の授業科目と同様に修正申告を行うことができます。

※各々の詳細については、その都度**共通掲示板**にてお知らせします。

※教職課程履修費については、掲示・説明会等でお知らせします。

取得できる免許状

学部卒業に必要な単位の修得のほかに、教科及び教職に関する授業科目を修得することにより、次の教員免許状が授与されます。

基礎資格	免許状の種類	免許の教科	授業科目配当学系
学部卒業	中学校教諭 1種免許状	数 学	理学系、情報システムデザイン学系
		理 科	理学系、生命理工学系
	高等学校教諭 1種免許状	数 学	理学系、情報システムデザイン学系
		理 科	理学系、生命理工学系
		情 報	理学系、情報システムデザイン学系 生命理工学系、電子・機械工学系
		工 業	建築・都市環境学系、電子・機械工学系、生命理工学系

履 修 要 件

免許法に基づき本学部で免許状を取得するための最低単位数は、次のとおりです。

(1) 本学部における最低修得単位数

免許の種類	基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	合計
中学校教諭 1種免許状	学士の学位	20	35	4	59
高等学校教諭 1種免許状	学士の学位	20	27	12	59

注) 基礎資格（学士の学位を有すること）について

本学部を卒業することにより、理学系は学士（理学）、情報システムデザイン学系は学士（情報学）、建築・都市環境学系、電子・機械工学系、生命理工学系は学士（工学）の学位が与えられますので、学部を卒業することにより基礎資格は得られます。

(2) 文部科学省が定める科目

教職に関する科目、教科に関する科目の他に、人間形成科目群・リテラシー科目群・英語科目群より**日本国憲法 2 単位、体育 2 単位、外国語コミュニケーション 2 単位、情報機器の操作 2 単位**の 8 単位を必ず修得しなければなりません（人間形成科目群、リテラシー科目群・英語科目群の科目配当表の教職コード欄参照）。

文部科学省が定める科目	必要単位	教職コード	本学での該当科目 () 内は、単位数
「日本国憲法」	2	00100	日本国憲法(2)
「体育」	2	00200	体育Ⅰ(1)、体育Ⅱ(1)、体育Ⅲ(1)、体育Ⅳ(1)、体育Ⅴ(1)、体育Ⅵ(1)
「外国語コミュニケーション」	2	00300	ドイツ語入門Ⅰ(1) 英語ⅠA(1) ドイツ語入門Ⅱ(1) 英語ⅠB(1) 基礎ドイツ語Ⅰ(1) 英語ⅡA(1) 基礎ドイツ語Ⅱ(1) 英語ⅡB(1) 初級ドイツ語Ⅰ(1) 英語ⅢA(1) 初級ドイツ語Ⅱ(1) 英語ⅢB(1) フランス語入門Ⅰ(1) 英語ⅣA(1) フランス語入門Ⅱ(1) 英語ⅣB(1) 基礎フランス語Ⅰ(1) 英語ⅤA(1) 基礎フランス語Ⅱ(1) 英語ⅤB(1) 初級フランス語Ⅰ(1) 初級フランス語Ⅱ(1) 中国語入門Ⅰ(1) 中国語入門Ⅱ(1) 基礎中国語Ⅰ(1) 基礎中国語Ⅱ(1) 初級中国語Ⅰ(1) 初級中国語Ⅱ(1)
「情報機器の操作」	2	00400	情報処理 A (2)

(3) 教科に関する科目

教科に関する科目については、科目配当表の教職コード欄に免許法上の区分が記載されています。下記の表は区分ごとにまとめたものです。(2012年4月1日現在)

数学(中学校一種・高校一種)

下記の区分ごとにそれぞれ1単位以上、計20単位以上(教職に関する科目と合計して59単位以上)修得すること。()内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	情報システムデザイン学系配当科目
代数学	20100	○基礎線形代数学A(2)※ 応用線形代数学(2) 基礎線形代数学B(2)※ 代数入門(2) 線形代数学I(2) 代数学II(2) 線形代数学II(2) 代数学III(2) 代数学I(2) 代数学IV(2) 代数学I演習(1)	○基礎線形代数学A(2)※ 基礎線形代数学B(2)※ 情報・符号理論(2)
幾何学	20200	位相空間I(2) 位相空間II(2) 位相空間I演習(1) 幾何学II(2) ○幾何学I(2) 幾何学III(2)	○数理とデザイン(2) 幾何学I(2) 幾何学II(2)
解析学	20300	○基礎微積分学A(2)※ 解析学IV(2) 基礎微積分学B(2)※ 常微分方程式(2) 解析学I(2) 常微分方程式演習(1) 解析学I演習(2) 複素解析学I(2) 解析学II(2) 関数解析学(2) 解析学II演習(2) 偏微分方程式(2) 解析学III(2) 複素解析学II(2) 解析学III演習(2)	○基礎微積分学A(2)※ 基礎微積分学B(2)※ 動的システム(2)
「確率論、統計学」	20400	○確率論(2) 統計学(2)	○基礎確率論(2) 多変量解析(2) 統計学I(2) 確率ネットワーク(2) 統計学II(2)
コンピュータ	20500	○数理プログラミング(2) 離散数学(2) 画像解析(2)	情報数学(2) コンピュータ基礎II(2) アルゴリズムとデータ構造I(2) コンピュータグラフィックスI(2) ○コンピュータ基礎I(2)

○の科目は、必ず履修し修得すること。

※の科目は、学部共通科目から履修すること。

■の科目は、理学系から履修すること。

理科（中学校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ1単位以上、計20単位以上（教職に関する科目と合計して59単位以上）修得すること。（ ）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	生命理工学系配当科目
物理学	30100	○物理学A(2)※ 物理学B(2)※ 熱力学(2) 統計力学Ⅰ(2) 量子力学Ⅰ(2)	量子力学Ⅱ(2) 力学(2) 電磁気学(2) 統計力学Ⅱ(2) 量子力学Ⅲ(2)
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	30200	○一般物理学実験(2)※ サイエンス実験Ⅰ(2)	○一般物理学実験(2)※
化学	30300	○化学A(2)※ 化学B(2)※ 生命の化学(2) 有機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅰ(2) 材料化学(2) 化学反応学(2)	分子分光学(2) 化学熱力学(2) 有機化学Ⅱ(2) 界面化学(2) 無機化学Ⅱ(2) 高分子科学(2) 電気化学(2)
化学実験 (コンピュータ活用を含む。)	30400	○一般化学実験(2)※ サイエンス実験Ⅱ(2) 物理化学実験(4)	○一般化学実験(2)※
生物学	30500	生物学(2)※ ○生物学(2) 微生物学(2) 応用微生物学(2)	細胞の科学(2) 環境生命工学(2) 微生物学(2) ○生物学(2) 遺伝学(2) 分子生物学(2) 植物生理学(2) 免疫学(2)
生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	30600	○生命理工学実験Ⅰ(2) 生命理工学実験Ⅱ(2)	○生命理工学実験Ⅰ(2) 生命理工学実験Ⅱ(2) 生命科学実験Ⅰ(2)
地学	30700	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)
地学実験(コンピュータ活用を含む。)	30800	○地学実験(2)	○地学実験(2)

○の科目は、必ず履修し修得すること。

※の科目は、学部共通科目から履修すること。

■の科目は、生命理工学系から履修すること。

理科（高等学校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ1単位以上、計20単位以上（教職に関する科目と合計して59単位以上）修得すること。（ ）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目		生命理工学系配当科目	
物理学	30100	○物理学A(2)※ 物理学B(2)※ 熱力学(2) 統計力学Ⅰ(2) 量子力学Ⅰ(2)	量子力学Ⅱ(2) 力学(2) 電磁気学(2) 統計力学Ⅱ(2) 量子力学Ⅲ(2)	○物理学A(2)※ 物理学B(2)※	
化学	30300	○化学A(2)※ 化学B(2)※ 生命の化学(2) 有機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅰ(2) 材料化学(2) 化学反応学(2)	分子分光化学(2) 化学熱力学(2) 有機化学Ⅱ(2) 界面化学(2) 無機化学Ⅱ(2) 高分子科学(2) 電気化学(2)	○化学A(2)※ 化学B(2)※ 生命の化学(2) 生化学(2) 有機化学Ⅰ(2) 生命物理化学(2)	有機化学Ⅱ(2) 無機化学Ⅰ(2) 生命分析化学(2) 電気化学(2) 生体高分子科学(2) 再生医化学(2)
生物学	30500	生物学(2)※ ○生物学(2) 微生物学(2) 応用微生物学(2)		細胞の科学(2) 環境生命工学(2) 微生物学(2) ○生物学(2) 遺伝学(2) 分子生物学(2) 植物生理学(2) 免疫学(2)	生体組織学(2) 遺伝子工学(2) 薬理学(2) 細胞工学(2) 応用微生物学(2) 生物反応学(2) 生物科学(2)※
地学	30700	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)		環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)	
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	30200	○一般物理学実験(2)※ サイエンス実験Ⅰ(2)		○一般物理学実験(2)※	
化学実験 (コンピュータ活用を含む。)	30400	○一般化学実験(2)※ サイエンス実験Ⅱ(2) 物理化学実験(4)		○一般化学実験(2)※	
生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	30600	○生命理工学実験Ⅰ(2) 生命理工学実験Ⅱ(2)		○生命理工学実験Ⅰ(2) 生命科学実験Ⅱ(2) 生命理工学実験Ⅱ(2) 生物環境実験Ⅰ(2) 生命科学実験Ⅰ(2) 生物環境実験Ⅱ(2)	
地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	30800	○地学実験(2)		○地学実験(2)	

○の科目は、必ず履修し修得すること。

※の科目は、学部共通科目から履修すること。

■の科目は、生命理工学系から履修すること。

情報（高等学校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ1単位以上、計20単位以上（教職に関する科目と合計して59単位以上）修得すること。（ ）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	情報システムデザイン学系配当科目
情報社会及び情報倫理	60100	数理情報学入門(2) ○情報と倫理(2) 技術者倫理(2)※	情報システムデザイン概論(2) 技術者倫理(2)※ ○情報社会学入門(2)
コンピュータ及び情報処理(実習を含む。)	60200	○数理情報学演習Ⅰ(2)	基本情報処理技術(2) コンピュータサイエンス実験(1) 数値解析学(2) ○コンピュータプログラミングⅠ・同演習(3) コンピュータ設計学(2)
情報システム(実習を含む。)	60300	データ科学(2) ○数理情報学演習Ⅱ(2)	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ(2) ソフトウェア工学(2) 数理最適化入門(2) ○コンピュータプログラミングⅡ・同演習(3) オペレーティングシステム(2) オブジェクト指向プログラミング(2) データベース(2)
情報通信ネットワーク(実習を含む。)	60400	○情報論(2)	情報伝送工学(2) コンピュータサイエンス演習Ⅱ(2) ○情報ネットワーク概論(2) ネットワークプログラミング(2) ワイヤレスネットワーク(2)
マルチメディア表現及び技術(実習を含む。)	60500	○画像処理(2) 数理情報学演習Ⅲ(2) 人工知能(2)	○造形デザイン実習(2) コンピュータグラフィックスⅡ(2) 知識と推論(2) インタラクティブデザイン論(2) 組み込みシステム(2) コンピュータサイエンス演習Ⅰ(2) 画像工学(2) 論理プログラミング(2)
情報と職業	60600	情報と職業入門(1) 情報と職業(2)	情報と職業入門(1) 情報と職業(2)

免許法上の区分	教職コード	電子・機械工学系配当科目	生命理工学系配当科目
情報社会及び情報倫理	60100	○情報と倫理(2) 技術者倫理(2)※	○情報と倫理(2) 技術者倫理(2)※
コンピュータ及び情報処理(実習を含む。)	60200	応用数値解析(2) 信号処理工学A(2) ○コンピュータ工学Ⅰ(2) 信号処理工学B(2) 応用プログラミング(2)	
情報システム(実習を含む。)	60300	計算機工学(2) 電子情報回路B(2) ○電子情報回路A(2)	
情報通信ネットワーク(実習を含む。)	60400	○デジタル情報理論(2) 通信工学(2) 生体情報工学(2) 電子情報実験Ⅰ(2)	
マルチメディア表現及び技術(実習を含む。)	60500	○コンピュータ工学Ⅱ(2) 電子情報実験Ⅱ(2) システム工学(2)	
情報と職業	60600	情報と職業入門(1) 情報と職業(2)	情報と職業入門(1) 情報と職業(2)

○の科目は、必ず履修し修得すること。

※の科目は、人間形成科目から履修すること。

■の科目は、理学系・生命理工学系から履修すること。

工業（高等学校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ1単位以上、計20単位以上（教職に関する科目と合計して59単位以上）修得すること。（ ）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	建築・都市環境学系配当科目		
工業の関係科目	70100	○建築・都市環境学への応用(2)	水文学(2)	景観デザイン(2)
		○建築・都市デザイン概論(2)	水理実験(1)	防災工学(2)
		数学演習(2)	建設材料学(2)	都市計画(2)
		基礎統計学(2)	材料実験(1)	交通計画(2)
		微分方程式(2)	建設施工法(2)	建設マネジメント(2)
		計画数理(2)	道路工学(2)	河川・海岸計画(2)
		プログラミング演習(2)	測量学・演習(3)	都市プロジェクトの評価(2)
		数値計算法(2)	測量実習(2)	建築法規(1)
		静力学(2)	リモートセンシング(2)	ランドスケープデザイン(2)
		応用力学A・演習(3)	空間情報工学(2)	住居論(2)
		応用力学B(2)	建築都市デザイン演習Ⅰ(3)	建築計画学(2)
		鉄筋コンクリート工学(2)	建築都市デザイン演習ⅡA(2)	建築史(2)
		鋼構造学(2)	建築都市デザイン演習ⅡB(2)	建築設備(2)
		構造実験(1)	建築都市デザイン演習ⅢA(2)	建築デザイン論(2)
		地盤工学A・演習(3)	建築都市デザイン演習ⅢB(2)	建築とアートワーク論(2)
		地盤工学B(2)	水圏の環境(2)	建築環境工学(2)
		土質実験(1)	気圏・地圏の環境(2)	耐震設計法(2)
		流れの科学(2)	衛生工学(2)	建築構法(2)
		水理学A・演習(3)	環境アセスメント(2)	建築構造学(2)
		水理学B(2)	生物圏の環境(2)	情報処理B(2)※
職業指導	70200	○職業指導(4)		

免許法上の区分	教職コード	電子・機械工学系配当科目		
工業の関係科目	70100	○電子・機械工学概論(2)	機械要素Ⅱ(2)	デジタル回路(2)
		電気回路Ⅰ・演習(3)	材料強度学(2)	電子設計(2)
		電気回路Ⅱ・演習(3)	工業熱力学・演習(3)	電子物理学Ⅰ(2)
		○電磁気学Ⅰ・演習(3)	形状創成学・演習(3)	電子物理学Ⅱ(2)
		電磁気学Ⅱ・演習(3)	流体力学Ⅱ・演習(3)	電子・機械工学製作実習(2)
		材料力学Ⅰ・演習(3)	構造・機能材料学(2)	機械工学基礎実験Ⅰ(1)
		材料力学Ⅱ・演習(3)	材料変形学(2)	機械工学基礎実験Ⅱ(1)
		剛体力学Ⅱ・演習(3)	自動車工学(2)	機械工学基礎実験Ⅲ(1)
		流体力学Ⅰ・演習(3)	過渡現象(2)	機械工学基礎実験Ⅳ(1)
		工業数学Ⅰ(2)	○制御工学Ⅰ・演習(3)	機械設計製図Ⅰ(1)
		工業数学Ⅱ(2)	制御工学Ⅱ・演習(3)	機械設計製図Ⅱ(1)
		ヒューマンインターフェース(2)	電子制御機械工学(2)	機械設計製図Ⅲ(1)
		生体工学(2)	機械計測(2)	機械設計製図Ⅳ(1)
		医用電子工学(2)	パワーエレクトロニクス(2)	電子工学基礎実験Ⅰ(2)
		福祉機器学(2)	エネルギー変換工学(2)	電子工学基礎実験Ⅱ(2)
		機械要素Ⅰ(2)	電気・電子計測工学(2)	情報処理B(2)※
職業指導	70200	○職業指導(4)		

免許法上の区分	教職コード	生命理工学系配当科目				
工業の関係科目	70100	機器分析(2)	水圏の環境(2)	気圏・地圏の環境(2)	生物圏の環境(2)	情報処理B(2)※
職業指導	70200	○職業指導(4)				

○の科目は、必ず履修し修得すること。

※の科目は、学部共通科目から履修すること。－ 200 －

(4) 教職に関する科目

教職に関する科目とは、教職課程を履修する学生のために特設した科目で、下記の科目が設置されています。中学校免許は下記の科目の中から、必修科目を含めて 35 単位、高校免許は最低 27 単位修得することになります。(教科教育法は、当該教科のみの修得)。() 内は単位数

免許法上の区分			単位数	教職コード	授業科目名	備考	
科 目	各科目に含める必要な事項						
第一欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容、進路選択に資する各種の機会の提供等		2	10100	教職入門(2) 中学・高校免許必修科目	
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		6	10200	教育学概論(2) 中学・高校免許必修科目	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				教育心理学(2) 中学・高校免許必修科目	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項				教育社会学(2) 中学・高校免許必修科目	
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法		中学校 15 高校 9	10300	教育課程論(2)	
		特別活動の指導法				特別活動論(1) 中学・高校免許必修科目	
		教育の方法及び技術				教育の方法と技術(2)	
		各教科の指導法				数学科教育法 A(2)	中学校免許は当該教科の教育法 A、B、指導法 A、B 必修、 高校免許は当該教科の教育法 A、B 必修 (指導法 A、B はカウントされない)
						数学科教育法 B(2)	
						数学科指導法 A(2)	
						数学科指導法 B(2)	
						理科教育法 A(2)	
						理科教育法 B(2)	
						理科指導法 A(2)	
理科指導法 B(2)							
工業科教育法 A(2)		工業科教育法 B(2)					
情報科教育法 A(2)							
情報科教育法 B(2)		道徳教育論(2) 中学校必修・高校選択科目					
第五欄	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法		4	10400	生徒・進路指導論(2) 中学・高校免許必修科目	
		教育相談の理論及び方法				教育相談(2) 中学・高校免許必修科目	
第五欄	教育実習			中学校 6 高校 4	10500	教育実習セミナー(2) 教育実習 I(2) 教育実習 II(2) 中学・高校免許必修科目 中学・高校免許必修科目 中学校免許のみ必修	
第六欄	教職実践演習			2	10600	教職実践演習(中・高)(2) 中学・高校免許必修科目	

教科又は教職に関する科目

総合演習		2	10700	教職総合演習(2)	中学校必修・高校選択科目
------	--	---	-------	-----------	--------------

注) 中学校免許取得の場合は、120 時間以上(3 週間～4 週間)、高校免許取得の場合は、60 時間以上(2 週間)の教育実習を行なう必要があります。

注) ■■■■ は、卒業単位に算入されます。したがって履修上限 48 単位に入ります。

注) 備考欄の必修は、取得しようとする免許状に対してであり、卒業するための必要要件ではありません。

注) 「道徳教育論」については高校免許のみの取得希望者が単位修得した場合は、「教科又は教職に関する科目」としてカウントされます。

(5) 介護等の体験

中学校の教員免許状を取得する場合に必要となります。介護等の体験は、満 18 歳を過ぎてから免許取得までの時期に省令等で指定する施設等で 7 日間の介護等の体験を行い、その体験を施設等の長に証明していただくことにより、小・中学校教諭一種免許状授与の要件となります。

この法律は平成 10 年度入学生より適用されています。本学においては、この介護等の体験の為に「**教職総合演習**」という科目を開講しています（前・後期開講）。介護等の体験希望者は、**介護等体験を行う年度以前に必ずこの科目を履修し、単位を修得する必要があります。**介護等の体験は、埼玉県教育委員会、埼玉県社会福祉協議会を通して養護学校、社会福祉施設へ申し込みを行います。その際に、賠償責任保険への加入が必要となります。手続き方法等については、教職課程説明会（4 月上旬）、「教職総合演習」の授業中、介護等体験申込み説明会（11 月下旬）、掲示等で行いますので、中学校の教員免許状の取得希望者は、必ず出席し、掲示に注意してください。

(6) 高等学校 1 種「工業」の教科について

高等学校 1 種「工業」の教員免許を取得するためには、本来は、それぞれ教科に関する科目、教職に関する科目の中の、定められた科目・単位を修得しなければなりません。現在のところ、免許法上の附則事項により、「教職に関する科目」の単位については、教科に関する科目の同数の単位の修得をもってこれに替えることができます。従って、教職に関する科目の単位を全く修得しなくても、人間形成科目群・リテラシー科目群・英語科目群の中から文部科学省が定める科目（8 単位:P.195 参照）を修得し、かつ工業の教科に関する科目（「職業指導:4 単位」を含む）を 59 単位以上修得することにより、工業の免許状が取得できます。（ただし、所属学系の工業の教科に関する科目が少ない場合は、前記の措置では 59 単位を充足しませんので、教職に関する科目あるいは他学系の工業の教科に関する科目を履修して単位を修得してください）

従ってこの措置で免許状の取得は可能ではありますが、教職に関する科目は教員となるための基本的な科目であり、同じ免許状を取得するにしても、教職に関する科目を修得しているといえないのでは、教職に就いた場合は勿論のこと、将来社会に出てからの役立ち方にも大きな差異がでてくる可能性があります。こうした点からも、教員を志望する者は、この措置に頼ることなく、少なくとも教職入門、教育学概論、教育心理学、工業科教育法 A、工業科教育法 B については修得しておくことが望まれます。

教職課程の履修手続

1. 履修申告

所定の時期に履修申告を行ってください。申告の方法は、他の科目と同様です。

2. 教職課程履修費の納入

教職課程の授業科目を履修するためには、通常の履修申告の他に**教職課程履修願**を提出し、所定の**履修費（10,000円：平成23年度実績）**を納入することが必要です。下記の教職科目の履修申告を行っていても、履修費を納入しない者は教職科目の履修を取り消します。

これらの手続は前期は4月下旬頃、後期は9月下旬頃行いますので、掲示に注意してください。

教育課程論	道徳教育論
特別活動論	生徒・進路指導論
教育の方法と技術	教育相談
数学科教育法A	教育実習セミナー
数学科教育法B	教育実習Ⅰ
数学科指導法A	教育実習Ⅱ
数学科指導法B	教職実践演習（中・高）
工業科教育法A	情報と倫理
工業科教育法B	職業指導
理科教育法A	
理科教育法B	
理科指導法A	
理科指導法B	
情報科教育法A	
情報科教育法B	

◎在学中（学部・大学院）、1回の納入とする。

◎いずれの場合においても、一度納入したら履修費は返金しない。

3. 教職課程履修券の交付

1、2の手続きを行った者に、「教職課程履修券」を交付します。この履修券は卒業時に免許状を受領する際に必要となります。また、在学中有効ですが、再発行はしませんので、大切に保管してください。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

4. 履修カルテについて

教職課程を履修する学生は履修履歴を把握するために履修カルテを作成することになっています。履修カルテを作成しないと教員免許は取得できませんので、必ず掲示に注意し説明会等に参加をするようにしてください。

教 育 実 習

教育実習は、4年次生になって、中学校は120時間以上（3週間～4週間）、高等学校は60時間以上（2週間）以上にわたり、教育活動（教科指導および生徒指導等）に参加することによって行われます。高校1種「工業」の免許状を取得する場合は、前記したように必ずしも行う必要はありません。尚、教育実習期間中の就職活動等での欠席は認められませんので注意してください。

1. 教育実習履修の条件

本学においては従来より、教育実習を行う場合、教育実習を大学として許可するかどうかの判定基準を設けています。判定基準に合格しないと教育実習が行えませんので注意してください。皆さんに適用される判定基準については、決まり次第、掲示しますが、参考に昨年度の判定基準を掲載しておきます。

参考：平成23年度2年次生・3年次生教育実習許可判定基準について

< 2年次学年末許可判定基準 >

3年次に進級できる者であり、尚且つ2年次学年末の修得単位数（教職・自由科目除く）が正規進級者72単位以上、留年者80単位以上とする。

< 3年次学年末許可判定基準 >

以下の教職に関する科目において5科目以上が合格点に達していて、3年次後期配当科目「教育実践研究入門」の単位を修得し、かつ4年次へ進級した者（2年次学年末許可判定に合格しても、3年次学年末で不合格の場合は教育実習は行えません）。

科 目 名	配 当 学 年	配 当 期
教 職 入 門	全年次	前期
教 育 学 概 論 B	全年次	後期
教 育 心 理 学 概 論	2・3・4年次	前期
教育方法・課程論（特別活動を含む）	全年次	前期・後期
道 徳 教 育 論	全年次	前期
生 徒 指 導 論	全年次	前期
教 育 学 概 論 C	全年次	後期
教 科 教 育 法 A ※	2・3・4年次	前期
教 職 総 合 演 習	全年次	前期・後期
学 校 カ ウ ン セ リ ン グ 論	2・3・4年次	後期

※各教科教育法Aとは、数学科教育法A、工業科教育法A、理科教育法A、情報科教育法A。
ただし、教科教育法Aは、複数教科の単位を取得しても1科目の合格扱いとなるので注意してください。

2. 教育実習校

実習希望者は、2年次の後期（1月頃）の教育実習オリエンテーションに出席し、教務担当に「教育実習申込書」を必ず提出してください（尚、留年した場合、再度提出する必要あり）。そして、2年次終了の春休みから自分の出身中学・高校、または縁故のある学校へ出向いて依頼をしてください。なお本学部では1.の基準により判定の上、一定のレベル以上にある者に限り、実習校への依頼を認めています。

依頼するにあたっては、本学で発行する「教育実習依頼状」等を実習校へ提出する必要がありますので、教育実習を許可された者は掲示しますので、教務担当まで来てください。

3. 教育実習の手続き

- ① 「教育実習願」（用紙は教務担当にあり）を、教務担当へ提出すること。
- ② 教育実習費・謝礼金は、大学ではなく各自の負担となりますので、直接実習校に納入すること。
- ③ 実習の際、次の必要書類を整えて、実習校へ携行すること。
 - イ) 教育実習日誌（本学部所定のを各自売店で購入すること）
 - ロ) 出勤簿用紙（教務担当で用意する）
 - ハ) 教育実習評価表用紙（教務担当で用意する）
 - ニ) 教育実習終了証明書用紙（教務担当で用意する）
- ④ 実習が終了したならば、ただちに教育実習日誌を「教育実習セミナー」の担当教員へ提出すること。

※ みなさんは実習が終了しましたら、必ず実習校へお礼状を送るようにしてください。

免許状の申請・交付

教育職員免許状の授与権者は、その大学が所在する都道府県の教育委員会であり、本学部の場合は埼玉県教育委員会となります。

申請方法には、大学が免許状の申請を一括して受付け、卒業式当日に免許状が交付される**一括申請**と、個人が直接教育委員会へ申請する**個人申請**があります。

1. 一括申請

免許状取得を希望する4年次生（ただし、卒業見込で、かつ免許状取得見込の者に限る）に対し、10月中旬頃、一括申請説明会を行います。その際に配布する申請書類を記入し、本籍地の市区町村長が発行する「戸籍抄本」・介護等体験証明書等を添付して、期日までに教務担当へ提出してください。

教務担当ではこれをまとめて教育委員会へ一括して申請し、審査をうけ、卒業式当日学位記交付時に各自へ**教職課程履修券**と引きかえに教員免許状を交付します。

2. 個人申請

卒業後、居住する都道府県の教育委員会へ、個人で申請して交付を受ける方法です。詳しい事は各教育委員会へ各自で問い合わせてください。在学中適用となっていた免許法が何らかの改正等で変わる事があります。その場合は取得しなくてはならない科目が増えたりすることもありますので注意してください。

○ 免許状取得見込証明書

教員採用試験を受験する際に必要な「教育職員免許状取得見込証明書」は、現在履修中の授業科目を修得見込として扱い、教務担当で発行します。

○ 免許状取得証明書

免許状を取得した後、「教育職員免許状取得証明書」が必要となった場合は、交付を受けた教育委員会へ請求してください。

2012年度 カリキュラム 教職科目 授業科目配当表

教職

科目群	分野	科目名	必選	単位	学年	前期		後期		備考	教職コード
						前前期	前後期	後前期	後後期		
教職課程科目	教職に関する専門科目	教職入門	選択	2	全	1	1				10100
		教育学概論	選択	2	全	1	1				10200
		教育心理学	選択	2	2	1	1				10200
		特別活動論	自由	1	全				1/4期1コマ		10300
		教育課程論	自由	2	全			半期1コマ			10300
		教育の方法と技術	自由	2	3			1	1		10300
		教育実習セミナー	自由	2	4	1	1				10500
		教育実習Ⅰ	自由	2	4			半期1コマ		※1	10500
		教育実習Ⅱ	自由	2	4			半期1コマ		※2	10500
		道徳教育論	自由	2	全	1	1				10300
		生徒・進路指導論	自由	2	全	1	1				10400
		教育社会学	選択	2	全				1	1	10200
		数学科教育法A	自由	2	2	1	1				※1 10300
		数学科教育法B	自由	2	2				1	1	※1 10300
		数学科指導法A	自由	2	3	1	1				※2 10300
		数学科指導法B	自由	2	3				1	1	※2 10300
		情報科教育法A	自由	2	3	1	1				10300
		情報科教育法B	自由	2	3				1	1	10300
		工業科教育法A	自由	2	3	1	1				10300
		工業科教育法B	自由	2	3				1	1	10300
		理科教育法A	自由	2	2	1	1				※1 10300
		理科教育法B	自由	2	2				1	1	※1 10300
		理科指導法A	自由	2	3	1	1				※2 10300
理科指導法B	自由	2	3				1	1	※2 10300		
教育相談	自由	2	2				1	1	10400		
教職実践演習(中・高)	自由	2	4				1	1	10600		
教科又は教職に関する科目		教職総合演習	選択	2	全	半期1コマ (但し前・後期開講)				10700	
教科に関する専門科目		情報と倫理	自由	2	2			1	1		60100
		情報と職業入門	選択	1	全	1					60600
		情報と職業	選択	2	全			1	1	※3	60600
		職業指導	自由	4	4	1	1	1	1	通年科目	70200

※1 中学・高校免許用 ※2 中学免許用 ※3 理学系のみ2年次配当

第4章

学生生活について

学籍について

みなさんは入学により本学の学生としての身分を取得し、卒業によりその身分を失いますが、退学または除籍により身分を失う場合もあります。いったん入学した以上、卒業を望むのが当然ですが、どうしても退学せざるを得ない事情も生じますでしょうし、病気などのためやむなく休学しなければならない事態も起こってくるかもしれません。そのようなときには、学生厚生担当で次のような手続きを行ってください。（いずれも所定の願用紙を使用しなければなりません。）

1. 休学、復学

病気、ケガその他やむを得ない理由により、3ヶ月以上の欠席を必要とする場合は、所定の「休学願」にその理由を記し、本人と保証人の連署・捺印の上、届け出て許可を得なければなりません。病気・ケガによる場合は、医師の診断書が必要です。

休学できる期間は、許可を受けた年度内です。なお、特別の事情があると認められた場合は再休学を許可することがあります。休学期間中の学費については在籍料として半期につき60,000円が必要です。

休学の理由が解消したときは、復学を願い出ることができます。ただし復学できるのは、原則として学期の始めのみです。

（詳細は、学生厚生担当にて相談してください。）

2. 退学

病気・ケガその他やむを得ない理由により、退学を希望する場合は、所定の「退学願」にその理由を記し、本人と保証人の連署・捺印の上、学生証を添えて届け出て許可を得なければなりません。病気、ケガによる場合は、医師の診断書が必要です。

（詳細は、学生厚生担当にて相談してください。）

※休学・退学の受付期間を過ぎて、学期の途中で休学または退学を届け出る場合は、その学期の学費が納入済みであることが必要です。

3. 除 籍

次のいずれかに該当する場合は除籍となります。

- (1) 最長在学年数（8年）をこえた者
- (2) 休学による場合を除き、同一学年に通算して4年の在学をこえてなお進級・卒業できない者
- (3) 学業成績が特に不良で改善の見込みがない者
- (4) 通算3年の休学期間をこえてなお復学しない者
- (5) 正当な理由がなく、無届で、引き続き3ヶ月以上欠席した者
- (6) 前期分学費を7月末日までに、後期分学費を1月末日までに納入しない者
(詳細は、学生厚生担当にて相談してください。)

4. 転 学 部

転学部は学業上又は経済的な理由により願い出た場合、受け入れ先に定員の余裕があれば、選考のうえ、許可することがあります。

(転学部に関する手続きは、10月から11月までに学生厚生担当にて相談してください。手続期間について掲示もよく注意してご覧ください。)

なお、転学部を希望する場合の出願資格は次の通りです。

第2年次編入

第1年次終了時に36単位以上修得見込みであること。

第3年次編入

第2年次終了時に60単位以上修得見込みであること。

また、希望する学部(学科)において、単位修得済みの指定科目がある場合は、それを取
得済みであること。

5. 転 学 系 (主コースの変更)

主コース、副コース分けやコース変更の際に決定されます。

6. 再 入 学

退学または除籍となって、将来、再入学を希望する場合は、定員に余裕があれば、選考のうえ、再入学することができます。

ただし、懲戒による退学となった場合は、再入学が認められません。

(詳細は、入試センター(東京千住キャンパス)にて相談してください。)

コース制とコースの選択

1. コース制とは

理工学部は「次世代モードの学び」として、自分に合った学びが自由に選択できるように15種類の教育コースを開設しています。

コースとは、体系化された学問の最小ユニットです。みなさんは2年次に進級する際、自分にあった主コース（メインとなる学習コース）と副コース（サブとなる学習コース）の2つのコースを選択します。主コースと近い分野の副コースを選択する場合は、専門性をより一層高めることができ、主コースとは異なる分野から副コースを選択する場合は、1つの専門性にはとらわれずに将来に亘る広い視野と見識を養成することができます。

主コースは、自分が所属する学系のコースを必ず選択しなければなりません。副コースについては自分が所属する学系からも、自分が所属する学系以外の学系からも選択することが可能です。

各学系に開設されたコースは以下のとおりとなっています。

理学系		
数学コース 物理学コース 化学コース 数理情報学コース		生命理工学系 生命科学コース 生物環境コース
	情報システムデザイン学系	
	コンピュータソフトウェアコース ネットワークシステムコース アミューズメントデザインコース 社会コミュニケーションコース コンピュータサイエンスコース	
電子・機械工学系		建築・都市環境学系
電子システムコース 機械システムコース		建築コース 都市環境コース

2. コース選択の時期と方法

2年次から主コースと副コースを選択します。希望コース調査については1年次の5月、9月に行いその結果を公表します。希望コース申告は1年次終了前の1月中旬に行います。主コースについては希望先を申告し、原則的に第1希望が優先されます。主コースの人数に大きな偏りが生じた場合には、1年次のGPAに基づき選考されます。なおGPAと面接結果を基に選考するコースもあります。副コースについては本人の希望が優先されます。

コース変更の時期

	2年次前期終了時	2年次後期終了時	3年次以降
主コース変更	○	×	×
副コース変更	○	○	×

3. コース変更について

主コースの変更は2年前期の申請期間に申告でき、受入コースの承諾を前提に認められません。

副コースの変更は上記同時期と2年後期の申請期間に申告でき、本人の希望が優先されます。

コース変更を行うと履修中の科目および既修得科目は、コース変更後の主コース・副コースに従います。また、進級条件も変更後のコースの条件に変わりますのでコース変更は十分に考えた上で申告してください。

くわしい日程は、学生厚生担当の掲示板に掲示をしますので、必ず確認してください。

クラスについて

クラスは、みなさんの所属する学系・学年別に編成されています。各種ガイダンス、学部行事への参加および専門科目の授業などは、これらのクラスを単位として行われることになります。

クラスには、それぞれ数名のクラス担任がおり、クラスのアドバイザーとして、クラスで行う行事および各種手続き事項に関する指示や相談のほか、学習上の問題や個々の悩みなどの相談に応じています。

オフィス・アワー (Office Hour)

オフィス・アワーとは

オフィス・アワーは、教員が学生との面談のために教員室で待機している時間のことです。つまり、学生の皆さんは、オフィス・アワーには自由に教員に質問や相談をするために教員室を訪れることができます。

オフィス・アワーの利用方法

オフィス・アワーを利用して教員と話をするために特別な手続きは必要ありません。オフィス・アワーに教員室をノックすれば良いだけです。各教員のオフィス・アワーは、シラバスや教員室のドアなどに掲示されています。時間をチェックして、教員室で先生と話をしてみましょう。

オフィス・アワーは、全学年・全学系の学生に公開されています。オフィス・アワーは、自分が所属する学系以外の教員の話聞く良い機会です。これからの技術者は専門を越えたより広い見識が必要です。他学系や共通教育群の先生方との接触はみなさんの知識の幅を広げることに役立ちます。

オフィス・アワー利用の心得

オフィス・アワーはあなただけのものではなく、あなた以外の学生にも開かれたものです。オフィス・アワーは学生がだらだらと教員室で過ごすための時間ではありません。言いたいことや質問項目を事前にちゃんと準備しましょう。自分の主張を順序立てて簡潔に表現することは社会人として重要なことです。このようにして、オフィス・アワーを利用することによって、自己表現能力をみかくこともできます。

学費について

1. 納入期限（平成 24 年度）及び学費振込用紙の発送時期

新入生・転学部生・編入学生

納入期限		学費振込用紙の発送
前学期	後学期	
(入学手続き時に前学期分学費は納入済)	10 月末日	後学期分の振込用紙を 7 月上旬に発送。

在校生

納入期限		学費振込用紙の発送
前学期	後学期	
4 月末日	10 月末日	4 月上旬に 1 年分(前・後学期の 2 枚)を発送。

2. 納入方法

本学所定の「学費等振込用紙」にて銀行からお振り込みください。前学期と後学期の年 2 回払いです。ご事情により、ATM やネットバンキングをご使用される場合は、「学籍番号」「学生カナ氏名」「金額」を正確に入力し、お振り込みください。

3. 「学費等振込用紙」について

- ① 経理部（会計担当）から保証人宛に郵送します。
- ② 保証人住所及び氏名は、学生厚生担当に登録されている内容を記載しています。変更がある場合は学生厚生担当にてお手続きください。
- ③ 保証人以外の宛先を希望される場合は、経理部（会計担当）へメールにてご連絡ください。
- ④ 振込用紙を紛失された場合は、学生厚生担当にて再発行の手続きをおとりください。

※上記④は、電子メールでのお手続きも可能です。

⇒ 経理部（会計担当）メールアドレス：gakuhi@jim.dendai.ac.jp

4. 学費延納

- ① 特別な理由により学費を納期限内に納入できず延納を希望される場合は、納期限までに本学所定の「学費延納願」を提出してください。
- ② 「学費延納願」は、学生本人及び保証人の署名捺印の他、延納理由のご記入が必要です。納期限日までにご提出できるようご準備ください。用紙は学生厚生担当にて配付します。
- ③ 延納が許可される期間は、前学期は6月末日、後学期は12月末日迄です。

5. その他

- ① 学費が所定の期日を過ぎて未納の場合は、学則により除籍となります。
- ② 留年者の学費は、当該学年の正規学年次生と同額となります。
- ③ 休学の場合は、半期6万円の在籍料がかかります。(平成24年度入学者より)

学費に関する情報は経理部（会計担当）のホームページにて確認できます。
<http://www.dendai.ac.jp/keiri/kaikei/>

奨学金制度

奨学金制度には、日本学生支援機構による奨学金をはじめ本学の奨学金、地方公共団体の奨学金、企業その他民間団体の奨学金があります。

奨学金の種類としては給付奨学金と貸与奨学金があります。給付奨学金は返還義務はありませんが、貸与奨学金は返還義務があります。

奨学金関係の事務取り扱いには学生厚生担当が行っています。募集をはじめ**連絡はすべて掲示にてお知らせしますので、掲示に注意してください。**

1. 日本学生支援機構奨学金

学業、人物ともに優秀で経済的理由により修学困難な学生のうち、大学から推薦された学生について、日本学生支援機構で選考の上、次の奨学金が貸与されます。

日本学生支援機構奨学金の種類と募集について

●「第1種」(無利子)

貸与期間	奨学生に採用された月から卒業予定の最短修業年限まで
募集時期	4月上旬
貸与月額	自宅・・・ $\begin{cases} 30,000 \text{ 円} \\ 54,000 \text{ 円} \end{cases}$ / 自宅外・・・ $\begin{cases} 30,000 \text{ 円} \\ 64,000 \text{ 円} \end{cases}$ (平成23年度)
資格	1年次生・・・高校時評定平均値 3.5以上 2～4年次生・・・クラス内学業成績順位 上位1/3以内

●「第2種」(有利子)

貸与期間	奨学生に採用された年度開始月から卒業予定の最短修業年限まで
募集時期	4月上旬
貸与月額	3万、5万、8万、10万、12万の中から選択 (平成23年度)
資格	1年次生……………高校時評価平均値 平均水準以上 2～4年次生…クラス内学業成績順位 平均水準以上

平成 23 年度 本学の日本学生支援機構奨学生数

学部	種類	第一種奨学金	第二種奨学金	合 計
理 工 学 部		286	879	1165

2. 特別奨学金（本学独自）（給付）

故 桜井虎三郎氏の遺志により、桜井家からの寄付および法人からの積立金等を基金として設立された奨学金です。

資 格	2～4年次生 学業成績・人物ともに優秀な者 学費支弁が困難な者
募集時期	6月
採用者数 平成23年度実績	理工学部7名（年額320,000円/人）

3. 東京電機大学校友会・新電気奨学金（貸与）

東京電機大学校友会が昭和59年度より設立した制度で、家庭の経済的事情急変のために、学業継続が困難になった者に対して貸与される奨学金です。

資 格	本学学生
貸 与 額	1回に納入する学費等の相当額 卒業後6ヶ月を経過した月から起算し5年間で返還（無利子）
募集時期	学費納入期限以前
採用者数 平成23年度実績	申込み者なし

4. 各種団体による奨学金

- 地方自治体、その他民間育英団体の奨学金は各種あります。内容の詳細については、募集の依頼があり次第掲示します。
- 大学を通さずに募集する自治体等もあります。直接各団体へ問い合わせ、応募の方法等を確認してください。

5. 学生救済奨学金

教育の機会均等の精神に基づき学業達成に意欲的でありながら、経済的事由が急変したために修学半ばにして断念せざるを得ない学生に対して奨学金を貸与し、学業継続の機会を与えるために新設されました。

資 格	大学院、学部在籍する学生であって、経済的事由により学費の支弁が困難であると認められる者、かつ貸与することにより学業継続が可能である者（卒業年次生優先）
応募・採用時期	原則として4月・9月（ただし、各校における在籍期間中1回）
奨学金額	1回に納入する学費等の相当額とし、奨学金は学費に充当する。（無利子）
返還期間	卒業後5年間（繰り上げ返還は可）
採用者数 平成23年度実績	理工学部7名

6. 学生支援奨学金

海外英語短期研修への参加およびパーソナルコンピュータ・製図機器等の教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生に対して、支援奨学金を貸与することにより、学生の学業・学生生活を支援するために新設されました。

資 格	大学院、学部在籍する学生（ただし、休学中、留学中、所定修業年限を超えて在籍している者を除く）
応募・採用時期	原則として4月・9月（ただし、各校における在籍期間中1回）
奨 学 金 額	30万円を上限とする（無利子）
返 還 期 間	卒業後5年間（繰り上げ返還は可）
採 用 者 数 平成23年度実績	理工学部7名

平成23年度に募集依頼のあった各種奨学金の一例

奨学金名称	種別	月 額	応 募 資 格	出願時期
〈財団系〉				
あしなが育英会	貸与	一般 40,000 特別 50,000	保護者が病気・災害等で死亡又は後遺障害のために働けなくなった家族の子女	4月下旬
電通育英奨学会	貸与	月額 40,000	①人物・学業ともに優秀な学生 ②学業成績5段階評価で3.5以上の者	4月中旬
関 育 英 会	貸与	月額 30,000	人物・学業とも優秀な学部2年生	5月上旬
中村積善会	貸与	月額 64,000	人物・学業とも優秀な学部生	4月下旬
交通遺児育英会	貸与	40,000 月額 50,000 60,000 から選択	保護者等が交通事故で死亡したり、著しい後遺障害で働けないため、教育費に困っている家庭の子女	4月上旬
ツツミ奨学財団	給付	月額 40,000	人物・学業とも優秀な学部1年生	5月上旬
守谷育英会	給付	月額 50,000	東京都内に居住し人物・学業とも優秀な学生	4月中旬
高山国際教育財団	給付	月額 100,000	人物・学業とも優秀な学部1年生、3年生	4月上旬
実吉奨学会	貸与	年額 600,000	人物・学業ともに優秀な学生	4月中旬

〔注〕1. 月額は平成23年度のもの

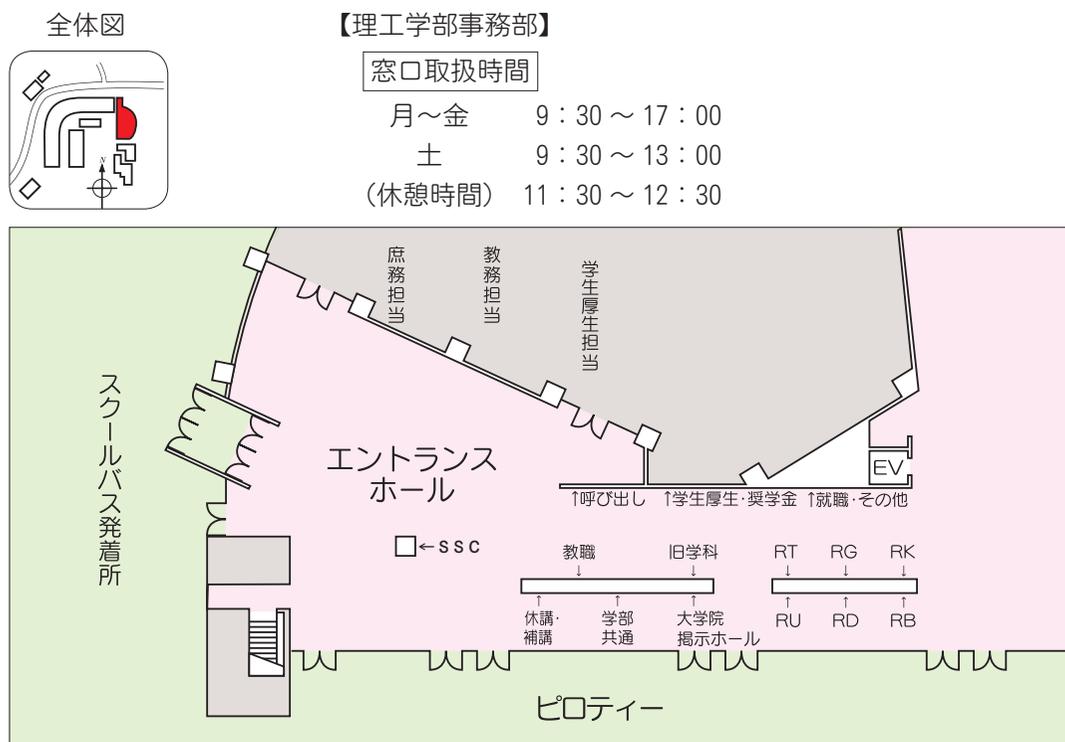
2. 隔年で募集される場合や出願時期が年度によって異なる場合があるので、必ず掲示で確認すること。

連絡・呼出し

みなさんへの連絡、呼出しその他の伝達事項は、すべて掲示または DENDAI - UNIPA により指示します。

連絡事項の見落としがないように、**毎日掲示板または DENDAI - UNIPA を確認**するよう心がけてください。

掲示の期間は原則として1週間ですが、いったん掲示または DENDAI - UNIPA で連絡した事項は周知したものと扱います。掲示または DENDAI - UNIPA を見なかったからという事は、理由になりませんので十分に注意してください。



※履修・試験関係の掲示は、移動掲示板等で示します。

緊急時等には電話連絡をする場合があります。大学からの電話には、(止むを得ない場合を除き) 必ずできるようにしてください。

証明書の交付

1. 学生厚生担当が交付する証明書

[証明書自動発行機より発行するもの]

No.	証明書の種類	在 学 生 手数料 (円)
1	在学証明書 (和文)	200
2	健康診断証明書 (年度内のもの)	200
3	学生旅客運賃割引証 (学割)	無料

[窓口で発行するもの]

No.	証明書の種類	在 学 生 手数料 (円)
1	学生証再発行	2,000
2	在学証明書 (英文)	700
3	通学証明書	無料

(1) 学生証再発行

もし、学生証を紛失または汚損したときは、証明書自動発行機より申請書を購入し、捺印の上学生厚生担当窓口へ提出してください。申請翌日に再発行されます。

(2) 在学証明書 (和文、英文)

和文在学証明書は証明書自動発行機で交付します。英文在学証明書は学生厚生担当窓口へ申請してください。3日後に発行します。

(3) 健康診断証明書

証明書自動発行機で交付します。(学内定期健康診断を受診した学生のみ)

(4) 学生旅客運賃割引証 (学割)

乗車区間が片道 100 キロを超える時に利用できます。証明書自動発行機で交付します (無料)。

*非正規生 (研究員・研究生・科目等履修生など) には、学割は発行されません。

個人用：1日2枚まで発行します。

◎学生団体運賃割引き制度について

上記の他に、学生 15 名以上が教職員に引率されて同一行程で旅行する場合、学生団体として普通運賃が割引になります。なお、申し込みの際に、団体旅行申込書に大学の証明が必要になります。

(5) 通学証明書

通学定期券は、殆どの場合学生証の提示で購入出来ますが、バス・都電など、通学証明書を必要とする場合があります。

その場合には、通学証明書交付願に必要事項を記入し、申し込んでください。即時交付されます（無料）。

通学区間は、学校最寄り駅と居住地最寄り駅との最短経路になります。

*非正規生（研究員・研究生・科目等履修生など）は、通学定期券を購入することはできません。

2. 教務担当が交付する証明書

[証明書自動発行機より発行するもの]

No.	証明書の種類	在 学 生 手数料 (円)
1	卒業見込証明書	200
2	成績証明書	300
3	仮受験票	1,000

[窓口で発行するもの]

No.	証明書の種類	在 学 生 手数料 (円)
4	人物調査書	500
5	教職免許状取得見込証明書	500
6	大学院進学用調査書 (他大学院宛)	500
7	外国語文卒業見込証明書	1,200
8	外国語文成績証明書	1,500
9	科目等履修生在籍証明書	200
10	科目等履修生単位取得証明書	1,000
11	JABEE 修了証明書	500

(1) 卒業見込証明書 (200 円)

4年次生に対してのみ発行いたします。

(※3年次以上の在学での卒業を希望する学生に対しては、卒業を希望する学期の初めから発行いたします。)

(2) 成績証明書 (300 円)

修得した科目、および履修中の科目が表記されており、単位数や評価が記載されています。

(3) 仮受験票 (1,000 円)

試験を受ける際は学生証が必要です。学生証を忘れた者は、証明書自動発行機より仮受験票を出力し、使用してください。なお、仮受験票は当日のみ有効ですので、受験しない時限分の仮受験票は各自で処分してください。

(4) 人物調査書 (500 円・10 日後)

学生の人物を客観的に示したものです。

原則として、学生に身近な卒業研究指導教員又は、クラス担当教員などが記入します。

申請が出てから教員へ作成依頼をしますので、日にちには余裕をもって申請してください。

(5) 教職免許状取得見込証明書 (500 円・2 日後)

4 年次生の教職課程履修者で免許状取得に必要な単位を取得予定の者へ発行します。

(6) 大学院進学用調査書 (500 円・10 日後)

本学の大学院へ提出する場合は必要ありませんが、他大学院を受験する場合に必要となります。人物調査書と同じく卒業研究指導教員へ依頼する項目がありますので、申請は早めにするようにしてください。

(7) 外国語文卒業見込証明書 (1,200 円・7 日後)**(8) 外国語文成績証明書** (1,500 円・7 日後)**(9) 科目等履修生在籍証明書** (200 円・2 日後)**(10) 科目等履修生単位取得証明書** (1,000 円・2 日後)**(11) JABEE 修了証明書** (500 円・2 日後)**※証明書自動発行機について**

○証明書自動発行機の利用時間は 9:00 ~ 21:00 です (月~金)。

○在学生は学生証が無いと利用出来ません。

卒業後の各種証明書の申請については P 264 参照

届け出・願い出

1. 学生厚生担当に提出する書類

(1) 退学願

一身上の都合などにより退学を願い出る場合は、所定の退学願に必要事項を記入し、学生証を添えて提出してください。

退学後は再入学が困難（再入学ができない場合もあります）ですので、慎重に検討してください。

(2) 休学願

長期間にわたる欠席を必要とする場合は、所定の休学願に必要事項を記入し、学生証を添えて提出してください。

(3) 復学願

休学の事由が消滅し、復学を願い出る場合は、所定の復学願に必要事項を記入し、所定の期限までに提出してください。

(4) 転学部願

理工学部から工学部第二部への転学部は、希望する理由が主に経済的による場合であって、工学部第二部の学科の定員に余裕がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。未来科学部、情報環境学部への転学部を希望する場合も含め、10月下旬までに学生厚生担当窓口で申し出てください。詳細については事前に学生厚生担当窓口でご相談ください。

(5) 転学系願

二年次から学年が進行していく過程で真にやむを得ない理由で、理工学部内の他の学系へ異動したい場合は、他の学系の定員に余裕がある場合に限り、選考のうえ許可することがあります。事前に学生厚生担当窓口にてご相談ください。

(6) 変更届

以下の項目に変更が生じた場合は変更届けを提出してください。

項 目	備 考
氏名	戸籍抄本の提出も必要となります。
現住所	学生証を添えて提出してください。
保証人住所	
帰省先	
電話番号 (携帯電話番号含む)	
保証人	保証人の捺印が必要となります。

(7) 車両通学願

前期・後期に実施する安全運転講習会を受講し、指定期間内に車両通学願にその他の必要書類を添えて提出してください。

(8) 教室その他の学内施設使用願

課外活動で教室を使用する場合には、学内集会願、その他の学内諸施設を使用する場合には、施設使用願に必要事項を記入し、願い出て承認を受けてください。

(9) 学外活動願

学外で課外活動やボランティア活動等を行う場合、および学内で対外試合等を行う場合には学外活動願を提出してください。

2. 教務担当に提出する書類

(1) 欠席届

病気、ケガ、その他のやむを得ない理由で授業を欠席した場合は、教務担当窓口にある欠席届に必要事項を記入の上、診断書等欠席を証明出来る物を添えて提出してください。

なお、教務担当窓口で取り扱う欠席期間は連続して7日以上とします。

6日以内の欠席は、直接授業科目担当教員に提出してください。

(2) 閉館時間中の正課授業実施願

卒業研究などで、21時以降および休祭日に学内にいる場合には、「閉館時間中の正課授業実施願」に必要事項を記入の上、指導教員・学系長の認印を受けて、**実施当日の窓**

□**時間内**に提出してください。数日分まとめたの申請は受付けません。出席する学生名はその都度確認の上、記載するようにしてください。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

学 生 相 談

1. 学生相談室

みなさんが大学生生活を送るうえで出会うさまざまな困難な問題や、わからない事柄などについて相談に応じ、明るく充実した学生生活を送れるよう援助・協力するために、学生相談室が開設されています。

大学生生活を送る間には、学習上や生活上に、大小さまざまな問題が起きてきます。そのような場合、いつも自分ひとりで問題を解決できるとは限りません。堂々めぐりの中でひとりで考えこまず思いきって第三者と話し合うことが時には必要ではないでしょうか。友人・先輩、あるいは両親・教師その他身近な人々と話し合うことによって解決の糸口が見つかることもあるでしょう。学生相談室もその相談相手のひとりとして考えてみてください。何か問題が起きた時、相談したいことがある時、なんとなく気持ちがモヤモヤしている時、無性にだれかと話したくなった時等々、いつでも遠慮なく「学生相談室」に立ち寄ってください。学生相談室はみなさんの学生生活にとって直接の利害関係をもたない機関であり、相談内容の秘密はかたく守られています。

相談は、個人でもグループでも受け付けます。相談員は、カウンセリングの専門家ですが、必要があれば他の部課の職員や先生、あるいは学外の諸機関等を紹介します。みなさんがより豊かな学生生活を送れるよう窓口を開いています。気軽に利用してください。

2. 相談内容

- 学業について
- 将来の職業・進路について
- 人生・思想などについて
- 対人関係について
- 心身の健康について
- 性格について
- 家庭の事情などについて
- その他生活全般について

3. 相談室の場所・開室曜日・時間

本館1階にあります。

開室曜日・時間は、学生厚生担当に常備されているパンフレットを参照してください。

健康管理

衣・食・住は私達が生活する上において欠くことのできないものです。これと同様に大切なのは健康であるということです。健康であるということは学生生活を送るうえでもとても大切なことです。本学でもみなさんの健康管理について十分配慮していますが、まずはみなさん自身が日頃から健康の保持に努めることが大切です。

更に、色々な感染症（インフルエンザ、麻疹、結核など）は本人だけの影響にとどまらず、周囲に及ぼす影響も大きく、大学閉鎖に繋がることもあります。ぜひご自身の母子手帳を確認し、事前に抗体価などを調べ必要時はワクチン接種しておくことをお勧めいたします。

1. 健康相談室

授業中・課外活動中等に学内で急に気分が悪くなったり、思わぬケガをしたときは、すぐに健康相談室に来室してください。健康相談室では、校医の指導のもと看護師がそれぞれの応急処置にあたっています。

健康相談室では身長や体重、血圧や体脂肪率を自動的に測定する健康管理システムを設置しています。学生の皆さんがこのシステムを定期的にご利用することにより健康状態のバロメーターにすることができます。

そのほか、ここでは平常の健康相談にも応じていますので、何となく身体に異常を感じるといった症状のときなども、遠慮なく来室してください。

2. 相談室の場所・開室時間

本館1階にあります。

開室時間は

月曜～土曜 9:30～16:30

(ただし、11:30～12:30は休憩時間)

なお、急患は随時受け付けます。

健康保険証について

急病等で医療機関を受診する際は必ず必要となります。個人管理で携帯するか手元に保管しておいてください。なお自宅外通学となる方は遠隔地被保険者証の交付を受けることをお勧めしております。保護者の加入している健康保険組合等に申請してください。

3. 定期健康診断

毎年4月に学校保健法及び感染症法に基づき、全学生を対象に定期健康診断を実施しております。奨学金申請やクラブ活動、就職活動などで健康診断証明書が必要な場合は、受診記録に基づき作成しております。特にクラブ関係の団体活動を行う予定の学生はその団体全員の受診が必要となります。忘れずに毎年受診してください。

定期健康診断の実施項目は次のとおりです。

1. 胸部レントゲン間接撮影
2. 身体計測
(身長、体重、日常視力)
3. 内科診察（検尿、血圧測定）

定期健康診断の日程は、事前に学生厚生担当掲示板にて詳細をお知らせします。再検査（精密検査）の詳細も同様に掲示連絡致します。

学内の定期健康診断を受診せず、学外で健康診断を受診した場合は、その証明書を健康相談室窓口に提出してください。その場合本学より健康診断証明書の交付はできません。

4. その他の健康診断について

クラブ活動（強化合宿・公式試合等参加）のために健康診断を受けたい場合は所定の健康診断受診申込書に記入の上、2週間前に健康相談室に申し込んでください。

ただし、この健康診断では、レントゲン撮影などができないので、定期健康診断を受けなかった学生に対しては、診断による活動許可ができない場合があります。

5. 健康診断証明書

証明書自動発行機で交付します。指定用紙での発行を希望する場合は2週間前までに健康相談室へご相談ください。

ハラスメント防止宣言

STOP! HARASSMENT

ハラスメント防止宣言

東京電機大学は、個人の人格と人権が尊重され、それぞれの能力が最大限に発揮されるような、自由な学問と教育の場であることをめざしています。そのためには、すべての学生・教職員が教育・研究などの諸活動を進められるよう、安全で快適な環境を整えていくことが重要であると考えています。

人間関係において、相手を差別したり、性的な対象として心理的・身体的に傷つけたりすることは絶対にあってはならないことです。

埼玉鳩山キャンパスでは、ハラスメント相談受付窓口を設け、相談内容に応じて適切なハラスメント相談員を紹介します。キャンパス対策委員長は、必要に応じて、キャンパス調査委員会を設置して事実関係を調査し、ハラスメントの防止および問題解決に取り組むことを宣言します。



TDU 東京電機大学
TOKYO DENKI UNIVERSITY

ハラスメント防止
鳩山キャンパス対策委員会

ハラスメント相談受付窓口は、
 ・学生相談室 ・健康相談室
 ・学生厚生担当 ・教務担当
 です。パンフレットもありますのでご確認ください。

What's HARASSMENT?

「ハラスメント」とは、相手に不快感や脅威を感じさせる不適切な言動のことを意味します。

教職員と学生、サークルやゼミの先輩と後輩など立場を利用したものだけでなく、同級生同士でも相手が不快に感じる言動は「ハラスメント」になります。



セクシュアル・ハラスメントとは

相手の意に反して行われる性的な内容の発言や行動を意味します。

- 性的な関係・交際・行為を強要する
 - 身体に触れる
 - 身体的特徴について話題にしたり、視線を浴びせたりする
 - 性的な話題を聞かせたり、あるいは聞き出そうとする
- 基本的には「対価型」と「環境型」の2つに分けられます。

対 価 型

対価型とは、強い立場を利用して相手の処遇に便宜を図る対価として性的要求をしたり、弱い立場の人がそれを拒否した場合、その人を不利な状態に陥らせたりするものを言います。

- 成績評価や指導面、処遇面などの条件に性的関係を迫る。
- 酒席や交際を断られたこと等を理由に成績評価や指導面、処遇面などについて不当な扱いをする。

環 境 型

環境型とは、周囲の人が不快になるような性に関する文書・写真を掲示したり、言葉や行為などによって環境を悪化させることを言います。

- 卑わいな冗談を言ったり、異性の差別的発言をする。性的な噂を流したり、個人的な性的体験談を話したり、聞いたりする。
- ノードポスターやわいせつ図画等を掲示、配布したり、パソコン等に卑わいな画像を表示する。

これは、セクハラ!

- 相手の身体を上から下までジロジロ見つめる。
- 相手の髪・肩・背中・腰など身体を不必要に触る。
- 相手のスリーサイズを聞く、身体的特徴を話題にする。
- 異性との仲を噂する。
- 講義中に教員が卑わいな発言や、差別的な発言をする。
- コンパの席で男性教員(先輩)の横に女子学生を必ず座らせ、お酌をさせる。
- 食事やデートにしつこく誘う。性的な内容の電話をかけたり、手紙やメールを送る。

これもセクハラかも・・・

- 挨拶代わりに毎日、肩をたたく。
- 「男のくせに根性がない」、「お茶を入れるのは女の仕事」、成人に対して「男の子・女の子」、「おじさん・おばさん」など人格を認めないような呼び方をする。
- 「いいプロポーションだね」、「ミニスカートが魅力的だね」と言う。
- 「何で結婚しないの?」、「子供はまだなの?」と聞く。

＊アカデミック・ハラスメントとは＊

教育・研究の場における権力を利用した嫌がらせ、差別、人格を傷つける発言などを指します。



これはアカハラ！

- 卑わいな発言に抗議したら、「冗談の通じないやつには単位をやらない」と言われた。
- 「お前はやっぱりダメだ」と言って指導を放棄された。
- 「大学をやめろ」とか「卒業させない」と必要以上に何度も言われた。
- 同じ研究チームなのに、理由もなくはずされたり、理由もなく論文著者名の変更などされた。

大切なのは相手の判断

あくまでも相手の受け止め方によるものであり、言動を受けた者が不快に思うかどうかによって判断されます。

拒否または、服従したかどうかは問題になりません。

＊もし、あなた自身がハラスメントを受けていると感じたら＊

- 勇気をもって、「NO」の意思表示をしましょう。相手に言葉ではっきり伝えることが大切です。
- 誰から、いつ、どのような被害を受けたかなど、できるだけ詳しく記録しておきましょう。
- 信頼できる周囲の人に相談しましょう。

＊ハラスメントの現場に居合わせたなら＊

周りの人にも
できることがあります

- 自分の周囲で被害にあっていない人がいたら、毅然として「いけない」とはっきり言いましょう。
- 被害にあっていない人の相談にのりましょう。必要な場合は証人になることもできます。
- 解決が難しいと感じた場合は、ハラスメント相談受付窓口に行くように勧めたり、必要に応じて同行しましょう。

＊加害者にならないために＊



私たちは、誰でもハラスメントの被害者になる可能性があると同時に、加害者になる可能性もあります。自分でも気がつかないうちに相手に不快な思いをさせたり、相手の心をひどく傷つけているケースも多々あります。その場合、必ずしも相手が不快の念を表明するとは限りません。対等でない立場にいる場合、相手に遠慮して話せない心理状態に追い込まれていることも考えられます。

ハラスメントを起こさないために、日頃から相手の気持ちを気遣うように心がけ、日々の自らの言動をチェックし、お互いを尊重し、認め合う関係を築くよう心がけることが大切です。

学習サポートセンター

1. 学習サポートセンター（通称：SSC）

みなさんが大学の授業を受ける上では、高校までに学んできた数学、物理、化学、英語が基礎となり重要になってきます。

学習サポートセンターでは上記科目の基礎の復習、見直し、勉強を進める上での相談など学習の支援を行っています。

学習サポートセンターの指導スタッフは、高校で長年授業を行ってきたベテランの先生が、みなさんの希望により個別、グループのどちらでも対応をしています。（※予約も可能です）

基礎科目をもう一度勉強し直したい。勉強方法など相談したい。そう思った時は、親切丁寧に対応しますので、いつでも気軽に利用してください。

2. 対応科目

数学、物理、化学、英語

3. 場所、時間、曜日

数学、物理、化学、英語 12号館1階 127室（SSC）

開室曜日・時間は、本館1階にある掲示板のポスターを参照してください。



第5章

各種施設の利用

総合メディアセンター

総合メディアセンターでは、学生と教職員の教育・研究活動のために、各学系の教育計画や研究計画に沿った設備・機器、情報資源、ネットワークを整備して、各種メディアを有効に活用できるようさまざまなサービスを提供しています。

総合メディアセンターの計算機サービスと図書サービスは、埼玉鳩山キャンパス（理工学部）はもとより東京千住キャンパス（工学部、未来科学部）と千葉ニュータウンキャンパス（情報環境学部）でも1つの利用者ID（学籍番号）とパスワードにより利用することができます。利用者情報を一元管理することにより、総合メディアセンターの各システムは、認証の共通化を実現しています。

パスワードについて

パスワードは、利用者IDが他人に利用されることを防ぐ役目をする鍵です。個人データとシステムを守るために、パスワードを時々変更するようにしてください。

- ・初期パスワードは必ず変更してください。
- ・他人に推測されやすいパスワードに変更しないでください。
- ・6～8文字の英数字を混在させたパスワードにしてください。

< 利用上の注意事項 >

- ・総合メディアセンター施設内での飲食や喫煙は厳禁です。清潔で静粛な環境を保つよう心掛けてください。※ただし、一部の施設内では、フタのできる密閉容器に入った飲み物に限り、持ち込みを認めています。
- ・大きな声での話し合いは周りの迷惑になるため厳禁です。守れない場合は、総合メディアセンター施設から退出してもらいます。
- ・携帯電話での通話は周りの迷惑となるため禁止します。どうしても使用する時は総合メディアセンター施設から退出して使用してください。
- ・機器類や図書資料は共有財産です。らくがきや破損等をしないよう、大切に使用してください。
- ・ユーザ端末、図書検索端末、プリンタ等の機器類に異常が発生した場合や、不測の事態が起きた場合は、直ちに総合メディアセンター員か係員に連絡してください。
- ・利用者IDの貸借や他人の利用者IDを使った利用は絶対に行わないでください。第三者にパスワードが知られることがあり、不正利用に流用されたり、法令に触れる事件に巻き込まれる危険性があります。
- ・印刷を実行するときは無駄のないように十分に検討を行った上で出力してください。また、課題に無関係な出力は厳禁です。
- ・自分の出力したものは必ず持ち帰ってください。特に個人情報の載った出力結果等の取扱いには十分注意してください。

- ・ユーザ端末やサーバ等のシステム運用および利用上の変更については、総合メディアセンター内の掲示板とホームページでお知らせします。常に確認するようにしてください。
- ・総合メディアセンター施設内では、スタッフの指示に従って利用してください。

< 総合メディアセンターからのお知らせ >

ホームページまたは総合メディアセンターの掲示板にて、お知らせします。

総合メディアセンター・鳩山サテライトセンターのホームページ

URL・・・<http://www.ccs.dendai.ac.jp/mrcl/>

< 図書サービス >

◇ 利用にあたって

図書資料の館内利用と館外貸出は、すべて学生証によって行います。常に携帯して提示を求められたら身分を証明できるようにしてください。

◇ 開館時間及び休館日

通常開館	月～金	土
東京千住キャンパス	8:45～21:45	8:45～21:45
埼玉鳩山キャンパス	2階 9:00～20:10 3階 9:15～20:10	2階 9:00～18:00 3階 9:15～17:00
千葉ニュータウンキャンパス	9:30～19:00	10:00～16:00

短縮開館	月～金	土
東京千住キャンパス	8:45～18:15	8:45～16:20
埼玉鳩山キャンパス	9:15～16:00	9:15～16:00
千葉ニュータウンキャンパス	10:00～16:00	10:00～16:00

※休館日は、日曜日、祝祭日、創立記念日（9月11日）、夏季・冬季および春季の休業中の一定期間、その他に法人や総合メディアセンターが特に必要と認めた日

◇ 入退館

所持品を持って入館できます。出入口のゲートを通して入退館してください。

貸出手続きをしていない図書資料の持ち出しをすると、ブックディテクション装置が大きな警告音を発して出口を遮断しますので注意してください。

不正行為をした者は、学則によって処分されます。

(注) 積層書庫は、所持品の持込みを禁止しています。入庫の際には貴重品以外の荷物を棚に預けてください。

◇ 図書資料の館外貸出

図書資料の貸出にあたっては、借用する図書資料に学生証を添えて、カウンターへ出してください。バーコードラベルの添付されている図書資料は、自動貸出装置を利用して貸出手続きができます。ただし、以下の図書資料は館外貸出しませんので注意してください。

- ・ 禁帯出の赤ラベルが貼ってある図書資料
- ・ 雑誌
- ・ 学位論文
- ・ 視聴覚資料
- ・ 貴重書

貸出冊数および貸出期間は以下の通りです。

通常開館	冊数	貸出期間
学部1年生～3年生	5冊	2週間
学部4年生、大学院生	10冊	1ヶ月

◇ 図書資料の返却

図書資料は、定められた期日までに返却してください。他キャンパスで借りた図書資料はどのキャンパスでも返却可能です。期限日は図書サービスホームページ上から利用者IDとパスワードを入力するだけで簡単に確認することができます。特に、卒業・退学・除籍・転学・休学などの場合は、貸出残余期間を問わず即時返却してください。

返却延滞者は貸出停止となりますので、注意してください。

なお、図書資料を紛失・破損した場合は、弁償していただきます。

※ 休館日・開館時間外の図書資料の返却は、ブックポストを利用してください。

(各サテライトセンター 正面出入口に設置されています)

◇ 各種サービス

○ レファレンスサービス

図書検索や文献検索等図書サービスの利用についての質問・相談は、カウンターで受け付けます。

○ 相互サービス

必要な図書資料が本学に所蔵されていない場合は、カウンターの係員に相談してください。もし、探している図書資料が他機関の図書館等に所蔵されている場合は、文献の複写依頼や利用の紹介を行います。

○ 図書資料検索端末

総合メディアセンターで所蔵している図書資料は、図書検索端末または、図書サービスホームページ (URL・・・<http://lib.mrcl.dendai.ac.jp/>) から検索することができます。

○ コピーサービス (有料)

総合メディアセンターで所蔵している図書資料を複写したい場合は3階閲覧室で複写することができます。著作権に関しては利用者が全責任を負うものとします。

私物やノート類の複写をすることはできません。

図書館においては、次に掲げる場合には、図書館資料を複製することができる。
 ・図書館等の利用者の求めに応じ、調査研究のために公表された著作物の一部分の複製物を一人につき一部提供する場合。(著作権法第31条より抜粋)

○ 購入希望図書資料について

購入希望の図書資料がありましたら、図書サービスホームページから必要事項を記入し申込を行ってください。申込内容確認後、購入決定の可否をホームページでご確認ください。

○ 図書資料の予約について

貸出中の図書資料は図書サービスホームページ上から予約することができます。

	所属キャンパス	他キャンパス
検索結果の状態	貸出中	貸出中・配架済
貸出可能日	メール発送後	
取り置き期間	メール発送後 7日間	

○ メールによるお知らせ

図書サービスに関してメールによるお知らせを行っています。

メールはすべて大学のメールサーバ宛になります。メールは常に確認してください。メールサービスの内容を下記に記載します。下記以外の場合にもサービスについて連絡することがあります。

・予約資料の到着

資料予約申込受付の連絡 (他キャンパス資料に対する予約)

予約資料到着の連絡 (自キャンパス資料に対する予約)

・返却期限日のお知らせ

返却期限日の1日前の連絡

・貸出・返却・更新履歴のご案内

前日の貸出・返却・更新履歴の連絡

・延滞資料のお知らせ

返却期限日以降5日目から10日ごとに連絡

・文献複写到着のお知らせ

複写依頼を行った文献到着の連絡

・購入希望図書のお知らせ

購入希望図書の購入却下、貸出可能の連絡

◇ ご意見・ご質問

総合メディアセンター図書サービスへのご意見、ご質問等は下記のメールアドレスにて受け付けています。

E-Mail : h-library@mrc1.dendai.ac.jp



グループ学習室



3階閲覧室

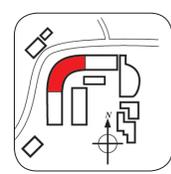


エントランスホール

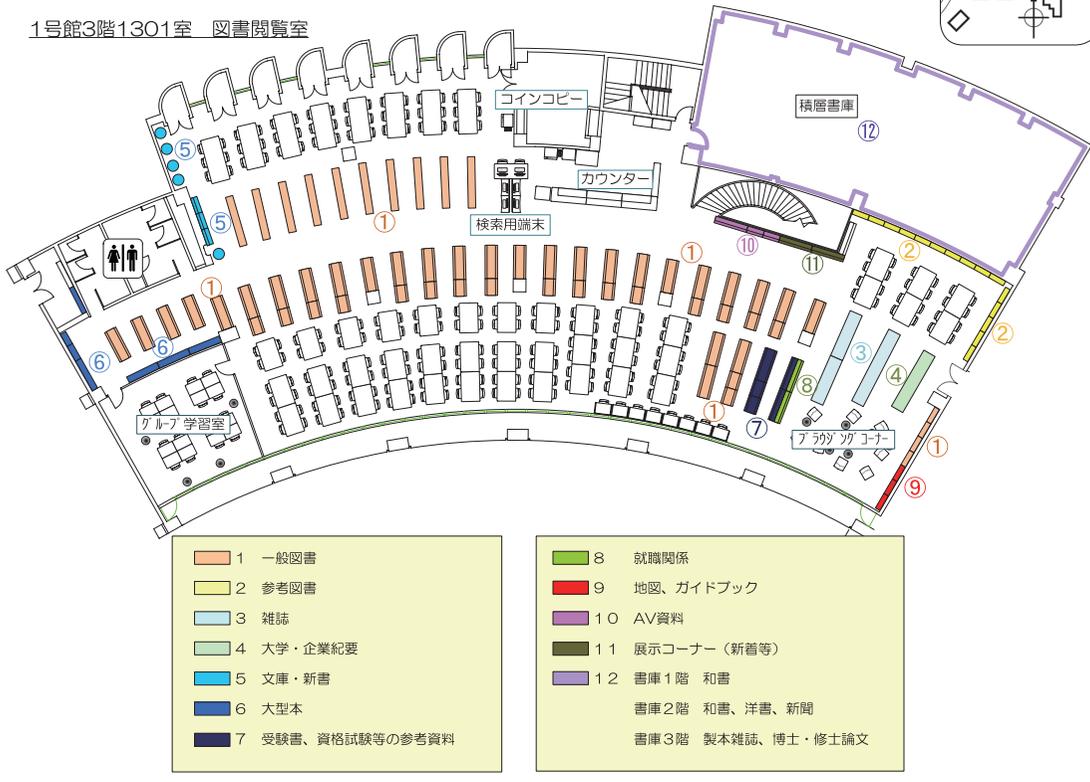


ブラウジングコーナー

全体図



1号館3階1301室 図書閲覧室



1号館2階1201室 図書閲覧室



< 計算機サービス >

ここに掲載されていない具体的な設定値や詳しい利用方法については、Web ページや掲示等で案内しています。

総合メディアセンター 鳩山サテライトセンター <http://www.ccs.dendai.ac.jp/mrc/>

○ 運用時間

		月～金	土	長期休業期間
パソコン教室	本館 1 階	9 : 15 ~ 19 : 20	閉室	
第 3 実習室	1 号館 1 階			
第 1・2 実習室	2 号館 1 階	9 : 15 ~ 20 : 00	9 : 15 ~ 16 : 50	
プリントルーム	2 号館 1 階	9 : 10 ~ 20 : 00	9 : 10 ~ 16 : 50	
スタッフ室	2 号館 1 階			

- 休館日は日曜・祝日・創立記念日（9 月 11 日）、夏季・冬季および春季の休業中の一定期間、その他に法人・総合メディアセンターが特に必要と定めた日。
- 休日開館をすることもあります。また、システム作業等により変更になる場合があります。Web ページで最新の予定表をご確認下さい。

◇ 基本サービス

総合メディアセンターの各システムと学内システムの多くは、利用者情報を一元管理することにより、認証の共通化を実現しています。これらのサービスを利用するためには「総合メディアセンター基本サービス」に登録されている必要があります。

- 本学の学生は入学時に基本サービスに登録され、ID とパスワードが与えられます。
- ID は学籍番号（学科等の英字は小文字）です。
- パスワードは自分で変更できます。定期的に、他人から容易に推測できないものに変わり、自分の責任で厳重に管理して下さい。最低限、毎年定める変更期間中に変更しなければなりません。

◇ ユーザ端末

○ ユーザ端末

- 「ユーザ端末」は本学の教育研究のためのパソコンです。本学の学生は誰でも利用できます。
- 主にコンピュータを利用した授業での利用を目的としていますが、授業以外の時間には自学自習のために利用することができます。各種ソフトウェアの利用のほか、総合メディアセンターのサービスと学内の様々なシステムへの入口としても機能します。
- 埼玉鳩山キャンパスでは、各実習室とパソコン教室に約 300 台が設置されています。他キャンパスのユーザ端末も同様に利用できます。
- プリントシステムを利用してカラー印刷、大判印刷、スキャン等が行えます。

- ユーザ端末は、DVDやSDカードのような外部媒体は利用できません（USBメモリを除く）。これらを読み書きする必要がある時は、「メディア利用端末」を利用して下さい。

○ **メディア利用端末**

- メディア利用端末は、外部媒体を読み書きするための端末です。CD/DVDドライブの他、マルチカードリーダー/ライターを設置していますので、SDカード等も読み書きできます。

○ **リモートデスクトップサービス**

- ユーザ端末と同様の環境を、学内LANに接続されているPCから利用できます。

サービス	台数
リモートデスクトップサービス	25台
3キャンパス共通 リモートデスクトップサービス	25台

◇ **プリントシステム**

カラー印刷、大判印刷、スキャン等ができる、オンデマンド印刷管理システムです。ユーザ端末をはじめ、学内ネットワークに接続されたパソコンからも印刷することができます。

種類	機能
カラー複合機	ユーザ端末からの印刷 スキャン機能, コピー機能
モノクロ大判プリンタ	A1サイズの大判モノクロ印刷
カラー大判プリンタ	最大B0サイズまでの大判カラー印刷

○ **ポイント制**

- 印刷には「ポイント制」をとっています。年度始めに初期ポイント(1,000ポイント)が各自に付与され、印刷等の種類に応じたポイントを消費します。
- 初期ポイントは、授業や実験の課題等に係る過去の利用実績から必要な数を設定しており、通常は使い切ることはありません。初期ポイントを超過した分は自己負担(有料)になります。
- 学修に直接関係しないものを印刷することはできません。自己負担分であっても同様です。
- ポイント制は、利用者が印刷した枚数を認識し、資源の節約を意識してもらうことを目的としています。必要の無いポイント利用は控えて大切に利用して下さい。

◇ **メールシステム**

- 本学の学生は、「学籍番号 @ms.dendai.ac.jp」のメールアドレスが付与されます。
- Webブラウザを利用してメールの送受信ができる「Webメールシステム」が利用できます (<https://webmail.dendai.ac.jp/ms/>)。

◇ **ファイルサービス**

総合メディアセンターでは、ファイルサービスも提供しています。ユーザ端末を通じて、授業の教材配布や課題の提出などに使う「授業フォルダ」と、個人領域が利用できます。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

◇ ネットワークサービス

- LANポートと電源を備えた「情報コンセント」を学内各所に設置しています。

	設置場所
2号館	1階 第2実習室前
10号館（本館）	1階 情報端末コーナー 2階 第1・2メディア教室、情報端末コーナー
12号館	1階 アトリウム情報端末コーナー 12124教室、12221教室、12321教室

- 学内の多くの場所で無線LANが利用できます。

	設置場所
1号館	中庭 1階 総合メディアセンター図書閲覧室
3号館	3210教室、3220教室、3230教室、3240教室、3311教室
4号館	1階 喫茶コーナー 2階 学生食堂
6号館	6101教室、6102教室、6103教室、6104教室
9号館	2階 学生ラウンジ
10号館（本館）	1階 エントランスホール、中庭 2階 プレゼンテーションホール 206教室、207教室、208教室、209教室、211教室、 212教室、213教室、
12号館	1階 アトリウム 226教室、227教室、228教室、229教室、325教室、 326教室、327教室、328教室、329教室、

- 利用に際してはユーザ認証を求められます。基本サービスのIDとパスワードで認証できます。
- 1号館3階の図書閲覧室カウンターにて、無線LANカードの貸し出しを行っています（当日のみ）。

◇ プログラム相談

プログラム相談とは、機器の操作方法、課題の処理方法やプログラム技法、さらにはプログラム実行時のエラー等の問題について相談員の意見や解決方法のアドバイスを求めるために設けられています。プログラム相談は、大学院生のプログラム相談員が、第3実習室プログラム相談窓口で授業期間中に下記のように行っています。

期間	場所	時間
授業期間中	第3実習室	月～金 9:30～18:20

- 上記の時間帯で相談を行います。相談員がいない時間もあります。予めプログラム相談予定表（Web、掲示）を確認のうえご利用下さい。

◇ 諸注意

総合メディアセンターの設備は、皆が利用する共有設備です。利用マナー守って、皆が快適に利用できる環境を常に心がけてください。

○ ネットワークの利用について

インターネットを経由して学外のコンピュータへ接続することは、学外他機関の資源を利用することでもあります。必要のない接続やデータ転送は行わないで下さい。

総合メディアセンターでは快適な利用ができるように、接続状況をモニタリングすることがあります。

○ インターネットの利用について

著作権の侵害や不法なダウンロードは、社会人としての情報倫理に反するものであり、東京電機大学の構成員として許されるものではありません。法令またはネットワーク利用細則をはじめとする学内規程等に違反する行為は厳禁します。

○ 実習室の利用について

- 各実習室・パソコン教室等の設備や各種サービスは、教育研究のために提供されています。サークル活動や個人の趣味など、学修に直接関係のない目的では利用できません。

- 各実習室・パソコン教室・プリントルームは、図書閲覧室と同じように静かに利用して下さい。

- 濡れた傘は室内に持ち込まず、傘立てを使用して下さい。

- 各実習室・パソコン教室・プリントルームでの飲食は禁止します。飲食物は鞆にしまって下さい。

- 端末にログインしたまま、または荷物を置いたまま席を離れないで下さい。他の利用者が使えなくなったり、荷物を紛失する恐れもあります。

- 忘れ物に注意してください。特にUSBメモリの忘れ物が絶えません。退出の際は、今一度、忘れ物のチェックをしましょう。

◇ 問い合わせ

○ 総合メディアセンター 鳩山サテライトセンター スタッフ室 (2号館1階)

Web : <http://www.ccs.dendai.ac.jp/mrcl/>

メール : h-computer@mrcl.dendai.ac.jp

◇ 実習室設備一覧

○ パソコン教室（本館1階）

名称	設置機器	台数
パソコン教室	ユーザ端末（パソコン）	182台（うち教員用1台）
	メディア利用端末（パソコン）	2台
	カラー複合機（プリンタ）	4台
	授業支援環境（マイク・教材提示装置）	1式

○ 第3実習室（1号館1階）

※自学自習のための実習室です。授業は実施しません

名称	設置機器	台数
第3実習室	ユーザ端末（パソコン）	74台
	メディア利用端末（パソコン）	2台
	カラー複合機（プリンタ）	4台

○ 第1・2実習室（2号館）

※各室間はパーティションにより分割・合同が可能です（最大88席）

名称	設置機器	台数	
第1実習室	ユーザ端末（パソコン）	23台（うち教員用1台）	
	メディア利用端末（パソコン）	1台	
	カラー複合機（プリンタ）	1台	
	授業支援環境（マイク・教材提示装置）	1式	
第2実習室	第2実習室A	ユーザ端末（パソコン）	23台（うち教員用1台）
		メディア利用端末（パソコン）	1台
		カラー複合機（プリンタ）	1台
		授業支援環境（マイク・教材提示装置）	1式
	第2実習室B	ユーザ端末（パソコン）	23台（うち教員用1台）
		メディア利用端末（パソコン）	1台
		カラー複合機（プリンタ）	1台
		授業支援環境（マイク・教材提示装置）	1式
	第2実習室C	ユーザ端末（パソコン）	23台（うち教員用1台）
		メディア利用端末（パソコン）	1台
		カラー複合機（プリンタ）	1台
		授業支援環境（マイク・教材提示装置）	1式

○ プリントルーム（2号館）

※印刷のための部屋で、授業は実施しません。ここの端末は印刷指示専用です。作業には利用できません。

名称	設置機器	台数
プリントルーム	ユーザ端末（パソコン）	8台
	カラー複合機（プリンタ）	1台
	モノクロ大判プリンタ	1台
	カラー大判プリンタ	2台

スポーツ施設

各種スポーツ施設は、理工学部の学生や教職員の健康や体力増進のために、体育館やグラウンドをはじめ多くの方の好みに合ったスポーツが実施できるようにつくられた施設です。効率よく、気持ちよく利用するために以下の利用方法に従ってください。

1. 利用の仕方

体育の授業以外の時間帯に使用できます。利用可能な施設と時間帯を確認して利用計画を立て、学生厚生担当において所定の手続きをし、スポーツ施設の利用許可を受けてください。授業や学内行事、自治会公認団体の試合等がある場合は、そちらが優先となります。

利用申込みは、自治会公認団体は使用日の14日前、一般学生は7日前から可能です。テニスコートの一般学生の利用は1人1回3時間までです。長期休業の際の申込みについては、別途掲示等でお知らせします。

テニスコート、多目的コートは許可を得た使用願を理工学部受付に提示し、鍵を借りて利用してください。

2. スポーツ用具の貸出と返却

個人で用具を用意することが望ましいのですが、用意できない場合には貸出しを行います。

用具の借用は、所定の借用書（体育館教員控え室に有）に使用目的、個数、借用期日、責任者の氏名を記入して捺印をして、体育館教員控え室に提出してください。

なお、不注意による用具の紛失や破損をした場合には、弁償していただきます。また、用具の消耗が激しい場合や紛失が多い場合は用具の貸出は中止します。できるだけ多くの方が利用できるように大事に取り扱ってください。

3. 施設利用の心得

- 体育館 土足は禁止します。下足室に靴をおき、館内は館内用シューズか備え付けのスリッパを履いてください。スリッパでの運動は禁止します。
- テニスコート テニスシューズかそれに類する物を履いてください。使用後はネットをゆるめておくこと。
- グラウンド 雨天時や雨天後などグラウンド状態不良の場合は、原則的に使用を禁止します。
- 更衣室 自由に使用できますが、ロッカーを私物化しないようにしてください。またロッカーには、貴重品や高価な物は絶対に置かず各自で携帯してください。ロッカーを含め体育館内に放置された私物は定期的に撤去します。
- ごみは必ず持ち帰るかごみ箱に入れてください。
- 施設使用後は備えつけのモップやレーキ（サッカーシュート練習板裏・体育館地下倉庫に有り）で必ず整備を行ってください。
- 盗難防止のため、貴重品等の管理には各自で十分に注意するようにしてください。

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

第6章

将来への道標

就 職

卒業した後の進路として大多数の学生が就職を希望すると思いますが、満足な就職先を得るためには、日頃から就職に対する意識を持つことが大切です。例えば、何のために就職するのか、世の中にどんな仕事があって、どんな仕事がしたいのか、どんな仕事ができるのかな等をよく理解しておくことです。

また、経済・産業・政治・文化・国際問題に関心を持って、広く世間を眺めるとともに、それらの情報を自分の就職活動に結びつけるように努めていきましょう。

1. 就職指導

理工学部における就職指導体制については、就職活動全般について協議し、実行の中心となる組織として「就職協議会」が活動しており、企業等への推薦については学系長・就職担当教員が中心となり、必要に応じて「就職選考会議」を開催し、そこで求人側条件と求職学生の適性・能力を慎重に検討のうえ推薦者を決定していくことになっています。なお、理工学部の就職関係支援及び事務については、学生厚生・就職担当で行っています。

就職を希望するみなさんに対しては適宜、「就職ガイダンス」を開催します。その主な内容は、就職に対する心構えや、就職についての考え方、求人動向とその対策、就職登録や幹旋のための諸手続、就職活動への助言等です。

その他、就職に関する情報を提供すると共に、SPI2模擬テストや各種講座等を実施していますので積極的に参加してください。また、就職資料室（本館1階事務室内）では、就職に関する資料を収集し閲覧に供しています。なお、就職についての相談には常時応じています。

2. 会社研究のために

参考文献

企業の事業内容・歴史・業績などを知るための主な参考文献としては、会社四季報・東洋経済（東洋経済新報社）、日経ビジネス（日経BP社）、週刊ダイヤモンド（ダイヤモンド社）、就職ジャーナル（リクルート）等の他、各種就職情報誌があります。

はじめに

経済や技術進歩の動きは日本の中だけで解決できる問題ではなく、世界を相手にする時代になっています。今は実感がないかもしれませんが、社会に出てグローバルに仕事をする時がやってくるでしょう。大学生活の中で何を学び、何を経験していくかは、皆さんの将来にとって非常に大切な事です。

私達（学生支援センター、理工学部事務部学生厚生・就職担当、情報環境学部事務部就職担当）は、皆さんの就職までの活動を側面から支援するスタッフです。皆さんに「生きがいのある将来」を目指し、充実した学生生活を送っていただきたいと思います。

大学の環境・施設をフルに活用し、疑問・質問が生じた場合は遠慮なく、先生方や私達スタッフに相談してください。

目標のある生活

大学生活を始めるにあたって、大学に進学した理由や学部、学科を選択したきっかけをもう一度自分なりに振り返ってみましょう。大学入学という目標を達成し気が抜けてしまった人もいるかもしれませんが、ここで次の目標をたててみましょう。目標にチャレンジする・何か趣味に熱中する・友人と沢山遊ぶ… 今しかできないことを楽しんで経験することは、就職という「点」だけではなく「人生」という大きな流れにおいて非常に大切な事です。

キャリアを考える

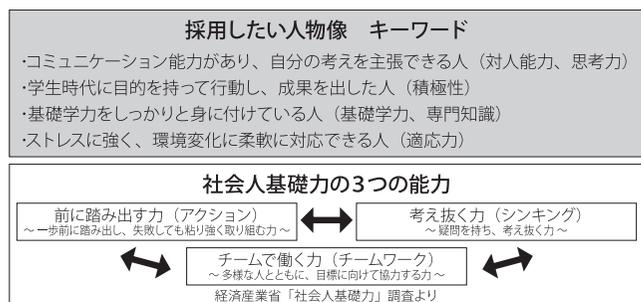
キャリア career とは「経歴」「職業」の意で「人生」をもさす言葉です。キャリアは社会へ出たあと、会社で異動があるとき、自分で事業を始めるときなどに深く考える事になります。

将来の自分は「どんな人になっていたいか」を思い描き、それに近づくための方法を考えてみましょう。目標に向けて今をどう過ごし、何をしておくべきかをしっかりと考えることが大切です。

皆さんの今後のステップとして、まず 1・2 年のうちから今後の「人生」を考え、3・4 年で専門性を身につけていくことが挙げられます。

大学生活のヒント

ここで少し就職について考えてみましょう。企業は「採用したい人物像」として下記を挙げています。これらは大学でやっておくべきことのヒントとなります。

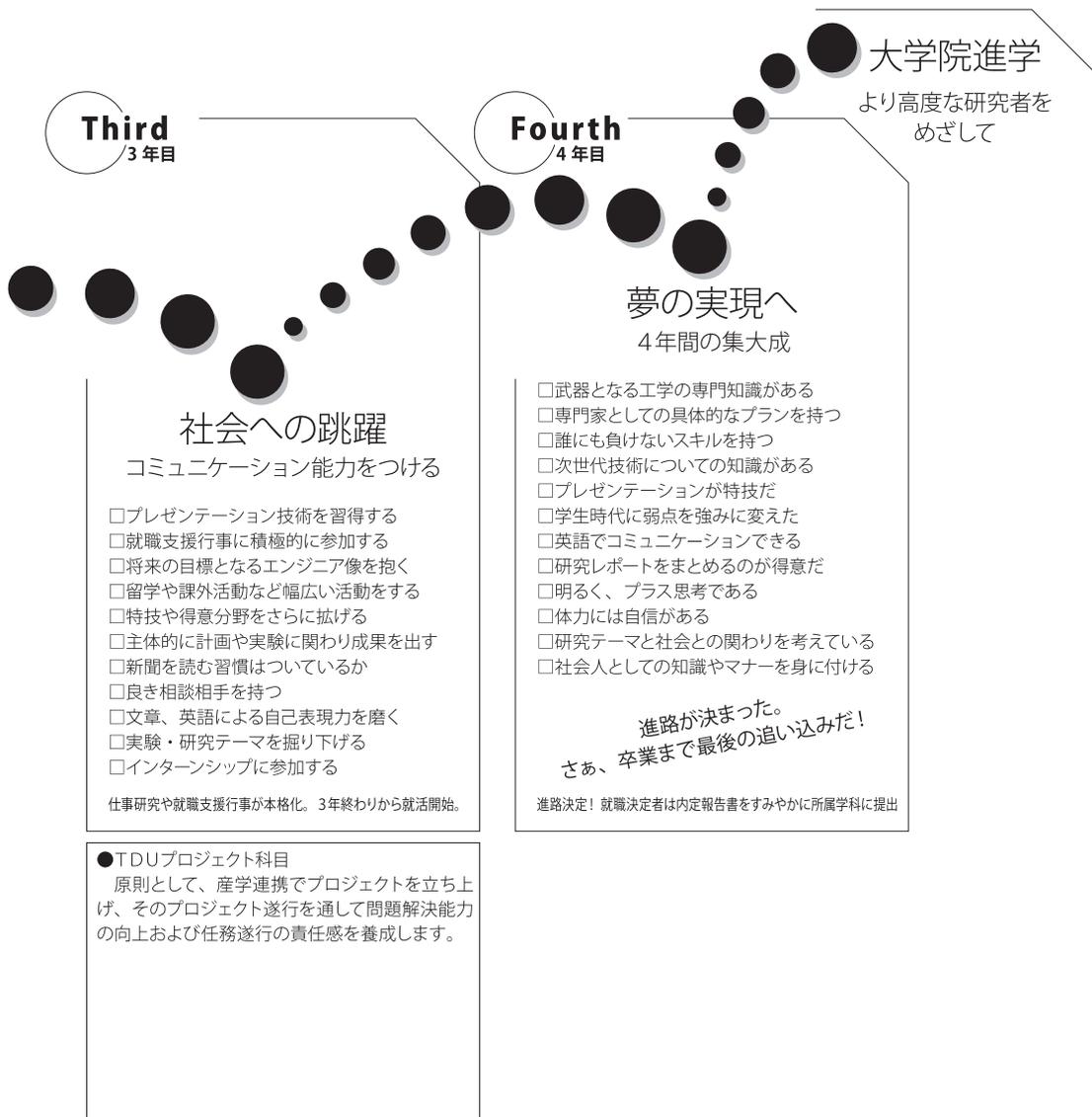


身につけよう！

今後の人生で直面する問題には「一つの決まった答え」というものはありません。

社会では、「自分で考え、行動を起こす能力」が求められています。

4年間の設計図を描いていこう!



機械・デザイン

自動車整備士／航空整備士／
機械設計技術者／ガス溶接作
業主任者／画像処理エンジニ
ア検定／消防整備士／冷凍空
調技士／CAD 利用技術者／
CAD トレース技能審査／DTP
エキスパート／マルチメディア
検定／CG エンジニア検定

建築・土木

建築士／土木施工管理技術士
／管工事施工管理技術士／測
量士（補）／設備士／インテ
リアコーディネーター／インテ
リアプランナー／福祉住環境
コーディネーター検定／宅地
建物取引主任者／土地家屋調
査士

その他

技術士（補）／FE／EIT／
PE／危険物取扱者／ボイラー
技士／公害防止管理者／エッ
クス線作業主任者／エネル
ギー管理士／TOEIC／
TOEFL／工業英語検定

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

TDU求人情報（企業検索システム）

本学に求人依頼のあった企業情報をデータベース化し、インターネット上で閲覧できるシステムです。各コンピュータ教室や各研究室等、学外のパソコンからアクセスが可能です。

このシステムのアドレスは

<http://cweb.dendai.ac.jp/>

（アクセスにはパスワードが必要です。認証用のIDとパスワードは総合メディアセンターを利用するときに使用するものと同じです。）

埼玉鳩山キャンパス就職資料室

埼玉鳩山キャンパス就職資料室は本館1階事務室内にあり、求人票、会社資料等がファイルされています。個々の会社案内等の資料は、本学に求人の依頼があった企業のものが主体ですが、参考資料その他も取り揃えてあります。また、卒業生が書き残していった就職試験問題報告書綴も閲覧出来ますので大いに活用しましょう。

開室時間 月～金 9:30～17:00
土 9:30～13:00

東京千住キャンパス就職資料室

東京電機大学東京千住キャンパスにある就職担当部署の学生支援センターを利用することも可能です。埼玉鳩山キャンパスと同じ就職関連資料の閲覧や就職について相談することが出来ます。就職活動で都内に行った際は、学生支援センターに立ち寄ってみましょう。

開室時間 月～金 8:50～20:00
土 8:50～16:30

3. 公立学校教員志望者

公立学校の教員採用試験は、教職教養・一般教養・専門教科・面接等で構成されています。この試験で留意しなければならないことは、合格イコール採用ではないことです。ここでの合格とは「公立学校教員採用候補者名簿」に成績順に登載されるということであり、採用は名簿登載者の中から諸条件を考慮して決定されます。したがって、高位で合格することが、採用を確実にする第一の方策となります。

ところで、この試験を高位で突破するということについてですが、教員養成の専門大学ではない一般の大学の場合はカリキュラムそのものが教員養成を直接に目的としていないた

め、不十分となることはやむを得ません。したがって試験の内容にあわせて、自分で補充、努力していかねばなりません。このための参考書、雑誌、問題集等は、一般の書店で容易に手に入りますし、通信講座や公開模試を行うところもありますので、これらを利用するとよいでしょう。

教職につこうとする人は早い段階から問題意識をもって取り組み、しかも、単に知識のみをつめこむだけではなく、教師としての真の情熱をも併わせもつ人材たるべく努力してほしいものです。なお、最近是全国的に教員採用試験の倍率が高いので、その動向については、十分留意することが必要です。

4. 公務員志望者

国家公務員・地方公務員を問わず、公務員になる為には言うまでもないことですが、公務員試験に合格しなければなりません。

現在、国や多くの地方自治体では、行政運営の効率化を図るため、行政組織の統廃合、経費の削減、定員増の抑制などの、いわゆる行政改革を推進中であります。このため、新規学卒者の採用人員の増加はまず見込めないものと考えなくてはなりません。また、昨今の社会情勢から新規学卒者の公務員志望数は、増加しており、競争倍率は相当厳しいものになることが予想されます。これに加えて、試験問題の難度が高いことは、従来から定評のあるところですが、したがって公務員試験の難関を突破するためには、相当の心構えを持ち、試験までの短い期間を受験準備のために有効に活用するために、入念な対策を立てて、万全の態勢で試験に臨むことが必要です。

本学では公務員志望者を対象とする公務員試験対策講座や模擬試験を実施しますので、各自が十分な学習や対策を講じるとともに、これらの行事に積極的に参加をして実力を養うことを心がけてください。

公務員試験

資格	取得条件	取扱い機関
国家公務員（Ⅰ種）	21才以上33才未満なら男女・学歴を問わず受験できるが、大学卒業段階の知識・技術及びその応用能力を必要とする程度の学力が必要。（高級官僚コース）	人事院 各事務局
国家公務員（Ⅱ種）	21才以上29才未満なら男女・学歴を問わず受験できるが、大卒程度の学力が必要。（中堅幹部コース）	人事院 各事務局
地方公務員（上級）	学歴等に制限なく各都道府県、市町村職員の採用試験を受験できる。	各地方人事委員会 事務局
特別区職員（Ⅰ種）	採用予定年3月31日現在22才以上28才未満なら男女・学歴を問わず受験できる。	特別区人事委員会 事務局

5. 各種学内講座

本学では、学生の資格取得又は公務員試験合格を支援するために各種講座を開いています。昨年度募集した講座は以下の通りです。今年度の日程につきましては、別途掲示致します。

（1）2級建築士講座

期 間：10月～翌年7月まで

費 用：31,500円

授業数：105分授業1日2コマ、計7日間14コマ

（学内講座は10月～12月。翌年は自宅WEB学習と専門学校通学）

（2）公務員試験紹介イベント

期 間：7月～10月まで

費 用：無料

授業数：90分授業1日2コマ、計5日間10コマ

6. 学内 TOEIC 試験

TOEIC とは、アジアやヨーロッパなど世界 50 カ国で実施されている英語能力試験です。ビジネスにおける英語のコミュニケーション能力を測る試験としての特徴があり、多くの企業が採用時に TOEIC 試験の得点を重要視しています。在学中に企業にとって認められる得点を得ることが就職に有利であることは言うまでもありません。従いまして、本学では、格安で受験できる学内 TOEIC 試験の受験を薦めています。

○学内 TOEIC 試験実施について

☆学内 TOEIC 試験の日程実施要領については、学生厚生担当掲示板にて連絡しますので見落とさないように注意してください。

申し込みは証明書自動発行機で行います。期間に申し込めなかった場合はいかなる理由においても受け付けられませんので注意してください。

「東京理工系4大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づく他大学院推薦入試制度
「東京理工系4大学による学術と教育の交流に関する協定」（協定校：芝浦工業大学、東京都立大学、工学院大学、本学）の一環として、4大学による大学院修士課程への特別推薦入試制度があります。

この制度は、各大学の学部学生に対して各大学の各研究科各専攻が、他大学から推薦された学生（出身大学内の学内推薦基準を満たしている学生）を1名ずつ受入れ、相互の交流をはかることを目的としております。

詳細については、教務担当までお問い合わせください。

科目等履修生（卒業生・その他）

本学において、特定の授業科目について、さらに学習してみたい場合や、各種資格免許の取得、あるいは職務上の必要などから単位が必要となった場合には、科目等履修生として履修することが出来ます。

卒業後このような必要性が生じたら、教務担当に問い合わせてください。

〒350-0394

埼玉県比企郡鳩山町石坂

東京電機大学理工学部事務部教務担当

TEL 049-296-0430

編入学者

他大学、専門学校等からの編入学者は、単位認定方法が個人により異なりますので、編入学時に教務担当窓口まで問い合わせてください。

卒業後の各種証明書の申請について

卒業後に証明書が必要となることがよくあります。次の事項によく注意して申請をしてください。

1. 請求方法

教務担当窓口まで来校するか、または郵送によって申し込んでください。（電話での申し込みは受け付けいたしません。）

2. 請求に際しての必要事項（郵送の場合）

- ・卒業年月
- ・学系名・学籍番号
- ・氏名・生年月日・本籍地（都道府県のみ）
- ・証明書の種類と必要部数
- ・交付手数料相当の現金または郵便局の小為替・返送用郵便料相当の現金または切手
- ・返送先の郵便番号・住所・氏名・連絡先（電話番号）
- ・返送を速達で希望する場合はその旨

※身分証明書のコピーを必ず添付してください。

3. 交付手数料

卒業証明書	500円
成績証明書	500円
JABEE 修了証明書（2007年卒以降）	500円
人物調査書	1,000円
大学院進学用調査書	1,000円
学力に関する証明書	1,000円
英文卒業証明書	1,200円
英文成績証明書	2,000円
元在学成績証明書	1,000円
元在学証明書	500円

（学生厚生担当扱い）

4. 問い合わせ・請求先

〒350-0394
埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学理工学部事務部教務担当
TEL 049 (296) 0430
（在学生の問い合わせは受付ません。）
本学のホームページ 理工学部事務部
教務担当に証明書申込み方法が記載して
あります。
http://www.cse.dendai.ac.jp/students/certificate.html

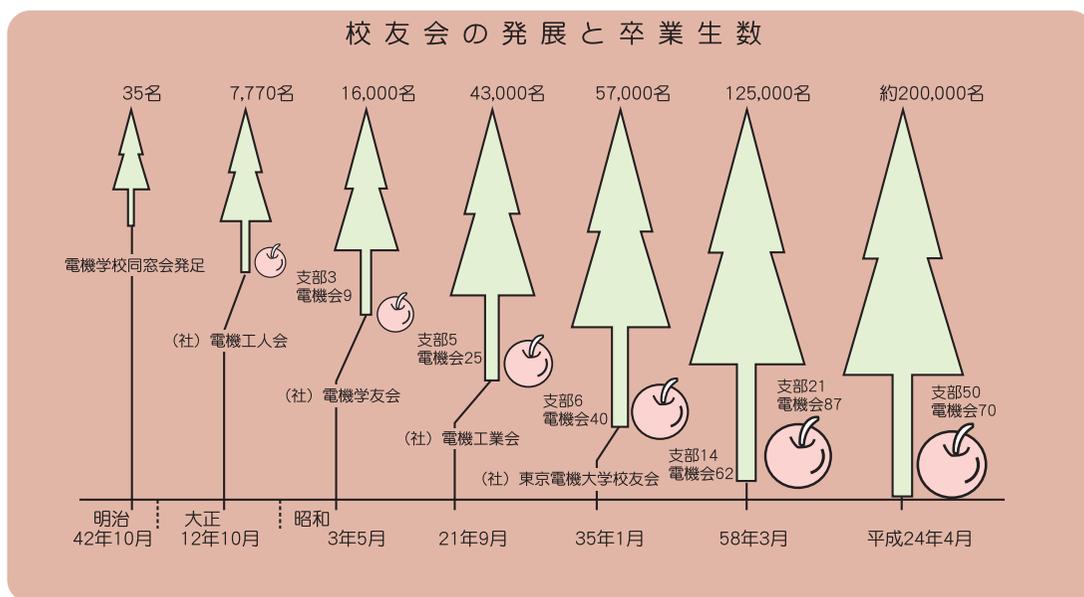
校友会

みなさんが学園の一員として学生生活を送る中で、校友会・同窓会という言葉を目にする機会が多々あると思います。ここでは校友会・同窓会活動について紹介します。

1. 校友会と在学生とのかわり

校友会を卒業生の親睦団体と考えている方が多いと思いますが、本学園では在学中から準会員として校友会と種々の面で関係が保たれています。一例を挙げれば、奨学金貸付や厚生資金の貸付による経済援助、学園祭・合同体育祭行事およびクラブ活動への援助があります。

その他、卒業生情報の管理、機関誌「工学情報」の発行など、在学生や卒業生のための活動を積極的に展開しております。



2. 校友会組織と現況

現在、校友会の組織下には各校別の同窓会があり、卒業生の出身地域別の地方・県支部（みなさんの出身地にもあります。）や企業内支部（職域電機会）等が全国各地に組織化されています。

これらの支部組織は将来就職等によりUターンする場合など何かとみなさんの相談に力を貸していただけるものと思います。

3. 東京電機大学校友会・新電気奨学金

この制度の特色は一般の奨学金制度のように特定の期間に限定して公募するのではなく、学生本人または保証人の事情により学費等校納金の支払いに困難な状態が生じたとき、申請により校友会が立て替えるものです。

希望者は下記の要件を確認したうえ、学生厚生担当へ相談してください。

貸与額：学費（授業料及びこれと同時に納付する金員を含む）の1/2相当額

返 還：卒業後半年据え置いた後、5年間で年賦・半年賦・月賦による元本均等返済

（一括返済可）無利息

4. 大学同窓会の活動

学園の諸活動と密接な関係のある大学同窓会は、クラス会の開催はもとより、みなさんのクラブ活動や諸行事にも校友会本部と一体となって活動しています。これらの活動を支えている卒業生は大学院・大学・短大関係で約10万名に達しております。

特に、大学同窓会では学園と協力して“就職セミナー”を開催しており、産業界で活躍している先輩による就職進路相談は好評であり、また卒業生と在学生との交歓行事“OB交歓会”では、優秀な学生団体に丹羽賞、同窓会奨励賞を授与しております。

5. 丹羽賞

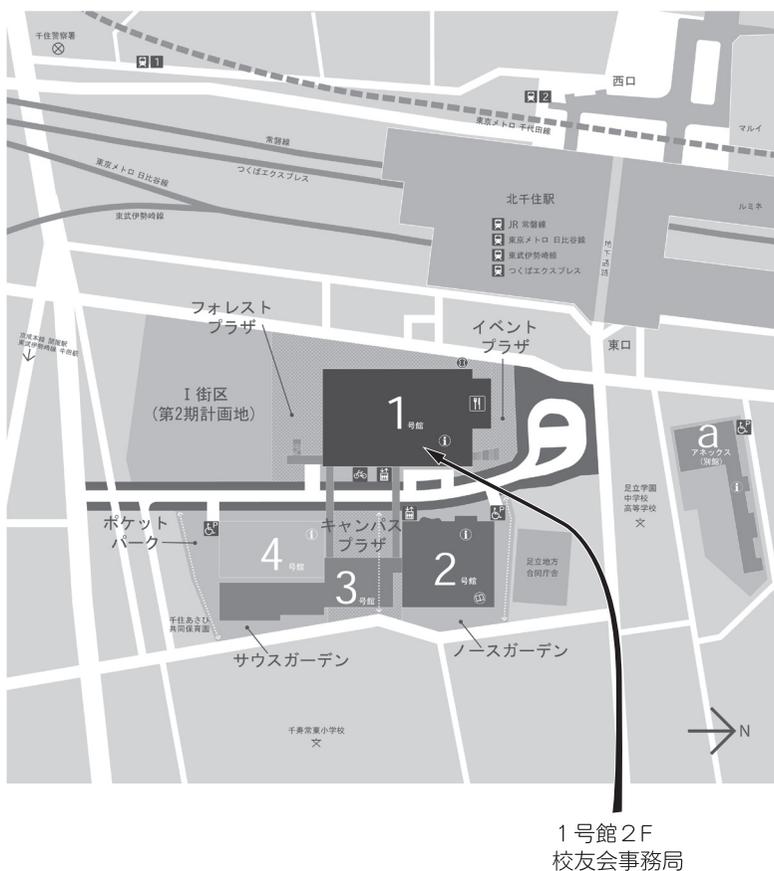
初代学長の故丹羽保次郎先生が、生前同窓会に寄せられた基金を基に創設されたもので、準会員（在学生）のクラブ活動の育成援助を目的とし、過去1年間に優秀な成績をあげた学生団体に与えられます。

6. 同窓会奨励賞

昭和 60 年度より設けられた賞で丹羽賞の対象にはなりません。地道で着実な活動を続けている団体を応援する目的で贈られます。

7. 校友会館を訪ねてください

校友会館は、東京千住キャンパス 1 号館 2 F にあります。在学中に先輩のこと、郷里の校友会支部のことなど知りたいことがありましたら、お気軽にご相談ください。



〒120 - 8551 東京都足立区千住旭町 5 番
社団法人 東京電機大学校友会
TEL 03 - 5284 - 5140
FAX 03 - 5284 - 5187
E-Mail : kouyukai @ jim.dendai.ac.jp
URL : http://www.tduaa.or.jp/koyu/
業務時間 9 : 00 ~ 17 : 00

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

第7章 大学院

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

大学院入学のすすめ

(理工学研究科の教育方針)

本研究科では、多様化する高度技術社会で活躍できる、創造性豊かな科学・技術者の養成に特化した実践的な教育研究を目指しています。学部を卒業した後に、専門性を高めてより高度な学問を身につけてください。本研究科の教育研究方針には次のような特色があります。

1. 自立性と課題探求能力の育成

授業の履修においては、学生が専攻の枠にとらわれず独自の学習計画を立て、学際的に選択できるカリキュラム編成を行っています。研究活動においては、院生一人一人が独自のテーマについて創意工夫し、計画を立てて、実行することにより、問題発見能力と解決能力を養えるように指導しています。また、コンピュータを使ったプレゼンテーション、インターネットの利用など、IT技術を活用できるように教育研究環境の整備に努めています。

2. 国際化への対応

これからの技術者・研究者にはしっかりした国際感覚が求められます。そのために海外で開催される国際会議での論文発表を奨励する助成制度を設けています。この制度を利用して多くの院生が国際的な経験をつんでいます。また、本研究科はアイオワ大学と学生交流協定を結んでおり、単位修得を目的とした留学制度があります。コロラド大学での短期語学研修制度も実施しており、英語教育に力を注いでいます。

3. 他大学との単位互換協定

本研究科は首都大学院コンソーシアム、東京理工系4大学および東洋大学大学院工学研究科と単位互換協定を結んでおり、他大学大学院の講義が履修できるようにしています。

4. 昼夜開講制

社会の要請と期待に応えるために、各専攻とも昼夜開講制を導入しています。これによって社会人が大学院で勉学することが容易になっています。

5. 奨学金制度

本研究科では、優秀な学生に勉学の機会を幅広く与えるために、いろいろな奨学金制度を提供しています。貸与奨学金制度や副手制度があり、多くの学生がこれらの制度を利用しています。

6. 部門制

各専攻にそれぞれ2～3の部門を設置し、部門独自の科目区分を設けることにより、広さと同時に専門分野における教育・研究の深化を図っています。

7. 修了年限の短縮化

修士課程の修学は2年が標準ですが、優れた研究業績を修めた院生は1年で修了可能です。

以上のような特色をもつ本研究科へ、意欲ある学生が入学することを期待しています。

※ 今後、理工学研究科において改編を行うことも予定されています。

理学専攻

修士課程

〈内容と特色〉

理学専攻は数理科学部門、物質科学部門の2部門から成っています。数理科学部門では、解析学・代数学・幾何学の数学3分野を中心に、その諸科学への応用までを視野に入れた研究を行います。物質科学部門では、物理学と化学を基軸とし、物質の構造・性質・反応性を中心に、実験および理論面から掘り下げて研究します。また専攻共通科目として両部門の共通の基盤となる科目が用意されており、自らの研究の動機付けが得られるようになっています。

〈研究部門・テーマ〉

■数理科学部門：関数解析学、偏微分方程式論、代数幾何学、不変式論、楕円曲線論、ホッジ理論、ガロア表現論、形式群論、微分幾何学

■物質科学部門：燃料電池の研究、生命化学物質の溶媒和に関する熱力学的研究、多孔質シリコンの作製に関する研究、統計物理学、多孔性固体による物質の吸着、高分子ゲルのダイナミクスと熱力学的研究、化学振動の研究

〈開設科目〉

■数理科学部門

解析学A	解析学B	代数学A
代数学B	幾何学A	幾何学B
解析学特論A	解析学特論B	代数幾何学特論A
代数幾何学特論B	代数学特論A	代数学特論B
応用解析学	応用代数学	確率過程論
数理科学セミナー I	数理科学セミナー II	数理科学特別研究 I
数理科学特別研究 II		

■物質科学部門

化学熱力学特論	溶液化学	物性化学特論
反応化学特論	界面化学特論	固体物性物理学
物理学特論A	物理学特論B	物理学特論C
物理学特論D	物質科学輪講 I	物質科学輪講 II
物質科学セミナー I	物質科学セミナー II	物質科学特別研究 I
物質科学特別研究 II		

■専攻共通科目

数理科学基礎	非線形現象の科学	数理物理学
統計物理学特論	理学インターンシップ	

理学専攻 教員一覧

教育・研究部門	氏 名	職 名	現 在 の 研 究 テ ー マ
数理科学部門	荒牧 淳一*	教 授	関数解析学、偏微分方程式論
	中野 哲夫*	教 授	射影多様体への群作用、不変式論、代数曲線のモジュライ空間
	碓 文夫*	教 授	楕円曲線論、ホッジ理論
	山形 周二	教 授	ガロア表現、形式群
	越智 禎宏*	准教授	楕円曲線の数論
	小黑 隆	講 師	微分幾何学
	高橋 秀慈	講 師	偏微分方程式論
物質科学部門	☆岡本 博司*	教 授	リズム・カオス・パルスの化学的ダイナミクスの研究、非平衡開放系の化学反応の研究
	小川 英生*	教 授	生命化学物質の溶媒和に関する熱力学的研究、生命および環境化学物質を含む溶液の物性論的研究、超臨界流体の熱力学的研究
	小田垣 孝*	教 授	非平衡系、複雑系、不規則系を中心とする物性理論
	隅山 兼治*	特任教授	ナノ粒子、薄膜の構造と物性、物質の磁気的性質
	井上 真	准教授	統計物理学、磁性体のスピン模型
	類家 正稔	准教授	多孔性固体による物質の吸着、糖の水溶液中での水和に関する熱力学的研究
	山室 憲子*	准教授	溶液およびソフトマテリアルのダイナミクスと熱力学的研究
	向山 義治	講 師	燃料電池の研究、化学振動の研究
	吉武裕美子	助教A	ソフトマテリアルの表面物性研究

☆専攻主任 *：研究指導を受けることができる教員

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

情報学専攻

修士課程

〈内容と特色〉

情報学専攻は、情報学に関する分野横断的な教育研究を通じて、21世紀の情報社会をリードするエキスパートを育成します。本専攻は、数理のおよび工学的なアプローチを特色とする数理情報・コンピュータ科学部門、ソフトウェアを基盤とする「遊び」に関わるテクノロジーについての教育研究を行うアミューズメント・ソフトウェア部門、ネットワークならびコミュニケーションに関わる学際的な教育研究を推進するネットワーク・コミュニケーション部門の3部門から成ります。

〈研究部門・テーマ〉

■数理情報・コンピュータ科学部門：知能システム科学、制御理論、信号処理、アルゴリズムの設計と解析、形式言語、人工知能、データベース

■アミューズメント・ソフトウェア部門：ソフトウェア工学、画像工学、感性工学、確率システムの解析、計算理論、グラフ理論、コンピュータグラフィックス、ゲームプログラミング

■ネットワーク・コミュニケーション部門：ネットワーク工学、通信システムの解析、待ち行列、パターン認識、心理学、心と身体論、情報社会論、科学技術政策論

〈開設科目〉

■数理情報・コンピュータ科学部門

グラフ理論	大規模ネットワーク理論	システム設計論
システム理論	確率システム理論	組込みシステム特論
プログラム言語論	コンパイラ理論	学習制御論
人工知能	論理プログラミング	データ工学特論
計算科学	数理情報・コンピュータ科学セミナーⅠ	数理情報・コンピュータ科学セミナーⅡ
数理情報・コンピュータ科学特別研究Ⅰ	数理情報・コンピュータ科学特別研究Ⅱ	

■アミューズメント・ソフトウェア部門

ゲームとシミュレーション	ゲームと計算	応用サイバースペース論
画像情報処理論	感性工学特論	アミューズメント・ソフトウェア特論A
アミューズメント・ソフトウェア特論B	アミューズメント・ソフトウェア特論C	アミューズメント・ソフトウェアセミナーⅠ
アミューズメント・ソフトウェアセミナーⅡ	アミューズメント・ソフトウェア特別研究Ⅰ	アミューズメント・ソフトウェア特別研究Ⅱ

■ネットワーク・コミュニケーション部門

情報理論	確率ネットワーク	データマイニング
ヒューマンインターフェース	科学技術社会論	情報倫理学
視覚情報工学特論	ネットワーク・コミュニケーションセミナーⅠ	ネットワーク・コミュニケーションセミナーⅡ
ネットワーク・コミュニケーション特別研究Ⅰ	ネットワーク・コミュニケーション特別研究Ⅱ	

■専攻共通科目

応用解析学	応用代数学	情報数学
ソフトウェア開発工学特論	情報産業論	計算機アーキテクチャ特論
計算機ネットワーク特論	マルチメディア工学特論	CADシステム特論
アルゴリズム特論	オートマトン	言語情報システム論
情報コミュニケーション心理学	確率過程論	情報学インターンシップ

情報学専攻 教員一覧

教育・研究部門	氏名	職名	現在の研究テーマ
数理情報・ コンピュータ科学部門	狩野 弘之*	教授	自律ロボット、視覚情報解析、曲線曲面の設計論
	大塚 尚久*	教授	システム理論、制御理論
	勝野 裕文*	教授	人工知能、知識表現、データベース
	陳 致中*	教授	アルゴリズムの理論、計算量の理論、バイオインフォマティクス
	中村 克彦*	教授	オートマトン理論、形式言語、論理プログラミング、人工知能
	三井 浩康*	特任教授	組込みシステム、M2Mシステム、遠隔教育方式
アミューズメント・ ソフトウェア部門	柏崎 尚也*	教授	感性パラメータにより芸術作品等の感性評価、ミュージックパズルの研究、新しい表示デバイスの開発研究
	佐藤 定夫*	教授	マルコフ過程論、ソフトウェアシステム
	志和 新一*	教授	遠隔学習に関する研究、英単語の学習法と評価法の研究、3D画像によるインタラクティブな応用に関する研究
	細村 宰	特任教授	衛星画像の土地被覆分類、カメラを用いた3D画像計測、CGを用いた情報の可視化に関する研究
	築地 立家*	准教授	計算理論、ゲームプログラミング
	松浦 昭洋	准教授	アルゴリズム論、ゲーム情報学、情報可視化
	徳田 太郎	講師	グラフ理論、組み合わせ論
	高橋 達二	助教A	内部観測、対称性推論、音楽情報科学
ネットワーク・ コミュニケーション部門	石塚 正英*	教授	身体に関する複合科学的研究、フェティシズムに関する比較文明論的研究、情報社会に関する社会思想史的研究
	市野 学*	教授	パターン認識、シンボリック・データ・アナリシス、データマイニング
	☆小林 春美*	教授	環境と人間の言語・認知の関係についての研究、言語発達における環境情報の役割に関する研究
	町原 文明*	教授	通信理論、待ち行列理論、トラヒック理論
	山口 正二*	教授	認知や動機づけに関する研究、学校教育における生徒と教師の心理的距離、教師の聖職性に関する実証的研究
	若松 征男	教授	科学技術政策形成過程への参加型システムの組み込みの研究、参加型手法の研究
	磯野 春雄*	特任教授	人にやさしい情報メディア、情報のバリアフリーデザイン、立体映像システム
	藤本 衡	准教授	計算機ネットワーク、システム性能評価
中山 洋*	准教授	高等学校対応のグループウェアの開発、VRを用いた深層心理アナライザの開発、香り(アロマ)と作業効率との関係	

☆専攻主任 *：研究指導を受けることができる教員

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

デザイン工学専攻

修士課程

〈内容と特色〉

デザイン工学専攻には機械、電気・電子、建築、土木、環境と幅広い分野が含まれていますが、目指すのは具体的なもの作りであり、コンピュータ支援技術をベースにしたメカトロニクス、インテリジェント設計といった機械デザインや、建築・土木・環境に関する高度な知識をベースにした都市・建築デザインのような高度なデザイン工学の素養を身につけた技術者・研究者の育成を行います。

〈研究部門・テーマ〉

■**メカトロニクスデザイン工学部門**：インテリジェントロボット、環境エネルギー変換システム、バイオニックデザイン、再生医工学に基づく生体材料、リハビリテーション工学、ロボットシステム、総合生産システム、技術開発システム、工作機械の構造設計、気体力学およびコンピュータグラフィックス、電磁現象の解析と応用

■**建設環境デザイン工学部門**：湖沼・河川の水質改善、水生植物群落の機能、環境影響評価、画像処理・画像計測・3Dモデリング・地理情報の空間分析、骨組みおよびシェル構造物の非線形解析、鋼構造物の解析・設計法、舗装構造物の解析・設計・診断・性能評価、鋼構造物の疲労と破壊、構造物の耐震設計、地震時の地盤の液状化、建築および都市空間の形態分析、都市・地域計画

〈開設科目〉

■メカトロニクスデザイン工学部門

材料科学特論	先端材料特論	工作機械システム特論
マイクロ加工特論	品質工学特論	インテリジェントシステム工学
気体力学特論	医療・福祉用ロボット工学特論	バイオメカニクス特論
再生医工学	メカトロニクス特論	生体治療機械システム特論
福祉工学特論	モーションコントロール特論	産業電子工学
パワーエレクトロニクス特論	応用電磁気学	数値解析工学
LSI工学特論	技術と経営	熱工学特論
航空宇宙工学特論	システム制御論	メカトロニクスデザイン工学セミナーⅠ
メカトロニクスデザイン工学セミナーⅡ	メカトロニクスデザイン工学特別研究Ⅰ	メカトロニクスデザイン工学特別研究Ⅱ

■建設環境デザイン工学部門

応用水理学A	応用水理学B	環境流体力学A
環境流体力学B	交通計画学特論	意思決定の理論
画像計測A	画像計測B	建築空間論
建築設計論	建築設計演習A	建築設計演習B
ランドスケープ特論	環境影響評価特論	植物環境工学
低温生物工学	振動論	構造設計論
土質工学特論	地震防災工学特論	地盤防災工学特論
災害科学の最前線	薄肉構造解析	材料特性論
鋼構造学特論	建設信頼性工学	鉄筋コンクリート工学特論
メンテナンス工学特論	建築インターンシップ	建設環境デザイン工学セミナーⅠ
建設環境デザイン工学セミナーⅡ	建設環境デザイン工学特別研究Ⅰ	建設環境デザイン工学特別研究Ⅱ

■専攻共通科目

流体力学特論	弾性論	有限要素法
自動制御工学特論	技術評価システム特論	デザイン工学インターンシップ

デザイン工学専攻 教員一覧

教育・研究部門	氏 名	職 名	現 在 の 研 究 テ ー マ
メカトロニクスデザイン工学部門	浅岡 照夫*	教 授	光触媒セラミックスに関する研究、生体材料に関する研究
	榎村 幸辰*	教 授	冷凍チャックの開発、複合材料の金型への適用、工作機械の構造設計に関する研究
	角田 興俊	特 任 教 授	総合生産システムに関する研究、画像処理に関する研究
	富田 英雄*	教 授	パワーエレクトロニクスに関する研究、リハビリテーション工学に関する研究、ロボットシステムに関する研究
	羽根吉寿正*	教 授	電子制御工学、パワーエレクトロニクス、電動機駆動システム、環境エネルギー変換システム
	武田 英次*	客 員 教 授	半導体の開発および評価に関する研究、MOTシステムに関する研究
	立石 哲也*	客 員 教 授	バイオニックデザインに関する研究
	中島 建夫	客 員 教 授	技術開発システムの研究、生産システムの研究、多次元データ評価システムの研究
	大西 謙吾*	准教授	メカトロニクス、福祉工学、人間工学、設計工学、義肢装具
	小畑 修二*	准教授	不規則性材料の電子構造の研究、電磁現象の解析とその応用に関する研究
	遠藤 正樹*	准教授	内燃機関の排気系に関する研究、高温高圧配管の損傷に関する研究、超音速噴流に関する実験的研究
榊原 洋子	准教授	流れの可視化技術に関する技術	
建設環境デザイン工学部門	有田 正光*	教 授	湖沼・河川の水質改善、河口域の環境問題
	井浦 雅司*	教 授	骨組およびシェル構造物の非線形解析
	☆近津 博文*	教 授	画像処理、画像計測、3Dモデリング、地理情報の空間分析
	中井 正則*	教 授	水生植物群落の機能、風侵食現象の解明
	安田 進*	教 授	地震時の地盤の液状化、斜面崩壊、地盤改良、ハザードマップ
	山崎 真司*	特 任 教 授	構造物の耐震設計、鋼部材の塑性挙動
	日鼻 宏一	客 員 教 授	環境影響評価、環境マネジメント
	岩城 和哉*	准教授	建築および都市空間の形態分析
高田 和幸*	准教授	都市・地域計画、交通計画、交通市場分析	

☆専攻主任 *：研究指導を受けることができる教員

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

生命理工学専攻

修士課程

〈内容と特色〉

生命現象に関する謎の解明や人類の直面する諸問題（医療・福祉問題、環境問題、食糧問題など）の解決には、学際的なアプローチが不可欠です。生命理工学専攻では、生命・環境科学分野と生体医工学分野を二本柱とし、各専門分野で活躍できる研究者・技術者の育成ばかりでなく、深い教養と学際的な視点から前記の諸問題に取り組むことのできる人材の養成も目標とします。このように、生命理工学専攻は学生が自らの資質や適性に合わせて進路を選択できるような教育システムを提供することによって、有為の人材を社会に輩出することを目指します。

〈研究部門・テーマ〉

■生命・環境科学部門：

抗がん物質の構造活性相関、植物培養細胞の超低温保存、小胞体におけるタンパク質の品質管理機構、高分子ゲル中の水のキャラクタリゼーション、植物成長に及ぼす磁場・振動・超音波・赤外光の効果、骨代謝及び骨基質蛋白質の生合成機構に関する研究、細胞死の誘導機構の研究

■生体医工学部門：

生体計測に関する研究、信号処理・画像処理に関する研究、集積回路に関する研究、生体および疾患のモデル化、人工臓器に関する研究、機能性材料および生体適合性材料に関する研究、診断および治療技術に関する研究、生命支援および手術支援技術に関する研究

〈開設科目〉

■生命・環境科学部門

生理活性有機化合物論	化学熱力学特論	生理化学
界面化学特論	物性化学特論	生体システム科学
非線形現象の科学	低温生物学	植物環境工学
食品バイオ工学	植物細胞工学	生体高次機能学
生命・環境科学セミナー I	生命・環境科学セミナー II	生命・環境科学特別研究 I
生命・環境科学特別研究 II		

■生体医工学部門

応用電磁気学	情報計測工学	画像情報工学
情報回路設計	固体物性物理学	産業電子工学
医療・福祉用ロボット工学特論	システム制御論	生体材料工学
医用福祉工学	医用工学	生体治療機械システム特論
生体医工学セミナー I	生体医工学セミナー II	生体医工学特別研究 I
生体医工学特別研究 II		

■専攻共通科目

細胞分子生物学	環境生物学	臨床医学
生体情報工学	生命理工学インターンシップ	

生命理工学専攻 教員一覧

教育・研究部門	氏名	職名	現在の研究テーマ
生命・環境科学部門	川井 悟*	教授	食品中のがん予防物質の探索、細胞周期制御物質の構造活性相関、カンキツ類におけるフラボノイド生合成の遺伝様式
	栗山 昭*	教授	植物培養細胞の超低温保存、組織培養による植物の生産、植物細胞の低温・乾燥耐性
	椎葉 究*	教授	小麦グルテニンサブユニットやアラビノキシランの構造と機能に関する研究、バイオレメディエーション技術と微生物フローラの遺伝子解析に関する研究
	田中 真人*	教授	小胞体におけるタンパク質の品質管理機構、抗体の高度利用法に関する研究
	村勢 則郎*	教授	高分子ゲル中の水のキャラクタリゼーション、クモの糸の水核活性とその利用、線虫の凍結保存
	山名 昌男*	教授	植物における成長と品質に及ぼす電磁場エネルギー（磁場・振動）、力学エネルギー（超音波・音波）、光エネルギー（赤外光）の効果
	長原 礼宗*	准教授	細胞死・細胞分化の誘導機構の研究、抗癌剤の作用機序の研究、自然免疫機構の研究
	村松 和明	准教授	骨・軟骨組織の再生、体性幹細胞の分化制御と細胞移植療法、機能性生体材料の開発に関する研究
	二井 信行	助教A	マイクロ流体下の細胞培養に関する研究、リコンフィグラブルマイクロ流体システムに関する研究
生体医工学部門	☆宮脇富士夫*	教授	器械出し看護師ロボットシステムの開発・研究、遺伝子組換え支援技術の開発に関する研究、心収縮性に関する研究、心機能回復促進型補助人工心臓の開発、補助人工心臓が自己心に及ぼす影響の研究
	内川 義則*	教授	脳磁図・心磁図の計測に関する研究、信号処理・画像処理システムの開発に関する研究
	内田 干城	教授	皮膚の老化度の測定に関する研究、色測定による皮膚の診断に関する研究、筋ジストロフィー患者のためのTVゲームコントローラーの開発に関する研究、車椅子用クッションの蒸れの測定に関する研究
	福井 康裕*	教授	人工臓器に関する研究、生命支援技術に関する研究、生物工学に関する研究
	舟久保昭夫*	教授	人工臓器に関する研究、生体計測に関する研究
	本間 章彦*	教授	人工心臓システムに関する研究開発、人工心臓システムの性能・耐久試験に関する研究、人工心臓の制御方法に関する研究、人工臓器の解剖学的適合性評価技術に関する研究
	大越 康晴	助教A	医療材料としての非晶質炭素膜の合成・評価に関する研究、プラズマCVD法による薄膜形成技術に関する研究
	田中 慶太	助教A	高次脳機能に関する研究、BCI・BMIに関する研究、生体信号処理に関する研究
	幡多 徳彦	助教A	再生医療におけるセルプロセッシングに関する研究、ハイブリッド型人工臓器に関する研究

☆専攻主任 *：研究指導を受けることができる教員

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

第8章

その他

留 学

1. 留学のすすめ

本学では、みなさんが在学中の一時期に海外の大学に留学することを制度として認めています。みなさんが感受性に富んだ若い時代に外国に留学し、勉学に励むと同時に外国の異文化に触れ、相互理解を深め、国際性を身につけることは、将来、技術者・研究者として国際社会で活躍するためには大切なことです。

積極的にこの制度を利用し、是非、有益な留学を実現させてください。

2. 協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって、単位の修得を目的として留学する制度です。現在の協定校は、アメリカのアイオワ大学で、募集は毎年10月頃行います。選考には、TOEFLのスコアが重要視され、CBT（コンピュータ版）197点以上、iBT（インターネット版）71点以上を目安としています。留学は翌年9月からの1年間で、学部で60単位を限度とした単位認定を行っており、留学先の学費は免除となります。（原則的に本学学費は納入。）

※必要なスコアや諸手続は変更されることがあります。

3. 認定校留学

単位の修得を目的とした留学を希望する者が、自分で外国の大学の留学または受入れ許可をとり、本学がこれを許可し、留学する制度です。募集は毎年10月頃行います。留学は翌年度中からで期間は1年とし、学部で60単位を限度とした単位認定を行っており、留学先の学費は自己負担となります。（原則的に本学学費は納入。）

4. 海外英語短期研修

現在、英語短期研修はコロラド大学・アイオワ大学・シドニー大学において開催されています。いずれも、現地教師による少人数レッスンで本学学生専用のプログラムが組まれています。

ます。所定の成績を修めれば、本学が指定した英語科目の単位を修得したものと認定されます。コロラド大学は7月～8月、アイオワ大学・シドニー大学は2月～3月に約3週間実施されます。実施の約半年前に募集をし、選抜試験を行っています。

TOEFL (Test of English as a Foreign Language) は、英語を母国語としない外国人留学生のために英語の聴解力 (Listening Comprehension Section)、文法・作文力 (Structure and Written Expression Section)、読解・語彙力 (Reading Comprehension and Vocabulary Section)、および文章力 (Test of Written English) の知識をテストするものである。また、テストはコンピュータにて行われる Computer-Based Test (CBT) とインターネットで行われる Internet-Based Test (iBT) とがあります。

今後、全世界のTOEFLテストはiBTに統一されていきます。

国際センター ～ Sharing Views & Seeking Ways ～

TDUの特色を活かした国際交流の実践に向けて、学生や教職員の人的な交流をさらに進めるために、あるときは留学生の日常的な相談相手として、またあるときは日本人学生の海外留学のお手伝い役として、さまざまな支援を行っているのが国際センターです。

「異なる文化や習慣を受け入れ、理解し、共有しつつ、協働していく能力」は、変化に対応できる科学技術者にとって非常に重要な要素です。だから「相手の言っていることが理解できた」あるいは「こちらの考えが伝えられた」など、外国人とのコミュニケーションが成立したときの小さな喜びを大切にしています。

何も言わなくても分かってくれていた友達ばかりの状況から一歩踏み出すことが、みなさんのチャレンジのはじまりです。

“Sharing Views & Seeking Ways” という合言葉のもと、国際センターはみなさんのチャレンジを応援します。

国際センター鳩山ランチ (場所：12号館12128号室 10時～17時/月～金)

「国際センター鳩山ランチ」では、常駐スタッフに留学や大学生活について相談できるだけでなく、留学生と日本人学生同士が、交流できるスペースを設けております。是非お気軽にお越しください。

保険制度

本学では、正課中あるいは課外活動中の不慮の災害事故補償のための「学生教育研究災害傷害保険」への加入受付事務等を行っています。新入生は入学手続き時に4年間分の保険料を納入し、全員が加入しています。留年等で保険期間が切れた場合は、4月はじめに学生厚生担当において所定の手続きをすることにより継続加入ができます。

1. 保険金が支払われる場合

1. 正課授業中
2. 学校行事中
3. 1、2以外で学校施設内にいる間
4. 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間
5. 通学中

2. 保険金の種類・金額

下記の一覧表を参照してください。

保険金種類 担保範囲	死 亡	後 遺 傷 害	医 療	入院（日額）
正 課 中 学 校 行 事 中	2,000万円	90万～3,000万円	0.3万～30万円	4,000円
上記以外で学校 施設内にいる間	1,000万円	45万～1,500万円	3万～30万円	4,000円
学校施設以外で 大学に届出た課 外授業中	1,000万円	45万～1,500万円	3万～30万円	4,000円

※死亡保険金の支払いは、事故の日から180日以内に死亡したとき

※後遺障害保険金は、事故の日から180日以内に後遺障害が生じたとき

※医療保険金は、平常の生活ができるようになるまでの治療期間に応じて異なる。正課中お

よび学校行事中の事故は実治療日数（実際に入院または通院した日数）が1日から支払われ、学内での休憩中および課外活動中の事故は14日以上の場合に支払われる。
 ※事故の状況等によっては、保険金が支払われない場合があります。

3. 保険料・保険期間

保険期間	保険料適用区分
	昼間部
1 年 間	1,000円
2 年 間	1,750円
3 年 間	2,600円
4 年 間	3,300円

※保険期間（4年間）の切れた場合の加入受付については、3月下旬～4月上旬に掲示でお知らせします。必ず受付期間内に延長の手続きを行ってください。（追加の保険料が必要です。）

※その他、詳細は「学校教育研究災害傷害保険のしおり」を参照してください。

※介護等体験、インターンシップ等を行う場合には、「学校教育研究災害障害保険」に加えて、オプションで対物賠償等も補償範囲となる「インターンシップ・介護体験活動・教育実習等賠償責任保険」へ加入の必要があります。

加入は随時受け付けていますが、その際には本体となる「学校教育研究災害障害保険」へ加入している必要があります。留年等で保険期間（入学から4年間）を経過している場合には、予め4月上旬までに「学校教育研究災害障害保険」へ加入しておいてください。（詳細は、学生厚生担当窓口にて相談してください。）

学生生活支援

1. 短期貸与金

短期貸与金制度は、みなさんの先輩方が設けた「東京電機大学同窓会助け合い基金」をもって運用しているもので、みなさんが緊急に金銭を必要とする場合に貸付をする制度です。取扱いは、学生厚生担当で行っています。

貸与金額 10,000円以内

貸与期間 1ヵ月以内

なお、貸付を受ける際には学生証が必要となります。

2. アパートの紹介

本学では、理工学部のアパート・貸間の斡旋を錦電サービス㈱に委嘱しています。斡旋される物件の大部分は駅より徒歩10分の範囲にあり、埼玉鳩山キャンパス（理工学部）まで30分以内（待ち時間除く）で通学できます。

新入生の自宅外通学者のなかには、はじめての一人暮らしに不安を覚える方もいます。

——新しい環境に早く順応する——これは、これからの希望に満ちた学生生活を送るうえで、大切な要素です。理工学部では、新入生は、同じような環境にある者が協力し合っているよう、できるだけ本学部の新入生が多い物件を斡旋するよう指導しています。

一般のアパート・貸間の申込みは
錦電サービス㈱ 〒350-0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学 理工学部内
TEL 049 - 296 - 2962 (代)
<http://www.kinden-service.co.jp>

課外活動

課外活動の意図するところは、団体の運営にたずさわることによって自主性を養い、協調精神を身につけ、秩序を守ることを知り自己の人間形成に役立てることにあります。

この人間形成は、いうまでもなく正課教育を通して行われるのですが、より一層の効果をあげるための役割を果たしているのがこの課外活動です。しかし課外活動に必要な以上のエネルギーを費やし、勉学がおろそかになるようでは、もはや学生とはいえません。この課外活動の目的を十分に把握した上でクラブ活動に参加するよう望みます。

なお、学生が課外活動を行うときは、「学生生活についての規程」に基づき次の手続きをとらなければなりません。

1. 学外活動を行うとき

学生厚生担当備付けの学外活動願に記入の上、開始の1週間前までに学生厚生担当に届出なければなりません。

2. 学内集会を行うとき

学生厚生担当備付けの学内集会願に記入の上、実施の1週間前までに学生厚生担当に届出なければなりません。

アルバイト

アルバイトを希望するみなさんのために、学生厚生担当ではその紹介を行っています。原則的にアルバイトの実施期間は夏・冬・春の休業期間中に限りませんが、教育関連等の職種については、随時紹介を行っています。

求人受入れから紹介にいたる取扱いにあたっては、学業などに支障があってはならないという教育的配慮と、事故防止上から職種を制限しています。

(後掲の一覧表を参照)

1. 応募方法

掲示板の求人票から、自分の条件にあうアルバイトを選択し、各自で先方に申し込みをしてください。求人票の掲示は1ヵ月を目安としていますが、定員になり次第、剥がします。なお、紹介状が必要となるアルバイトもあります。その件に関しては学生厚生担当窓口へ申し出てください。

2. 留意事項

求人内容・条件などが著しく違った場合は報告してください。病気・急用・その他突発的な理由で遅刻、欠勤などをする場合は、必ず勤務先へ連絡してください。安易な考えや行動は多大な迷惑をかけることになり、みなさん自身や大学の信用問題に及ぶことにもなりますので特に注意してください。

制限職種一覧表

	具体例	理由及び参考事項
危険を伴うもの	●プレス、ボール盤、旋盤、裁断機など自動機械の操作	危険事故が伴う。 (例外…理工系でその専攻に役立つもの)
	●高電圧、高圧ガス等危険物の取扱い(助手も含む)	免許を必要とし、高度の危険度がある。
	●自動車、単車の運転、自転車による重量物(30kg以上)の配達	最近の厳しい交通状況から危険度も高く、また事故を起こした場合の経済的・精神的負担が重すぎ、刑事責任まで負うことになる。
	●線路内や交通頻繁な路上での作業(測量、白線引き、交通整理)	
	●土木・水道工事現場作業	
	●建築中の現場作業、建物倒壊、残材片付作業	落下物・転落等の危険度が大きい(内装工事は除く)。
	●2階以上の高所での屋外作業(ガラス拭き、器具取りつけ等)	
	●ヘルメット着用が必要とされる作業	
	●警備員	会場整備、誘導、受付は除く。
人体に有害なもの	●農薬、劇薬など有害な薬物の扱い(メッキ作業、白蟻駆除等)	健康上、人体に有害と考えられる。
	●特に高温・低温での作業	
	●塵埃、粉末、有害ガス、騒音等の著しい中での作業	
法令に違反するもの	●労働争議に介入するおそれのあるもの	職業安定法 20 条参照
	●営利職業斡旋業者への仲介斡旋	職業安定法の趣旨(雇用関係の成立の斡旋)に反する。
	●マルチ・ネズミ講商法に関するもの	無限連鎖講の防止に関する法律参照
	●出来高払(一定額の賃金の保証のないもの)	労働基準法 27 条参照
	●募集・採用の対象を男性のみ又は女性のみとするもの	男女雇用機会均等法参照
	●募集・採用の人数を男女別に設定するもの	
教育的に好ましくないもの	●街頭でのチラシ配り、ポスター張り	内容的に問題があったり、無許可の場合が多い。
	●不特定多数を対象とした街頭や訪問による調査	相手側の理解が得られない場合が多く、トラブルの原因となることが多い。
	●訪問販売、勧誘、専門におこなう集金	
	●競馬、競輪場等、ギャンブル場内の現場作業	
	●バー、クラブ、マージャン、パチンコなど風俗営業の現場作業、長期継続の深夜作業	
	●深夜作業	
	●選挙の応援に関連する一切の業務	大学としては特定の政党や候補者を応援することは望ましくない。
●スパイ行為、興信所業務に類する調査		
望ましくない求人	●人命にかかわることが予想される業務	水泳指導員、監視員、ベビーシッター等
	●労働条件が不明確なもの	賃金、時間、場所、労働内容、支払方法等に関することが明示されていないもの。登録制によるもの。
	●人員の限定を条件とするもの	例えば 10 人中 1 人でもかけると他の 9 人を不採用とするようなもの。
	●学生を紹介しても採否の連絡が無かったり、正当な理由なく採用されないことがしばしばくり返されるもの	
	●大学の判断により好ましくないもの	

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

東京電機大学 校歌

歯切れよく 雄大に

草野心平 作詞
平岡照章 作曲



1. に ち り ん は て ん に か が や き
2. て ん た い は い よ よ ち か づ き



は く う ん は ふ じ に わ き た つ と も が ら よ
め ぐ る し き じ か ん は は や し と も が ら よ



ま ゆ あ げ よ お い な る れ き し の な か で
ゆ め も て よ お い な る じ く う を め ざ し



わ れ ら あ た ら し い し ん り を つ く る ー と う き よ
わ れ ら あ た ら し い ぶ ん か を つ く る ー と う き よ



う ー で ん だ い ー わ れ ら が ー ぼ こ う ー あ
う ー で ん だ い ー わ れ ら が ー ぼ こ う ー あ



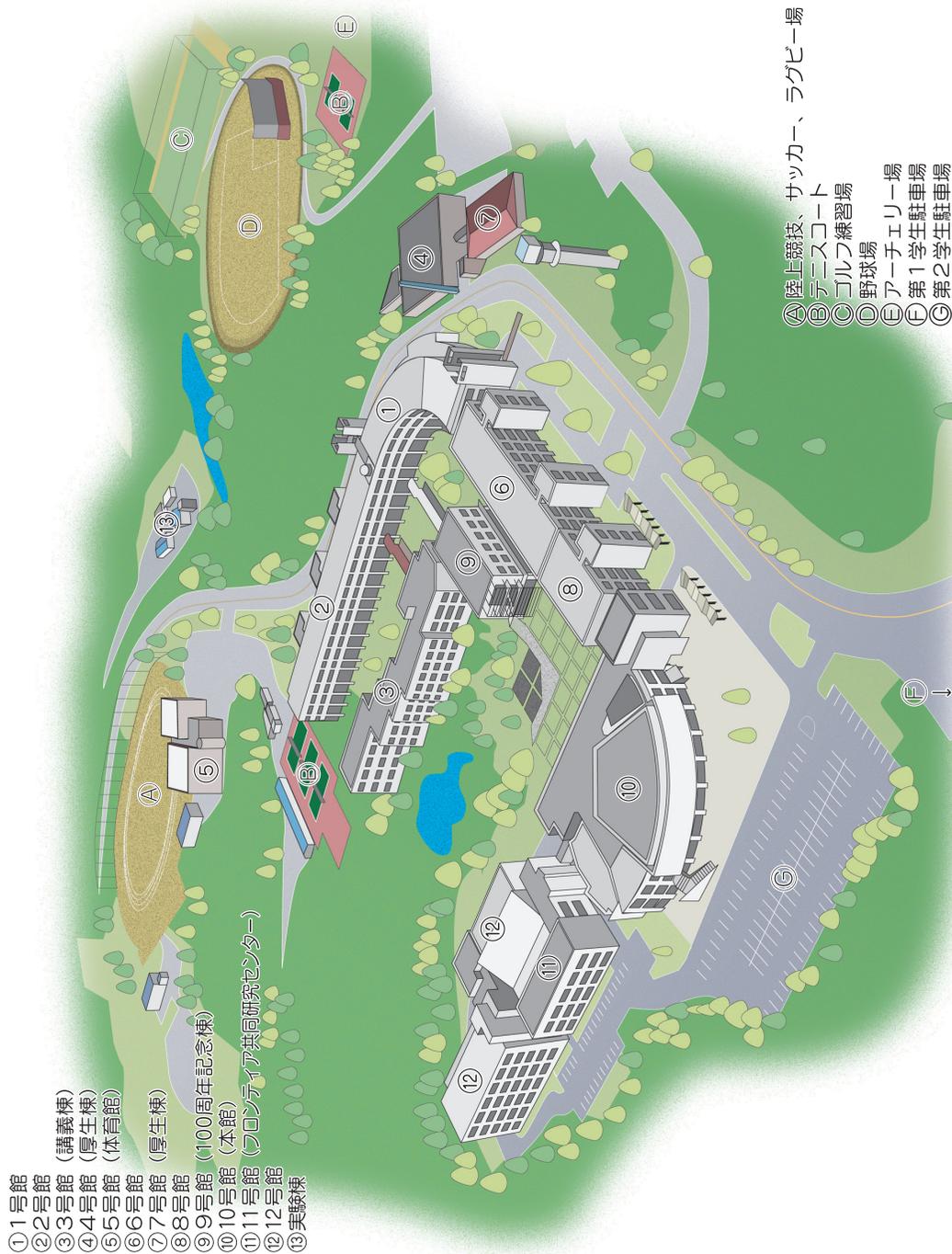
あ ー た た え ん か な そ の ー ー で ん と う ー
あ ー さ ん ぜ ん た り そ の ー ー み ら い ー

東京電機大学校歌

一
日輪は 天にかがやき
白雲は 富士に沸きたつ
朋がらよ 眉あげよ
大いなる 歴史のなかで
われら新しい 真理を創る
東京電大 われらが母校
あゝ讃えん哉

二
天体は いよよ近づき
めぐる四季 時間は早し
朋がらよ 夢もてよ
大いなる 時空をめざし
われら新しい 文化を創る
東京電大 われらが母校
あゝ燦然たり
その未来

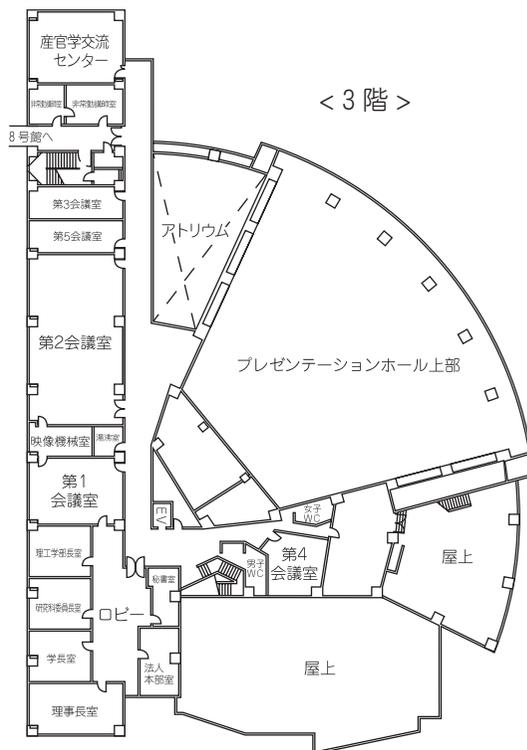
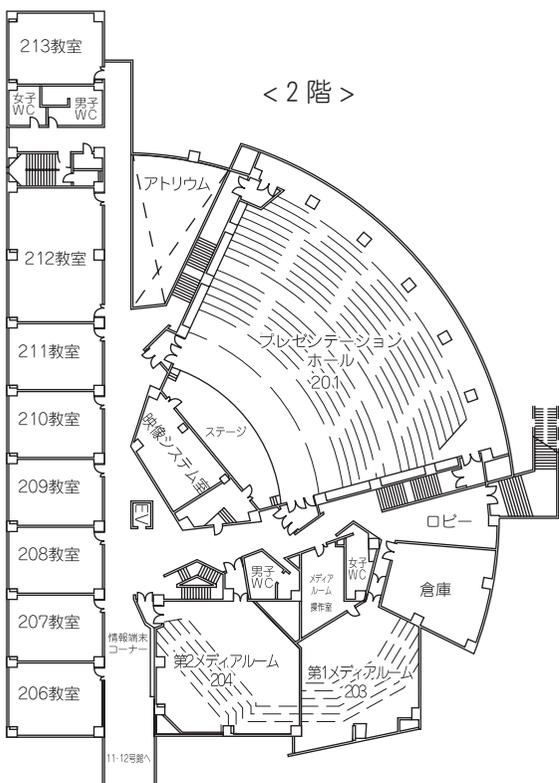
埼玉鳩山キャンパス案内図



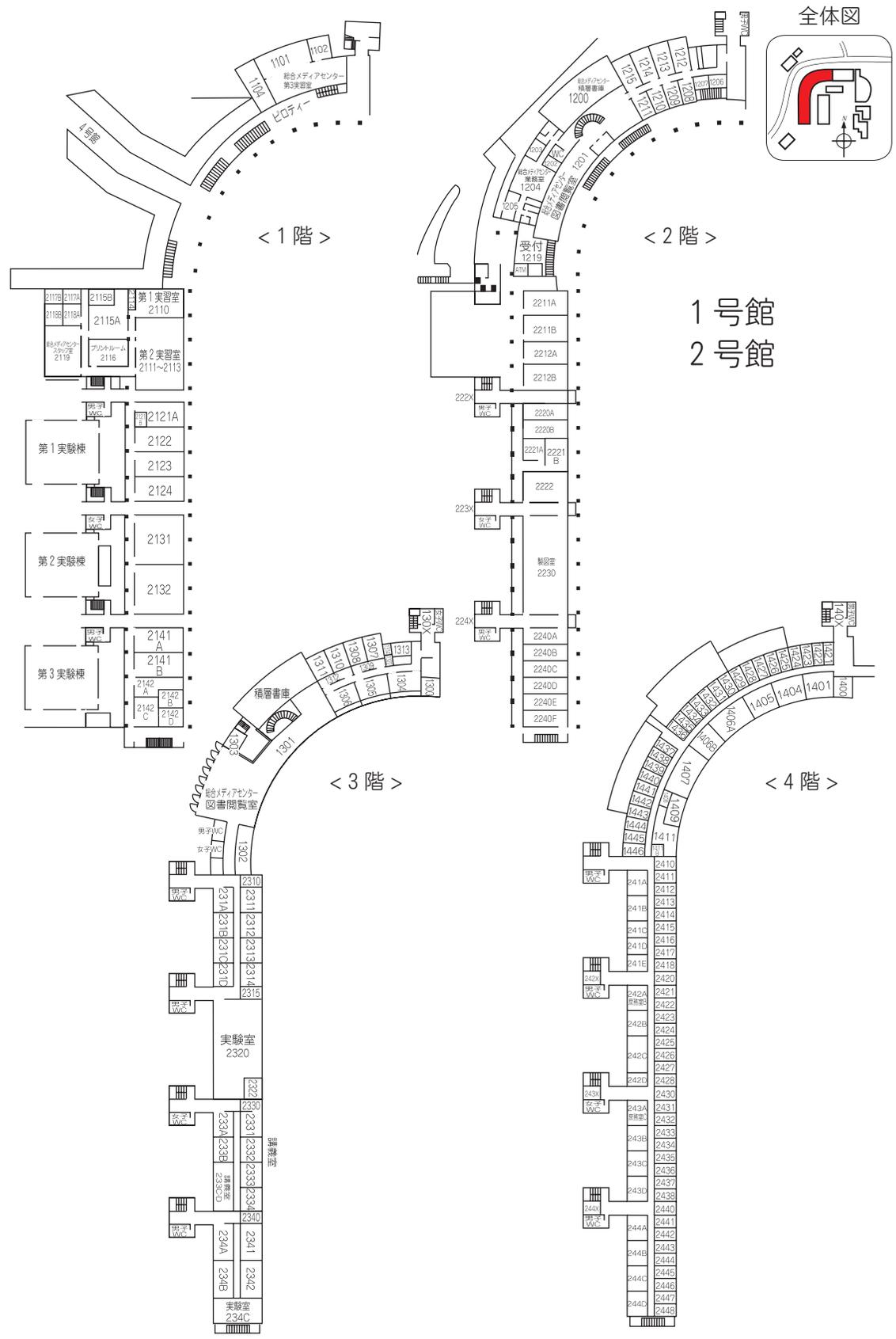
全体図

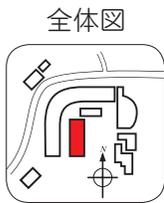


10号館(本館)

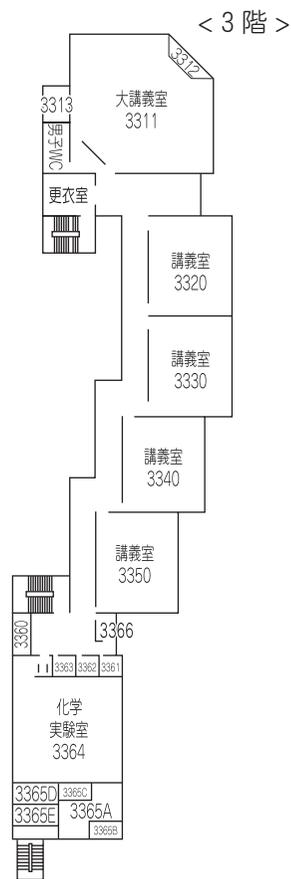
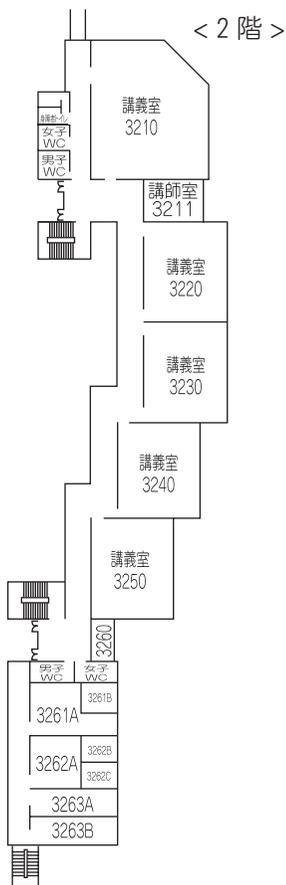
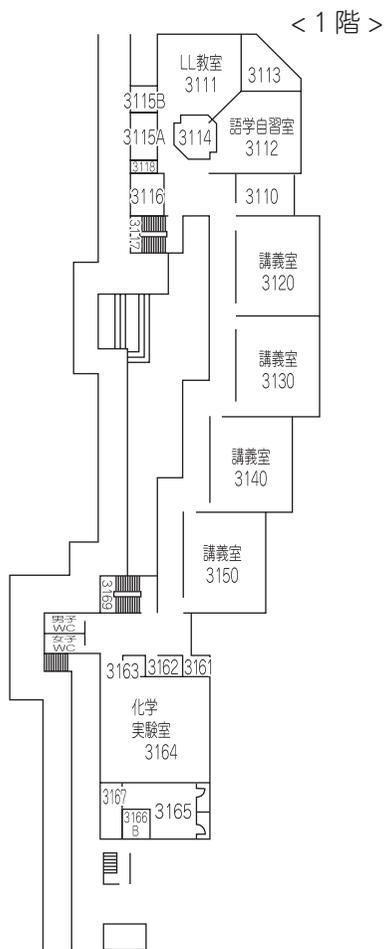


はじめに
 学修活動
 UNIPA
 共通
 RU
 RB
 RDR
 RT
 RG
 資格
 教職課程
 学生生活
 施設
 就職・進学
 大学院
 その他
 学則・規程





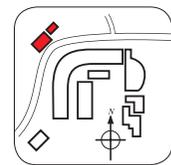
3号館（講義棟）



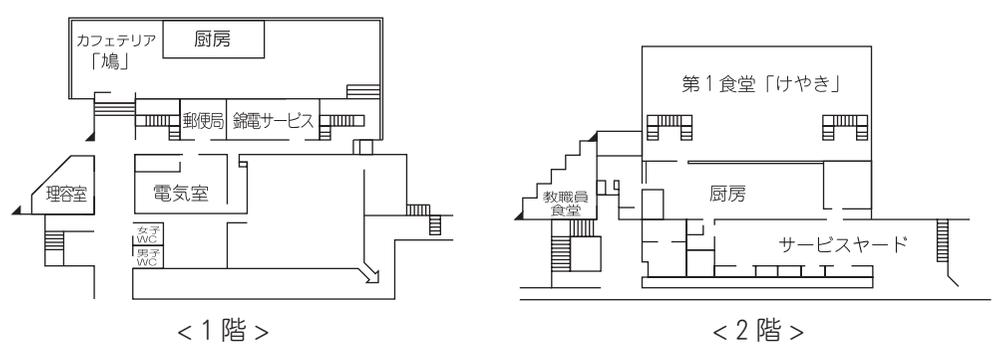
はじめに
 学修活動
 U
 N
 I
 P
 A
 共通
 R
 U
 B
 R
 D
 R
 T
 R
 G
 資
 格
 教職課程
 学生生活
 施
 設
 就職・進学
 大学院
 その他
 学則・規程

はじめに
学修活動
UNIPPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

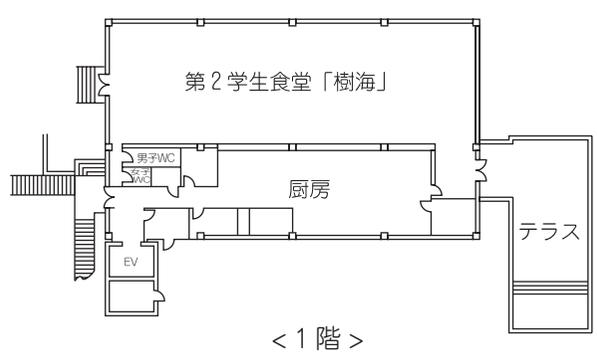
全体図



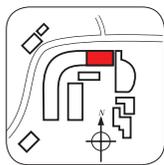
4号館（厚生棟）



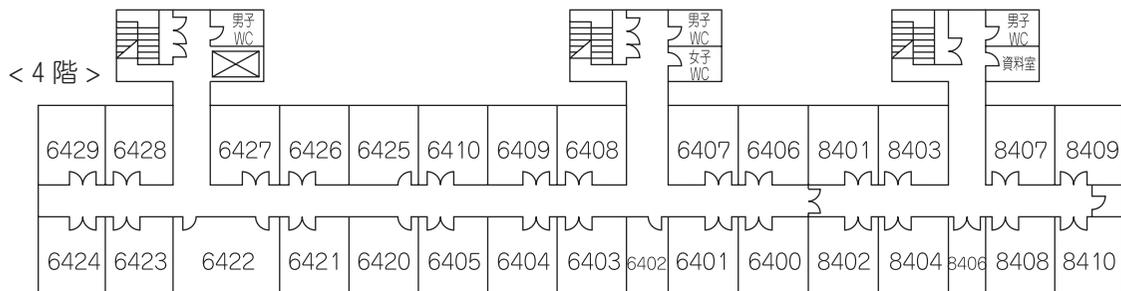
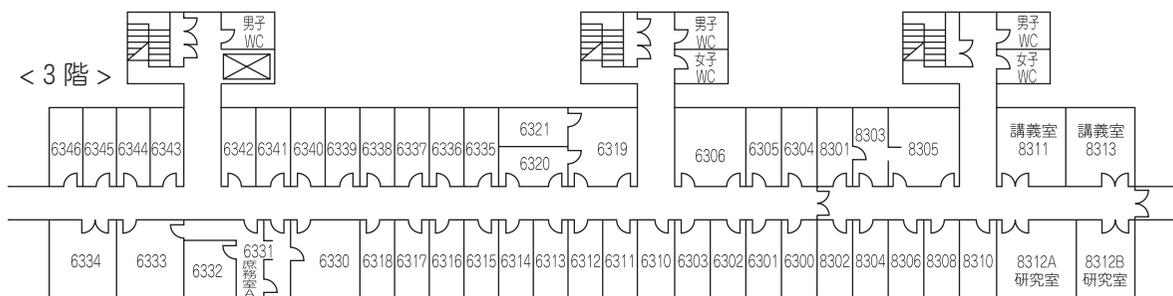
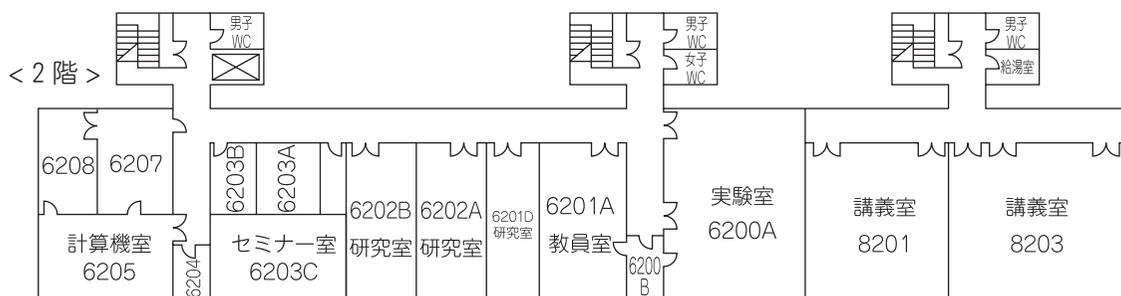
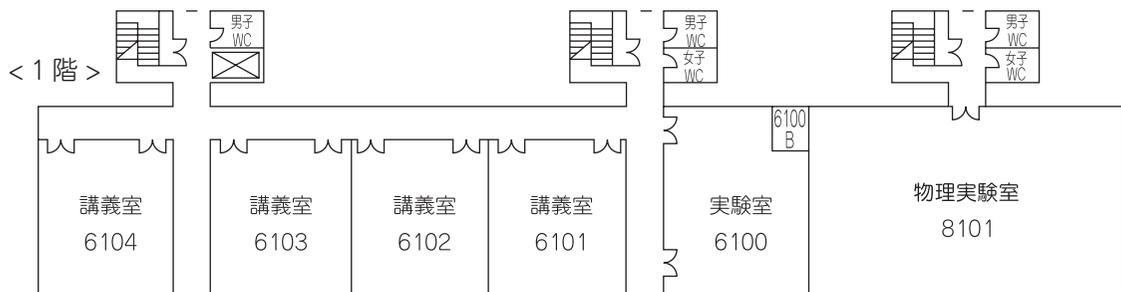
7号館（厚生棟）



全体図



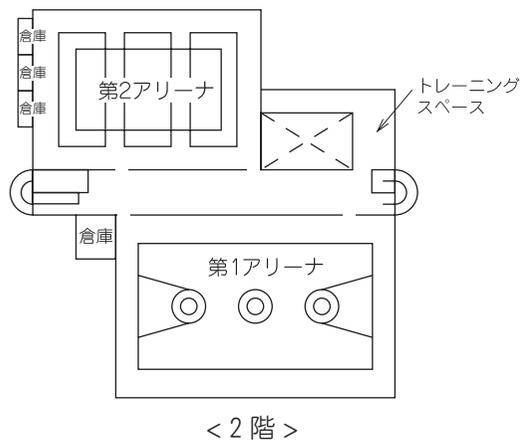
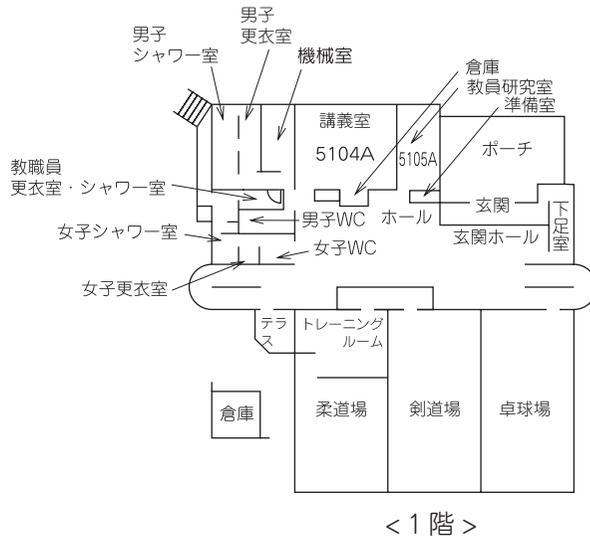
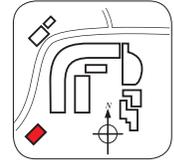
6・8号館



はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

5号館 (体育館)

全体図

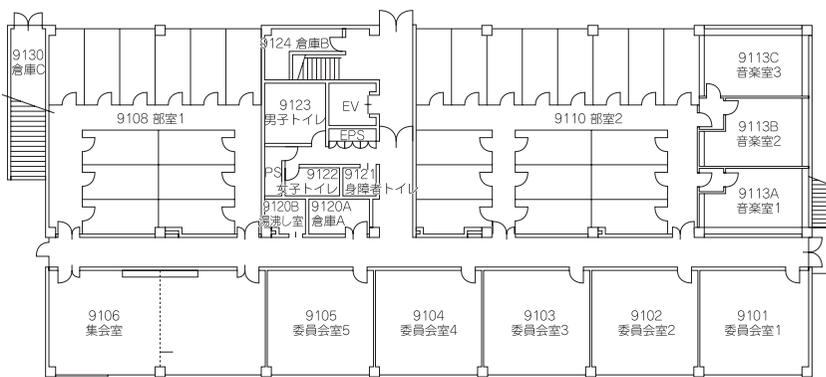


全体図

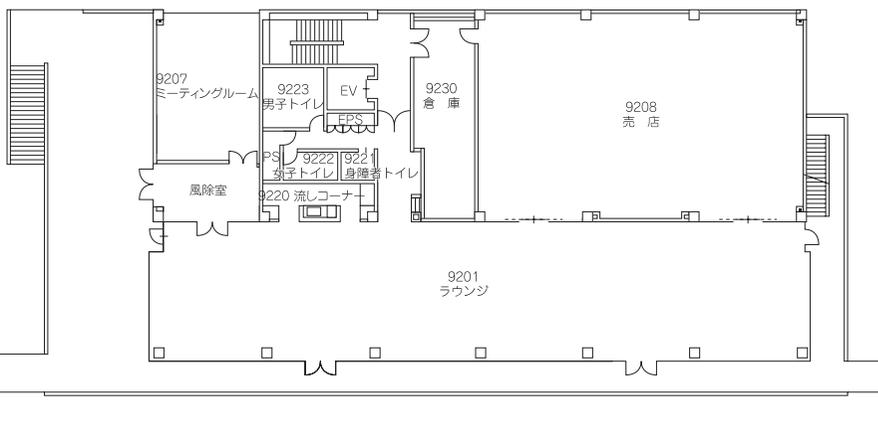


9号館

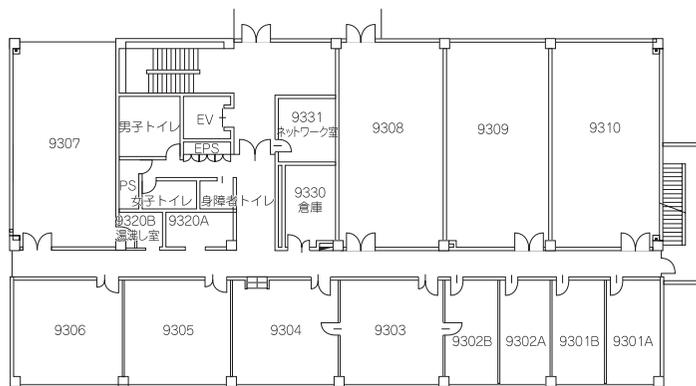
< 1階 >



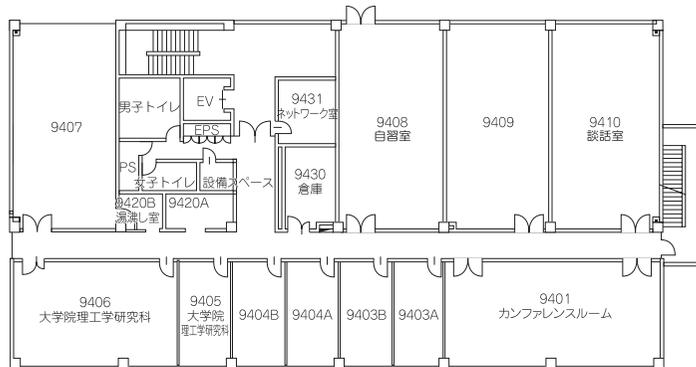
< 2階 >



< 3階 >

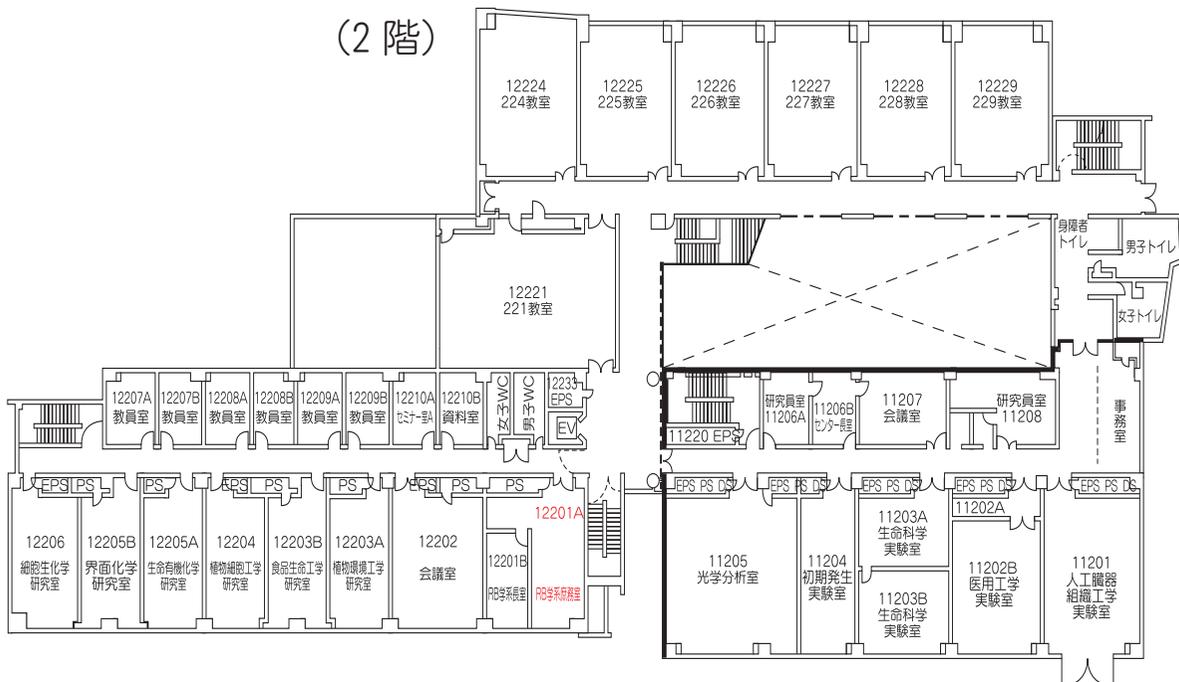
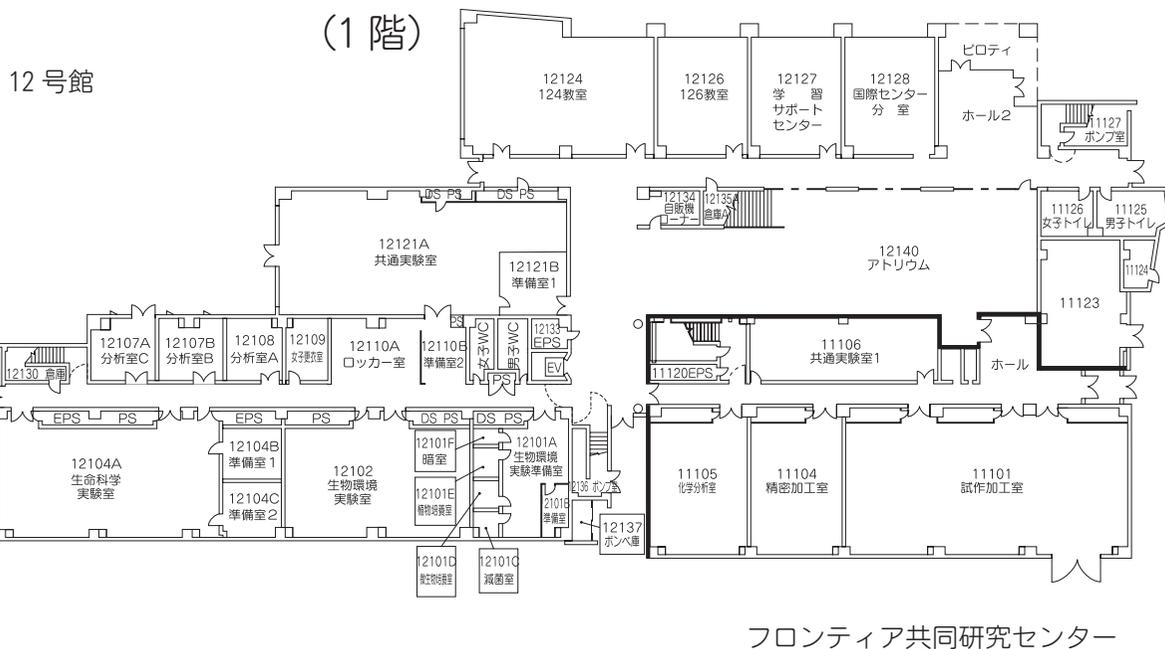
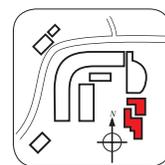


< 4階 >



12号館
 11号館 (フロンティア共同研究センター)

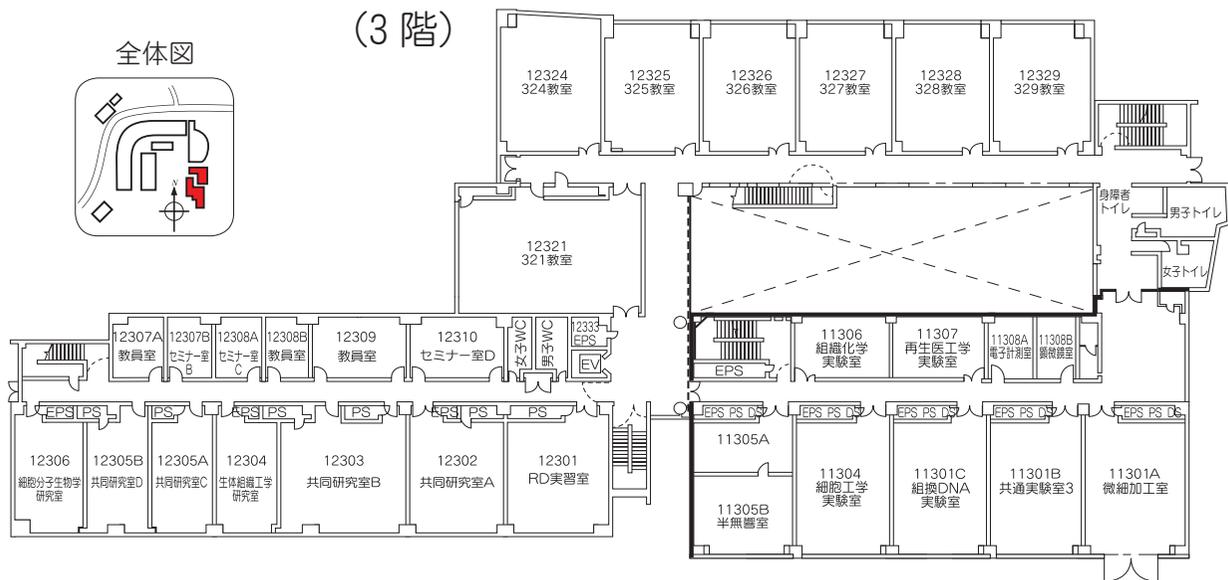
全体図



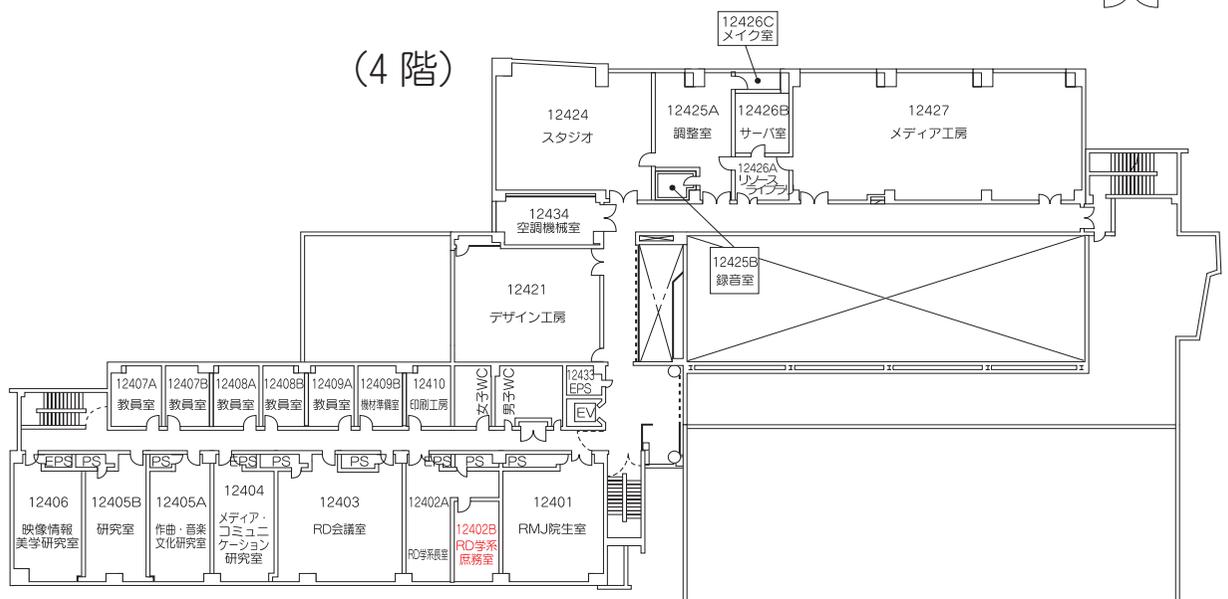
全体図



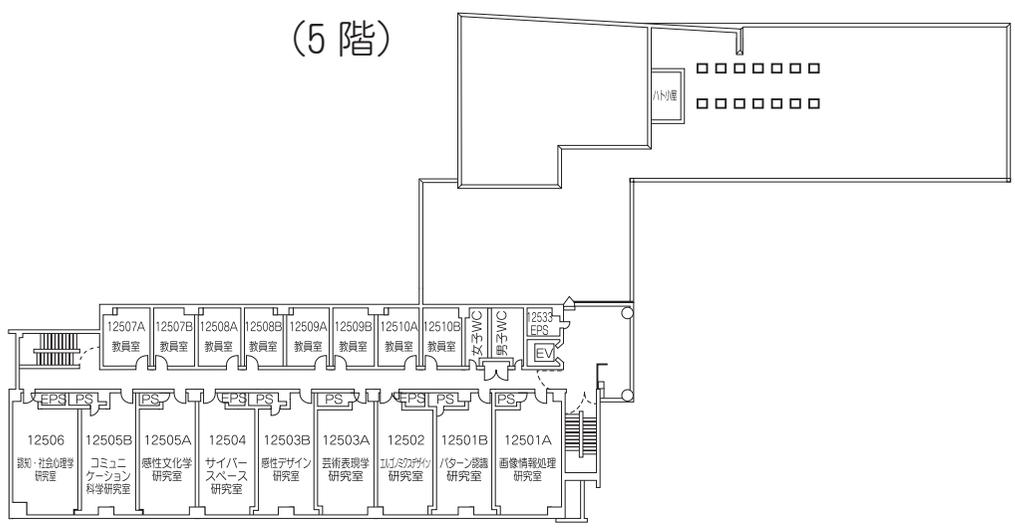
(3階)



(4階)



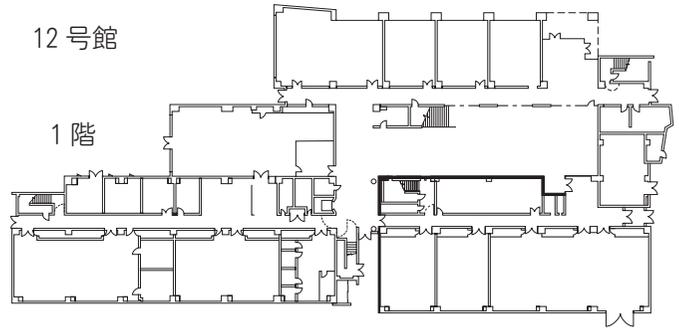
(5階)



全体図



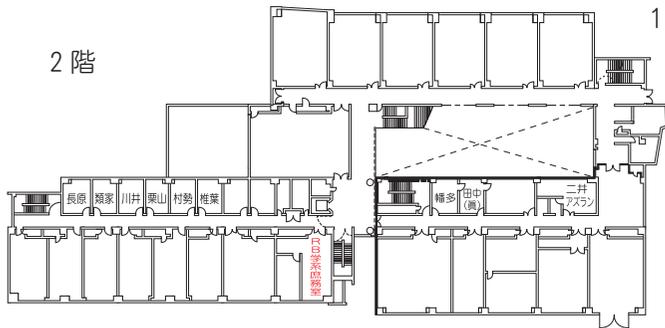
12号館



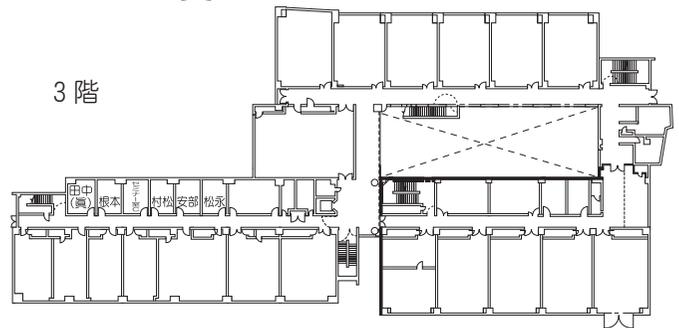
1階

11号館 (フロンティア共同研究センター)

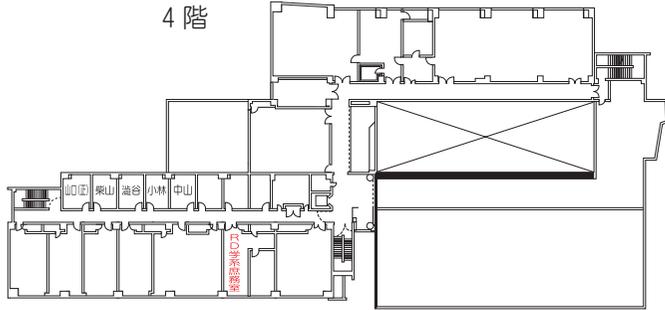
2階



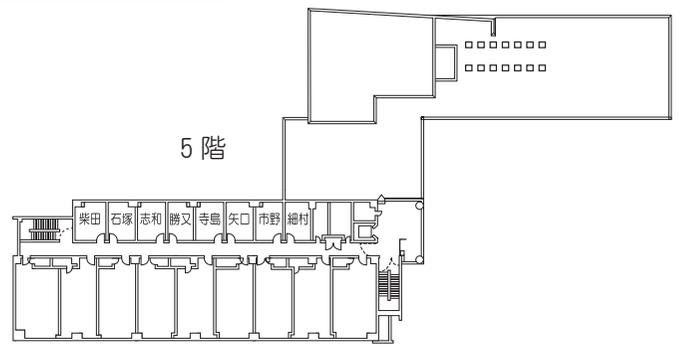
3階



4階



5階



理工学部教員一覧

(平成 24 年 4 月 1 日現在)

* は学系長、群主任

理 学 系

氏 名	職 名	室 番 号
* 山 形 周 二	教 授	1422
荒 牧 淳 一	教 授	1428
大 塚 尚 久	教 授	6316
岡 本 博 司	教 授	3261 B
小 川 英 生	教 授	2142 D
小田垣 孝	教 授	6341
勝 野 裕 文	教 授	6317
狩 野 弘 之	教 授	6337
中 野 哲 夫	教 授	1425
碓 文 夫	教 授	6303
隅 山 兼 治	特任教授 (理学専攻)	6335
石 原 聖 司	准 教 授	6338
井 上 真	准 教 授	8301
越 智 禎 宏	准 教 授	1430
仲 光 邦 昭	准 教 授	6304
本 橋 章	准 教 授	6300
山 室 憲 子	准 教 授	3365 B
類 家 正 稔	准 教 授	12207 B
小 黒 隆	講 師	1427
高 橋 秀 慈	講 師	1421
向 山 義 治	講 師	3365 C
日 高 章 理	助 教	6336
吉 武 裕美子	助 教	6302

生命理工学系

氏 名	職 名	室 番 号
* 栗 山 昭	教 授	12208 B
川 井 悟	教 授	12208 A
椎 葉 究	教 授	12209 B
田 中 眞 人	教 授	12307 A

氏 名	職 名	室 番 号
村 勢 則 郎	教 授	12209 A
山 名 昌 男	教 授	2428
長 原 礼 宗	准 教 授	12207 A
村 松 和 明	准 教 授	12308 B
安 部 智 子	助 教	12309
根 本 航	助 教	12307 B
松 永 直 樹	助 手	12309

情報システムデザイン学系

氏 名	職 名	室 番 号
* 市 野 学	教 授	12510 A
石 塚 正 英	教 授	12507 B
柏 崎 尚 也	教 授	2420
勝 又 洋 子	教 授	12508 B
小 林 春 美	教 授	12408 B
佐 藤 定 夫	教 授	6305
志 和 新 一	教 授	12508 A
陳 致 中	教 授	1424
寺 島 悦 恩	教 授	12509 A
中 村 克 彦	教 授	2414
町 原 文 明	教 授	6346
山 口 正 二	教 授	12407 A
磯 野 春 雄	特任教授 (情報学専攻)	
細 村 宰	特任教授	12510 B
三 井 浩 康	特任教授	2416
泉 智 紀	准 教 授	2413
柴 田 良 二	准 教 授	12507 A
築 地 立 家	准 教 授	6339
中 山 洋	准 教 授	12409 A
藤 本 衡	准 教 授	6345
松 浦 昭 洋	准 教 授	2412
矢 口 博 之	准 教 授	12509 B
柴 山 拓 郎	講 師	12407 B
徳 田 太 郎	講 師	6315

氏名	職名	室番号
上浦基	助教	2418
笹川隆史	助教	2322
高橋達二	助教	6344
澁谷智志	助手	12408A

電子・機械工学系

氏名	職名	室番号
* 内川義則	教授	8308
浅岡照夫	教授	2427
内田干城	教授	2426
檜村幸辰	教授	2433
富田英雄	教授	8306
羽根吉寿正	教授	2421
福井康裕	教授	6314
舟久保昭夫	教授	6312
本間章彦	教授	6311
宮脇富士夫	教授	8310
角田興俊	特任教授	2432
遠藤正樹	准教授	2422
大西謙吾	准教授	2424
小畑修二	准教授	8304
榊原洋子	准教授	2431
小平和仙	講師	2132
田中慶太	助教	6310
大越康晴	助教	8302
野口祐智	助手	2430

建築・都市環境学系

氏名	職名	室番号
* 井浦雅司	教授	2437
有田正光	教授	2441
近津博文	教授	2443
中井正則	教授	2447
安田進	教授	2442

氏 名	職 名	室 番 号
山 崎 真 司	特任教授 (建築・都市環境学専攻)	2435
岩 城 和 哉	准 教 授	2444
高 田 和 幸	准 教 授	2436
見 波 進	准 教 授	2445
武 村 武	助 教	2434
尹 東 植	助 教	2438
石 川 敬 祐	助 手	2440

共通教育群

氏 名	職 名	室 番 号
* 越 川 邦 夫	教 授	1436
石 村 多 門	教 授	1442
岡 林 茂	教 授	1437
小 島 勇	教 授	1400
前 島 康 男	教 授	1445
松 平 圭 一	教 授	1446
若 松 征 男	教 授	1440
工 藤 豊	特任教授	1423
池 田 瑞 音	准 教 授	1443・5105A (体育館)
遠 藤 晶 子	准 教 授	1432
小山内 大	准 教 授	1433
河 上 睦	講 師	2411
木 村 二三夫	講 師	3165
河 野 次 郎	講 師	1426
塩 谷 奈 緒 子	講 師	2417
野 田 達 也	講 師	1429・5105A (体育館)
波 多 野 一 真	講 師	1434
花 元 宏 城	講 師	1435
福 島 祥 一 郎	講 師	1441
細 田 真 妃 子	講 師	6301
山 岸 日 出	講 師	1431
Day Matthew Martin	講 師	2415
James York	講 師	1438

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

氏 名	職 名	室 番 号
足 立 直 也	助 教	3165
小 沼 史 彦	助 教	1439
中 島 浩 貴	助 教	1444
福 富 信 也	助 手	5105 A (体育館)

非常勤教員

氏名	職名
我妻 洋	非常勤講師
天 島 一 郎	非常勤講師
石 川 智 弥	非常勤講師
市 川 美 知	非常勤講師
市 毛 弘 一	非常勤講師
出 澤 正 徳	非常勤講師
伊 藤 奈 臣 子	非常勤助手
伊 藤 博 之	非常勤講師
伊 東 正 安	非常勤講師
井 上 浩 三 郎	非常勤講師
井 上 健	非常勤講師
岩 田 憲 和	非常勤講師
氏 家 豊	非常勤講師
牛 島 栄	非常勤講師
大 賀 寿 郎	非常勤講師
大 隅 昇	非常勤講師
小 田 雅 昭	非常勤講師
小 畑 嘉 文	非常勤講師
カイトン・アリムカン	非常勤講師
片 桐 千 仞	非常勤講師
勝 本 正 之	非常勤講師
加 藤 敦 也	非常勤講師
加 藤 綾 子	非常勤講師
河 津 璋	非常勤講師
川 瀬 正 壽	非常勤講師
木 津 潤 平	非常勤講師
日 鼻 宏 一	客員教授
楠 秀 樹	非常勤講師
黒 田 俊 郎	非常勤講師
小 泉 寿 男	客員教授
小 泉 力 一	非常勤講師
小 出 昭 夫	非常勤講師

氏名	職名
小 島 真 知	非常勤講師
古 東 馨	非常勤講師
小 林 聡	非常勤講師
小 原 政 敏	非常勤講師
駒 田 剛 司	非常勤講師
坂 口 裕 志	非常勤講師
櫻 井 彰 人	非常勤講師
佐 藤 英 里 子	非常勤講師
佐 藤 有 紀	非常勤講師
里 見 忠 篤	非常勤講師
里 村 行 祥	非常勤講師
島 村 徹 也	非常勤講師
志 水 賢 二	非常勤講師
志 村 勉	非常勤講師
ジェイソン・アープ	非常勤講師
ジャック ミルティル	非常勤講師
鈴 木 源 治	非常勤助手
鈴 木 祐 子	非常勤講師
相 馬 輝 彦	非常勤講師
高 倉 あゆみ	非常勤助手
高 瀬 忠 重	非常勤講師
高 橋 信 雄	非常勤講師
竹 本 清 香	非常勤講師
田 中 美 和	非常勤講師
張 国 璐	非常勤講師
塚 原 謙 太 郎	非常勤助手
照 井 俊 朗	非常勤講師
戸 田 誠 之 助	非常勤講師
奈 尾 信 英	非常勤講師
中 島 禎 志	非常勤講師
中 島 保	非常勤講師
中 島 和 希	非常勤助手

はじめに
 学修活動
 UNIPA
 共通
 RU
 RB
 RD
 RT
 RG
 資格
 教職課程
 学生生活
 施設
 就職・進学
 大学院
 その他
 学則・規程

氏名	職名
長島明子	非常勤講師
中谷隆之	非常勤講師
中間正人	非常勤講師
新堀克美	非常勤講師
濁川孝志	非常勤講師
ヌルメット・アヒニヤズ	非常勤講師
長谷川悦朗	非常勤講師
畠山晋	非常勤講師
八谷好高	非常勤講師
花岡一男	非常勤講師
春山信人	非常勤講師
姫野賢治	非常勤講師
廣嶋早苗	非常勤講師
福島博	非常勤講師
藤井弘義	非常勤講師
藤澤英幸	非常勤講師
星野時二	非常勤講師
星野洋	非常勤講師
増島高敬	非常勤講師
増田晴美	非常勤講師
宮部浩幸	非常勤講師
松井邦人	非常勤講師
松井芳彦	非常勤講師
松元明弘	非常勤講師
松本洋二	非常勤講師
美頭千不美	非常勤講師
皆川孝昭	非常勤助手
宮寺庸造	非常勤講師
宮部浩幸	非常勤講師
村山美佐緒	非常勤講師
メメット マイナル	非常勤講師
本山美穂	非常勤講師
森秀樹	非常勤講師

氏名	職名
森史	非常勤講師
山田祐理	非常勤講師
山本寿武	非常勤講師
吉本國春	非常勤講師
米田祐介	非常勤講師
ルーク・ケンファー	非常勤講師
呂小燕	非常勤講師
林鳴宇	非常勤講師

第9章

学則および諸規程

- 大学則
- 理工学部規則
- 学生生活についての規程
- 部室使用に関する内規
- 試験に関する細則
- 特別奨学生規程
- 理工学部学生の車両通学に関する取扱細則

東京電機大学学則

第1章 総 則

(目的・使命)

第1条 本大学は、学校教育法による最高の教育機関として、民主的社会人としての教養を涵養するとともに、深く専門の学芸を教授・研究し、その知的道徳的能力を展開させ、もって優秀な人材を養成することを目的とする。

2 本大学は、第3条第1項に定める学部及び学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部の学部規則に定める。

(自己評価等)

第2条 本大学においては、教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価は、その趣旨に則して適切な項目を設定し、かつ適切な体制のもとに行う。

3 本大学は、第1項の点検及び評価の結果について、学外者による検証を行うよう努めるものとする。

4 本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第2章 組 織

(学部・学科の組織)

第3条 本大学に、次の学部及び学科を置く。

工学部

電気電子工学科

環境化学科

機械工学科

情報通信工学科

工学部第二部

電気電子工学科

機械工学科

情報通信工学科

理工学部

理工学科

情報環境学部

情報環境学科

未来科学部

建築学科

情報メディア学科

ロボット・メカトロニクス学科

2 前項の各学科の入学定員、編入学定員及び収容定員は、別表第1とする。

3 第1項に定める各学部に学部規則を定める。

4 前項の学部規則に、次の事項を定める。

- ① 学部・学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
- ② 学年・学期に関する事項
- ③ 教育課程及び単位に関する事項
- ④ 成績及び卒業に関する事項
- ⑤ その他、大学則施行上の必要事項

(大学院)

第4条 本大学に、大学院を置く。大学院に関する規則は別に定める。

(総合メディアセンター・研究所等)

第5条 本大学に、総合メディアセンターを置く。

2 本大学に、次の研究所を置く。

総合研究所、先端工学研究所（ハイテク・リサーチ・センターを含む）、フロンティア共同研究センター

3 本大学に、国際センターを置く。

4 前2項のほか、実習工場、その他教育・研究に必要な施設を置く。

第3章 運営の機関及び教職員

(学長・学部長等)

第6条 本大学に、学長を置く。学長は、校務をつかさどり、大学を代表する。学長の選出

に関する規則は、別に定める。

- 2 各学部に、学部長を置く。学部長は当該学部に関する学務をつかさどる。
- 3 前2項のほか、教育・研究の運営上必要な職を置く。

(職員)

第7条 教育職員として、教授、准教授、講師、助教及び助手を置く。

- 2 事務職員、技術職員及び必要な職員を置く。

(学部教授会)

第8条 各学部に、教授会を置く。

- 2 教授会は、その学部の教授をもって組織する。ただし、必要があるときは、その学部の准教授及び専任の講師を、教授会構成員とすることができる。

- 3 教授会は、学部長が招集する。

(連合・合同教授会)

第9条 工学部及び工学部第二部については、その連合教授会をひらくことができる。

- 2 学長は、全学部の合同教授会を招集することができる。

(審議事項)

第10条 教授会は、その学部に関する次の事項を審議する。

- ① 学生の入学・進級・卒業・休学・退学等に関する事項
- ② 学位授与に関する事項
- ③ 教育課程及び授業に関する事項
- ④ 履修・試験・成績等に関する事項
- ⑤ 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- ⑥ 大学則及び学部規則の改正に関する事項
- ⑦ 学部長の推挙に関する事項
- ⑧ 学科長及び系列主任の選定に関する事項
- ⑨ 教授、准教授、講師、助教及び助手の人事に関する事項
- ⑩ 学部長が諮問した事項
- ⑪ その他教育・研究に関する事項

- 2 教授会は、大学全般にわたるもしくは各学部に共通する次の事項を審議する。

ただし、必要があるときは、合同教授会においてこれを審議する。

- ① 学長の推挙に関する事項
- ② 学長室長、学長補佐、教育改善推進室長、入試センター長、学生支援センター長、国

際センター長、研究企画室長及び総合メディアセンター長の選定に関する事項

- ③ 学長が諮問した事項
- ④ その他の重要な事項

第4章 修学期間及び授業

(修業年限)

第11条 修業年限は、4年とする。

(最長在学年限)

第12条 最長在学年限は、8年とする。ただし、編入学、転入学及び再入学した者の最長在学年限は、その者の在学すべき年数の2倍に相当する年数とする。

(学年・学期・授業期間)

第13条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年を前学期及び後学期に分け、その期間については各学部において定める。

3 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

4 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(休業日)

第14条 休業日は、次の通りとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

創立記念日 9月11日

夏季休業

冬季休業

春季休業

2 夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間については、各学部においてその都度定める。

3 必要があるときは、休業日を変更し、または臨時に休業日を定めることができる。

4 休業中でも、特別の必要があるときは、授業を行うことがある。

(授業の時)

第15条 工学部、理工学部、情報環境学部及び未来科学部は昼間に、工学部第二部は夜間に、授業を行う。

第5章 教育課程及び単位

(教育課程の編成方針)

第16条 本大学においては、学部及び学科または課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 教育課程の編成に当たっては、当該学部及び学科に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮する。

3 本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

4 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

(授業科目)

第17条 授業科目については、各学部規則において定める。

2 各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、各年次に配当して編成する。ただし、自由科目の単位数は、卒業に必要な単位数に算入しない。

3 共通教育科目として、特定の主題について2以上の科学の分野にわたる内容を総合した科目を設けることができる。

(履修の要件)

第18条 履修の要件については、各学部規則において定める。

2 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、1年間または1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、各学部において定めるものとする。

3 所定の単位を優れた成績をもって修得した学生について、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認定することについては、各学部において定めるものとする。

(他学部等の科目履修)

第19条 本大学の学生が所属する学部の他学科または他学部の学科において履修し、修得した授業科目の単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、当該学生が所属する学科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなすことのできる科目及び単位数等は、各学部において定めるものとする。

(教員の免許状授与の所要の資格の取得)

第20条 教育職員の免許状を取得しようとする者は、教職に関する科目及び必要な授業科

- 目を修得しなければならない。
- 2 本大学において取得できる免許状の種類は別表第2とし、教職課程に関する科目及び必要な授業科目は各学部規則において定める。
- (単位の算定基準)
- 第21条 各授業科目の単位数は、各学部教授会において定めるものとする。
- 2 授業科目の単位数の算定に当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、原則として、授業の方法に応じ、次のとおり単位数を計算するものとする。
- ① 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。
- ② 実験、実習、製図及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位数を定めることができる。

第6章 試験、成績、進級、卒業及び学位授与

(履修届)

第22条 学生は、履修する授業科目につき、指定の期限までに、履修届を提出しなければならない。

(試験)

第23条 授業科目の履修終了の認定のため、試験を行う。ただし、授業科目によっては、平常の成績をもって試験に代えることができる。

(試験の方法・時期)

第24条 試験は、筆記、口述、または論文審査等の方法により行う。

2 試験の時期は、学期末とする。ただし、必要があるときは、その他の時期においても行うことができる。

(受験資格)

第25条 学生は、本学則及びこれに基づいて定められた規則に従って履修した授業科目についてのみ、試験を受けることができる。

(成績評価・単位認定)

第26条 授業科目の成績評価は、S、A、B、C及びDとし、S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。

2 試験に合格した授業科目については、その授業科目について定められた単位を与える。

3 本学は、第1項に係る成績評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行なうものとする。

(他の大学等における授業科目の履修等)

第27条 本大学の学生が本大学に入学した後に他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、本大学の学生が、外国の大学または短期大学に留学する場合及び外国の大学または短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第28条 本大学の学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本大学において修得したものとしてみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第29条 本大学の学生が本大学に入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生によって修得した単位を含む。)のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本大学の学生が本大学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合をのぞき、本大学において修得した単位以外のものについては、前々条第1項及び第2項並びに前条第1項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(進級)

第30条 本大学においては、学生の単位修得の状況を考慮し、上級学年次に進みその学年次に配当された授業科目を履修するための条件を定めることができる。

2 前項の条件をみたさない者は、原学年次に留年する。

(卒業)

第31条 本大学は、4年以上在学し、学生が所属する学部における履修要件を満たした者を卒業と認定する。

2 本大学が文部科学大臣の定めるところにより、本大学の学生として3年以上在学した者(これに準ずるものとして文部科学大臣が定めるものを含む。)で、卒業の要件として本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合の卒業の取扱いは、前項の規定にかかわらず、別に定める。

(学位の授与)

第32条 本大学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

2 前項の学士の学位に付記する名称は、次のとおりとする。

工 学 部	電気電子工学科	学士(工学)(東京電機大学)	
	環境化学科	学士(工学)(東京電機大学)	
	機械工学科	学士(工学)(東京電機大学)	
	情報通信工学科	学士(工学)(東京電機大学)	
工学部第二部	電気電子工学科	学士(工学)(東京電機大学)	
	機械工学科	学士(工学)(東京電機大学)	
	情報通信工学科	学士(工学)(東京電機大学)	
理 工 学 部	理工学科	学士(理学)(東京電機大学) 学士(工学)(東京電機大学) 学士(情報学)(東京電機大学)	
	情報環境学部	情報環境学科	学士(情報環境学)(東京電機大学)
	未 来 科 学 部	建築学科	学士(工学)(東京電機大学)
情報メディア学科		学士(工学)(東京電機大学)	
ロボット・メカトロニクス学科		学士(工学)(東京電機大学)	

第7章 入学、学籍の異動及び賞罰

(入学の時期)

第33条 入学の時期は、学年もしくは学期の始めとする。

(入学資格)

第34条 本大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- ① 高等学校を卒業した者もしくは通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者
- ② 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者
 で文部科学大臣の指定した者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設
 の当該課程を修了した者
- ④ 専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める
 基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定め
 る日以後に修了した者
- ⑤ 文部科学大臣の指定した者
- ⑥ 高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試
 験に合格した者
- ⑦ その他、本大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学
 力があると認められた者

(入学志願手続)

第 35 条 入学志願者は、指定の期間内に、入学志願手続をとらなければならない。

(入学者の選考)

第 36 条 本大学に入学するには、入学者の選考に合格しなければならない。

2 入学者の選考は、学力検査、調査書の審査、面接、健康診断等の方法により行う。

(入学手続)

第 37 条 入学者の選考に合格した者は、指定の期日までに、保証人連署の誓約書その他必
 要な書類に、別表第 3 に定める学費を添えて、入学の手続をしなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に、入学を許可する。

(保証人)

第 38 条 学生は、在学中、保証人がなければならない。

2 保証人は、父、母、またはその他の成年者で、独立の生計を営む者でなければならない。

3 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

(変更の届)

第 39 条 学生は、氏名、本籍、住所及び保証人もしくはその住所に変更があったときは、
 すみやかに届出なければならない。

(編入学・転入学)

第 40 条 次の各号のいずれかに該当する者が、所定の手続を経て、編入学を願い出たときは、

定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、情報環境学部においては、編入学定員の範囲内において選考のうえ、許可する。

- ① 大学を卒業した者
- ② 短期大学を卒業した者
- ③ 高等専門学校を卒業した者
- ④ 他の大学で1年以上を修了した者
- ⑤ その他法令により編入学を認められた者

2 他の大学の学生が、所定の手続を経て、転入学を願い出たときは、定員に余裕のある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

3 前2項により編入学または転入学した者の在学年数には、本条による入学以前の学校在学年数の全部または一部を算入する。

4 本大学の学生が他の大学に転入学を志望するときは、事情により許可することがある。
(転学部・転学科)

第41条 本大学の学生が転学部または転学科を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

2 転学部または転学科した者の在学年数には、前に在籍した学部または学科の在学年数の全部または一部を算入する。

(休学)

第42条 傷病またはやむを得ない理由により、ひき続き3ヶ月以上出席することができない者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、休学を願い出て、学部長の許可を受けて休学することができる。

(休学期間)

第43条 休学期間は、休学の許可を受けた年度かぎりとする。ただし、特別の事情があると認めるときは、願い出により、休学期間の延長を許可することがある。

2 休学期間は、通算して3年をこえることができない。

3 休学期間は在学年数に算入しない。

4 工学部、理工学部、情報環境学部及び未来科学部においては、休学者は学期ごとに60,000円の在籍料を納入する。工学部第二部においては、休学者は学期ごとに、30,000円の在籍料を納入する。

(復学)

第44条 休学した者は、休学の理由が消滅したときは、保証人と連署のうえ、復学を願い出て、

学部長の許可を受けて、復学することができる。

2 復学の時期は、原則として、学期の始めとする。

(退学)

第45条 傷病その他の理由により退学をしようとする者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、願い出て許可を受けなければならない。

(除籍)

第46条 次の各号のいずれかに該当する者は除籍する。

- ① 最長在学年数をこえた者
- ② 工学部、工学部第二部及び未来科学部においては、同一学年に通算して4年の在学をこえてなお進級できない者。また、理工学部においては、同一学年に通算して4年の在学をこえてなお進級・卒業できない者
- ③ 学業成績が特に不良で、改善の見込みがない者
- ④ 第43条第2項に定める通算休学期間をこえてなお復学しない者
- ⑤ 正当な理由がなく、無届で、ひき続き3ヶ月以上欠席した者
- ⑥ 工学部、理工学部、工学部第二部及び未来科学部において、前期分学費を7月末日までに、後期分学費を1月末日までに納入しない者。情報環境学部においては、前期分学費を7月15日までに、後期分学費を12月15日までに納入しない者

(再入学)

第47条 本大学を退学した者または除籍された者が、再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、懲戒による退学者の再入学は、許可しない。

(留学)

第48条 本大学の学生が、外国の大学等の授業科目を履修するため、当該大学等への留学を希望し、かつ本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。

2 留学期間は1年を原則とする。ただし、本学が認めた大学等への短期留学については、1年未満であっても特別に留学を認めることができる。

3 前項により認められた留学期間については、1年を限度として第11条に定める修業年数に算入することができる。

4 留学期間中における学費は、事情により減額もしくは免除することができる。

(表彰)

第49条 学生として表彰に値する行為があった者は、学長が表彰することができる。

(懲戒)

第 50 条 本大学の規則・規程に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2 懲戒の種類は、その情状により、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行なう。

① 性行不良で改善の見込みがない者

② 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分にいちじるしく反した者

第 8 章 学費及びその他の費用

(学費及びその他の費用)

第 51 条 入学検定料、学費及び科目等履修費は、別表第 3 とする。

2 学費とは、入学金、授業料、実験実習料、教育充実費をいう。

3 学費及びその他の費用は、所定の期日までに納入しなければならない。

4 すでに納入した学費及びその他の費用は返還しない。ただし、入学手続きのために納入した学費その他の費用については、学費取扱規程の定めによる。

5 入学金を除く学費は分納することができる。

第 9 章 研究生、研究員、科目等履修生及び外国人留学生

(研究生・研究員)

第 52 条 本大学において特定の教員の指導のもとに研究することを志願する者は、選考のうえ、研究生として受入れることができる。

2 本大学において特定の専門事項について特定の教員と協力して研究を行うことを志望する者は、選考のうえ、研究員として受入れることができる。

(科目等履修生)

第 53 条 本大学の学生以外の者で、本大学で開設している 1 または複数の授業科目の履修を希望する者は、本大学の教育研究に支障のない範囲内で、選考のうえ、科目等履修生として科目等の履修を許可することができる。

2 科目等履修生については、別に定める。

(外国人留学生)

第 54 条 外国人で第 34 条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、外国人特別学生として入学を許可することができる。

2 外国人で本学における特定の授業科目を聴講することを志願する者は、選考のうえ、外国人特別聴講生として入学を許可することができる。

3 外国人で本学における特定の教員について研修を志願する者は、選考のうえ、外国人特別研究生として受入れを許可することができる。

(社会人特別学生)

第 55 条 社会人で第 34 条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、社会人特別学生として入学を許可することができる。

2 社会人特別学生は、企業依託学生及び工学部第二部社会人コース学生とする。

3 社会人特別学生についての事項は、別に定める。

(準 用)

第 56 条 前 3 条の規定に抵触しないかぎり、本学則の他の規定は、科目等履修生、外国人留学生及び社会人特別学生に準用する。

第 10 章 改正及び雑則

(改 正)

第 57 条 本学則の改正は、各学部教授会の議を経なければならない。

(施行細則その他)

第 58 条 本学則施行についての細則その他必要な事項は別に定める。

東京電機大学理工学部規則

第1章 総 則

(趣 旨)

第1条 この規則は、東京電機大学学則（以下「大学則」という。）第3条第3項に基づき、理工学部（以下「本学部」という。）の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学年及び学期、教育課程及び単位、成績及び卒業その他大学則施行上必要な事項を定める。

(人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)

第2条 本学部の教育理念は、「人間性豊かな社会人の育成」と「未来型科学技術者の養成」である。すなわち、理学・工学・情報・生命それぞれの教育研究分野の相乗的融合を図ることにより、倫理性・コミュニケーション能力を備えた人材を育成すると共に、創造的かつ自由な発想と自立性を有する科学技術者を養成する。

2 本学部の理工学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、前項と同様とし、理工学科の各学系においては、次のとおりとする。

(1) 理学系では、数理学及び自然科学における基本理論及び基本法則を学び、考察を重ね、それが問題解決のためにどのように用いられるかを学ぶことで、問題を本質的に捉えて解決できる応用力の高い理学分野の専門家を育成する。理学の専門分野として、数学、物理学、化学及び数理情報学の四つの専門コースを置き、数学及び自然科学を共通の基礎とし、演習や実験を行いながら深く専門を学ぶことで、高度な専門性と実践力を併せ持った人材を養成する。

(2) 生命理工学系では、生物の持つ高度な機能の本質を理解し、その機能を真に人類のために活用することを目指し、生命科学と生物環境に基礎をおいた教育と研究を行う。生命理工学分野の教育と研究を通じて、適切な基礎知識を養うとともに、今後の人間社会の変化に対して柔軟に対応できる応用力を醸成する。これにより生命に関わる正しい倫理観を具有し、生命の精緻なメカニズムを探究し環境や医療などの諸問題に取り組む力を備えた人材を養成する。

(3) 情報システムデザイン学系では、情報、ネットワーク、コンピュータに関わる知識・技術を基盤として人間、社会システムから、文化、芸術、アミューズメントにいたるまで文理複合的観点から幅広い分野の教育研究を行う。これにより、複雑化・高度化する

社会環境において、高度な情報システム技術を駆使できると同時に、幅広い視野から自律的に分析・判断・企画・行動できる実践力とコミュニケーション能力を備えた次世代型スペシャリストを養成する。

- (4) 電子・機械工学系では、技術者として豊かな人間性と電子・機械工学の知識と技術を有し、自動車、ロボット、電子機器、医療機器、福祉機器などのものづくりを通して未来の人間社会に貢献できる技術者を養成する。
- (5) 建築・都市環境学系では、21世紀の循環型社会の構築に向けて人間と自然が調和する環境を多角的に考察し、ゆとりと潤いある社会の実現を目指して建築及び都市環境の創造と保全に寄与できる建設技術者を養成する。

第2章 学年及び学期

(学年・学期)

第3条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年を次の2つの学期に分ける。

前学期 4月1日から9月15日まで

後学期 9月16日から翌年3月31日まで

第3章 教育課程及び単位

(授業科目)

第4条 授業科目の区分は、共通教育科目、専門教育科目及び教職課程に関する科目とし、別表第1のとおり開講する。

(履修の要件)

第5条 本学部における履修の要件については、別表第2のとおりとする。

(履修単位の制限)

第6条 本学部では、1年間に履修できる単位数を48単位までとする。ただし、自由科目及び学部で指定した科目は、履修できる単位数の上限に含まない。

2 所定の単位を優れた成績をもって修得した者については、前項に定める上限を超えて、科目を履修することができる。履修方法は別に定める。

(教員の免許状授与の所要の資格の取得)

第7条 本学部において取得できる免許状の種類は大学則別表第2とし、教職課程に関する科目及び必要な授業科目は別表第3とする。

第4章 成績及び卒業

(成績評価・単位認定)

第8条 本学部は大学則第26条に基づき、科目の成績評価を行なう。

2 本学部における、成績評価及びGPA (Grade Point Average) ポイントは、次の評点区分に基づき行う。

評点	成績評価	GPAポイント
90～100	S	4
80～89	A	3
70～79	B	2
60～69	C	1
0～59	D	0
放棄	—	0

(卒業)

第9条 本学部は、4年以上在学し、第5条別表第2に規定する履修の要件に従い、合計124単位以上を修得した者を卒業と認定する。

2 本学部は、大学則第31条第2項に定める卒業の基準を別に定める。

第5章 改正

(改正)

第10条 この規則の改正は、本学部教授会の議を経なければならない。

学生生活についての規程

(目的)

第1条 この規程は、本学学生が平和で秩序ある学生生活を営み、教育・研究の環境を適正に保つことを目的とする。

(学生に対する通知・連絡)

第2条 学生に対する通知・連絡は掲示又は電子媒体により行う。掲示又は電子媒体にて1週間掲載された通知・連絡事項は、関係ある学生全員に通知・連絡されたものとして扱う。ただし、緊急の場合は学内放送又は直接連絡により行うことがある。

(学生証)

- 第3条 学生証は入学の際交付を受け、その後は毎年4月に前年度の学生証を更新すること。また、学生は常時学生証を携帯し、本学教職員の請求があったときはいつでもこれを呈示すること。
- 2 学生証は卒業・退学・除籍の場合は直ちに返納の手続きを受けること。
 - 3 学生証を紛失したときは直ちに諸手続きを経て再交付を受けること。
 - 4 学生証は他人に貸与又は譲渡してはならない。

(保証人)

第4条 学生は、入学手続き時に父母又はこれに代わる者を保証人として届け出るものとする。保証人は原則、日本在住の者とする。

保証人を変更したとき又はその住所に異動があったときは、速やかに工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

(現住所及び連絡先)

第5条 学生は、その現住所及び連絡先（通常連絡がとれる電話番号等）を明らかにし、現住所及び連絡先に変更があったときは、直ちに変更届を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出すること。

(学生による掲示)

- 第6条 学内における学生による掲示は、掲示者の責任において行うものとする。ただし、掲示の内容は、事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。
- 2 学内における学生の掲示場所は所定の学生掲示板とする。
 - 3 掲示場所の円滑適正な運用は、学生自治会が行うものとする。
 - 4 新入生オリエンテーション、学園祭等特別な行事の際は、所定の学生掲示板以外に特に工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては各学部事務部長あてに提出された学生自治会の特別掲示許可の要望に基づき、期間を定めて掲示を許可することがある。
 - 5 期間を経過した掲示物は速やかに撤去しなければならない。

(学生による印刷物の発行・配布)

- 第7条 学生による印刷物は、その学生の責任において発行・配布するものとする。ただし、印刷物の内容は事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

(学生の学内集会)

- 第8条 学生が学内で集会しようとするときは、次の事項を記載した集会願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては各学部事務部長あてに提出すること。

- ア 団体名
- イ 団体の責任者の氏名
- ウ 集会の目的
- エ 集会の場所
- オ 集会の日時
- カ 参加者の人数
- キ 学外者参加団体名及び人数
- ク その他

提出期限は原則として、開催日の1週間前とする。

- 2 集会において、本学の教育研究及び業務に支障をおよぼしたり、本学の近隣に対し迷惑をおよぼしたりするような行為をしてはならない。そのような行為があるときは、集会を中止させることがある。
- 3 集会は、東京千住キャンパスにおいては22時20分、埼玉鳩山キャンパス並びに千葉ニュータウンキャンパスにおいては21時までとする。

ただし、東京千住キャンパスにおいては学生支援センター長、他のキャンパスにおいては各学部事務部長が認めた場合は、それ以外の時間を別に定める。

4 学内の宿泊は禁止する。ただし、特別の事情がある場合は、事前に次の事項を記載した宿泊願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出し、本学の許可を受けなければならない。

又、学生の宿泊に関する必要な事項は別に定める。

- ア 団体名及び宿泊責任者の氏名
- イ 宿泊場所
- ウ 宿泊の目的
- エ 宿泊人数
- オ 宿泊する学生の氏名及び連絡先
- カ 宿泊する学生の保証人の連絡先

5 本条で認められている事項は、第10条で定める手続きを行っている団体に適用される。なお、研究室における活動等教育研究に係る活動については別に定める。

(学生の学外における正課外活動)

第9条 学生の団体が学外において正課外活動を行おうとするときは、開始日の1週間前までに、所定の学外活動願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出すること。

(団体の結成)

第10条 学生が新しく団体を設立しようとするときは、所定の用紙に会則等必要事項を記入し、責任者の署名捺印のうえ工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに願い出ること。

2 団体の会則又はその他の事項を変更したときは、速やかに工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

3 学生の団体の継続については、毎年5月末日現在における所属学生の名簿を、工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

届け出のない団体については、工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長が、他の学部においては、各学部事務部長が解散したもののみなす。

部室使用に関する内規

(目的)

第1条 この内規は、東京電機大学がその教育方針に基づき、課外活動の健全な育成、発展をはかるために学生団体に貸与する専用部室の使用に関し、必要な事項を定める。

(使用者)

第2条 部室を使用できる者は、学生生活についての規程が定める学生団体及びそれに所属する学生とする。また、部外者が、みだりに立ち入ることを禁止する。

(施設等管理者及び指導)

第3条 部室の施設等管理者は、学生支援センター長、管財部長、総合メディアセンター長、部顧問とし、部室の管理運営上の指導を行う。

2 前項に加え、埼玉鳩山キャンパスの部室においては理工学部事務部長、千葉ニュータウンキャンパスの部室においては情報環境学部事務部長も施設管理者となる。

3 施設・設備の管理上及び防災上等で必要な場合に、施設等管理者及び施設等管理者の命を受けた者が部室に立ち入ることがある。

(遵守事項)

第4条 部室を使用する者は、次の事項を遵守し、施設等管理者の指示に従わなければならない。

- (1) 本来の目的のみに使用し、通常の課外活動に必要としない物品は持込まないこと。
- (2) 施設設備の改装等を行わないこと。
- (3) 整理整頓に心掛け、特に火災・盗難の予防ならびに衛生に留意すること。
- (4) 建物内では、下駄、スパイク等を使用しないこと。
- (5) 活動上不必要な掲示を行わないこと。
- (6) 部室内で飲酒・喫煙を行わないこと。
- (7) 暖房・電灯・水道及び電話等の使用について節約に努めること。
- (8) 使用時間内といえども、教育研究に支障をきたすような活動を行わないこと。
- (9) 使用が終わったときは、火気・戸締り等を点検の上、異常のないことを確認すること。
- (10) その他学生としての良識に従って使用すること。

(使用期間)

第5条 部室を使用できる期間は1年間とし、学生生活についての規定が定める学生団体の継続手続をもって更新手続とする。新規使用については、部室の空室状況に応じて検討する。

(使用時間)

第6条 部室を使用できる時間は、東京千住キャンパスの部室においては学生支援センター、埼玉鳩山キャンパスの部室においては理工学部事務部、千葉ニュータウンキャンパスの部室においては情報環境学部事務部において別に定める。

(使用責任)

第7条 部室を使用する者は、この内規の定めるところに従って日常これを使用し、一切の使用上の責任を負うものとする。

(破損の修理)

第8条 施設、備品等を破損、汚損等した場合は、次に掲げる施設等管理者に速やかに届け出なければならない。

- | | |
|--------------------------|------------|
| (1) 東京千住キャンパスの施設、備品等 | 学生支援センター長 |
| (2) 埼玉鳩山キャンパスの施設、備品等 | 理工学部事務部長 |
| (3) 千葉ニュータウンキャンパスの施設、備品等 | 情報環境学部事務部長 |

2 正規の使用中で正当な行為による場合の他は、その学生団体又は個人がこれを修復又は弁償する。

(使用の禁止等)

第9条 部室を使用する者が、この内規に違反し、または施設等管理者の指示に従わないときは、部室の使用を禁止することができる。

(内規の改廃)

第10条 本内規の改廃は、学生支援センター運営委員会の議を経て、学生支援センター長が決定する。

試験に関する細則

第1条（目的） 本細則は、大学および大学院の学則に定める試験について、その細部のことを定める。

第2条（試験の種類） 試験は定期試験、中間試験、追試験とする。

1. 定期試験は授業科目を履修する全学生を対象として、各学期末または学年末に定期的に行う試験をいう。
2. 中間試験は授業科目を履修する全学生を対象として、学期の中間に随時行う試験をいう。
3. 追試験は急病等真にやむを得ない事情により、定期試験を受けることのできなかった学生を対象として、当該授業科目を担当する教員が必要と認めたときに随時行う試験をいう。
4. 第1項に定めるほか再試験を加えることができる。

第3条（再試験） 再試験は前条第2項に定める試験の成績不良のため履修完了が認定されない学生を対象として、当該科目を担当した教員が特に必要と認めたとき行う試験をいい、その成績をもって履修完了の認定にあてることができる。

第4条（受験資格） 定期試験を受験するには、定められた期間に当該科目に対し履修届を提出し、かつ、その授業に常時出席していなければならない。

1. 定期試験を受験するには、前項のほか、その期までの学費を納入していなければならない。
2. 追試験は定期試験の受験資格をみだし、かつ、定期試験期間終了後3日以内に試験欠席届を提出した学生につき考慮するものとする。

第5条（追・再試験の手続） 追試験の受験を希望する者は、学部事務部の指定する期間内に所定の受験料を添えて受験申告書を学部事務部に提出し、受験票の交付を受けなければならない。

1. 特に指定して行われる再試験においては、前項に定める手続をしなければならない。

第6条（学生証・受験票の提示） 定期試験の受験者は定刻迄に試験室に入り、つねに学生

証を机の上に置かなければならない。

2. 追試験又は再試験の受験者は、前項によるほか、受験票を机の上に置かなければならない。

第7条（遅刻及び退室） 受験者の遅刻は、第1時限目に行う科目に限り試験開始後30分以内は認める。ただし試験時間は延長しない。

2. 第2時限目以降に行う科目については遅刻は認めない。ただし特別の事情のある場合に限り学部長（又はその代行者）の判断により受験許可書の交付を受けて受験することができる。

3. 受験者の退室は、試験開始後40分を経過してから試験終了10分前迄許可する。

第8条（試験監督者） 試験監督者は、当該試験時限中試験実施について一切の権限を有する。

2. 試験監督者は、前項の権限に基づいて処置した事項について、試験終了後直ちに学部長（又はその代行者）に報告しなければならない。

3. 試験監督者については、前2項に定めるもののほか、試験監督規程として別に定める。

第9条（不正行為） 試験監督者は、試験中に不正行為を行った学生があるときには、その答案を取上げた上退室を命ずるものとする。

2. 試験監督者は、試験中に受験態度不良若しくは試験監督者の注意に違反した学生があるときには、その答案を取り上げた上退室を命ずることができる。

3. 前2項の場合には、試験監督者はその試験終了後、直ちに学部長（又はその代行者）に事情を報告するものとする。

第10条（不正行為に対する処置） 前条の場合には、学部長は教授会の議を経て、当該学生に対し次の各号のうち、いずれかの処置を行い、これを公示し、かつ、その学生の保証人に通知するものとする。

(1) 当該試験の属する定期試験の一部又は全部を無効とする。

(2) 当該試験を無効とする。

付 則

1～3 略

4. 本細則第7条第2項、第8条第2項、第9条第3項及び第10条の学部長は大学院研究科においては研究科委員長と読替えるものとする。

5, 6 略

7. 理工学部においては再試験は行なわない。

8～ 略

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

特別奨学生規程

第1条（目的） この規程は、学校法人東京電機大学が設置する学校の学生及び生徒であつて、人物優秀にして学業成績良好であり、かつ学費の支弁が困難な者に対して奨学金を給付することを目的とする。

第2条（基金） この奨学金の基金は次の各号の基金をもって構成する。

- ① 桜井虎三郎氏の遺志により桜井家から本法人に寄贈された基金
- ② その他の基金

第3条（奨学金） 奨学金は、前条の基金から生ずる果実をもって充当する。

2. 奨学金の各校への配分は当該年度の予算に計上して行う。

第4条（給付額） 奨学金の給付額は各学校の学則に定める当該年度の学費の一部もしくは全額とする。

2. 給付金は学費に充当しなければならない。

第5条（奨学生の選考、決定、採用等） 奨学生は、各学校ごとに設置された奨学生選考委員会の選考を経て、学校の長がこれを決定し、採用する。

2. 前項により奨学生を採用した時は、学校の長は遅滞なく理事長宛（総務部長経由）に文書をもって報告しなければならない。

第6条（奨学生の資格の喪失） 奨学生が次の各号のいずれかに該当し、奨学生として不適当と認められるにいたった時は、その資格を失うものとする。

- ① 学則に違反して退学（除籍）、停学又はけん責等の処分を受けたとき。
- ② 成績不良もしくは素行不良のとき。
- ③ 学校への提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。

2. 奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金を返済させることができる。

- 第7条（事務） 奨学生に係る事務は各学校の奨学金担当部署が行う。
2. 前項の他に、本規程実施についての必要な事務は総務部（総務担当）において行う。

第8条（実施） この規程の実施についての必要事項は別に定める。

付 則

1. この規程は、昭和54年4月1日から施行する。
2. この規程の施行と同時に桜井奨学金規程（昭和36年3月14日施行）、東京電機大学奨学生規程（昭和26年4月1日施行）、東京電機大学特別奨学生規程（昭和38年12月施行）は廃止する。
3. この規程の施行されたときに、前項の規程による奨学生である者は、卒業までなお旧規程の適用を受けるものとする。

付 則（平成15年3月4日決定）

この改正は、平成15年4月1日から施行する。（第7条）

理工学部学生の車両通学に関する取扱細則

(目 的)

第1条 この取扱細則は、理工学部学生の車両通学および鳩山校地内において学生が運転する車両の駐車に関し必要な事項を定める。

(車両の定義)

第2条 この取扱細則でいう車両とは、道路交通法に基づく運転免許を要する車両をいう。

(車両通学の許可願)

第3条 車両を運転して通学を願ひである者（以下「車両通学者」という。）は別紙により必要事項記入の上理工学部長あてに申請しなければならない。

(許 可)

第4条 理工学部長は申請があった者の内で、次の条件を具備若しくは合致している場合は駐車許可証（以下「許可証」という。）を発行する。許可証の発行を受けていない者の車両による通学は認めない。

1. 公共の交通機関を利用して通学することが客観的判断に照らして著しく困難な者。
2. 原則として運転免許証取得後6ヶ月以上を経過していること。
3. 自動車損害賠償責任保険及び次の自動車任意保険の適用を受けられる者。

	対 人 賠 償	対 物 賠 償	搭 乗 者 賠 償
四 輪	7,000万円以上	100万円以上	500万円以上
自動二輪	5,000万円以上	100万円以上	200万円以上

4. 道路運送車両法による1年毎の定期点検整備を受けていること。

(許可証の有効期間)

第5条 許可証の有効期間は当該年度内とする。

(順守事項)

第6条 車両通学者は、道路交通法等の関係法令及び学内諸規定を順守し、安全運転の励行に努めなければならない。

(許可の取消しおよび違反者の処置)

第7条 車両通学者が道路交通法等の関係法令及び学内諸規定に違反した場合並びに第4条の条件を具備若しくは合致しない場合は、理工学部長は車両通学許可を取消することができる。

2. 前項における違反者に対しては、次のとおり段階的に処置することとする。

① 本人に対する警告

② 前号の処置にもかかわらず、違反を重ねた者は、学部長より厳重に訓戒する。

③ 第2号の処置にもかかわらず、違反を重ねた者は、車両通学許可を取消することとする。

3. 前項第3号により車両通学許可を取消された者が車両で通学した場合、学則第50条に則り、停学または退学処分とすることができる。

(事故処理)

第8条 車両通学者が運転中に起こした事故について大学は一切責任を負わない。

2. 鳩山校地内車両を駐車している間に生じた破損、盗難等の事故について大学はその補償を行わない。

3. 前各項の事故が発生したときは当事者はその内容を理工学部事務局（学生厚生担当）に連絡しなければならない。

(安全運転講習会)

- 第9条 大学は車両通学者を対象にした安全運転講習会を必要に応じて実施することとする。
2. 車両通学者は前項の講習会に出席しなければならない。理由なく欠席した者には駐車許可を取消すことがある。

(その他の事項)

- 第10条 駐車中は許可証を車内の見やすいところにおかなければならない。
2. 許可証は他人に貸与してはならない。
3. 許可証を紛失したときは理工学部事務部（学生厚生担当）に直ちに届け出なければならない。
4. 指定の駐車場以外には駐車をしてはならない。

付 則

- 1 この取扱細則は、昭和52年9月13日から施行する。
- 2 昭和55年1月22日一部変更（昭55. 1. 22 決定）

付 則（昭和59年11月6日決定）

この改正は、昭和59年11月6日から施行する。（第4条1項(3)原付自転車削除、第7条違反者の処置追加、第7条1項一部変更、同条2項、3項追加）

付 則（昭和63年9月28日決定）

この改正は、昭和63年9月28日から施行する。

付 則（平成8年9月9日決定）

この改正は、平成8年10月1日から施行する。

付 則（平成15年3月31日決定）

この改正は、平成15年4月1日から施行する。（第8条、第10条）

埼玉鳩山キャンパス

理工学部

大学院理工学研究科（修士）、大学院先端科学技術研究科（博士）

〒350 - 0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂

【理工学部事務部】

窓口取扱時間

月～金 9：30～17：00

土 9：30～13：00

（休憩時間） 11：30～12：30

東京千住キャンパス

工学部、工学部第二部、未来科学部

大学院工学研究科（修士）、大学院未来科学研究科（修士）、

大学院先端科学技術研究科（博士）

〒120 - 0034 東京都足立区千住旭町5番

千葉ニュータウンキャンパス

情報環境学部

大学院情報環境学研究科（修士）、大学院先端科学技術研究科（博士）

〒270 - 1382 千葉県印西市武西学園台2 - 1200

はじめに
学修活動
UNIPA
共通
RU
RB
RD
RT
RG
資格
教職課程
学生生活
施設
就職・進学
大学院
その他
学則・規程

本冊子は新入生のみ配布されます。卒業するまで大切に取扱いください。

平成 24 年 4 月 1 日 発行

編 者 理工学部事務部教務担当
発行者 東京電機大学理工学部
〒350-0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂
電話 049 (296) 0430

印刷所 関 根 印 刷 所
〒360-0113 埼玉県熊谷市御正新田 413-5
電話 048 (536) 0162

〔非売品〕



TDU